

TELEPATHY
THE COSMIC OR UNIVERSAL LANGUAGE
BY GEORGE ADAMSKI

COSMIC
RELATING TO THE UNIVERSE AND
TO THE LAWS BY WHICH
ITS ORDER IS
MAINTAINED

PART I
Forward
Chapter 1 Telepathy - The Cosmic Language
Chapter 2 The Four Senses of Man
Chapter 3 Feeling - The Cardinal Sense
Chapter 4 Thought AS Energy
Summary - Part I

テレパシー — 宇宙すなわち万物共通の言語
ジョージ・アダムスキー 著

宇宙とその秩序が保たれている諸法則に関連する宇宙的要素について

第1部
まえがき
第1章 テレパシー — 宇宙的言語
第2章 人間の4つの感覚
第3章 フィーリング — 基本的感覚
第4章 エネルギーとしての想念
要約 第1部

【解説】

今回から通算3回目のテレパシー講座に入ります。このテレパシー（従来の訳語では"精神感応"とされて来ましたが）は、"超能力"等、とかく能力（技術）として見做されて来ましたが、実際にはその仕組みは本来の生命活動そのものに通じる、大変基礎的な意義を持っています。

私達が創造主の支援を受けるにも、また自らの願いを具体化させる為にも、私達自身が想念の力やその作用機序を理解し、目には見えない存在に気付く必要があります。

また、これらの能力（才能）は人間以上に他の生きものは優れたものを持っており、私達は彼らの生き方から学ぶことも多い筈です。とかく混乱しがちな昨今の状況ですが、各自が自らをレベルアップすることは間違いなく何よりも大切なことであり、日々の学びと実践は各自の道を拓くことになる筈です。

FOREWORD

002 Telepathy is the natural ability inherent within all forms of life to communicate their feelings to all other forms. Nature responds unquestioningly to this law, and each element gives freely of itself to bring forth as a united whole, the fruition of manifestation

まえがき

002 テレパシーは他の全ての形有るものとフィーリングを伝達する為に全ての形有る生命の内側に本来備わっている自然の能力です。自然は疑い無くこの法則に呼応しており、各元素は統一された全体として、創造発現の成就の為に、自身を無償で与えています。

【解説】

テレパシー講座の冒頭の一節です。

ここでは全ての生きものには生まれながらにテレパシー能力が備わっていること、またその能力はこのテレパシーを通じてもたらされる事柄については、全力を挙げてその実現に努力すると説かれています。つまりは、テレパシーを通じて発せられた想念はそれを感受する者（物）が直ちにその実現に向け努力し、行動することを意味しています。

即ち、従来私達は「テレパシー」とは遠く離れた友人と会話する程度の事柄と思っていましたが、実は極めて創造的で影響が大きい作用をもたらすことがわかります。

その背景には創造主が万物を創造される過程で各元素に命じる手法もこのテレパシーの要素である為であり、あらゆるものは創造主の命を聞く耳としてテレパシー能力を持っているということでしょう。私達人間以上に他の生きものは動植物に関わらずその能力が長けているものと思われま

003 Man is a thought in action. However, through his limited understanding he has caused the distortions which have resulted in the chaos he finds around him today. Man has the tools with which to work; but he has lost his awareness of their ability to serve him in the greater field of selfless, self-expression.

003 人は行動する一つの想念です。しかし、その限られた理解のために、人は今日、自分の周りを見る混沌の原因となる歪みを引き起こしています。人には役立つ諸道具が備わっています。しかし、人は無我の自己表現という、より大なる分野で自分に仕えるはずのそれらの能力についての知覚を失ってしまっているのです。

【解説】

私達人間にとって何が一番大切かについて本項で著者は活動状態にある想念であると言い切っています。つまりは人にとって最重要なのはその人が抱く想念であるという訳です。それ程にその人の抱く想念がその人の全てに影響する程の力を持っているのです。

一方で著者は私達はそのことの重要性を理解せず、自ら混乱を招いていると指摘しています。私達には想念を取り扱う上での全ての能力が備わっているのですが、活用されないまま放置され、やがてそれら能力も退化の道を辿ることになるという訳です。

従って本講座を学ぶに当たって、私達はテレパシーを何か新しい能力を開発するようには考えるべきでなく、元来各自に備わった自然の能力の存在に気付くことだと認識すべきなのです。

004 His capacity to progress and expand his thoughts from the coarser to the finer expressions, could be likened to a kaleidoscope containing a sphere, a triangle, and a square. Each turn of the kaleidoscope produces a new pattern...no two alike. When man expands his awareness to a oneness with the Cosmos, the same law of diversity, in an ever-changing, growing pattern, will give him the fullness of life.

004 その進化と自らの想念を粗雑なものからより精緻な表現に拡げて行く人の能力は、丸や三角、また四角形を入れた万華鏡になぞらえることが出来るでしょう。万華鏡を一回転させる毎に新しいパターンが作り出され、二つとして同じものはありません。人が自分の知覚を宇宙と一つになるまで広げる時、その同じ多様性の法則が未来永劫に変化し続け、成長し続けるパターンとして、人に生命の充実性を与えることでしょう。

【解説】

本項は私達自身を万華鏡に例えています。そこには次のような著者の洞察と見識があると考えます。つまり、万華鏡は小さな物ですが、その内部は回転すると様々な色彩豊かな美しい模様（パターン）が出現し、毎回同じものが出現することはありません。

同じ肉体、同じ個人ではありますが、その内部は毎回の行動の度ごとに様々に変化し、目くるめくような創造の美が展開し、多様な美しさが拡がって行きます。

私達各人の究極の人生の目的は、このように自身を回転（行動）させ、様々な体験を積み重ねながら、万華の花を咲かせることだと著者は説いているのです。

005 To attain this goal, he must understand that touch is a nerve reaction; while feeling is a state of alertness. The state of true alertness is conscious consciousness ... which is all-inclusive Cosmic Knowledge.

-George Adamski

005 このゴールを達成するためには、人は触感の一つの神経反応である一方、フィーリングは警戒の状態であることを理解しなければなりません。真の警戒の状態とは意識的な意識であり、全てを包含する宇宙の知識なのです。 ジョージ・アダムスキー

【解説】

「まえがき」の最後に当たって、実は著者はさりげなく本講座のエッセンスを述べています。つまり、ゴールとして私達が把握すべき心境は意識的意識状態であると述べているのです。

私達に備わっている外界との窓は、本来、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚の5つがある訳ですが、そのいずれも私達の進化、テレパシー能力の向上に寄与しないという訳です。唯一、触覚について触れていますが、それも触覚（触感）は神経の反応に過ぎないと価値を置いていません。

それに代わって、「feeling（フィーリング、感じ）」こそが警戒の状態であり、私達が気付くべき「意識」に近い状態と説いているのです。更に付け加えれば、私達が印象や想念等、瞬時に私達を通過する想念波動に鋭敏になり、かすかな（精妙、妙なる）印象の発現に気付くことが重要であるということです。その想念の奥には全宇宙を包む膨大な知識があるのだと説いているのです。

CHAPTER I

Telepathy - The Cosmic Language

006 Upon the bookshelves of the Scientific Mind, neatly labeled and dated with methodical accuracy, are arranged innumerable recognized, but unsolved riddles of life. From time to time, an inquiring mind will unshelf a volume from the dusty archives and bring it to the attention of his colleagues.

第1章

テレパシー - 宇宙的言語

006 整然とした正確さできれいにレベルされ、日付け分けされている科学的心と題された書棚には、数限り無く認識されてはいても解決していない生命の謎が並んでいます。時として探究心のある心はその埃にまみれた書棚から一冊を取り出し、それに仲間の注目を引き寄せようと示すことでしょう。

【解説】

地球上に人類が出現してから、想念を読み取る力は人類に存在していたことでしょう。言語の発達以前、人々はこの能力をメインに生活していたのかも知れません。

しかし、いずれにせよ、膨大なる年月の間、私達地球人はもっぱらことばや文字の分野に集中し、テレパシーについての考察は行って来なかったということでしょう。

本項はこのテレパシーの解明は有史以来の神秘を解き明かす大きな意義を持つと説いているのです。もちろん、本講座はその題名の通り、テレパシーの作用機序やそれに関わる能力開発を説くものであり、科学的な分析を進めて誰もが理解出来る探求の書であると著者は示唆しているのです。

007 Ofttimes, the Power which rules mortal action-the God of Reason-is kind to the eager searcher; and will vouchsafe an additional hint to spur him on toward the unraveling of the mystery. Occasionally, this Power, which is so far above man's reason, impresses a truth upon an individual consciousness; driving him to seek further. So man grows in knowledge, each step leading to something a little higher; but no mystery can ever be completely solved. For back of all apparent or deduced phenomena, lies the Cosmic Intelligence...full understanding of which is not given to mortal mind to comprehend.

007 しばしば人の活動を支配する大いなる力、理知の神は熱心な探究者には優しく、神秘を解きほぐすことにその者を仕向ける為、追加のヒントを与えるものです。時としてこの力は、人間の理性を遥かに超えるものですが、各自の意識に更なる遠くを求めさせようと一つの真理を印象付けます。その為、人は知識において成長し、毎日が少しずつ高い何物かに導くステップになるのです。しかし、神秘は完全には解き明かされることは出来ません。何故なら、全ての明白な、或いは推論された現象の背後には、宇宙の知性が横たわっており、その完全なる理解は人の心には与えられることはないからです。

【解説】

真理を求めて扉を叩く者には扉は開かれるということでしょう。求める者に支援のヒントが授けられるという訳です。もちろん、これは想念・印象というインスピレーションとしてやって来るものであり、本人がそれら貴重な印象に鋭敏でなければ、せつかくの支援の声にも気付かず終わってしまうのです。私達はそういう意味でも扉を叩く一方で、与えられる印象を受け入れるだけの心のゆとりを保つ必要があります。

これまでの私達人類の進化、文明の進歩も皆、このようなヒントの一つ一つの積み重ねから成り立って来た訳で、この点から見ても創造主は私達人間の進化を願っていることが分かるのです。

各自にとって、こうした印象に対する感知力は最も大事な素養であり、その到達度は生活の全てを左右する大きな問題です。一人一人が如何にしてインスピレーションに鋭敏になるかについて考え、その向上に努力すべきなのです。

008 One of these volumes, which has been mouldering for centuries in the Mental Library of mystery, is labeled...Telepathy.

008 これら蔵書の一つ、神秘に関する心の図書館に何世紀にわたって朽ちている一冊にラベルが貼られています。テレパシーと。

【解説】

ある者は何か物事を起こる前に予知したり、他人の探し物の所在を言い当てたり、周囲の者を驚かせる所業を見せることがありました。時としてこのような能力を示す者に対し、昔は霊能者、今では超能力者等と称し、驚きの目を持って迎えています。

しかし、これらの能力がどのようにして生まれるのか、その原理は何かとなると、これまで私達は探求を諦め、全ては神秘の中に沈めて来た訳です。

本講座はそれらに対して新たに解明を図る、ある意味画期的な取組という訳です。逆に言えばこの講座を学び理解することによって、誰でもその能力の域に達するということでしょう。

多くの宗教の開祖をいわれる方々については、この「超能力」に関する逸話が多く残っています。実はそれらの方々は皆一様に本講で説く想念・印象の世界を良く理解し、その応用を実践して来られたのであり、当然、そのような能力を身に付けていらっしゃる訳です。私達も本講座を単に能力を身に付けただけで終わることなく、その段階から、他者を導く上の糧の一つとして活用する必要があるというものです。

009 Our present civilization has always been awed by the ability of certain of its members to receive visions of forthcoming events, or mental impressions of incidents occurring at a distance. Not until 1885 was this enigma labeled and placed in the scientific files for investigation. In that year, the Physical Research Society through Mr. Myers, an outstanding figure in that field of investigation, issued the following statement: "We venture to introduce the word 'Telepathy' to cover all cases of impressions received at a distance without the normal operation of the recognized sense organs."

009 私達の現在の文明はこれまでも、その構成員の中に将来起る情景、或いは遠くで起っている事故の心的印象を受けるある能力を持つ構成員によっていつも驚かされて来ました。1885年以前はこの謎めいた出来事は調査の必要な科学的ファイルの中に分類され置かれることはありませんでした。その年、この分野の調査では著名な人物であるマイヤー氏を通じて物理研究協会（訳注：実際には"the Society of Psychical Research心霊研究協会"と称される学術団体であった）は以下の声明を出しました。「私達は『テレパシー』という言葉が認識されている感覚器官の平常な作用によらず、感受する全ての印象事例を指し示すものとして思いきって導入することとする。」

【解説】

本項は「テレパシー」という言葉は1885年に誕生した経緯を述べています。それまでは何か神秘や魔術的能力であった概念は、新しい人間の潜在能力の一つとして科学的な研究対象とされた訳です。新しい命名は確かに人々に新鮮な探究心を起こしたものと思われまます。

もちろん、本講のタイトルが目指すのもこれと同じ方向性を持つものと言えるでしょう。

実は既にご存知の通り、他惑星人にあってはその能力は極めて当たり前の知覚能力になっており、その有用性は広く認識されているのです。特に難しい能力でなく、むしろ自然界のあらゆる動植物がその能力を活用しています。本来、万物に備わった能力を私達は長らく忘れ去っている為、新たに学び直すということでしょう。私達は本講座を通じて自分の隠れた能力を再発見する旅を始めるのです。

010 Interest ran high for a short time, but the subject was eventually relegated to the shell of unsolved problems. It was not until ten years after the termination of World War I, that science considered telepathy important enough to incorporate it into the work of the research departments of several of our leading universities.

010 少しの間、興味は高まりましたが、結局、そのテーマは未解決の問題という殻に追いやられてしまいました。科学がテレパシーを我が国の先導的な大学の幾つかの研究部局の仕事として組み入れるに足る重要な課題と考えたのは、第一次世界大戦の終了から10年が経ってからのことです。

【解説】

現在、テレパシーのような事象をどれくらいの大学で研究されているか知りませんが、かつては海中深く潜行する原子力潜水艦との交信を目指して軍が研究していた等、軍事面での応用が報道されたことがありましたが、現状は良く知りません。

しかし、私達一般人が知らない内に様々な機関が軍事面や政治分野に活用しようとしていることは有り得ることかと思えます。

一方で、私達はこれら秘密裏の目的でなく、一人一人の人格の進化の側面としてテレパシー能力を探求し、身に付けようとしているのです。毎日の生活を通じて、物事の予知やインスピレーションがますますふんだんに流れ込んで来るようになり、各自の人生をより豊かなものとするのが、その研究目的になります。

011 In olden times, telepathy was attributed to black magic or witchcraft; but through actual experiments carried out by the universities, it has conclusively proved itself to be a definite fact with which to be dealt. However, that first statement made by the Psychical Research Society has been a dangerous snag upon which science is now floundering; for working from the hypothesis that telepathy is outside the "normal" operation of the recognized sense organs has caused science to place the subject in a field of mystical assumption; rather than of practical analysis.

This has resulted in a well-meant but worthless foundation upon which to build. It is now time to lift telepathy out of the confusion surrounding it, and place it once more upon its true foundation as the cosmic universal language.

011 昔、テレパシーは黒魔術や魔法に帰するものとされて来ましたが、大学によって実施された実際の実験を通じて、それが明白なる事実として扱われるべきものであることが最終的にはっきりしました。しかし、心霊研究協会によって出された最初の声明は今や科学がもがいている危険な障害となっています。何故ならテレパシーはこれまで認識されてきた感覚器官の「正常な」作用の範囲外であるとの仮説から来る研究は、科学に対し実際の分析よりは何か神秘的な仮説の分野にその課題を設定させてしまったからです。このことは結果としてよかれと思ってのことでも、打ち立てるには価値のない基礎になってしまいました。今やテレパシーをそれを取り巻く混乱から引き上げて、宇宙普遍の言語としての真の基盤の上に乗せるべき時になりました。

【解説】

ここで著者は、私達が本講座で身に付けようとしているテレパシーは、何か特別、神秘的な能力等と言うものではなく、極く普遍的なもの、言い替えれば誰でも生まれつき持っている知覚力の一つだと説いています。何か特殊な能力という訳ではないのです。

想念や印象の交流、やりとりは例えば生まれたばかりの言葉を知らない赤ん坊でも持っていますし、むしろ言葉を使わない段階であるからこそ、テレパシーを活用出来ているということかと思えます。

実験検証を積み重ねて、原理を導き出す科学的手法は、一般人に説明する場合には有益ですが、個人で自分自身の能力を高めようとする場合は、そのような手順は必要ありません。ひたすら真相に迫る探求をご自身で進めればよく、その結果はご自身が良く分かる筈です。究極には各自、自分の身体を造る各細胞、更には細胞を構成する原子・分子の声を聴き、英知を学ぶことを目指すべきなのです。

012 In recent years there has been a greater trend, than ever before known during this present civilization, toward the advancement of ideas that would produce a better understanding, and a more enduring relationship, between men and nations. The advent of radio, television, wireless telegraphy, etc., has done much to unite the world. Naturally, this has led to discussions among learned men as to the feasibility of evolving a universal language; for they know it would further facilitate intercourse between the peoples of different nations. Although several so-called universal languages have been compiled, such as Esperanto and Ro, to date no word-system has been developed which will meet with the approval of all nationalities.

012 近年ではこの現在の文明の中で、これまでに無い程、人々と国々の間でより良い理解と永続できる関係を作り出す概念の発達に向けたより大きな傾向が存在するようになりました。ラジオやテレビ、無線電信その他の出現は世界を結束させる為に大なる役割を果たしました。自然の成りゆきとして、このことは知識人の間に普遍的な言語を発展させる実用性について議論を導くこととなりました。何故なら、彼らはそれが異なる国の人々の間における交流を促進することを知っているからです。エスペラントやロー語等、いわゆる普遍的言語と呼ばれる幾つかの言語が編纂されましたが、今日までどの言語体系も全ての国家の承認を得る程には発展していません。

【解説】

海外で仕事をされた方はお分かりになるかと思いますが、海外では仕事をする上で最も大きな問題は言葉だと思えます。現在では何処に行ってもインターネットはつながりますし、携帯電話も使えます。しかし肝心の現地の人々との会話や付き合いとなると現地語の通訳さんに依存するのが実態ではないでしょうか。

実は今から50年以上も前、アダムスキー氏による質疑応答の中に「将来、何語が世界共通語になるのか？」という質問に対し、アダムスキー氏が「アメリカ英語だ」と答えている日本GAPのニューズレターを読んだものです。ちなみに当時高校生であった私はそれを読んで、他の言語から英語に軸足を置き、今日に至っております。

全世界的な交流が更に飛躍した今日、ますます普遍的な言語に対する需要は大きくなっているようですし、アメリカ英語への本格的な修得志向も高まっています。

一方、このような共通言語へのニーズの奥には、私達人間がもっと共通の言葉を持つべきだという本質的な洞察があるものと思えます。これまで互いに途絶された環境にあった故に各地方で異なる言語になった訳ですから、共通の環境になれば共通の言葉を持つのは当然な訳です。

今後の地球社会がこの点でどのように展開するのかは分かりませんが、まずは人間社会の共通言語として英語を、更に生きもの共通の意思疎通の径路として本講座で説くテレパシーを身に付けることが望まれているように思います。

013 We generally think of a language as being a system of word-pictures, either in the form of the written symbol or vocal sound; so in seeking an acceptable means for the exchange of knowledge, we have naturally turned to these familiar methods of expression. However, with either the spoken word or written character, we are dealing with decidedly limited fields.

013 私達は概して言語というものを書き留められた記号か音声の形式による言語イメージとして考えており、その為、知識の交流の為の好ましい手段を探すに当って、私達は自然とこれら親しんだ表現方法に関心を向けて来ました。しかしながら、話された言葉や書かれた文字では私達は断然、限られた分野しか取扱っていないのです。

【解説】

宇宙普遍の言語とはどのようなものかについて、私達自身も考える必要があるでしょう。私達漢字文化圏においては、本項で著者が示唆しているように漢字は元来、イメージを模式化して生まれたもの、表意文字として知られています。

しかし、言葉では伝えたいイメージを完全に伝授することは出来ないのです。多くの詩や文は著者の心境を表すものですが、一つのイメージを完全に伝え切る為には、多くの言葉を用いてこと細かく説明する必要があるのでしょう。

もし、私達が直接、作者の心境を探ることが出来れば、読者を作者の意向をもっと的確に把握出来るものと思われます。音として、或いは文字として発する前の心境を直接感知することが、大切な部分かと思ひます。

014 The men who first conceived the idea of a universal language might be astonished to learn they had received their inspiration from the pages of Nature's own handbook. For although few people are aware of the fact, there exists a universal language as ageless as the Cosmos itself. This is the language which includes not only the expressions of man, but the expressions of every living thing; yet it is a language so simple that even a new-born child can understand it.

014 普遍的言語のアイデアを最初に抱いた人達は、自分達はそのインスピレーションを大自然自身のハンドブックのページから得たことを知れば、驚くかも知れません。何故なら、大部分の人々は気付いていないのですが、大宇宙自身と同じく永遠に続く一つの普遍的言語が存在するからです。これは人間の表現のみならず、ありとあらゆる生き物の表現をも包括し、しかも生まれたばかりの子供でも理解することが出来るほど簡単な言語なのです。

【解説】

Universal language（普遍的言語）は、私達が気付かないでいるだけで、宇宙開闢の昔から今日まで存在し、生きとし生けるもの全てが容易に理解出来るものとしています。このことに由来して万人共通の言葉の必要性を自覚したのだと著者は説いています。つまり、あるアイデアが生まれる背景には何らかの事実があり、決して偶然によるもの、無関係な出現という訳ではないということでしょう。

誰でも改めて学ぶことなく、生まれながらにそのテレパシー能力を持っていることも重要なポイントです。いつの間にか、私達が大人への成長する中で、そのような能力を失ってしまったということになるからです。幼児期の感性こそ貴重なもので、私達は各自そのような幼児期を思い起こして、感性を磨く必要もあるのです。

015 What is this medium of communication which is so easily received, and, with understanding, so readily interpreted?

015 それほどに容易に受信され、理解されて直ぐにも解釈されるというこのコミュニケーション媒体は何でしょう？

【解説】

多くの方が自宅で犬を飼ったことがあるのではないのでしょうか。飼い主と犬の間には言語によらなくても通じ合える関係が生まれることに、きっとご賛同戴けるものと思います。飼い主の様子を気に掛け、また時として自分の要求を訴える犬の存在は、飼い主にとってかけがえのない癒しになるものです。

こうした犬と飼い主の間柄には、言葉による意思疎通というよりは、もっと直接的な意思の交流があるように思われます。

また、犬は犬同士、或いは他の動物達とどのように意思疎通を図っているのか興味深いのですが、彼らは言葉を用いずに相手の状況は理解出来ることは間違いありません。本講座のテレパシーはこうした自然界の基本的な意思疎通の原理に基づいているのです。

16 There is only one true universal language....the invisible, creative, feeling impulse, which is Cosmic Intelligence, flowing as Cosmic Force, through all manifestation. This Cosmic Cause, or Universal Force. is ever in motion. It must, of necessity, act upon, or transfer itself, from one object to another.

016 唯一一つだけ、真の普遍的言語が存在します。それは目には見えず、創造作用がある、フィーリングの瞬発衝動であり、大宇宙の英知、全ての創造物を通じて宇宙の力として流れているものです。この宇宙の因、即ち宇宙普遍の力は常に活動しています。それは必然的に一つの目的物から別の目的物へ作用し、或いは自らを転送させなければならないのです。

【解説】

私達がテレパシーと現象と呼んでいるものの実態は宇宙を流れる力、宇宙的力を通じて伝わる感じの瞬発衝動なのだ、本項はテレパシー発動の原理を説明しています。

逆に言えば、私達が考えること、思いつくアイデアは瞬時にパルス状の波となって宇宙全域に同時に共鳴し、距離の影響はないということかと思えます。宇宙全体が一つの生きものとして、丁度私達が各自自身の身体各細胞に自分の考えが染み通るように、一体化しているのと同様です。

この宇宙普遍との呼べる力こそが、時々各自の想念・印象を他の者に瞬間に伝えるという意味では、テレパシーの媒体とも言えるのです。

017 So the feeling impulse, which we have called mental telepathy is the great, universal language. One day, when it is understood by all people, it will break down the artificial barriers of race and creed. Before it, self-pride, deception, and vanity will fall; and by its very universality, humanity will be united-- Man with Man--and Man with all Nature. For this is the one language that every atom in the universe is able to speak and understand.

017 ですから私達が心のテレパシーと呼ぶ、感じの瞬発衝動は偉大なる普遍言語なのです。いつか全ての人々にそれが理解される時、それは人種や宗教という人工的な障壁を打ち砕くことでしょう。それを前にしては、自負やごまかし、そして虚飾は崩壊し、そのままに普遍性の故に人類は団結することでしょう。人と人、更には人と全ての自然とがです。何故ならこれが宇宙における全ての原子が話し理解することが出来る唯一の言語であるからです。

【解説】

一たび私達がこの想念の衝動パルスの存在に気付く時、これまで私達が作り出して来た民族や宗教を含めたあらゆるバリアー（障壁）は氷塊するばかりか、私達は人間に限らずあらゆる生きもの達と親しく出来ると本項は説いているのです。

本来のテレパシーは、このように人と人との間の交信術などというレベルのものでなく、宇宙根源の生命力に基づいた法則を身に付けるということでもあります。

自らの想念が同時にありとあらゆる生きものの心にも想念波動のパルスとして一斉に湧き起るということは大変重要です。もちろん、これは私達各自がどのような内容を思っているか、創造主も御見通しということになります。著者アダムスキー氏が多くの箇所で"警戒の状態"を重要視していることの背景には、このような事情があるものと思われます。

018 Conscious thought is known on all planes of consciousness. Its character cannot be hidden either by soft whispers, or dramatic inflections; nor can its meaning be concealed by the clever manipulation of chirographic symbols. Cosmic thought is stark truth; it cannot be distorted. It is the law of activity which must, and does, indiscriminately produce action and reaction in whatsoever form becomes its point of contact

018 意識的な想念は意識の全ての局面において知られます。その性質は穏やかなささやき、或いは劇的な抑揚によって隠されることは出来ませんし、その持つ意図は書道の文字の賢い操作によって隠すことも出来ません。宇宙的な想念とは厳格なる真実であり、ねじ曲げることは出来ないのです。それは何物であれそれが接触する形有るものにおいて区別なく作用や反応を生み出さねばなりませんし、現に生み出している活動の法則なのです。

【解説】

私達がこれから着目しなければならないテレパシーに直結した要素とは、宇宙的な感じ (feeling) の瞬発衝動であり、この衝動はそれに共鳴する者に大きな力を与えることです。即ち、その衝動は誰にも隠すことが出来ず、誰とも共有される感情ということになります。

このことは文字やその他により、これまで人間が脚色して来たようなごまかしは通用しないのです。

また、この宇宙的とも言える衝動は、実は創造主の用いる指令との近いものであり、大きな影響力を持つものと思われまふ。私達各自がこの真理に気付き、少しでもその作用の大きさを畏れるならば、ますます自らが進化の途にあることを自覚出来るものと思われまふ。

019 Telepathy was the means of communication I used during my first meeting with a visitor from another planet, when I conversed with the occupant of the scout ship from Venus. It was partially explained in my second book, INSIDE THE SPACE SHIPS, as a Law of Nature, or one of the Universal Laws.

019 テレパシーは私が金星から来たスカウトシップの乗組員と会話した際、他の惑星からの訪問者との私の最初の会見の間、私が用いたコミュニケーション方法でした。その一部は私の第二の本、INSIDE THE SPACE SHIP（訳注：「空飛ぶ円盤同乗記」）の中で、自然の一つの法則や宇宙普遍法則の一つとして説明されています。

【解説】

本項では既にアダムスキー氏は1952年11月20日のデザートセンターでのコンタクトの際にはテレパシー能力を身に付けていたことが示されています。言葉によらない意思疎通は他の惑星の人々との間では特に必要となる能力でもあるのです。それは今後、私達が宇宙を旅する時代になればますます重要な能力ということになることでしょう。

一方で、本項からは私達地球人を見守る他惑星の人々にとって、自分達の相手先とも言える対応窓口となる人物の選定については実に慎重であることが分かります。

相手が十分な能力を持ち、今後与えられた知見を正しく伝えることに献身出来るか、或いは未だ公にしてはいけない知識を仲間にひけらかせようとするに十分な自制心を持っているか等々、チェックしなければなりません。現に当時、原子力エネルギーの分野では兵器開発に邁進し、地球崩壊を早める危機にあった訳です。

こうした中、真に信頼出来る人物を判定する為に、その人物から湧き起こる想念・印象を絶えずチェックすることは有効であり、著者アダムスキー氏はみごと、そのテストにパスしたことになるのです。

020 There is nothing mysterious or unknowable about this means of thought-transference, for man lives by it daily. A thought cannot be given audible expression without first being formulated in the mind. This is automatic with the average person, and he is usually quite unconscious of the fact that his mind is (1) directing every outward movement of his body;

(2) composing and arranging his thoughts before giving them audible expression;

(3) receiving a continuous flow of thought-impressions from the outside. From this continuous flow of impressions the undeveloped mind rejects all that is not familiar, and retains only those thoughts which confirm the opinions his mind has already formed. That is why, until man understands himself, he is guided only by the world of effect.

020 この想念移動の手段について何も神秘的なものも未知なることもありません。何故なら人は毎日それによって生きているからです。想念は心の中で最初に組み立てられることなく、聞き取れる表現を与えられることはありません。これは普通の間人では自動的に行われており、人は普通は自分の心が、・肉体の外向きのあらゆる運動を指揮し、・自らの想念を聞き取れる表現にする前に組み立て整理し、・外界から絶えず流れ込んで来る想念－印象類を受信しているという事実について全く意識しておりません。この連続した印象の流れの中から、未発達のは心は馴染みのないものは全て拒絶し、代わって自分の心や既に作り上げた意見類を確証する想念類のみを保持します。それが人が自分自身を理解するまでは結果の世界によってのみ導かれる理由です。

【解説】

既に私達の心は本項で学ぶ以前に、私達自身が知らないだけでテレパシーに関する基本的能力は十分に所持しているという訳です。言葉による表現の前に、想念から言語体系に内容を組み立てたり、想念波を感じ取る能力も備えているという訳ですし、今まではその感受性が鈍く、また自らの好みのものしか取り扱わなかったということでしょう。

このように私達の中には生まれながらにテレパシーに必要な基本的能力は備わっているのです。問題はその能力を自覚し、精華して行こうとする気構えがあるかどうかです。自らに備わっている埋もれた能力を開花させ、活用することは各自の義務とも言えるでしょう。この故に私達はこの学習に対して、他の何ものも新たに導入したりする必要はなく、全ては皆さまご自身の中に備わっているものなのです。

021 It has been said, "A natural man knows the way of the Spirit, while the unnatural man knows not the way of the Spirit." This means, that once man recognizes his oneness with Cosmic Cause and begins to use its laws, he will have no further need of a teacher; for the Law gave him life....and the Law will be his teacher. The great universal language, which we use daily and know not, speaks to us in the deep reverberations of the thunder; and communes with us in the silence of Creation's deepest repose.

021 「自然人は聖霊の道が分かる一方、不自然な人には聖霊の道が分からない」と言われて来ました。この意味は、ひとたび人が宇宙の因との自らの一体性を自覚し、その法則を活用し始めるなら、その者には今後、教師は必要で無くなるだろうということです。何故なら、その法則が彼に生命を与え、、、そしてその法則はその者の教師になるであろうからです。私達が毎日用いており、知らずにいるその偉大なる宇宙普遍の言語は、雷鳴の深い響きの中でも私達に話し掛け、創造主の最も深い休息の沈黙の中でも私達と心通わせて来るのです。

【解説】

私達はよく"自然との一体感"等々の表現を口にしますが、その延長には本項のような自然の中に息づいている大きな知性の存在から多くを学ぶこと、示唆を受けることがありますし、私達の自然観にはそれがなければなりません。

それらの示唆はインスピレーション或いは印象として私達にやって来ますので、その妙なる波動、瞬発的パルスに気付くよう、止水明鏡、澄み切った状況に保って置く必要があります。

またこのような宇宙的波動は、その情報と同時に私達に問題の解決策を授けて呉れる為、これらの心境を保つことで、益々その者の人生も好転させる効果もあるというものです。即ち、特段、人生の成功を願わなくても自然との調和は否応なしに、より良い人生へと導かれることになるのです。

022 We cannot lay down a definite pattern for everyone to follow, as there are no two humans alike; we can only present the Law to you. It will work according to each individual understanding and application, and these will differ from person to person. The principle we give here applies equally to all.

022 私達は誰もが後を従うような確定したパターンを敷設することは出来ません。二人同じ人間はいないからです。私達は唯一、その法則を貴方に示すことが出来るだけです。その法則は各個人の理解と応用に応じて作用する筈ですし、これらの事柄は人によって異なることでしょう。しかし、私達がここで授ける原理は全てに等しく適用されます。

【解説】

人それぞれに個性があり、これまで歩んだ道程も異なる訳ですから、それらをまとめて一つの指導書とすることは難しいということでしょう。如何なる場合も機能する法則だけを述べる事が出来ると著者は述べています。この”法則”という言葉はかつて仏陀自身がもっぱら”法”を説いたことを思い出させます。常に誰にも当てはまる原理・法則の理解が先ず私達に必要なだという訳です。

もちろん、師の近くに居て師の行動から、或いは直接アドバイスを得ることが出来れば、それは本を読むことより、貴重な体験を積むことになる筈です。現にアダムスキー氏の周辺で氏を支援し、氏と交流した方々はそれぞれ人生を変えるだけの影響を受けました。

今日では残念ながら、そのような機会は減りましたが、代わって私達には師の残した「法」がある訳で、各自その中身を学び、それぞれの日常生活に活かすことで、同様の効果を得るものと思います。私自身、思えばこの分野に半世紀以上、従事していますが、テレパシーの原理や作用について実感を得たのは、ごく最近のことで、実に長い年月を要しています。人によっては長期間、かかるかも知れませんが、重要なのは日々少しずつ、進歩しているという実感が持てることかと思われま

023 If this lesson is to be of any value to you, you must begin with yourself. You must learn your component parts, why each part works as it does; what controls your thinking, and why there is such an apparent conflict between your inner self and the world about you. You must understand your emotional reactions before you can be the expressor of the fullness of life.

023 このレッスンが貴方にとって何らかの役に立つようにするには、貴方はご自身について始めなければなりません。貴方は貴方を構成する各部を学び、何故個々の部分がそのように働くのか、貴方の考えを支配しているのは何か、また、貴方の内側の自分と貴方の周囲の世界との間にかくも明らかな諍いがあるのかについて学ばなければなりません。貴方が生命の完全さの表現者になるには、貴方の感情による諸反応を理解しなければならないのです。

【解説】

各自の成すべきことは決まっているということです。この種の訓練は何よりも自分自身が変わること、自らの感性を高める工夫や努力無しには、何事も進まないということでしょう。単に本を読むだけでは進歩は限られるという訳です。

その最も基本が自分の心の動き（感情反応）を観察することだとしています。つまり周囲の状況変化に対し、自分がどのように反応しているか、瞬間瞬間に生じる想念がどのようなものを観察するということです。この過程を通じて私達は日常の想念活動の実態を知る訳ですが、その一方で湧き起こるインスピレーションについても知ることであり、ひいてはインスピレーションに従うことはどのような心境かを学ぶこととなります。

このように日々への応用、実践を通じて私達は心に湧き起こる想念・印象の大切さを学ぶことになるのです。

024 There is one vitally important truth we must always bear in mind. The Cosmos has no beginning-and it has no ending. It is all that ever was-is-or ever will be... eternal activity.

024 私達が常に心に留めておかなければならない、命にかかわる程重要な一つの真実が存在します。宇宙には始まりもなく、終わりもないということです。それはかつて存在した、現在存在する、未来に存在するだろう全て、永遠に続く活動であるからです。

【解説】

私達を取り扱っている想念や印象、その他生命に関することは、永遠に続くものだということです。宇宙には時間の制約はなく、私達の未来は永遠に受け継がれて行くことでしょう。

本項を著者がどのような心境で綴ったのか推察は難しいのですが、私としてはそれ程にこのテレパシー開発には時間を要する事柄なのではないかと思っています。もちろん、過去（生）からの体験もあるでしょうが、地球という惑星環境の中で想念・印象に鋭敏になることはたやすいことではありません。多くのゴミのような想念・印象が渦巻く中で、かすかな輝きを放つ砂粒を見極めるようなものかと思っています。

しかし、それらに気付くようにならなければ、真のテレパシー開発は難しいのです。そういう観点から、焦らず一歩一歩進みなさいと著者は私達を励ましているのです。

025 Man was created to be the perfect expression of all expressions; and he was endowed with the ability to reason that he might understand each effect in the scheme of life. He is innately capable of comprehending all states of Cosmic expression; from the very lowest, to the highest. But through ignorance he has prostituted this Divine gift; and now judges and condemns that which he sees about him. Whether he realizes it or not, by his judgments he exalts himself above the Creator; thereby causing a feeling of separation between himself and the Giver of all Life. But when he casts off the fetters forged by his carnal mind, he becomes the Knower; and is then one with the Cosmic Cause of all creation. All nature works in harmony with the Supreme Intelligence which gave it birth. Man stands alone; the sole distorter of the Law.

025 人は全ての現れの完全なる表現者として創造されました。そして人は生命の体系における一つ一つの結果を理解するかも知れないという推論の元にその能力を授かりました。人は生まれながらにして全ての宇宙的表現の状態を把握することが出来ます。最も低次元のものから最高位のものまでです。しかし、無知の故に人はこの神聖な贈り物を売り渡して来ました。そして今や自分の回りを見るものを裁き、非難しているのです。人がそのことを理解しているに問わず、その裁きによって人は自分を創造主の上に高ぶらせているのです。その結果、自分自身と全生命の贈与者との間に分離感をもたらす原因を造っています。しかし、人が自分の肉欲の心によって造られた足かせを投げ出すなら、人は知る者となります。そして全創造物の宇宙的因と一体になるのです。全ての自然はそれを誕生させた至上なる英知と調和して働いています。人のみが独り立っているのです。唯一の法則の曲解者として。

【解説】

私達は自分自身の心が造り出した足かせの下で周囲から孤立し衰えの中、人生を終えるのでしょうか。幼年期は見るもの聞くもの珍しく新鮮な毎日でありました。壮年期には不自由な社会の中でストレスの多い生活を送り、老齢期は健康面でも不安な日々を送ります。そして最期の時を迎えるという訳です。

人それぞれに人生の終わり方を迎える訳ですが、真の意味で生まれ来た目的を全うし得た人は少ないのではないのでしょうか。もちろん各自にとって多くの理由があり、不運もあるのですが、圧倒的に問題であったのは、自身の心の在りようであったのです。

私達は本来はもっと大きく拡がった視野の下、創造主に祝福された存在として生まれて来ました。しかし、自らの心に自分の支配を許し、形あるもの目に見えるもののみならず生きてしまい、本来の大自然、大宇宙の声には耳を傾けて来なかったのです。その結果、大自然の中で他の生きものとは隔絶した孤独な存在になってしまいました。同じ環境に居ながら穏やかに調和した生きもの達のハーモニーから離れた生活を送るようになったのです。

従って私達が先ず為すべきことは、私達が見過ぎていた大自然を流れる声明の息吹を感じ取ることであり、他の生きもの達と親しむことであるのです。

026 We will endeavor to explain the necessity of blending Cosmic Man with Earthly man. Telepathic reception will come from both; but when receiving impressions, we must always keep in mind the difference between the man of little understanding, and the Cosmic Man. The thoughts coming from the man of little understanding will contain discriminations, divisions, judgments, and personal feelings; while the Cosmic Man's impressions, coming from Cosmic Cause to all effect, will convey understanding and compassion, without judgment. This is Truth expressing; and in the presence of Truth there is an absence of doubt.

026 私達は何とかして宇宙的人間と地球的人の融合の必要性を説明することとしましょう。テレパシー的な感受はどちらからも来ますが、印象を受ける場合、私達は常に少ししか理解していない人と宇宙的人間の間の違いについて心に留めて置かねばなりません。少ししか理解していない人から来る想念類は差別や分裂、裁きや個人的なフィーリング類を含みますが、宇宙的人間の印象類は宇宙的因から全ての結果にもたらされるものであり、裁きを持たず、理解と思いやりを運んでいます。これは真理を表わしていますし、真理の前では疑いというものはありません。

【解説】

本項ではテレパシーを受ける側の私達自身の中に、宇宙的なものや地球的なものの2つの存在があると説いています。つまり、ニュースソースは2つあるという訳で、一方の放送チャンネルは宇宙的調和をもった想念・印象を、他方は差別や偏見に満ちた、今日的に言えば"ヘイト"要素を持つものをもっぱら受信して来るといいます。

類は類を呼ぶという言葉もあるように、それぞれの性質に見合ったレベルのものが寄せ集まって来るといって、最低から最高位に至るまで全てを含む宇宙において、どのような想念と同期するかは大変重要だということになります。

こうした中で、私達はこの両者の内、どちらに軸足を置くべきかは明らかです。本項で示されているように私達の身近に宇宙的な要素があることは大変重要です。この相棒を堅持して毎日を送れば、自ずと本来の進化の道を歩むことができます。

027 The study of telepathy will in no way interfere with, or contradict, any religious belief you may have. For telepathy is not a religion, but a Universal Law. Knowledge of this law will give you a greater understanding of yourself and of your relationship to the Cosmos in which you live.

027 テレパシーの学習は貴方が持っている如何なる宗教上の信念を干渉したり、否定したりすることは一切ありません。何故ならテレパシーは宗教ではなく、宇宙普遍の法則の一つであるからです。この法則の知識は貴方に貴方自身と貴方が生きている大宇宙と貴方の関連性についてより大きな理解を授けることでしょう。

【解説】

テレパシーは科学上の原理であり、法則だとして各自が信仰する宗教とは無縁のものだと本項の説く所は明解です。しかし、従来は宗教団体のカリスマ教祖の超能力として、或いは宗教家の到達レベルの証として位置づけられて来たのではないのでしょうか。

それに対し「科学上の原理」という前提に立てば、テレパシーは本来誰にでも備わっている心の感性レベルとして位置づけられる筈です。またそれに必要な特別な用具というものはなく、誰でも生まれながらに備わっている自然の能力に気付くだけが求められているということになります。

この法則に如何に気付きそれを自ら応用するか、自分自身の発見の道への一歩こそが求められています。仏陀にせよ、アダムスキー氏にせよその全生涯をこうした問題の解決法を模索して生きていた訳で、弟子や協力者達に自分が見聞き受持した法則を伝えて来ました。今度は私達が自らその法則を学び活用することが求められています。

028 The more highly-developed space people have learned that, in its natural state, all life expresses as a joyous, free execution of each action. They do not consider the performance of their daily chores burdensome, but rather, view them as a privilege whereby they can render further service to Cosmic Cause by enabling it to express unhampered through them. They are trained from infancy in the proper care of their bodies and use of their minds. They will not harbor a discordant thought, for they know what it does to the chemicals of the body. Their sense-mind is coordinated with the Feeling, or Cause Mind; so each individual cell of their body responds to the commands given by the sense-mind. By use of this law, their bodies remain firm and youthful regardless of age. They know that all life is constantly active, and that each particle of creation performs its duty in a free, unimpeded expression of Cause.

028 より進化を遂げた宇宙人達は自然状態では全ての生命は、その一つ一つの行為の楽しく自由な遂行として表わされていることを学んで来ました。彼らは自分達の日々の雑用を負担とは思わず、むしろ自らを通じて邪魔されることなく表現することを可能とすることによって宇宙の因にたいして更なる奉仕に尽くすことが出来る特権だと、それら雑用を見なすのです。彼らは幼少時から身体の適切な保護と心の使い方について訓練を受けます。彼らは不調和な想念に留まる場所を与えません。何故なら彼らはそれが肉体の化学物質に作用することを知っているからです。彼らの感覚心はフィーリング、即ち因なる心と調和しています。ですから彼らの個々の細胞はその感覚心によって与えられる指令に反応するので、この法則を用いることによって、彼らの肉体は年齢に関わり無く引き締まっており、若々しさを保ちます。かれらは全ての生命は常に活動的であり、各々の創造の薄片は自由で妨げられることのない因の表現の中でその義務を演じていることを知っているのです。

【解説】

とかく私達は両極端に走りがちです。何か少しでもうまく行かないことがあれば、落ち込んで憂鬱状態、何もしたくなくなる一方、少しでも円滑な滑り出しをすれば有頂天になり、他者への配慮などなく、闇雲に進んで身体を壊すまで走り通します。その結果、健康を害したり、また再び障壁に当たって落ち込むことになるのです。

これに対して本文に記されているように、私達の心境を常に適切な状態に維持することが重要なのです。それには幼年期からの訓練が重要だという訳です。常に温和な心境を保つことが何故必要なのか、私達はよくよく考えて見る必要があります。つまり未熟な私達は仮に高次元な印象を受け、高レベルな行動が可能となったとしても、実際の行動に私達の心も肉体もそれに十二分に応えるだけの力量を備えていなければなりません。ほんの僅かの欠点があったとしても、その行動に比例してそれらも拡大してしまうからです。そういう意味でもその人その人の現状に合った行動レベルを積み重ねることで、少しずつか進歩は得られないように思っています。毎日の実践が大切なところはその意味かと思うものです。

029 When we are able to employ this same joyful, relaxed state of mind in our daily living, our consciousness will be raised to the place where impressions of a universal value will come to us naturally. This does not mean that man will then ignore the world around him, for he was born on this earth to live as a participating unit with the whole of humanity, and he has not the right to withdraw. True understanding, or evolvment, will enliven his interest in his fellowman, for he will then recognize a kinship with all he beholds.

029 私達がこれと同じ楽しく、リラックスした心の状態を日常生活に適用するなら、私達の意識は宇宙普遍の価値がある印象類が自然と私達にやって来る位置に押し上げられることでしょう。このことは人が自分の周囲の世界を無視するようになることを意味するものではありません。何故なら人はこの地上に人類の全てと共に一つの構成単位として生きる為に生まれて来たからです。そして人には脱退する権利は無いのです。真実の理解、或いは進化というものは同胞への関心を活気づけます。何故なら人はその後自分の見る全てのものに親近感を認めるようになるからです。

【解説】

私達が先ず学ばなければならないのは、自分の心を穏やかにそしてリラックスした状態で、より高位なレベルに保つことです。求めるインスピレーションはこうした心境の中で現れるものであり、決して怠惰な状態やギスギスした心の状態では現れないからです。

他方、人間以外の生きもの達は皆、常にこの種の心境を保っている達人ではないかと考えてしまいます。普段のんびりリラックスしている一方で、迫り来る気象の変化や、敵や獲物の接近等々には俊敏に反応出来るからです。おそらくこれらは皆、テレパシーの要素を活用しているものと思われます。

先日もテレビでイワシの大群がイワシを狙う大型の魚の来襲に対し、まるで一匹の巨大な魚のように密集した塊となって、攻撃をかわす姿を見ることが出来ました。大群が一糸乱れず素早く一団となって泳ぐ姿は、中の魚達が一体となった意識状態となっていることを示しています。これらはテレパシー能力の発現の典型とも言えるものであり、理想の形の一つと言えるものです。

CHAPTER II

The Four Senses of Man

030 I have been deluged with letters from all parts of the world requesting information about thought-transference. The vast majority of these have contained questions such as, "What is telepathy? How does it work? Could I learn to use this means of communication?"

第2章

人間の4つの感覚

030 私はこれまで世界各地からの想念の交流についての情報を求める手紙で溢れかえっていました。これらの大半は、「テレパシーとは何か？それはどのようにして働くのか？私もこのコミュニケーション手法を用いることが出来るのでしょうか？」というような質問を含んでいました。

【解説】

いわゆる「アダムスキー哲学」と称される3つの書籍の内、「生命の科学」は1課ごとの通信教材として、また「宇宙哲学」は1冊の成書として発行され、この「テレパシー」は3冊に分かれた小冊子として発行されました。

「テレパシー」（1958年発行）の場合もその発行の経緯は分かりませんが、本項に記されているように、時々寄せられる質問や要望に応えるべく、小冊子として執筆して行ったものと思われます。

もちろん、その背景には当時、テレパシーについて、アダムスキー氏を取り巻く人々の間で特に関心が高かったことがある筈で、他惑星からの人々との交流への一般大衆の意欲やアダムスキー氏を含む一部の能力者への憧憬があったものと思われます。

こうした関心はとかく、技術（テクニク）をマスターしたいと思う傾向が強い一方で、それらの手法では本来の原理を学ぶことは出来ません。その為に著者はより基本的な知識から本書を通じてテレパシーの原理について説き起こしたものと思われます。

031 I do not know by what method others attained their understanding. I can only tell you how I achieved mine.

031 私は他の者達がどのような方法によって、理解を得たのかは知りません。私は私が如何にして自分の理解を達成したかを述べる事が出来るに過ぎません。

【解説】

本項の短い文章から、本書がアダムスキー氏自身が探求し、発見したテレパシー原理とその具体的な開発事例について述べたものであることが分かります。本書はそれまで多くの読者や協力者から教えを請われて来た中で、氏が改めて自身の悟った内容を記したものであるのです。

しかし、私達は各自各々、背景も志向も異なる訳ですから、テレパシー開発についても具体的な内容は人によって異なるかも知れません。そういう意味でも原理について本書を学び、具体的な応用については各自ご自身に合う方法を見つける必要があります。

探求し実践する中で得られた成果を拠り所として各自自身を教材として実生活に応用して行くことが重要です。

032 Many years ago when, as a youth, I first became interested in the subject, I knew some people could communicate telepathically. I wanted earnestly to know how this was done, so I began to study. At that time, I accepted the idea that man is a five-sensed being; with the potential of developing a sixth sense, etc. This was the commonly accepted theory then, the premise of which had been laid in antiquity.

032 私が青年であった昔、このテーマに初めて興味を持った時、私はある人々がテレパシクに意思疎通を行えることを知っていました。私はこれがどのようにして行われるのか、真面目に知りたいと思った為、研究を始めました。当時、私は人間は5感を持つ存在であり、6番目の感覚も発達させる可能性を持っている等の考えを受け入れておりました。これは当時は広く受け入れられていた理論であり、その前提は古代においても置かれていたのです。

【解説】

本書を記すについては、アダムスキー氏は随分と前からこの問題に取り組んでいたことが分かります。氏は若い頃から周囲で見聞きするテレパシーの現象に対し、それがどのようにして起こるのかを探求していたのです。

しかし、当初は一般の常識から人間は5感の生きものである等を前提として研究していたと言います。いずれそのことは他惑星人との交流によって全く新しい概念に置き換わられ、本書の執筆に至る訳ですが、当初は現在の私達と同様の出発点からスタートしたのです。

私達にとってテレパシーの意義については、単に人と人との無言の会話術といった事柄以上のものがあると思われま。大自然に生きるあらゆる生きものと分け隔て無く交流出来、親しめる能力というより大きな世界を私達にもたらしもの、他の生きもの達と融和出来る心境を得ることがテレパシー本来の意義であるのです。その目的の為に私達は日々、少しずつこの分野を学ぶことが本講座の目的でもあるのです。

033 In the early ages of human development, man had been content to accept the world in which he lived as a mere five-sense manifestation. But as he grew wiser, he noticed actions taking place about him that were difficult to explain—actions that seemed to transcend these powers of outer perception. Puzzled by what he beheld, yet having no physical sense to account for this phenomenon, he relegated it to a realm of his own invention.... the sixth sense! He was then content (and still is), to consign everything not explained by his senses to this indefinable, mysterious plane.

033 人間の発達における初期の年代においては、人は自分が5感の創造物として生きているに過ぎない世界を受け入れて満足していました。しかし、成長して賢くなるにつれて、人は自分の周りに説明できない諸作用、即ちこれら外側の知覚力を超えるように見える作用が起っていることに気付きました。人は自分が見たものに当惑したものの、この現象を説明する物理的な感覚を持ち合わせていないことから、人はそれを自分の発明品の領分に追いやってしまいました。それが第6感です。人は自分の諸感覚では説明できないあらゆるものをこのはっきりしない、神秘の次元に委ねることに、これまでそして現在でも甘んじているのです。

【解説】

確かに"勘"と呼ぶような感覚に対して、私達はそれがどのように生まれるのか良く説明出来ません。おそらく現代風に言えば、脳の中の各記憶部位を巡る一連の関連付け作用の中で最も適した組み合わせが発見され、本人にとっては一瞬のヒラメキとして知覚するというような表現になるのかも知れません。しかし、それ以上のことは思いも呼ばないのです。

それらが特殊な能力であり、霊力であると古代の人々は思っていたことでしょう。一方、現代に生きる私達はそれを自分の5感以外の何か特殊な感覚が他にあると勘違いしてしまう傾向にあるということです。自らの想像を逞しくして、新たな感覚を造ろうとしましたが、それは根拠もなく、結局は神秘で終わるのです。

動物達が来るべき嵐や敵の来襲に備えるように、私達も本来、自然災害を避ける能力がある筈です。この一般には認知されていない予知能力もテレパシーの一つです。自ら進んでこれらの仕組みを探求することがテレパシー研究のあるべき姿です。

034 My early studies, based on the antiquated theory of telepathy being a sixth sense, led nowhere. After careful observation, I found that others using this same trend of reasoning were not attaining the desired result, either. Innately I felt something was being injected which did not align itself with natural, or universal law. So I turned to nature and studied her actions. Here, where the reasoning mind of man did not interfere, I found all things working in harmony. As I thoughtfully observed life expressing in its many forms of manifestation, I realized there must be an intelligence, or a law, that operated according to an exact pattern.

034 テレパシーが第6感であるとする古代の理論に基づいた初期の私の諸研究は何処にも導くものではありませんでした。注意深い観察の後、私はこれと同じ推論傾向を採る他の者達も、目的の結果を得ていないことを発見しました。生まれつき、私は何か自然或いは宇宙普遍の法則と揃わないものが注入されているように感じておりました。そこで、私は自然に目を向けて、その諸活動を観察したのです。人の推論する心が邪魔をしないそこで、私は全てのものが調和をもって働いていることを見い出しました。生命が様々な創造の形態に現れていることを注意深く観察するにつれ、私はある正確なパターンに沿って作用する一つの知性、或いは法則が存在するに違いないことに気付いたのです。

【解説】

確かにテレパシーという現象そのものは多く目撃し、また自ら体験したとしても、それを解明するにはしっかりとした基礎が必要です。従来の"第6感"と言った安易な位置づけでは到底明らかにすることは出来ないのです。

通常はこの段階でそれらの課題は神秘として神棚に納めてしまいがちですが、アダムスキー氏はそれを大自然との調和の中に答えを見出そうとした訳です。自然活動の中で諸々の生きもの達が用いている機能としてテレパシーを捉えなおしたということでしょう。

このことから私達自身もテレパシー発現を自然界の活動の中に観察することが重要であることが分かります。虫や草花がどのように他のものと交流し、生活を享受しているか、じっくり観察することです。彼らは私達のような言語を持ちませんが、それでも生活に困ることはなく、生命を謳歌しているのです。

テレパシー研究の第一歩は自然観察からということになるのです。

035 The orange tree, wafting its perfume on the southern breeze, need not delve into a laboratory analysis of atmospheric conditions to know that only in the milder climes will it survive. This tender species depends upon natural law to insure its continuation; so nature does not capriciously broadcast its seed in frigid zones, she sows them. where the sun is warm.

035 南からのそよ風に芳香を漂わせるオレンジの木は、温暖な気候においてのみそれが生き延びられることを知る為、大気の状態を研究室で分析する必要はありません。この繊細な種はその存続の保証を自然の法則に依存しており、自然は気紛れにその種を寒冷地に播くことはなく、太陽が暖かな場所にそれらの種を播くのです。

【解説】

本項を読んで以前行ったスペインのバレンシア地方を思い出しました。丘に沿った広大なオレンジ畑を見ながら観光バスに乗ったこと、本場バレンシアのオレンジを味わった旅でした。日本の瀬戸内のミカンも同様に温暖な気候を必要としますが、そのことを本項では、創造主は敢えてオレンジの木々を寒冷な土地に植えさせることはしないとしていることに注目すべきでしょう。

適者生存の原理は世に言うことですが、実際にはそのようなことはなく、皆、その種に適した場所に自ずと蒔かれるという訳です。この延長上には鳥達が木々から果実を得る代わりに木々の子孫を周囲に蒔く貢献をすることがあるのですが、それを著者はこのように解釈しているという訳です。

これは人間についても同様であり、各自が現状で一番合った環境、十分に生きて行ける場に各自が生を受けているとも解釈が出来るということでしょう。「置かれた場所で咲きなさい」とはあるキリスト者の言葉ですが、その背景には創造主への深い信頼があることに気付く必要があります。

036 Lifting my eyes to the hillside, I discovered feats of engineering that would have been impossible for man to duplicate not too many centuries ago. Growing straight and strong, a sturdy oak clung to the precipitous slope. Nature had not used a slide rule to calculate at which angle the roots should imbed themselves to stabilize the tree's weight; they had instinctively grown in the right direction and to the proper depth. And I knew that if I were to take a saw and cut a large limb from that tree, nature would immediately compensate for the shift in weight by sending out new roots to bring the tree once more into perfect balance. The wild poppy growing at its feet, and the clumps of sagebrush dotting the slope, all bore witness to this same engineering principle.

036 丘の斜面に目を上げると、何世紀か前までは人間が真似出来なかった工学の偉業を発見しました。真直ぐに逞しく成長する1本の樫の木が急峻な斜面にしがみついていた。自然は木の重量を安定化させるには、それらの根がどの角度で潜り込んだら良いかを計算する為、計算尺を用いたのではありませんでした。木の根は本能的に正しい方向、適切な深さまで成長したのです。また、もし私がノコギリを手にとって大きな枝をその木から切り落としたり、自然は直ちに新たな根を伸ばして再び完全なバランスがとれるようにして、重量変化を補正するだろうことは私には分かります。野生のケシがその樫の根元に生え、ヤマヨモギの茂みが斜面に点在していますが、それら全てがこれと同じ工学の原理の証拠を与えていました。

【解説】

通常私達は目に見える範囲のものにしか、関心がありません。本項で著者は斜面に踏ん張る樫の木の例を示しています。それも主題となるのは目に見えない木の根の働きです。

木を支えるのは地中深く伸びたその木の根です。決して地上に見える部分だけでは木そのものの生存は成り立たないのです。また、本文から分かるように値は地上の木の状況に対して鋭敏に反応し、文字通り縁の下で木を支えている訳です。

これらの働きは木が持っている知性ということになりますが、私達は先ず、そのことを良く自覚して木々から学ぶことも必要です。自然を観察して理解するということは、これら一つ一つに関心を持ち、やがては木々と触れ合い交流する段階に至るものと思われまます。

037 My gaze slowly traveled from wonder to wonder until it rested on the grass at my feet. Here, too, was the miracle of creation. As I stooped to study the slender, green blade, I realized humbly that no man on earth could create it. Nature alone had germinated the seed, guided the spear through the hard crust of the soil to the light of the sun, and brought it to full maturity.

037 私の注目は驚きから驚きへと移り、遂には足下の草に止まりました。ここにもまた、創造の奇跡がありました。私は屈んで細めの緑の葉を調べた結果、地球の誰一人としてこれを造り出すことは出来ないことを率直に自覚した次第です。自然が只独り、その種を発芽させ、幼芽を硬い土の塊の中で、太陽の光に導き、完全な成熟まで育てたのです。

【解説】

本項は普段私達が何ら価値を置いていない路傍の草、庭の雑草がテーマです。草むしりの対象でしかない草ですが、著者はそれらを詳しく見詰めて、その中に生命の源泉を見出しています。

このように私達が見落としていたものの中に、多くの真実があるということでしょう。単なる雑草と見なしがちですが、その姿の中には生命が生き生きと現されている訳です。

こうして見てみると、実に私達は生き生きとした生命活動の最中に居ることが分かります。この恵まれた環境を先ずは学び、その中で起こっている生命の仕組みや意思の交流をテレパシー研究の基礎に据えるべきだと著者は私達に示唆しているのです。

038 Surely, all I beheld around me was orderly, directed, and controlled intelligence in operation. There was no haphazard growth. Each minute detail had been carefully worked out. The orange tree in its native clime, the oak tree clinging to the precipitous slope, and the blade of grass at my feet were all guided and given being by the one Cosmic Intelligence.

038 確かに私が自分の周囲で見守ったもの全ては、秩序があり、指導を受け、統制された知性が働いていました。偶然の成長というようなものではありませんでした。一つ一つの微小な細部が注意深く働き完成されていました。原産地の気候におけるオレンジの木や急峻な斜面にしがみついている樫の木、そして足下の草の葉、全てが一つの宇宙の知性によって導かれ、与えられていたのです。

【解説】

以上の3つの事例に対してどれもが宇宙的知性によって適切な指導を受けていることを著者は記しています。どの場合でもその指導はその植物にとって欠くことが出来ない程、不可欠なものであった訳です。

ここで注意したいことは、私達各人はこれら3種の植物と同等或いはそれ以上の存在であるといえることでしょう。これら植物に対してでさえそれ程の支援を与えている大自然ですから、それが私達各人にも同等以上の支援を与えて呉れている筈なのです。テレパシー学習において最も大事なことはそれら不可視の支援の手にいち早く気付くことです。

植物達が何ら疑問をはさむことなく、この支援を受け入れ実行に移すところも重要な事柄です。迷わず想念・印象を実行に移すことで、以降絶え間なくそれらの印象が体内に流れ込むからです。植物の積極性を垣間見る瞬間も楽しみたいものです。

039 I then turned to a closer observation of the birds, insects and animals. In all three I found the same marvels of engineering. It is interesting to note that much of our present architectural knowledge has been acquired from studying the principles employed by nature. In fact, man thinks so highly of the engineering ability of the industrious beaver, that he now parachutes them in pairs into inaccessible territory so they will build dams to help control the disastrous floods which rush down to the lower valleys each spring. In this way, the little animals render man and nature an invaluable service; for where their dams dot the mountain streams, floods and soil erosion are cut to a minimum.

039 私は次に鳥や昆虫、そして動物達を綿密に観察することにしました。その全てで私は植物の場合と同じ工学の驚異を見出したのです。私達の現代の建築の知識が自然によって採用された諸原理を研究することから得られたことに気付くのは興味深いことです。事実、人は勤勉なビーバーの持つ工学上の力量を高く評価していますので、つがいのビーバーを未踏の地域に落下傘降下させ、彼らが毎年春に低地の谷間に破壊的な洪水を引き起こすのを阻止する為に役立つダムを作らせています。このように、小さな動物達は人間と自然に計り知れない奉仕を尽くしてくれているのです。何故なら、ビーバーのダムは山麓の水の流れを点在させ、洪水や土壌の侵食を最小限に削減するからです。

【解説】

”自然に任せる”、”自然に治る”とか、私達は慣例的に表現します。そのどれもが自らは何ら努力せず後は自然が為すがままという態度を示すものです。この背景には自ら何もしなくても自然が元通りにして呉れるという前提があります。しかし、放置したその後、何も起こっていないということではありません。物を放置したとすれば、何も作用しなければその物は永久にその場に留まる筈です。

しかし、私達が不注意で傷つけてしまった自信の身体はもとより、剪定した木々もその後はわずかの時間で健全な姿に復活することを私達は目撃しています。

実はこのように自然界は私達が知らないだけで、多くの生命体が修復し、維持するように、その構成メンバーが協力し合って成り立っているのです。それらを私達は自然の復元力等々の用語として表現しているのですが、更に深く探求して各々の構成要素の連携した働きに注目すべきなのではないでしょうか。

040 Yet they do not use mathematical calculations to estimate the stress the rushing water will exert upon the finished dam, nor do they need mechanical tools to anchor it securely or build it to the prescribed height. Here, as in the inanimate kingdom, we find nature's unerring, guiding hand.

040 しかし、彼らはその完成したダムに激流が加えることになる力を予測する為、算術的な計算を行ってはいませんし、彼らにはダムを固定し、或いは所定の高さまで建設する為の機械的な道具類を必要とはしていません。ここでも、無生物の王国におけるのと同様、私達は自然的確な導きの手を見い出します。

【解説】

大自然の中で生きている他の生きもの達は、私達人間より、遥かに楽しく充実した生活を送っているということでしょう。

家を作るについても彼らは自ら材料を切り出し、補強して的確なものを造り上げますが、それは生きもの達自身が考え出すというよりは、大自然が与える印象に従って組み立てて造り上げるのです。

即ち、こうした行動は生きもの達が絶えず大自然からもたらされる印象に従い、必要十分な強度を持つ自分達の家を造り上げることに繋がっています。

私達人間がテレパシーを学ぶのは、こうした他の生きもの達が当たり前のように行っている大自然からの印象に対する従順さを身につけ活用できる態勢になる為なのです。

041 (In my references to the animate and inanimate phases of manifestation, I am using the words as we understand them. In reality, these divisions do not exist; for all expressions of life are active.)

041 (私の前述の創造における生物と無生物の各状態に関連して申し上げれば、私はそれらの言葉を私達が理解している通りの意味合いで用いております。しかし、実際にはこれらの区別は存在しません。何故なら全ての生命の表現は活動的であるからです。)

【解説】

実際、与えられた生命を謳歌し恵みを楽しんでいるという意味では生物、無生物の区別は出来ません。以前、著者アダムスキー氏は原子に知性があり、記憶が保持されると示唆していましたが、私達が分類する生物・無生物のいずれも、同じ原子・分子を構成要素としており、両者の間の差異はないということでしょう。

ここで私達日本人の特性について、少し触れたいと思います。それは最近では人型ロボットが私達の生活に入り込みつつあり、おそらく将来は家事の手伝い等を担えるまでに進化するものと思われまふ。そのロボットに対して、私達は相棒として接することが想定されます。しかし、私達日本人の感性は古くからポンプその他の大型の機械に名前をつけて親しみ、手入れをすることが保全作業の基本として来ました。しかし、これについては、機械は保守点検などせず、壊れて止まるまでこき使うという考えも世界的には多いものです。

もともと私達日本人の感性として、品物や個別の機械に愛着を感じ、あたかも生物体のごとく接して来た背景には、本項のような無生物に対して区別なく、万物に神宿るの理解があるのではないのでしょうか。

042 On every level (such as insect, bird, and animal), the Life Force animates all forms, which also have a certain reasoning power; yet there is an eternal blending between this animate and inanimate phase. And Man, the highest form of creation on earth, is dependent upon all.

042 一つ一つの段階において、（例えば昆虫や鳥、そして動物等）、生命力は全ての形あるもの達を動かしますし、その形あるものはある程度の論理力を有していますが、また同時にこの生物と無生物の相の間には永続的な融合があるのです。そして地上における最高位の創造の形を持つ存在としての人間は、全てに依存しています。

【解説】

自然界をガイアと称することも多いのですが、それはこの地上に存在する全てのものは生物、無生物を問わずすべて同一の生命力によって突き動かされており、一つの大きな生命体として存在するという概念です。

このガイアの中では各構成要素は融合し、互いに関連、依存し合っているという訳です。当然、全ての創造物の最高位を担う私達人間はそのガイアを構成している全ての要素に依存しているのです。

この背景を理解することなしに、生命から発せられる想念・印象を感受することは難しいものと考えます。つまり、人間を除くあらゆるものは自身の推理力こそありませんが、印象の感受力は遥かに高く、日常的に活用しながら、毎日を過ごしているのです。宇宙の根源から発せられている印象にどう向き合い、それらを受け入れるかが問われています。

043 Tracing the intricate blendings of nature makes a fascinating study. Every level is interlaced with all others. For example, the little insects and burrowing creatures contribute their important share to the common welfare; for their subterranean activity aerates the soil to promote lush growth. Now, let us take this thought a step further, and look at the indispensable part insects actually play in the perpetuation of life-forms on earth.

043 複雑に融合している自然を探究することは魅力ある研究になります。あらゆる段階が他の全てと織り込まれています。例えば小さな昆虫や穿孔動物は共通の福利に対する自分達の重要な役割で貢献しています。何故なら、彼らの地下の活動は土壌に空気を与え、青々と繁茂する植物の生長を促進しているからです。今度は更にこの考えを一步先に進めて虫達が実際に果している地上における生命体の永続にとってかけがえのない役割を見ることにしましょう。

【解説】

よく聞く話として、農業を始めるには先ず土作りからということがあります。長年落ち葉を堆肥にした後、畑に鋤きこむ等、化学肥料によらない土作りは、ホクホクとした柔らかい土を作り出すことを意味しますが、それには土の中に腐熟した落ち葉を好むミミズや昆虫達の働きが欠かせませんし、ミミズは自身の中に土を摂取することで団粒化し、空気の通りの良い土を作り出すといわれています。

著者アダムスキー氏は、これら一連の事柄を既に十分に理解し、今日で言う有機農法についての十分な知見を有していたと思われれます。

私達はこうした大自然の営みの中で生まれた畑の作物を摂取したいと思っており、化学肥料や農薬に犯された農作物を避けた方が良いことは、皆十分に知っていると思われれます。大自然の中の様々な自然の営みの中で永続する正常な相互連鎖の中でしか、私達の生存は持続出来ないことを現代の私達は自覚しなければなりません。

044 Have you ever stopped to consider what would happen to our planet if insects were to be suddenly withdrawn? Life, both animate and inanimate, would cease. Mother Nature depends largely upon these tiny life-forms for pollination. Remember, it is the bees and others of the insect world, laboriously traveling from blossom to blossom that propagates for her. So without the vital part they play, all vegetation would eventually die out.

044 貴方はもし、昆虫達が突如として引き上げたらこの惑星にどのようなことが起るかを考えたことがありますか？生物も無生物もともに生命は途絶えてしまうことでしょう。母なる自然はこれら小さな生命体に受粉の多くを依存しています。花から花に精一杯移動し自然の為に繁殖しているのは、昆虫の世界のミツバチやその他のもの達であることを忘れないで下さい。ですから、彼らが果たすその極めて重要な役割無くしては、全ての植物はついには死に絶えてしまうことでしょう。

【解説】

昆虫の話を知ると、ファーブルや熊田千佳慕を思い起こさせます。両巨匠ともに虫の観察文や精密画で著名ですが、そのいずれもが多くの人々に今もって感銘を与えている筈です。中でもミツバチは植物の受粉を担う等、農業に大変重要な役割を担っているのです。

以前、どういう訳か、ミツバチが世界的にも死滅して、日本のイチゴ農家が困ったというニュースを耳にしたことがあります。それ程に私達の農業にとって、虫達はなくてはならない存在でもあるのです。従来、私達は自分の一時的な目標にとって害を与えるものは害虫と名を付けて、農薬で殺して来ましたが、虫全体を見れば植物の受粉になくてはならない役割を担っていることを認識しなければなりません。

それぞれの要素が如何に相互につながっているか、気付くことこそがテレパシー研究を始める上での第一歩と言えるのです。

045 The bird would no longer have the high, sheltering branches of the tree in which to build a nest to protect her young from prowling animals. Her food supply of insects, grubs and worms would be gone; and the wild berry bush on the hillside, no longer pollinated, would not bear.

045 鳥はもはや幼鳥をうろつく動物達から守る為の巣を作る高く、身を隠す木の枝を手に入れることは出来ません。鳥の餌となる昆虫や地虫、ミミズ達は姿を消すでしょうし、丘の斜面の木イチゴの茂みはもはや受粉することはなく、実を付けることもないでしょう。

【解説】

植物と昆虫との関わりは鳥やその他の動物達にも及び、遂には生物界全体にと広がります。地球に生きる全てのものが、互いに依存し合っている関係を先ずは私達は学び、自覚しなければなりません。

この関係は私達人間の中にあっても同様です。互いに補完しあい協力することで単独の個人では成し遂げられないことも、皆の協力で成し遂げられることも多いのです。

テレパシーはある意味、これら目に見えない相互関係への洞察力とも関連していると言えるでしょう。目に見えない印象に鋭敏になり、葉の裏側や地面の下で暮らす生き物達の存在に気付くこともテレパシーの一部であるからです。これら表面に現れないもの達の存在に気付き、感謝することもテレパシー訓練の一つだと考えます。

046 With the dying of the vegetation the herbivorous animals would starve; the carnivorous ones, their natural prey extinct, would follow suit. And Man, relying upon both the animate and inanimate phases of manifestation for food, could not survive.

046 植物が死に絶えると共に、草食動物達は飢え、自然界の餌となるものが消滅する肉食動物達も同じ後に従うこととなります。そして食物を創造の生物、無生物の両面に依存している人間も生き延びることは出来ません。

【解説】

そして遂には地上から動植物が消え去り、人間も滅ぶという訳です。

このように小さな虫達も地中のミミズ達も人間から見ると小さな存在ですが、彼らが居なければ地球上の生物界は成り立たない程、重要な役割を担っているのです。

同様な事柄は私達人体の中にも言えることです。目に見えない大きさの免疫細胞が絶えずガン細胞らを見つけ出し、飲み込んで処理していることで、私達が正常な状態を保てることが知られておりますし、他にも様々な微小細胞が人体の維持に任務を全うしているのです。

私達はこのように数多くの微小な存在が自身の体内で自由に活躍することで身体の健康が保たれていることに感謝し、また同時に彼らの働きに敬意を表すべきなのです。テレパシーはその洞察力を高める為に開発されねばなりません。

047 Volumes could be written on this, yet never cover the subject completely. But I believe from the simple illustrations given that the sincere student will find much to intrigue his thoughts. Understanding the interdependency of life-forms is essential before man can grasp the universal truth that, in reality, all life is an expression of the one Cosmic Intelligence.

047 これについては何冊も本が書けるでしょうが、そのテーマを完全に覆い尽くすことは出来ません。しかし、私はこれまでに示された単純な諸実例から、誠実な学習者は自らの思いをめぐらすのに十分なものを見つけられるものと信じています。生命体の相互依存関係を理解することが、人が宇宙普遍の真理を把握する為には必須であり、その真理とは、実際に、全ての生命は宇宙的知性の表現の一つであるということです。

【解説】

このように無数の生きものが相互に依存し合い、しかも全体として調和した世界を造り上げている事実をどのように解釈すべきなのでしょう。その唯一の答えは、あらゆる生きものが一つの存在からの指令に従っているということにしかありません。各自が自分の意志だけで行動すれば、当然そこには乱れが生じ、全体としての調和は存続しません。何か絶大なる力が存在し、それに皆が従うからこそ大自然としての調和が生まれるのです。

また、逆に言えば一つ一つの微細な生きものの活動を観察することによって、より大きな存在を知ることになります。テレパシー開発はこの理解の下に進める必要があるという訳です。

048 The longer I contemplated the wonders of nature, the more I realized my oneness with all I beheld. All forms breathed the same air; all enjoyed the blessings of the same sun and wind; all obtained their sustenance from the one source. In fact, no division existed; all were created under the same law of Nature.

048 自然の不思議について考えれば考えるほど、私が見る全てのものと自分との一体性についてより深く認識するようになりました。全てのものが同じ空気を吸い、全てが同じ太陽や風の祝福を享受しており、全ては一つの源泉からそれぞれの支えを得ていました。事実、如何なる区分も存在していませんでした。全ては同じ大自然の法則の下で創造されていたのです。

【解説】

本文では私達人間も他の生きもの達と皆同じ空気を吸っていると指摘しています。全てが同じ大地、同じ星の元で暮らしているという訳です。

これは水についても言えることです。私達生きものは水無しには生きて行くことが出来ません。しかし私達人間は自分達の快適な生活を志向する中で、これまで必要以上、許容される以上に水辺を汚して来たのではないのでしょうか。

最近、縁あって地元近くのある沼の水質浄化を目指すNPO活動のお手伝いをするようになりました。その沼はかつては良質のウナギや魚、鴨が獲れ、また白樺派の文人達が集う景勝地でありましたが、戦後の住宅開発から沼の水は汚れ、あっという間に全国一、二を争う汚れた沼になってしまいました。その後は様々な住民運動や流域下水道、更には導水事業が成果を発揮し、現在の汚染レベルはかつての半分以下にまで改善するまでに至っています。

この水質経過を取りまとめて見ると、実に改善効果が発現するまでに30余年も要していました。人間の生活排水をそのまま沼に送り込んで魚達に汚染した水を飲ませていた訳で、遠い昔は許されても、今日のように人間活動の規模が大きくなるとその影響はより顕著に出るのです。

同様に、私達人間の放つ想念も自然界に影響を及ぼしていることは十分考えられることであり、想念・印象の世界でも同様に皆同じ世界の中で生きていくこととなります。

049 As I continued to watch the birds, insects and animals, I noticed they were alert to climatic changes before these took place. Heretofore, I had been content, as were others, to say, instinct; and relegate it to the realm of the mysterious extrasensory perceptions. But now this answer no longer satisfied me. I wanted an understanding of the awareness that had alerted the seedling oak to the topography of the terrain, then guided its roots in the proper direction; for I could now see that in the animal kingdom, this same instinct, or awareness, alerted the squirrel to the coming of a severe winter, warning him to store extra food to carry him through until spring. Why did not man, the highest expression of the Creator of forms, participate in this alertness?

049 私が鳥や虫、動物達をじっと見守るにつれ、彼らが気候変化が起る前にそれらに十分気付いていることに気が付きました。これまででしたら、私は他の者達と同様、本能と称して満足し、それを神秘的な超感覚的な知覚力の領域に追いやっていたことでしょう。しかし、今はこの答えでは私を満足させません。私は榎の木の苗木に土地の地形を知らせ、その根を適切なる方向に導いた覚醒状態に関する理解が欲しかったのです。何故なら、今では、動物界の中でもこれと同じ本能、ないしは覚醒状態がリスに厳しい冬の到来を知らせ、春までの余分な食料を保持するように警告しているのを見ることが出来るからです。形有るものの最高位の表現である人間がこの覚醒状態に参加していないのは何故なのでしょう。

【解説】

自然界において多くの生き物達が近未来を予知しているかのように備える行動をとっていることは良く知られています。例えば、カマキリは来るべき冬の積雪より高い枝先に卵を産むと言われています。どのようにして夏の終わりに冬の積雪を知るのか不思議ですが、そこには近未来に関する印象が常日頃流れていて、カマキリの親はそれを知って行動しているということが想定されます。

一方、これら近未来に関して全く鈍感なのは私達人間だけではないでしょうか。他の生き物達は全身でそれらの来るべき出来事に備えているのですが、人間だけが全く気付かずいつもの惰性的な生活を送っているのです。本来は火山の噴火や地震等の大きな地球上の変化はそれが実際に生じる前に数多くの前兆現象があり、自然からの警告も流れているものと思われまます。それらの印象に無知なあまり、巻き込まれるケースも多いものと思われまます。テレパシー能力はこれら大自然からの警告メッセージにも鋭敏になり、ご自身を守ることに繋がっています。

050 The answer came silently, yet with unmistakable knowing. "Those who do not receive have closed their minds to the Cosmic Intelligence."

050 その答は静かに、しかも揺るぎない知識を伴ってやって来ました。「感受しない者は宇宙の英知に自らの心を閉ざして来たのです。」

【解説】

”オープンマインド”や寛容さが何故大事であるのかを本項は示しています。

全ては如何にして宇宙を流れる印象を感受するかが問題なのですが、心自身が頑なになり、自分以外の意見を受け入れようとしない場合、問題の解決に役立つ新しいビジョンにも同調することが出来ないからです。

自分自身で考えを巡らせても、解決策を得ることは難しいものです。ほとんど全ての解決策は自分以外の所から来るからです。

これら解決策を導くのは印象であり、それらは私達の心が生み出すものではなく、本項で言う宇宙の英知から来るものです。

051 My problem then was, how could I open my mind to become aware of this Supreme Intelligence?

051 私にとっての次なる問題は、どうしたら私は自分の心を開いてこの至上なる英知に気付くようになるかという事でした。

【解説】

仏教で言う"悟り"とは英訳では"awakening"とされています。いずれも物事の理解を示す言葉です。通常の用法では無明、無知の状態から物事のつながり（縁）や原因との関係について理解するという意味で用いられるものと思われます。

悟りの状態に達したら、それまで明らかに見えて来なかったものがその姿を見せるようになり、原因と結果のつながり（法則性）も理解出来るようになる訳です。

そこに至るまでがいわゆる修行ということになりますが、それはスポーツと同様に繰り返し練習することでやがては可能となるものでしょう。もちろん一夜にして出来る訳ではありませんが、少しずつ努力する中で遂には道も究めることが出来るものです。重要な点はせっかちに諦めず、継続した努力の先にとりあえずのゴールに到達するという事です。

052 I continued to study things close at hand; at the same time letting my thoughts encompass the solar system of which we are only a small part. From there, it was but another step into the infinite vastness of Cosmic Whole. Throughout all creation I found a constant blending, with never a dividing break. Therefore, I could not stand apart, but was one with creation.

052 私は身近な物事の研究を続けましたが、それと同時に私の想念を私達がその一部でしかない太陽系を取り巻くようにしました。そこからは、宇宙全体の無限の広大さに入るもう一つの段階となったのです。全ての創造作用を通じて私は一時の切れ目も無く絶え間なく続く融合を見い出しました。ですから、私は創造作用から離れて存立することは出来ず、創造作用と一つになったのです。

【解説】

どのようにしたら至上なる英知に気付くことになれるのかについて、本項はやや控えめに述べています。

即ち、先ずは自ら周囲全てのものを、ご自身が太陽系全体を見渡せるような位置に置いて、観察しその意義を考えよと示唆しているのです。

重要なのは何か特別な訓練や修行を必要とするのではなく、むしろ積極的に自分の存在をより広い視点で捉え、日常生活を見詰め直せということのように思えるのです。

その上であらゆる創造的活動と自分とが繋がり合い、一体となっていることに気付くことだと説いています。自ら自分の日常の概念をより高い位置に置くことで全体との関連性を日々学んで行くということです。

053 This revelation made it apparent that all was contained within man, and the answer lay in his becoming better acquainted with himself. I recalled the well-known adage, "Man know thyself, and all things shall be revealed unto you." Until then I, too, had parroted this profound truth, unaware of the immensity of its depths. But now I realized that Nature held the key to the Cosmic universal language; silent, yet everywhere present; and it was here in the manifested world that I could find the understanding for which I searched.

053 この啓示は全てが人間の内側に含まれていること、そして答えは自分自身を熟知するようになることにあることを明らかにしました。私は良く知られている格言、「汝自身を知れば全ては明らかにされるだろう」を思い出しました。その時までは私もまた、この深みのある真理をオウム返しに繰り返すだけで、その深遠さに気付かなかったのです。しかし、今や私は自然が大宇宙普遍の言語の鍵を持っていることが分かりました。無言でかつ何処にでも存在します。そして、私が探し求めて来た理解を見出したのはこの創造された世界の中のこの場所であったのです。

【解説】

”汝自身を知れ”という言葉は古代ギリシャの神殿入口に刻まれてあった言葉とされています。一見、単なる反省を勧める意図のように思われがちですが、その意味するところは深いものがあるのです。

結局、私達の人生は各自自分自身と向き合い学びながら各自生まれ来た目的を果たすことだと考えています。もちろん、その過程で様々な困難にも巡り合う訳ですが、それでも自分自身の中にその解決の力があり、一步一步問題を解決して行くことになるのです。

具体的に言えば、人体60兆個もの細胞の一つ一つに英知が存在し、その一つ一つの中に想念や印象が蓄えられ湧き起こるインスピレーションに同期する機能があるという訳です。こうした優れた要素から成る人体を持つ人間には宇宙の全ての要素が含有されていることになり、また他の生きものも同様ということになります。従って、宇宙を知るということは私達自身を知ることと同意語であるのです。

054 My analysis continued. Since my human form had been brought into being by this Cosmic Intelligence, I, along with other forms of nature, must have inherited its laws and benefits, as well as its intelligence. Then why did I not have ready access to these birthrights?

054 私の分析は続きました。私の人間としての身体は宇宙英知によってもたらされたものであるからには、私も他の自然界の形有るもの達と同様、その知性と共にその諸法則や恩恵を受け継いでいる筈です。それでは何故、私はこれらの生来の権利を直ぐに入手出来なかったのでしょうか？

【解説】

こうしている内にも私達には様々な困難が降りかかり、時には病に至る場合も多いものです。それ程に今生の世界を生きて行く上で、苦勞も多いように思われます。

しかし、こうした苦難の中にあつてこそ、これまで学んで来た事柄の真価が現れることも確かなのです。一般には滅入ってしまうような状況でも淡々と事態を受入れ、現実に向き合おうことが出来るのは、それまでの学習の成果であるのです。

以前、海外の食肉工場を見学したことがあります。印象的であつたのは、明日朝には屠られ肉となる運命の水牛達が実に穏やかな目をしていたことです。彼らは自分達がどういう運命にあるのか、良く分かっているように思われました。たとえ理不尽でもその宿命を潔く受入れる覚悟をしている者の姿がそこにあつたことを忘れることは出来ません。

一方、私達人間はそのような道を辿ることなく、自分の生き方は各自に委ねられている筈です。本来与えられた人生の目的を各自どのようにして再発見し、実現して行くのか、自らに与えられた特権を生かす方策を開発する必要があるのです。

055 I knew that scientifically the human body was a marvel of construction beyond the duplication of man. Just one small function of the body, which scientists do not fully understand, is the working of the "chemical laboratories" within us which daily extract and distribute the essence of the foods we eat. This alone is proof that the natural actions of the body obey the laws of Cosmic Intelligence. It must then follow that the reasoning mind has become so immersed in the material world of effect, it has temporarily lost sight of its origin. Man did indeed "hide his light under a bushel."

055 私は科学的に人体は人間というものの複製以上の驚異の建造物だということを知っています。人体のわずか些細な機能であり、科学者達が完全には理解していないこととして、私達の中にあつて私達が食べる食物のエッセンスを毎日抽出し、分配している「化学実験室」があります。この一つをとっても人体の自然な行動は宇宙英知の法則に従っている証拠になります。そのことはまた、論じがちな心が結果の物質的な世界に余りにも夢中になっている為、心は一時的にその元の由来についての視野を失っていることに繋がっているに違いありません。人はまさしく「ともした明かりを灯の下に置いてしまった」のです。

【解説】

このところ風邪を引いてしまいましたが、寝込んでいると普段如何に人間の活動が奇跡的とも言えるように迅速円滑に行われているかが実感します。

私達の日常の何気ない行動は、自らをその行動へと駆り立てる段階から、筋肉を動かす指令、身体を移動させる手順、またそれらのバランスを保つ動き、等々が組み合わさっています。野球選手の動きはこれら一般人よりはるかに迅速であり、それによって見事なプレイを披露しているのです。

一方、これらの機能も身体に一箇所でも不調が生じれば心の指令通りの行動は出来なくなります。一見単純な行動のように見えても実際には様々なメカニズムと代謝機構がその間に介在しており、それらが円滑に連携されているからです。今日ではT C Aその他の代謝径路が人体各細胞に組み込まれており、活動のエネルギーを食物から化学的に得る仕組みも判明しています。

このように私達自身の中には、既に宇宙の英知とも呼ぶべき仕組みが備わっているのです。

056 The task confronting me now was the shedding of this false conception, and a recognition of the existence of the underlying Cosmic Cause. So I sought a better understanding of my mind and my body; how they operate and their purpose for being. This line of investigation led me to the realization that it was Cosmic Intelligence coupled with a force, that was the creator of my being.

056 今や私に立ち向かう任務は内在する宇宙的因の存在に対する誤った観念と認識を取り去ることでした。そこで私は自分の心と身体についてのより良い理解、即ち、どのようにしてそれらが働くかやそれらの存在目的について探し求めました。この探究の筋道は私を私の存在の創造主は力を伴った宇宙的英知であるとの実感に導いたのです。

【解説】

このテレパシー講座の過程で何が私達に求められているかが、本項によって示されています。つまり、私達がこれまで当たり前のように思っていた事柄が実は、創造主の思し召しとして授けられた生きものに対する機能であり、それらについて私達はもっと自分自身を通じて探求し認識を深めることであるとしているのです。

自分を通じて宇宙的英知が力を得て行動に表現することで、より優れた作品が世に出されることになり、それが後世の人々に核に立つという具合です。そのようにして私達生きものは原始の時代から今日まで進化して来たと言えるでしょう。

私達が各自に授けられた才能を発掘し、その価値を知ることが全ての作業の始まりであると考えます。

057 My earthly parents had merely served as a channel for the birth of my physical form. But this Force in Cosmic Intelligence had formulated the plan and directed the building of my body. So it is with all expectant parents. The mother's body furnishes the necessary materials for this Master Builder, yet at no time does she control the miracle of creation taking place within her.

057 私の地上の両親は単に私の肉体の誕生の為の経路を務めたに過ぎませんでした。この宇宙的英知の中の力がそのプランを組み立て、私の肉体を作り上げることを指揮したのです。それはこれから両親となる全ての者についても同様です。母親の肉体はこの棟梁の為に必要な材料を供給しますが、彼女が自身の中で起っている創造の奇跡を統制することは決してありません。

【解説】

人体の創造が毎回どのようにして成し遂げられているのかを本項は説明しています。

私達の身体が最初、一粒の受精卵からスタートし、母体を離れてこの世に生誕するまで、文字通り劇的な変化・発展を遂げるのですが、その行程は母体も私達自身もコントロールするものではなく、ひとえに生命創造の宇宙的英知が全てを取り仕切っているのです。

母親は胎児に必要な栄養を提供し、環境を整えるのみで、胎児の成長を担っている訳ではありません。もちろん、育てられている私達自身もその過程を意識している訳ではないのです。

これら全ては場所や時間に関係なく、常に宇宙普遍に存在する生命の英知から直接、胎児に働きかけ、生長を促していることとなります。つまり、創造主そのものが胎児の生長として表現されているのです。それ故に生まれたばかりの赤子はかくも美しく、素直で柔軟性があり、想念・印象に敏感なのです。

058 Pursuing this train of thought, I made a vital discovery. If one asks an expectant mother whether she can foretell when the little form within her is about to turn, she will answer, "No " She cannot direct the movement of the baby, and the knowledge it has turned comes to her as an alertness, or feeling, after the action has taken place. Therefore, it is the intelligent force which transmits the information to the mother through her sense we call feeling.

058 この一連の思考を追って行く中で私はきわめて重要な発見をしました。もし人が妊婦に彼女の体内の小さな胎児が何時向きを変えるか予告することが出来るかを聞いても、妊婦は「いいえ」と答えるだろうということです。彼女は赤ちゃんの動きを指図することは出来ませんし、胎児が向きを変えたとする知見は一つの警戒、或いは感じとして、その行動が起ってから彼女にやって来るのです。従って母親に私達がフィーリングと呼ぶ彼女の感覚を通じて情報を伝えるのはその英知ある力ということになります。

【解説】

実際、母親は自身の胎内で何が起っているかを具体的に承知してはいないのです。唯一、人間の創造という行程が事前にセットされ、それに必要な諸要素を提供しているのが母親であり、人体の生みの親はより高次なる存在という訳です。

もちろん必要な物質が届けられなければ健全な身体は造れませんし、その供給については直接、英知から母親に印象として伝えられることとなります。

こうして無事、赤ん坊が誕生すると、母親は自らが関わった生命誕生の過程に感謝し、授かった命を慈しみ、自らの生命を懸けて守りきることとなります。文字通り貴重な体験を得たことになるのです。

私達は各自、例外なくこうして世に生まれ出た訳ですが、年を重ねてもなお迷いがあったり、悩みに囲まれていることは悲しいことです。最初はそのように原始の状況から輝かしい人体として生まれ出た私達には、本来、様々な英知が関わっており、各自に適した生きる目的が授けられている筈だからです。

059 In other words, feeling is the creative force within all forms. So the definition of telepathy as being a sixth sense was entirely wrong. Man is not a five-sense being . . . but a four! The fifth sense, or feeling element, through which telepathy actually works, is not a sense; but an intelligent force giving all manifestation conscious alertness.

059 言い換えれば、フィーリングとは全ての形有るものの内側にある創造的な力なのです。ですから、第6感であるとするテレパシーの定義は完全に誤っていたのです。人は5感の存在ではありません。そうではなく、4感の存在です。第5の感覚、即ちテレパシーがそれを通じて実際に作用するフィーリングの要素は感覚の一つではなく、全ての創造物に意識的警戒状態をもたらす英知の力の一つなのです。

【解説】

実はフィーリング（感じ）こそが創造作用に繋がる大きな力を持ったものであることを、本項で著者は断言しているのです。通常、私達は目に見えるものを拠り所として生きていますが、むしろそのようなものは時間の移ろいは事情の変遷により、変わりやすいものです。しかし、意志や思想、想念という行動の源となる要素は時間の経過とともに輝きを失うようなことはありません。

現にイエスや仏陀の言葉や意志は、長年月経過した中でも脈々と後世の人々に伝えられています。

私達はこの想念・印象こそが全ての創造を促す原動力であり、パワーであることに気付く必要があります。テレパシーはこれら想念・印象に対する私達の感性を高め、同調出来る領域を拡大して、より豊かな精神生活を送ることに大きな意義があるのです。

060 I realize this is throwing a bombshell in the face of age-old theory, yet the idea that physical man is a four-sense being can be logically demonstrated.

060 私にはこれが大昔からの理論目掛けて爆弾を投げ付けるものであることは分っていますが、肉体としての人間は4つの感覚による存在であるとする見解は論理的に証明され得るのです。

【解説】

私達人間が備える感覚器官は視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4つであり、触覚はフィーリングに繋がるもので、それら感覚とは異なる、更に高次元な生命力であるとの結論が本項で示されています。もちろん、テレパシー開発とはこれらフィーリングを拠り所として進めて行けば良い訳で、第6感その他仮想の感覚を新たに想起する必要が無いのです。

このフィーリングや触覚という要素は自然界においては特に重要です。動植物の世界においては餌のありかや遭遇した相手を認識する上で、多くの動物は触角なる鋭敏な感覚器官を用いておりますし、暗闇の中でも何ら苦無く移動出来るのは彼らが視覚によらずこれら触覚に基づいて行動していることによるのです。

更に進んでこれら触覚的要素は接触する相手の持つ振動（波動）にも同調し、その性質を理解することで、空間に共鳴するそれらの発する想念・印象とも同期できるものと考えます。

本来、宇宙には創造主を源とするこれら創造的想念・印象が原始の時代から行き渡り、充満している訳で、私達はそれらと融合することによって、より精緻な存在へと生まれ変われるものと思われれます。

CHAPTER III

Feeling - The Cardinal Sense

061 According to popular belief we possess five senses sight, hearing, taste, smell and feeling; each of which, we know, has the ability to act independently of the others. We can see objects without using the senses of hearing, taste or smell. We do not need hearing, sight or smell to discern sweet from sour. Our olfactory organs work admirably without the help of ears, eyes, or palate; and sounds can be received through the auditory canal exclusive of the other three senses. This all goes to prove that the four senses work independently of each other.

第3章

フィーリング - 基本的な感覚

061 一般に信じられていることに従えば、私達は5つの感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚そしてフィーリングを持っていますが、それら感覚の一つ一つは私達が知っているように他の感覚とは独立して働く能力を有しています。私達は聴覚や味覚、嗅覚を用いずに対象物を見ることができます。すっぱいものの中から甘いものを識別するのに聴覚や視覚あるいは嗅覚を必要とはしません。私達の嗅覚器官は耳や目、舌の手助け無しに見事に作用しますし、音響は他の3つの感覚を排除したまま聴覚の内耳導管を通じて感受されることが出来ます。これら全ては4つの感覚は互いに独立して働いていることを示しています。

【解説】

私達人間は長らく視覚から嗅覚までの4つの感覚を頼りに生きて来たということでしょう。それらはいずれも現世の結果物を把握するには十分でしたが、それ以上のものではなかったのです。

映画「2001年宇宙の旅」では太古の昔、猿人達が貧しく厳しい生活をしていた時、神秘的なモノリスが出現します。その猿人の群の内、そのモノリスに触れた者がやがて道具を用いることを発見します。以後、その集団は進化を遂げ、今日の宇宙時代への物語は急展開する訳です。

ここで象徴的に描かれているのはそのモノリスに猿人が触れるシーンです。当時、映画監督スタンリー・キューブリックがどこまで理解していたかは知りませんが、「触れる」ということの中に、本講座で言う「触覚」や「フィーリング」というより深い認識径路が含まれていることが重要なのです。

私達の触覚は宇宙の英知の本源に直接、接触できる機能も有しており、それを通じて得られる印象や想念には莫大な力が備わっているということを十分に理解する必要があります。

062 But what of the so-called fifth sense? If we deprive man of feeling, as we have done with sight, hearing, taste and smell, what is the immediate result? He lapses into unconsciousness, and will remain in that state until feeling is restored. While he is in this state, the organs of sense are still in the body and in perfect condition. The eyes, nose, palate and ears are uninjured, yet they do not see, smell, taste, or hear. And if feeling is completely withdrawn from the body, that person dies. Therefore, it is quite apparent that each of the four senses is dependent upon feeling for its existence.

062 しかし、いわゆる第5番目の感覚とは何でしょう？もし、人間から私達が視覚や聴覚、味覚や嗅覚について行ったように、フィーリングを取り除いたら、どのようなことが直ちに結果となって現れるでしょうか？その人は無意識の状態に陥り、フィーリングが回復されない限りはその状態に留まるだろうということです。その人はこの状態にある間、それら感覚器官は肉体内にあり、完全な状態にあります。両目は鼻、舌や両耳は損傷を受けていませんが、それらは見たり、匂いを嗅いだり、味わったり、聞いたりしないのです。そしてフィーリングが肉体から完全に取り去られるなら、その人物は死にます。ですから、この4つの感覚各々はその存続をフィーリングに依存していることは、まったく明らかなのです。

【解説】

私達が通常、「意識がある」或いは「意識がない」と称しているように、意識状態は生命の基本条件であるように思われます。実はこの意識ことが私達の感覚器官も含めて全ての身体機構を有機的に統合している訳で、意識が薄れば、各々の身体器官は機能を停止してしまうものと思われます。

この意識状態を既存の感覚のように表現したのが、「フィーリング」です。あらゆる存在と融合し、その持つ印象（波動）を同期し、知識を得ることが出来るという訳です。

従って、目や耳等の感覚器官によらず、もっと深部の原理や仕組みから物事を理解する為に、フィーリング能力を高める必要があるのです。その為に私達は各自、心の状態を整え、心に湧き起こる深遠なる印象に気付く必要があるのです。

ご連絡 [2018-11-16]

いつもご覧いただき、有難うございます。

都合により、次回の更新は11月22日（木）になる見込みです。

2018年11月16日

竹島 正

063 Let us now deprive man of one of his four senses, such as sight. Does this affect the life force in the body? Not at all! We can go further and deprive him of two, three, or even all four; yet he will still be a conscious, living being. Though the actual organs of sense are not functioning, he is conscious of knowing joy or sorrow, peace or pain, and he is able to receive mental impressions and visualize them perfectly.

063 では人からその4つの感覚の内の一つ、例えば視覚を取り去って見ましょう。これは肉体内にある生命力に影響を与えるでしょうか？ 全く有りません。次に進んでその者から二つ、三つそして四つ全部を取り去ることも出来ますが、それでもその者は意識ある生きた存在であり続けることでしょう。実際の諸感覚器官は機能していないにも拘わらず、その者は喜びや平安、或いは苦痛を知る意識を有していますし、心的印象を感受し、それらを完全に映像化することが出来ます。

【解説】

目も見えず、耳も聞こえない中でも、世界中を旅し多くの人々を励まし続けたヘレン・ケラーの著書を読んだことがあります。日本にも来たことのある彼女は実に知的な方で、その本からは多くの示唆に富んだ哲学的な話題があったことを記憶しています。

私達はとかく四つの感覚に依存しがちですが、それらを取り除いてもなお、私達の思考その他精神活動はいささかも影響を受けることはなく、「私」の本質は変わるものではありません。事実、私達の身体の中の諸活動は光が無く、音の無い環境であっても着実に進められており、所定の機能を果たしているのです。

そういう意味からは、以後、私達の自分の四感覚を離れてもなお、存在する「私」の実体、即ちフィーリングを中心とする存在に着目する必要があるのです。想念・印象を頼りに人生を歩んで行くということかと思えます。

064 It is through this so-called fifth sense that telepathy works; so if we continue to cling to the idea of feeling as a bodily sense, the definition of telepathy is incorrect, and science has been sidetracked. The act of thought-transference, clairvoyance, premonition, or whatever term you choose to use for invisible perception, is a perfectly normal function of the feeling element expressing through the brain, with the cooperation of the mind.

064 テレパシーが働くのは、このいわゆる第5感を通じてです。ですから、私達がフィーリングの概念を一つの肉体内の感覚であるとする概念に固執し続けるなら、テレパシーの定義は間違っただけのものになり、科学は横道にそらされていることになります。想念の転移、透視、予感あるいは目に見えない知覚に対して貴方がどのような名前を選ぶにしても、それが心の協力の下、脳を通じて表現されるフィーリングの要素による全くの通常の機能なのです。

【解説】

ここで重要なのは、想念の感受は既存の四感覚とは別の、より普遍的な機能であり、生きもの全てが共通して持っている「感覚」という訳で、脳の中で具体化するということでしょう。

従って、視覚から嗅覚までの四感覚とは別に、この「フィーリング」が身体全ての要素と交流し、また身体を代表して他の想念・印象とも同期出来る機能を有するという訳です。

当然、テレパシーを開発したい私達は、今後はこの「フィーリング」を最重要視して生活を進めることが必要とされます。よく言われるように、"大事なものは目に見えない"ことを十分に自覚して、精妙なる真実の断片を伝える印象こそ、大切に扱う必要があるのです。

065 It has been brought to my attention by many individuals that the fifth sense, as it is generally understood, is not the sense of feeling, but that of touch. This does not change the theory, as each of the four senses possesses this faculty of feeling, or element of conscious-contact, without which there would be no awareness. Touch is a bodily nerve reaction, while feeling is the cardinal Life Force. It is through the conscious-contact of this Life Force that sensation is produced.

065 多くの人々が、その第5感覚は一般に理解されているようにフィーリングの感覚ではなく、触覚のことではないかと私に知らせに来ています。しかしそれはこの理論を変えるものではありません。何故ならその4つの感覚もフィーリング、即ち意識的接触に関する要素の機能を有しており、それ無しには如何なる感知能力もないことになるからです。触覚は肉体の神経反応である一方、フィーリングは基本的な生命力なのです。感覚衝動が作り出されるのはこの生命力の意識的接触を通してなのです。

【解説】

テレパシー訓練で最も重要なのは、「フィーリング」と称される印象への鋭敏さです。この場合、通常の私達の五感と対比すれば第5番目の感覚である「触覚」に相当するのではないかという議論になってしまいます。古くからアダムスキー哲学を学んでいる人たちの間には、「フィーリング」を「触覚」と同じと考える方々も多かったものです。しかし、本項から分かるように著者は通常、私達が「触覚」だとしているのは、肉体の神経の伝達反応であり、一般的な感覚ではないと明言していることに留意しなければなりません。

本来の「フィーリング」とは各感覚をも包含するようなもっと高次なもので、意識的な広がりを持ったものと解せられます。言い替えれば、私達が未だ認識できてはいませんが、通常感覚上の反応よりもっと深い所で想念波を知覚しているような存在だと思われれます。

また、これらの知覚作用のやり方は本文中にあるように、丁度意識が他の意識と出会い、相手と交わる仲で互いの波動を感じ取り、互いを理解するような融合的な知覚作用を行っているのかも知れません。もちろん、そのような互いの交流であれば最初に会った瞬間にすっかり相手を理解してしまうような状況になる訳で、進化した他惑星人が最も得意とする分野かと思われれます。

066 We can only know motion through the law of comparison, which is actually the law of contact, or the relationship between one phase of expression and another. When we touch an object with our fingers, we receive an impression of that object because of the pressure created through the contact of a lesser with a greater vibration. Likewise, we receive visual impressions or auditory impressions through the contact of light or sound vibrations with the retina of the eye or the ear drum. We are made aware of atmospheric conditions and temperature changes through the contact of atmospheric cells with the cells of our body. All of this proves that touch is merely the nerve reaction to contact.

066 私達は比較の法則を通じてのみ運動を知覚することが出来ますが、それは実際にはある表現の位相と他の位相との接触の法則、あるいは関連性であるのです。私達が指を用いてある対象物と触れる時、より低次の振動がより高次の振動と触れることによってもたらされる圧力が原因となってその対象物の印象を感受します。同様に私達は光あるいは音の振動と目の網膜や耳の鼓膜との接触を通じて視覚の印象や聴覚の印象を受け取るのです。私達は大気の小房と私達の肉体の細胞との接触を通じて大気の状態や温度の変化を知るようになります。これらの事柄全てが触感は接触に対する単なる神経反応であることを物語っているのです。

【解説】

本項はいわゆる触感と呼ばれる神経反応の具体例が示されています。この神経の接触反応には運動や湿熱の他、視神経や鼓膜の振動伝達にまで及ぶ訳で、幅広い機能を有している訳です。

そういう意味では、触覚は感覚の基本的な機能を支えていることとなります。

このことを理解した上で、私達は自らの隠された真の感覚であるフィーリングを探求する必要があることとなります。またそのフィーリングは触覚的要素をも併せ持つことになるのです。

067 Feeling and touch being practically synonymous, I will continue to use the word feeling to denote the so-called fifth sense.

067 フィーリングと触感は實際上、同義語であることから、私はその言葉（訳注：フィーリング）を、いわゆる第5感を象徴する為に用い続けることとします。

【解説】

フィーリングも触覚も実はいずれも同様な機能を示すものだけということでしょう。

私達はとかく言葉に囚われがちですが、そのどちらの作用も相対的、類似的なものではないかと思われるのです。即ち、フィーリングは想念・印象レベルで、触感は神経細胞レベルでの接触を介する事項を取り扱うもので、共に作用としては同様なものかと思っています。

重要な点は、最も私達が注意したいのは私達が視覚から嗅覚までの四感覚にあまりにも依存して来たことで、フィーリングに対しては、ほとんど目を向けて来なかった点にある訳です。

これから私達は自らの触覚はもとより、フィーリングに重きを置いて、自らの進路を決定すべきであり、決して目や耳が指示するような方向に従う必要はなく、自分の抱く印象に従って行動することが肝要なのです。

068 Inasmuch as each of the four senses possesses this element of feeling, which is an intelligent force having the ability to react in a conscious state to expressions of itself, or in other words, the element that registers each contact of existing vibration, we must admit that telepathy is certainly not outside the normal operation of the recognized sense organs. For it is through the feeling channel, regardless of the avenue of reception, that thought becomes known.

068 この四つの感覚が意識的状态の中でそれ自身を表現する為に反応する能力、言い換えれば存在する振動との接触を毎回記録する要素を所持している以上、私達はテレパシーは確かにこれまで認識されている感覚器官の通常的作用を超えるものではないことを認めねばなりません。何故なら、感受の経路に係らず、想念が知られるのはフィーリングのチャンネルを通じてであるからです。

【解説】

実際のところ視覚から嗅覚までの既存の四感覚についても、それぞれ完全に独立して機能している訳ではなく、各々にはフィーリングの要素が備わっていて、そのフィーリング要素が認識を司るという訳です。つまりは私達にはフィーリングという基本的機能があり、それらを通じて意識に繋がっているということです。

そうすると私達は既存の四感覚について、それらの横暴や占領を押さえ込むことはもちろん必要なのですが、もっと柔軟にそれぞれの感覚機能を下支えするフィーリングを活かし伸ばすことが必要です。即ち具体的には、四感覚の反応に対し、それとは別に常にフィーリングを通じて得られる事柄に耳を凝らすことです。

大事なことはあらゆる場面や径路を通じて、フィーリングによってもたらされる"印象"を大切に扱うことであり、これらインスピレーションを創造主から与えられた生きるヒントとしてありがたく頂戴することです。

069 The question may arise: How do you explain those rare individuals who are born without feeling? They suffer no bodily pain, even from severe injuries. Will this impair their telepathic ability?

069 疑問が生じるかも知れません。フィーリングを生まれながらにして持たない稀な人々についてはどのように説明するのかと。彼らは例えひどい怪我をしても肉体の痛みに煩わされません。このことは彼らのテレパシー能力を損なうことになるのではないのでしょうか？

【解説】

歯の治療や手術その他で麻酔が用いられますが、それはこれら肉体の神経細胞の働きを一時的に麻痺させるものです。確かに痛みは感じなくなるのですが、やはり、あくまで一時的な処置であり、本来的に肉体内の神経細胞の働きがあってはじめて私達は自身の身体に生じた異常事態を知る訳です。

一方、中には本項で示すような生まれつきその機能を持たない人もいるということでしょう。しかし、痛みが感じられないことは身体の異常に気が付かないことでもあり、大変危険とすることが出来ます。しかし、それでもなお、私達のフィーリング機能は更に深部、各細胞の中に備わっているため、その影響は受けないと示されています。これら神経細胞以外の各細胞にそれぞれフィーリングに携わる部分があり、これらは神経反応に関わりなく活動しているという訳です。

070 Not in the least. This is a purely physical condition caused by the malfunctioning of the nervous system; and has no more bearing upon the operation of the Life Force, or true feeling, than if the individual is born without a finger. The senses of sight, hearing, taste and smell, work normally in these people. The degree to which anyone registers pain is dependent upon the nervous system; the more sensitive the system, the more intense the pain felt.

070 全然そのようなことはありません。これは神経系統の機能不全によって引き起こされた純粋な肉体の状況であり、個人が指1本欠けて生まれたとしても生命力、即ち真実のフィーリングの作用には何ら問題が無いのと同様です。視覚や聴覚、味覚や嗅覚はこれらの人々の中で正常に働いています。人が痛みを表わす程度は神経系統に依存しています。その系統が高感度であればある程、その痛みは強烈に感じるのです。

【解説】

既に説明されているように、触感は神経反応であり、それ以上のものではない訳で、私達がテレパシー開発で重要視しているフィーリングとは次元が異なる程の相違があるということでしょう。本来のフィーリングは私達の各肉体細胞が有する想念・印象の知覚作用であるからです。

改めてこのフィーリングを考える時、それらが伝達する内容は言葉で表現するのが難しい、或いは言葉以前の想念のような事柄であることが多いように思われます。未だ、心の中で具体的に表現されていない段階のバクとした想念・印象であることが多いのかも知れません。

その段階の想念・印象を感受できれば、世に初めての発明なり、発見という貴重な体験を得ることになる訳で、私達のテレパシー訓練のあり方の一つともなります。まずは私達自身のフィーリング能力とはどの程度なのかについて、向き合う必要もあるのです。

071 These unfortunate individuals, rather than being envied, should be pitied. For the little sentinels who stand guard constantly throughout the body to flash warnings to the brain - nature's switchboard - of any unusual condition, are our staunch friends. Let us say we run a splinter in our hand. These sentinels, or nerves, immediately set up a clamor, informing the brain that a foreign substance is exerting pressure upon the surrounding tissue. We then relieve the pressure by removing the splinter and the wound will heal. But if the brain had not received this information because the nerves were not functioning properly, we would have been unaware of the splinter until the body, in trying to expel it, had caused the area to fester. But it is a physical condition; and lack of this nerve feeling has no more to do with a person's telepathic receptivity than the color of his eyes.

071 これら不遇な人達はうらやましがられるよりは、哀れまれるべきです。何故なら、どのような異常時であれ、自然界の交換機のように脳に警報を発するべく、体中を常に警備に立っているその小さな歩哨達は私達の信頼する友人達であるからです。私達が手に棘を刺したとしましょう。これらの歩哨達、神経はすぐさま大声を発し、脳に異物が周囲の細胞組織に圧力を加えていることを伝達します。私達は次にその棘を取り除き、その傷はやがて癒えます。しかし、脳が神経が適切に機能していなかった為にその情報を受け取らなかった場合には、私達は肉体がそれを追い出そうとしてその部分を化膿させようとするまでは、その棘に気付かなかったことでしょう。しかし、それは肉体の状態であり、この神経によるフィーリングの欠如は両目の色以上に各自のテレパシー感受力に関係するものではありません。

【解説】

とかくフィーリングと言う場合、文字通りの"触覚"と受け取られるケースが多いのですが、本講座で重要だとしているフィーリングは想念・印象の感受機構であり、単なる肉体の触感反応とは異なるものです。

私達はこのフィーリング機能こそが既存の四感覚をも下支えしている一方で、想念・印象レベルの感受、感応に大きな役割を果たしていることを、もっと学ぶ必要があります。

通常、それらの想念・印象は静水面の上を通り過ぎるわずかの風のように水面上はほんの少しの波立ちしか起こしませんが、その絶妙な水面の動きを知覚して、心に湧き起こるアイデアを把握する努力が必要なのです。

072 Man is a miniature universe; so let us analyze him in that light.

072 人間は小型宇宙ですので、その観点から人間を分析して見ましょう。

【解説】

今となっては大昔の映画に「ミクロの決死隊」というものがありました。人体の中に細胞レベルに縮小した人達が入って行き、人体の様々な機能を探究するというストーリーであったかと思えます。

人体には60兆個もの細胞があり、それらが有機的に連携し、全体としての人体を維持している訳ですから、生きているだけでも奇跡的な状況だと考えることができます。

もちろん病気になれば、体内では様々な反応があり、様々な細胞達はその修復を目指して働いている訳ですし、そのお蔭で私達は長年月生き続けていられるということでしょう。

これらの事柄は人間誰でもが日常的に享受している訳ですから、私達は自分自身のそれらの働きに驚き、感謝しなければなりません。何よりもこれら無数の微細なユニットはひたすらあなた自身の為に日々働いている訳です。

こうした何らかの目的の為に献身的に働こうとする活動は、宇宙的なものであり、宇宙の各生物に共通するものでしょう。私達はこうした他への奉仕活動というものの中に生きている訳で、それが幾重にも重なった中に大宇宙が存在することを学んで行く必要があるのです。

073 We know all things in the manifested world are based upon four elements; earth, water, fire and air. From combinations of these four elements are brought forth the innumerable variations of form. But within each atom comprising these elements, is a force which is indestructible and inexplicable. It is a definite, yet elusive something, that evades the best efforts of the research workers; and even the most sincere cannot define its character or its source. It is this activating force which gives impetus to creation.

073 私達は創造された世界の中の万物は四つの要素に基づいていることを知っています。土、水、火そして空気です。これら四つの要素の組み合わせから無数の形有るものの変化がもたらされました。しかし、これらの要素を構成している個々の原子の内部には破壊されることのない、また説明できない、ある一つの力があるのです。それは確固としたものですが、どこか捕らえ所のないもので、研究者達の最高の努力もくぐり抜けてしまいます。また最も誠実な者もその特徴やその源泉を定義することは出来ません。創造作用に刺激を与えるのはこの活性化力なのです。

【解説】

古来、ゾロアストロの時代から、私達は万物を土（固体）と水（液体）、火（プラズマ）そして空気（気体）と分類して来ました。しかし実際には、それぞれの原子の中に知性があり、それらが万物を造り出す英知の源であると本項は宣言しているのです。

極小微細な原子の中に私達が求める英知の実体があるということは、私達自身の身体そのものが大宇宙にも似た莫大な数の知的構成物から成り立っていることになり、前項072で述べられていた"私達自身が宇宙"という表現に繋がるのです。

これら原子の声を聞く訓練にはまだ先の長い私達ですが、このことから少なくとも原子核分裂や核融合等、人間が勝手に原子を崩壊させるような行為は、反宇宙的であることが分かります。今日、私達が行っている原子力の利用はこのことから誤った使い方の典型であり、他惑星人が警告する由縁であることが分かります。

074

In man we find the same condition existing . . . four phases of action, or manifestation, aided and supported by the inexplicable force that causes impulse, or action, within them. It is therefore obvious that feeling is no more a physical sense, than is the activating force in nature one of the four elements.

074 人間においても同じ状況が存在することに気付きます。その内部に衝動や行動を引き起こす説明出来ない力によって助けられ、支えられた四つの行動、創造の側面の存在です。ですから、フィーリングは肉体の感覚ではなく、四つの要素における自然界の活性化力であることは明らかです。

【解説】

シンクロニシティ（同期性）という言葉がありますが、本項によれば私達の行動にも、前述の4要素に類似して4つの側面があるとしています。不十分ながら私の理解では、著者は視覚から嗅覚までの要素を示唆しているものと目下は解釈していますが、その全ての側面に対して、その衝動を生じる力が作用して下支えしているという所が大切な点です。

全ての世界、私達自身の外側もまた私達自身の内側も同じ衝動を生じさせる力、原子に内在している知性が全てを支えているという訳です。

そしてその衝動を受け入れ、それらの知性と交流できるのがフィーリングという経路であるのです。即ち、フィーリングを通じて私達は私達自身も含め、全てのものを理解することが出来る経路を得ることになるのです。

075 Once I understood this, I knew that this force, born of Cosmic Intelligence, is the foundation of all life. Nothing need be added; all is present. But I, as a physical man, must recognize and begin to use this all-inclusive power. At this point, I took a closer look at my mind. To my surprise, I found it badly equipped and behaving like a tyrant ! I saw it was merely the spokesman for the sense reactions; not the Knower of Cause.

075 一度このことを理解するや、私には宇宙的英知から生まれたこの力が全ての生命の土台であることが分かりました。何も加えられる必要がなく、全てがそこに在るのです。しかし、肉体の人間としての私はこの全てを包括する力を認識し、応用し始めなければならないのです。この時点で、私は自らの心を注意深く見詰めました。その結果、驚いたことに、私は心がひどく身構えて暴君のように振る舞っていることに気付いたのです。私にはそれが因を知るものの代弁者ではなく、感覚反応の代弁者となっているに過ぎないことが分かりました。

【解説】

本来、宇宙に続く英知の持ち主である筈の私達ですが、その日常の姿は大変惨めで問題を抱えているのが私達地球人の実態です。この状態は太古から、そしてイエスや仏陀の時代から今日まで地球人を苦しめて来たということでしょう。その全ての原因が私達の心にあるのです。

そうした問題点について仏陀や各自、修行訓練によって覚醒せよと指導して来ましたが、ある意味現在でも寺の修行僧は日々の学習訓練によって自らの心の動きを観察し、やがてそれを本来の位置、即ち高次な想念・印象に従う下座に置くよう努力しているものと思われまます。

これらの修行は各自が実践しない限り、各自に成果は得られない訳で、各自与えられた環境条件の下で自分なりの工夫をして、日々精進し自らの心を本来の素直で謙虚な状態にして、身体が有する本来の英知の発現を促す必要があるのです。

076 Let me explain it in this way. The mind of the average human we encounter today expresses only the opinions gathered from the reactions of his four senses. Therefore, his so-called intelligence is hampered by his likes, dislikes, and autocratic judgment of all that he does not understand. He should not be condemned too harshly for this. It has been the accepted attitude for ages. We have allowed our four senses to be the domineering rulers, quarreling and dissenting amongst themselves; totally unaware of the Creative Force which brought them into being.

076 このように説明しましょう。今日私達が出会う平均的な人の心は只、その人の四つの感覚の反応から集められた意見だけを表現しているということです。その為、その人のいわゆる知性はその人の好き嫌い、自分が理解しない物事すべての専制的な裁きによって妨げられています。しかし、人はこのことについてあまりに厳しく非難されるべきではありません。それが長年にわたって受け入れられて来た態度であるからです。私達は私達の四つの感覚が威張り散らす支配者達であることを許して来たのであり、それらは言い争い互いに異議を唱えながら、それらを産み落とした創造力に全く気付いていないからです。

【解説】

私達の日常の実体はどのようなものかについて、本項は詳しくその内容を明かしています。実際のところ、私達は自身の四感覚がそれぞれ「好き嫌い」、「好ましいもの、好ましくないもの」という裁きの下で、出会う相手を差別しているというのです。

出会った対象の背景や価値を知ろうとする代わりに、感覚の反応だけで済ませているというのです。果たして実際はどうでしょうか。思い当たる部分も多いのではないのでしょうか。実はこのことで、それ以上の探求や観察が為されない為に本来、学べる内容まで入り込まずに終わってしまう等、大変残念な結果になることも多いものです。

これらの長年の習慣を打破して、物事の本質を見極めようとする誠実な心に私達自身を持って行くことが必要で、まずは出会う相手をまずは尊重することから始めるべきなのです。視覚から嗅覚までの感覚の反応こそ、注意深く戒めることが肝要です。

077 As I studied carefully the actions of these four senses, I realized that each one stands alone, contradicting and fighting with the others. Since each sense has a will of its own, it can, and does oppose the other three; and in so doing, it opposes the Cosmic Will. This condition will continue in man until he becomes a unified being; understanding himself in all his component parts.

077 私がこれら四つの感覚の行動を注意深く調べた結果、私はそれらが各々孤立しており、互いに反論し、言い争っていることがよく分かりました。感覚は各々自分の意思を持っておりますので、それは他の三つに対して反論できますし、そうしているのです。また、そうすることで、宇宙の意志に対抗しているのです。この状態は人が自分を構成する様々な部分の全ての中において自分自身を理解する一体となった存在にならない限り、続くことになるでしょう。

【解説】

"汝裁くな"とはイエスの言葉ですが、その真意は私達各人が各々自分の既存の四感覚の好き嫌いで世の中の物事を差別し、断定していることを戒めていたのです。私達の抱える問題の根幹はこの点に根ざしている訳で、日常的に自分の刻々の判断が何に由来しているかを観察し、問題を是正することが必要です。

そしてその為には何事をも受け入れる寛容さ、誠実さ、即ち信頼という姿勢が大事であると考えています。他人を疑うことのない幼子の素直さをベースに私達自身を再構築する必要がある訳で、その為には各感覚から順次、教育訓練して行く必要があるのです。

もちろん欺瞞と虚飾がはびこる実社会の中でこれを実践するのは容易ではありませんが、自身の実践を通じて少しでも他者に良い影響を及ぼすことが出来れば、それこそ惑星人が私達にこの真理を伝えた目的に沿うことになるのです。

078 Here are a few examples of how the senses disagree. First, let us use this fanciful situation. In a hall seating a thousand people, imagine we have sensitized the floor to the degree where an insect falling upon it would register a sound loud enough to be heard by all; and to implant this information strongly in the minds of those present, we have conducted a number of experiments demonstrating the sensitivity of the floor. So if, by the trick of using heavily padded soles, we have a man walk down the aisle without producing the sound of accompanying footsteps, the following imaginary conversation might take place between our eyes and ears.

Eyes: "I see a man walking down the aisle."

Ears: "Impossible! I hear no sound."

Eyes: "But I tell You he is there. He's about half way down."

Ears: "It's your imagination. We both know how sensitive this floor is. I'd hear anyone walking down the aisle."

078 ここで各感覚が如何に互いに意見が合わないかを示す若干の例を挙げましょう。この空想上の状況を採用しましょう。千人の人々が着席しているホールの中で、一匹の虫がその上に落ちて全員に聞こえるようなだけの大きな音が記録されるような位に床の感度を高めたとして、その情報を強くそれらの人々に植え付ける為に、私達はその床の感度を実証する数多くの実験を行って来ました。そこでもし、靴底に厚い当て物をするというトリックを使って、一人の男に足取りに伴って発生する音を出すことなく、通路を歩かせたとすると、私達の目と耳の間で以下の想像上の会話がなされるかも知れません。

目：「通路を歩く一人の男が見える。」

耳：「有り得ない！全く音がしていない。」

目：「しかし、言って置くが、その男はそこにいる。もう半分の所まで来ている。」

耳：「それはあなたの想像だ。私達二人共、如何にこの床の感度が高いか知っている。もし誰かがその通路を歩けば聞こえる筈だ。」

【解説】

本題とは少し離れてしましますが、現代、私達の抱える大きな問題の一つにバーチャル（仮想世界）の問題があると考えております。擬似体験と言ってしまうと済む段階から、社会の隅々にまで浸透し現実と仮想の一体化が進んでいるように思われます。

特に問題だと思ふのは、手に持つ小型のゲーム機で殺人や戦争ゲームに打ち込む若者が多いことです。これらはゲームの中で視覚・聴覚の上ではゲーム当事者は実際と同様な体験を得ることとなり、何人もの相手を倒し、破壊することで快感を得るという代物です。結局はゲームの世界に浸ることで自らも同様の体験を積むことになるのです。

これら体験はやがて本人の肉体細胞に記憶され、少しずつ人格を蝕むことになるのです。仮想ゲームの中での経験も現実世界の中にやがては影響を及ぼすことは避けられません。

こうした悪質なゲームによって青少年の精神性がどんどん蝕まれていることを危惧しています。当然、そうしたゲームによって彼らの精神性が粗雑で荒れたものになることは間違いないのです。こうしたゲーム産業は各感覚を融和・協調的なものとした私達とは真っ向から対立する勢力と言えるでしょう。

079 The eyes see the man, but the ears hear no sound; therefore, the sense of hearing accuses the sense of sight of giving false information. The man is there, however, but due to their lack of respect for one another, neither the eyes nor the ears will concede that they could be mistaken; so the argument between them cannot be satisfactorily settled.

079 両目はその男を見ているのですが、両耳には音が聞こえず、その為、聴覚は視覚に対し嘘の情報を出していると非難しています。しかし、男はそこに居ますし、感覚同士、互いの尊重が欠けている故に、目も耳も自分達が間違っているかも知れないということを認めようとはせず、その為、彼らの間の議論は満足に行く解決ができないのです。

【解説】

各々の感覚の中で意見が異なる場合、本人は方針が定まらず行動を停止してしまいます。どうしたら良いか判断出来ない為です。イエスはこれを"二心"という表現をしたのではないのでしょうか。突き詰めれば各自の内部における意見対立です。仏教で言う"迷い"も類似した表現ではないのでしょうか。

問題はどうしたら、これら感覚の意見対立を鎮め、互いの意見を尊重しながら、より高い位置から妥当な方向に進めることが出来るかです。それには先ずはこのような問題があることに気付き、異なる感覚の意見を調和させることですが、それには普段から感覚を訓練し、それ自身の裁きを抑制し、それら感覚の反応よりは、印象・想念を頼りとするよう訓練することが重要です。

人間の一生は意外に短く、心底学ぶ内容も多くないことに気付き、早くこれら基本的な問題を一人一人が理解し、少しでも問題解決に向けて努力することが必要です。

080 We will now reverse the procedure, and by remote control produce the sound of walking down the aisle. This time the eyes will accuse the ears of conjuring up an imaginary situation. Again, the argument will rage between the senses, each one sure it is right.

080 今度は手順を逆にして、遠隔制御を用いて通路を歩く際の音を出して見ましょう。今度は目が耳に対して魔法を使って想像上の状況を作り出したと非難することでしょう。再び感覚の間で各々自分が正しいと確信して議論が荒れ狂うのです。

【解説】

この事例の場合、視覚と聴覚各々が如何に自己主張し、主人である本人を支配しようとしているかを示すものとなっています。これら異なる意見に対しどのように対処すべきかという点も重要な所です。

その問題に対して先ずは各感覚の反応は各々良しとする一方、互いに争う点を改める必要があるように思います。即ち異なる意見は受け取りながらも私達はそれら感覚の反応とは別に、想念・印象に重きを置くべきで、先ずは各感覚が自己主張しないように制御することが必要です。

一般的に何かを断定してしまうとそれ以降の探求の進展は停止してしまいますし、変化する時代の中でそもそも一時的な状況を捉えて決め付けることは誤りである訳です。これについては仏陀がよく弟子達に説いていたように思います。即ち、万物は流転し、無常であるという点です。

私達が感覚を与えられたのは、自らの生活を守るため、危険を回避する為であり、本来は最低限度の働きに留め、それ以上の事柄は想念・印象を抛り所とした方が良いのだと思われれます。

081 Actually, both are right. The eyes did see the man, and the ears did hear the footsteps. If they had been properly coordinated or synchronized, the eyes would have told the ears what they saw, and in place of a flat contradiction, the ears would have accredited the report. When the ears heard the sound but the eyes did not see the man, the eyes, after scanning the hall carefully, would have admitted it was something they did not understand; yet have accepted the information given by the ears. In other words, instead of arrogantly accusing the other of telling an untruth, each would have conceded that they could have been mistaken.

081 実際には両者とも正しいのです。目はその男を見たのですし、耳はその足跡を聞きました。もし両者が適切に連携、或いは同調していたら、目は耳に対して自分達が見たものを伝えたでしょうし、単純な否認の代わりに耳はその報告を信頼に足ると評価したことでしょう。耳がその音を聞き、目がその男を見なかった場合でも、目はホールを注意深く見渡してそれが自分達が理解出来ない何かであることを認め、耳から伝えられた情報を受け入れたことでしょう。言い換えれば、他を嘘を言っていると横柄に非難する代わりに、各々は自分達が誤っているかも知れないことを認めるようになることです。

【解説】

本項をはじめとする一連の例示に関して、著者アダムスキー氏は何故、かくも大きな紙面を割いて各感覚の間の言い争いを述べたのかについて、私達は再度考えることも必要でしょう。実は私達の感覚の統制こそテレパシー訓練の第一歩であるからです。

私達は実際の他惑星人の姿について良く知るところではありません。唯一の知識は同乗記の一連の記述にあるだけです。しかし、その他惑星人の内側については、彼ら自身、あるいは他文明からの指導によって進化を遂げて来た結果、日常的にテレパシーによる交流が為されていることは間違いありません。

その他惑星人達がおそらく最初に取り組んだ課題は自らの感覚の統制、融合であったということでしょう。それ程に視覚から嗅覚までの感覚を互いに融和させ、フィーリングに対して検挙に受け入れる態勢づくりは重要であり、如何にして感覚を謙虚なものにして行くかが大事なのです。そういう意味で、各自、自らの四感覚の驕りを排除し、想念・印象に従う態勢づくりが必要となるのです。

082 これと同じ論争は他の2つの感覚の関係においても存在します。舌はある珍しいチーズの美味しい風味を味わうかも知れませんが、多くの場合、鼻はそれに伴う香りに憤慨し、その美味を賞味する喜びを妨げます。ですから互いの関係において四つの感覚は他に対して常に言い争い、反駁し、自律性を得ようとしていることはとても明らかなのです。

082 This same dissention exists in the relationship of the other two senses. The palate may savor the delicious flavor of certain rare cheeses; but in many cases, the nose is so outraged by the accompanying aroma that it interferes with the enjoyment of eating the delicacy. So it is very apparent that in their dealings with each other, the four senses are constantly bickering, contradicting, and trying to gain autonomy over the others.

【解説】

今、先日知人から薦められた中国古典思想の一つ「莊子」を読んでいます。その描く世界観はアダムスキー哲学のそれと親近感があり、興味深いものとなっています。結局、真理は一つである以上、真理を感じ取った者は皆、同様な心境になるものと思われま

す。しかし、ここで本講座のアダムスキー哲学が他と異なる点は、私達の心の実態を視覚から嗅覚までの四つの感覚との関係として捉えている点です。私達の素顔をこの四感覚との関連で延べている所が他と大きく異なる訳で、その極めて実際的な内容は他惑星社会から伝えられたことである筈です。

問題を抽象化して分かり難くするのではなく、身近な現象との関係で説き起こされている点において、古今東西の哲学に比較してアダムスキー哲学がより実践的なものとなっているのです。

私達は通常、四感覚に如何に拘束され、支配されているかを知り、本来の自主性を取り戻すことが必要です。それらの感覚とは別にフィーリングの感性を高めることが重要です。期せずして同様な状況を象徴するような絵柄として、Windows10の初期画面があります。暗い部屋に四つの窓から光が差していますが、これからの私達はこれら四つの窓からの限られた光に加えて、インスピレーションというもっと明るい光で自分の部屋を照らし、明るく生活する必要があるのです。

083 Now do you see why I say the senses war with one another? how uncoordinated they are and how they pass judgment on each other?

083 もう貴方は何故私が感覚達が互いに戦い、またそれらが如何に協調性に欠け、互いに裁きを下し合っていると言うのか、お分かりになるでしょう。

【解説】

もちろん実際の私達の毎日はずっと複雑で本項で述べられているような単純な感覚の反応のみで生きている訳ではありません。しかし、繰り返し著者が述べている感覚同士の争いについてはどのように考えるべきでしょうか。実はそれ程に私達にとって自分の感覚の反応志向の把握と統制が重要であることを著者は訴えているのです。

大変単純そうに見えますが、それが私達地球人の実態だということでしょう。その解消に向かって私達は自分自身の統制を進めなければなりませんし、その第一歩が四感覚を互いに融和させ、尊重させることだという訳です。

もし、これらの現状を自覚・認識出来れば私達は次のステップに移行することが出来るかも知れません。それ程、自己を統制することは大きな訓練であるのです。またその後あらゆるインスピレーションが拓け、拡がるフィーリングの世界はこれまで以上に輝く美しい世界を私達に見せて呉れることでしょう。

084 It is these four avenues that make up the mind of man today. They are the jailers holding him to the realm of the effective world; and until he can loosen their shackles by conquering them through self-control, man will remain a slave unto their whims. It is through our senses that we pass judgment on conditions, persons, nations; not understanding the oneness of all with Cosmic Cause.

084 今日の人間の心を作り上げているのはこれら四つの大通りです。それらは人間を結果の世界の領域に閉じ込めている看守であり、人が自制によってそれらを克服し、彼らの足かせを緩めるまでは、人は彼らの気まぐれの奴隷のままに続けることでしょう。宇宙の因とともに全てとの一体を理解することなく、状況や人物、国家に対して裁きを下しているのは私達の感覚を通じてなのです。

【解説】

よく考えればこれら四感覚は私達の行動を支配している一方、私達の生命の発露、即ち生存にとっては他の臓器とは異なり、あまり大きな役割を果たしていないことに気付きます。つまり、これら四感覚が失われても、その後の生命活動に致命的な影響は与えられないという程度のものなのです。

そういう意味でも私達はこれら既存の感覚による束縛を離れて、より直接的に生命活動を観察し、フィーリングを介して真相を究明する必要があります。想念・印象への感性を鋭敏にして、より深遠な真理を学ぶことが必要です。

日常の多くの時間がこれら四感覚の好みや拒絶の間で費やされている実態から離れて、より広くより本質に近づいた観察眼を持ちたいものです。

085 Thus, if we're to become a peaceful unit within ourselves, we must constantly guard against these wayward senses, and subdue their criticism and prejudices; for these are the greatest causes of divisions in the family of human relations. Our personal judgments divide brother against brother - nation against nation.

085 ですから、もし私達が私達自身の内側で平和的な単位となるのであれば、私達はこれらわがままな諸感覚に対して常に監視していなければなりませんし、それらの発する批判や偏見を抑制しなければなりません。何故なら、これらは人間社会に分断をもたらす最大の原因となるからです。私達の個人的な裁きは兄弟に対して兄弟を、国家に対して国家を分断させるからです。

【解説】

"敵は汝自身"という表現がありますが、各自、自分自身を常に監視し、問題を起こさないよう努めることは賢明だということです。そしてその実態は、本項に著者が記しているように、視覚から嗅覚までの四感を監視してより良い方向に統制することなのです。

私達は長年、これら四感覚の奴隷であり、それらの争いや横暴に支配されて来ましたが、これからはこれら感覚の限界を知り、その度量の狭さを自覚する必要があります。彼ら羽所詮、目に見える物質しか感じておらず、より精妙な生命の息吹を感じ取れません。

進化する私達には、これら四感覚の機能に加えて、これからはより高次のコミュニケーションツールを持つべきなのです。私達が本格的に自らの進路の指針と成すべきは、自身を絶えず通過している想念・印象、いわば想念波とすべきです。

086 When I realized this, I began to school myself by utilizing the law of patience. Even though at first my senses did not understand this law, I knew through discipline they would eventually obey. And by the very fact of acknowledging that they were subject to a higher law, they would in time understand the purpose behind each act; the Cause, (or Creator) behind effect. Therefore, my first step must be to coordinate my sense reactions to a unity with, and understanding of - Cause.

086 私はこのことを悟った時、私は自分を忍耐の法則を使って訓練し始めました。最初は私の感覚達はこの法則を理解しませんでした。私には鍛練によってそれらは遂には従うようになることが分かっていました。そしてそれらがより高次の法則に従うべきことを自覚した事実によって、それらはやがて各々の行為の背後にある目的や結果の背後にある因、(創造主)を理解するようになるのです。ですから、私の最初のステップは私の持つ感覚の反応を、因との一体と因の理解に向けて調和の取れたものにしなければなりません。

【解説】

究極の贅沢とも言える”美食”ですが、それも口から喉で飲み込むまでの話です。高品位の味わい(味覚)、見た目の美しさ(視覚)、香り(嗅覚)、それに食卓に流れる優雅な調べ(聴覚)等々、この上ないひと時も、食物が飲み込まれた後の行く末について、これら四感覚が知るところではありません。

しかし、どんなに上質な食物でも、その後の体内の処理が不適切であれば、やがては不快な身体状況になりますし、場合によっては生存そのものも保てなくなるのです。私達がこうして食事を楽しんだ後、正常に消化分解され、必要な栄養素が体内に行き渡る一方、不要となった老廃物である便を翌日には排出するまでの一連の働きが体内で規則正しく行われることで私達の日常は成り立っている訳です。

これらは私達の四感覚とは別のグループの働きであり、より高次の細胞達の働きなのです。私達はこれら高次の生命活動こそが私達の指導者であり、大事にしなければなりません。よく言う”ご自愛下さい”という表現は、各自これら上位の存在を尊び、愛せよと言うことを言っているのです。

087 To use the violin as an example: we all know the four strings of a violin must be tuned with delicate precision before the musician is able to bring forth the subtle harmonies that this instrument is capable of producing. The pitch of each string must harmonize perfectly with the other three. The four senses of man may be compared with the four strings of the violin; for he must attune these senses to work together as a unit in order to fulfill his true purpose in life. And, just as the violin can be used to play baser music, yet it can, under a master's hand, produce melodies to thrill the souls of men so the sense perceptions, turning from effect to Cosmic Cause, will extricate themselves from the mire of self-delusion. They will in this way break old thought-patterns and habits which express automatically through the senses. Carnal mind, being innately lazy, accepts the opinions our senses have formed through their contacts and experiences, never bothering to search for the true Cause behind all effect.

087 例としてバイオリンを用いることを考えましょう。私達は皆、バイオリンの4弦は演奏家がこの楽器が創りだせる精妙なハーモニーを生み出す為には事前に細心の精度で調律されなければならないことを知っています。各々の弦の調律は他の3弦と完全に調和されていなければなりません。人間の4つの感覚はバイオリンの4弦になぞらえるでしょう。何故なら人は人生における自分の真の目的を成就する為にはこれら感覚を一体となって共に働くよう調律しなければならないからです。そして、バイオリンが低レベルな音楽に用いられることができると同様に、巨匠の手の元では人の魂を震わせる程のメロディーを作り出すように、感覚の知覚が結果から宇宙の因に転向すれば、諸感覚は自己欺まんの泥沼から自身を解放することでしょう。諸感覚はこのようにして感覚を通じて自動的に表わして来た古い想念パターンや習慣を打ち壊すことでしょう。生まれながらに怠惰である肉欲の心は、全ての結果の背後にある真の因を求めようと煩わされることなく、自分の感覚が接触したり経験したりしたことを通じて各感覚が作り上げた意見を受け入れるのです。

【解説】

演奏者の身体と一体となって演奏される四弦のバイオリンは、古くから最も人体に近い楽器とされて来ました。そのバイオリンと人体の相関性について本項は解説すると共に、これら各弦を調律すること、宇宙の因に同期することが如何に大切かを述べています。

基本的に音楽は心の中に湧き起こる想念・印象をその波動的感情を音階として表現するものと理解していますが、その奏でられる音源を生じさせるのは、各弦であり、それらは本来の波動を再現しなければ曲を再現することは出来ません。各自、自らに与えられ託された役割を果たすことが求められている訳です。

またこれら四弦で生じた音も、それだけでは小さい音量でしかありません。バイオリン本体の共鳴構造が多くの人にまで届く音量を発揮する訳で、共鳴、即ち共感することが大きな力を生み出す増幅効果を発揮しているのです。私達も自ら得た印象に共鳴、共感することで、それらの効果を広げる役割を果たすことが出来るのです。

ご連絡 [2018-12-28]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

明日からは年末年始に入ります。

次回再会は年明け1月7日（月）になる見込みです。

この1年、有難うございました。

竹島 正

088

Thinking deeply about all this, I asked myself, "Suppose I had sight so great that I could see television pictures without the aid of a television set. Suppose my hearing was so keen I could hear the beautiful music traveling through space from station to station without using a mechanical device. Would not my sight and hearing be developed into the fourth dimension?" I then turned my attention to the senses of taste and smell. Suppose I were able to taste the apple before it matured; or detect the fragrance of the flower before it blossomed; would I not have the senses of a superhuman.

088 これら全てのことを深く考えた後、私は以下の事柄を自分に問いかけました。「テレビの助けを借りずにテレビ映像を見ることが出来る程の大いなる視覚を持っていたとしたら。」「私の聴覚があまりに鋭敏なので機械装置を用いることなく放送局から放送局の間の空間を伝わる美しい音楽を聞くことが出来たとしたら。私の視覚や聴覚は四次元の中にまで発達出来ないであろうか？」次いで、私は自分の注意を味覚と嗅覚に転じました。私がりんごが未だ熟する前にそのリンゴの味を味わうことが出来たとしたら、或いは花が咲く前にその花の香りを嗅ぐことが出来たとしたら、私は超人の感覚を持つことになりはしないかと。

【解説】

私達が想念・印象に親しくなり、それらへの共鳴が進むにつれて、私達の既存の四感覚も次第に進化を遂げ、感覚自体でもそれらの情報を解釈できるようになるということでしょう。

多くの能力者が未来を予言したり、芸術家がインスピレーションを得て、作品が生まれるのも実際にはこうした既存の感覚の進化と関連しているように思われます。

言葉や文字にならない想念・印象レベルの情報から、具体的なイメージを得る為にも私達の既存の四感覚自体を訓練し、大きな役割を果たすことが出来る訳です。このことから分かるように、私達の既存の四感覚は絶えず監視し、訓練を必要とする一方で、その精進の先には、大いなる成果が待っているということでしょう。

089 I received my answer direct. "All of these are your potential when the senses give up their individual will unto the Will of Feeling. For Feeling is the Cardinal Sense . . . the expression of Cosmic Cause flowing through your being."

089 自分の返事は直接受け取りました。「これらの全ては、諸感覚がそれら自身の意志をフィーリングの意志の前に捨て去る時に出現する貴方の可能性なのだ。何故ならフィーリングは基本的な感覚であり、貴方の存在を通じて流れる宇宙の因の表現であるからだ。」

【解説】

印象やインスピレーションに従うということは、どういうことを意味するのでしょうか。通常考えて見ても私達の心がそれ自身の意志で満ちている場合には、他の想念など入り込む余地はないと言えます。また、何事かに執着していても、或いは恐怖に怯えている状態も同様です。

このことを考える時、私達は自らの心の中を整理して、不要なものを取り去り、身軽になる他、常に心を穏やかにして、より深遠、高次の印象を招くよう心掛けることです。心の中を常に穏やかに保ち、湧き上がる宇宙的な想念・印象を大切に取り扱い扱う中で、私達の既存の感覚もやがてはそれに殉じる機能を発揮するようになるということでしょう。

090

I then knew that Feeling was truly the Master Builder who had formed this body of mine; and that it could build empires in the absence of the other four senses. From this conclusion, I saw that my mind was only reflecting and reacting according to my limited knowledge of life and its purpose.

090 そして私はフィーリングが実に私のこの身体を造った棟梁であること、またそれは他の四感が無い中で王国を造り上げることが出来ることを知りました。この得た結論から、私は自分の心は生命とその目的についての私の乏しい知識に応じて心が反映し反応しているに過ぎないことが分ったのです。

【解説】

私達は全く気付いていませんが、このフィーリングこそが身体各部の細胞を刺激し、またその他世の中のあらゆるものを生かし続ける原動力になっているのです。その中において私達の四感は大きな役割を持ってはいないという訳です。

このことを受けて私達はこのフィーリングについて自ら進んで学んで行くことが大切です。しかし、どのようにというのが大きな問題です。本来、誰もが容易に分かり合える想念・印象の衝動というものが、どのようなものであるかは、各自若干の経験から少しは理解出来るでしょう。

しかし、これを常時、感じ取るには相当の訓練が必要と思われれます。心を鎮めるだけでは十分でなく、努めて自らやってくる印象に聞き耳を立てる姿勢、傾聴の姿勢が必要です。。かすかに与えられる印象から、その中身を解釈することも必要です。こうしていくつかの体験を積む中で、各自、自分なりの姿勢を確立して行けることになるでしょう。このような手法は各自自分で作り上げる他ないと思われれます。しかし、その成果は次第に大きなものとなって各自に反映されるのです。

091

All of this has been verified by the space Brothers, for they have observed and evaluated these phases of human activity in relation to the Cosmos.

091 この全ては宇宙兄妹達によって事実であると確証されました。彼らは大宇宙との関係における人間活動のこれら側面を観察し評価して来たからです。

【解説】

私達が他惑星人から学ばなければならない最たるものは、このフィーリングについての理解です。現在の私達にとっては全く捉えどころのないフィーリング感性ですが、それこそが宇宙的生命の息吹、生命活動の原動力であることが、著者アダムスキー氏にも繰り返し伝えられたことでしょう。

また、同様のことは有史以来、繰り返し様々な先覚者達によって知覚され、人々に伝えられて来たことでしょう。精妙なるその生命の息吹は時代を超えて真理を追い求めて来た人々のゴールであったのです。

今日、私達は再びこの真理を前に、各自、自らの探究の道を前にしています。確かに目指す想念・印象の流れは、夜空を渡る流星のように、予測することは困難であり、一瞬の輝き（衝動的パルス）でしかありませんが、それらを受け止めることが出来れば、私達の人生は豊かなものになることは間違いありません。

092 But before my contact with the Brothers, as I sincerely endeavored to progress, I realized it was imperative to coordinate my senses to harmonize with, and fully understand - Cause. For this Cosmic Intelligence is back of, and permeates, all manifestation. I am aware of the fact that I have stressed this point more than once. But this subjection of the dissenting sense perceptions is a major factor in controlling the mental processes.

092 しかし、宇宙兄妹達とのコンタクトの前から、私は進歩に向けて誠実に努力して来たので、私は自分の感覚を因と調和し、完全に理解するよう統合させることが絶対に必要であると実感していました。何故なら宇宙の知性はあらゆる創造物の背後にあり、染み渡っているからです。私はこれまで一度ならず、この要点を強調して来たことは分っています。しかし、異議を唱える感覚の知覚反応を制圧することは心の作用過程を制御する上で主要な要素なのです。（訳注：原文では再終行But this subjectionからthe mental processes.までは太字体で印刷されています。）

【解説】

ここでのポイントは、著者アダムスキー氏は1952年11月20日に始まる他惑星人との会見のはるか以前から、本講座に記されているような精神修養に真剣に取り組んできたということです。そしてもう一つのポイントは"因"とも"宇宙的知性"とも称されるものは、あらゆる現出物（創造物）の中に染み渡っているということでしょう。

前者については、アダムスキー氏が若い頃、事業にも成功しかけた頃、夢の中にイエスが現れたことから、一大決心をしてこれまでの事業を捨てて、精神修養活動に専念するようになったのだとする話が伝えられています。

本来、事業（富）と宇宙的真理の探究と同胞への教示を両立することは困難であり、ましてはその後のアダムスキー氏の活動を見れば、宇宙的精神活動の方が遥かに価値のあることであったことが分かります。アダムスキー氏はその後、それまで以上に真理の探究に邁進して行ったことが本文からも伝わって来ます。

後者については、私達が目に見えない英知というものをどのように捉えるのかを考える上で大変有用です。身の回りの全てのものが、丁度電気を帯びるように英知に浸っているという訳です。つまり、私達の内外に十分な量の英知が行き渡っている訳で、あとはそれに気づき、活用するだけだという訳です。目に見えない知識の中に私達は暮らしているのです。

093 Fully realizing that my next step must be the disciplining of my senses and the observation of impressions received by my mind, I decided on a definite plan to follow, a sort of mental ledger. On one side I placed all thoughts received throughout the day that were of a personal nature; and on the other side I recorded the universal thoughts upon which I had acted. At the end of each day I would tally my score to decide whether limiting, personal opinions, or universal insight had governed the day.

093 そのことを完全に理解した後、私の次なるステップは私の諸感覚の鍛練と私の心によって感受された諸印象の観察である筈で、私はある種の精神面の取引記録という追うべき明確なプランを決めました。片方には一日を通じて個人的な性質であった想念の全てを置き、もう一方には私は私が行動した宇宙的な想念を記録しました。毎日の終わりに私は限界がある個人的な意見か、宇宙的な洞察がその日を支配したかを決着する為、得点を集計することとしました。

【解説】

要はどのようにして自分の四感を本来の姿に訓練して戻して行くかが、私達の次なる課題になります。これに対して著者アダムスキー氏は日常の心の動きを観察し、それを伝票のように整理し、1日の終わりに集計することを薦めています。いわゆる想念観察ノートと呼ばれるものです。

もちろん、この手法は著者の提案の一つであり、それで進められれば良いのですが、多忙な時間を送る現代の私達にとって、この方法が誰にでも当てはまる訳ではありません。大事なことは、自分の放つ、または感受する想念がどのようなものであるか、その実態を先ず掴むこと、現実に直面することが肝要です。この種の作業は他人に見られる訳でもなく、ご自身が正直に自分と対峙することが大切です。

もちろん、ご自身の現実を知った以上は、少しでもそれを本来の姿、あるべきレベルに戻すことが必要で、その努力はご自身で行う他ないのです。

094 This called for a great deal of patience; but I was finally able to train my senses to listen so they could receive impressions without question. Admittedly, this was most difficult to do, for the old thought-patterns insistently reappeared and gave their interpretations to my mind. But as I continue to gain control over my sense-mind, my impressions became more distinct; containing an increasing number of thoughts of a universal nature, with less involvement in personal opinions.

094 これは非常に多くの忍耐を要しましたが、私は最後は自分の諸感覚を疑義を差し挟むことなく印象を受け取れるよう耳を傾けられるように訓練することが出来ました。正直なところ、これを為すのは最も難しいことでした。何故なら古い想念のパターンがしつこく現れ、私の心に彼らの解釈を与えたからです。しかし、私が私の感覚心に対しコントロールを掛け続けた結果、私の受ける印象はより明白なものになり、個人的な意見についてはますます含まなくなる一方、宇宙的な性質の印象はますます数を増して来たのです。

【解説】

日々変化する中で、自分がどのように変貌しているかを把握することは難しいものです。しかし、前項のように自分が感受した想念の記録があれば、長年の進歩を明らかにすることも出来ることになりま

す。一方、これら記録よりも大事なことは、毎日を自分の心の動きをコントロールして生き、宇宙的な感性を高めて、従来の慢性的、世俗的な想念パターンへの指向性を捨て去ることです。

私達は刻々と変化する宇宙空間の中に生きており、それらと繋がっている存在です。そのことを理解した上で、絶えず天のお導きを信頼して、宇宙的な印象に従う姿勢を保つことです。

095 I then turned to analyzing what impressions were, and found many of them to be what we classify as thoughts; our conscious thoughts, as well as the commands our minds are constantly transmitting to the various parts of our bodies.

095 私は次に向きを変えて印象類が何であるかを分析することにしましたが、その結果、それらの多くが私達が分類上想念としているもの、私達の意識に浮ぶ想念類であるとともに、私達の心が私達の身体の様々な部分に絶えず発している指令であることが分かりました。

【解説】

まずは印象に気付くことから私達は始める必要があるという訳です。即ち、鈍感や無関心ということが最も避けるべきものです。印象類に多少なりとも鋭敏であれば、気付きの機会も増えて、向上の道に気付くことも出来るということでしょう。

しかし、この印象類の中にも様々なレベルがあり、私達の心による支配的なものも、創造主に源を置く上質なものもあるのです。そのどちらを志向するのかで、その後の影響も異なるというものです。

こうした中で、私達自身がどのような印象に気付いているかを調べることによって私達の段階も自ずと分かるものです。また、私達がこれらの印象に絶えず影響を受けていることも確かですし、自分の身体を常に上質の印象の通り道にすることが重要です。

096 For instance: you are reading. When you reach the bottom of the page you will turn it and continue to read. Yet, before your hand made the slightest move to turn the page, your mind first had to formulate the thought, "This is the end of the page. Turn it and continue reading the next."

096 例えば、貴方が本を読んでいるとします。貴方がそのページの最後に到達したら、貴方はページをめくり、次を読み続けるでしょう。しかし、貴方の手がページを返そうとわずかな動きをする前に、貴方の心は最初にその想念を形作る必要がありました。「ページの終わりだ。ページを返して次を読み続けよう」と。

【解説】

日常の何気ない行動も、それを実行するには私達の心が肉体各部に指示を出しているという訳です。氷上のフィギアスケートで優雅に飛翔を遂げる選手の姿など、如何にこの心の作用が円滑にかつ緻密に働いているかが分かります。私達の日常の行動は、これら詳細な指令がいわば自動的に発せられ、制御されている仕組みがあるのです。

もちろん、これらの仕組みが体内で構築されるには幼児期からの長い積み重ねがある訳で、これらの成果により、成人してからは特に意識せずに行えるようになるのです。

実はそれと同様のことが、想念・印象の感受の場合にも当てはまる筈です。この面については私達は未だほんの初心者に過ぎません。毎日の訓練によって、空間を横切る想念・印象を存分に感受し、日常生活に応用出来る段階になれば、私達の生活は飛躍的に向上することでしょう。

097 Normally, we are not aware of these thoughts; and we would indeed live in a slow-motion world if every action had to be expressed consciously in this manner. Yet no movement or action is possible without first having a blueprint drawn and an order given. The command for every physical move must first be a thought in the mind.

097 普通、私達はこれらの想念には気が付きません。また、もし一つ一つの行動が、このように意識的に表現されなければならないとしたら、私達は確かにスローモーションの世界に生きるようになってしまいます。しかし、最初に青写真があり、指令が与えられなければ、どんな行動も不可能です。あらゆる肉体の動きに対する指令は最初に心の中の想念でなければならないのです。

【解決】

私達の日常は本項に記されているように、半ば自動的に進んでいます。もちろん、そこに至るまでの道程には、私達自身の長い修練の期間があったのですが、今日ではそれらを意識することなく、円滑に進められる状況になっています。

しかし、その結果、私達の日常は習慣や惰性の産物と化しています。幼児の時代は歩く一歩でさえ、それが嬉しかったのですが、大人になってからは、それらの感激はありません。代わって諸事に煩わされ、横暴になった心の奴隷となっているのです。

私達はこれらの現状から何を学ぶべきでしょうか。その一つのキーは、絶え間ぬ向上心にあると考えています。進歩を止めた人間は退化、衰退の道を下るのみです。唯一、変わらぬ向上心のみがその者を進化させる原動力になります。

私達はこれまでこうした肉体を文字通り”生けるもの”として来た心と肉体の発達の段階から、次なる段階、即ち宇宙的想念・印象の感受と同期という分野で生長を遂げる必要があるのです。

098 As we mature, orders from the brain come automatically; but watch a baby learning to walk. His first attempts are made through the conscious effort of placing one foot before the other. Analyze your own movements. Say your hand has just reached up to brush a hair back from your forehead. You will find when you trace the action that you were first aware of a tickling feeling on the skin. If you analyze this action carefully enough, you will discover that the message telling of the tickling sensation was sent to the brain, which then gave the order to the hand to reach up and brush the hair away. Through habit, most actions become sense reactions; but our so-called sense reactions are intelligently controlled. The things we do now with no conscious thought, were major projects at one time in our development.

098 私達は成長するにつれ、脳からの指令は自動的に来るようになりますが、赤ん坊が歩くことを学ぶのを観察してご覧下さい。彼の最初の試みはもう一方の足の前に別の足を置こうとする意識的努力を通じて行われます。貴方自身の行為を分析して下さい。例えば貴方の手が貴方の額から後ろに髪を撫でようと今、手を伸ばしたとします。貴方がその行為を振り返る時、貴方は最初、頭皮にくすぐったい感じがしたことに気付くでしょう。もしこの行為を注意深く分析するなら、貴方はくすぐったい刺激を伝えるメッセージが脳に送られ、次に脳が手に手を伸ばして髪を後ろに撫でよう命じたことを発見することでしょう。習慣からほとんどの行為は感覚の反応になっています。しかし、私達のいわゆる感覚反応は知性的な制御を受けているのです。私達が今日、何ら意識的想念を持たずに行っている物事は私達の発達過程の中では一時期、主要な事業であった訳です。

【解説】

本項は人間あるいは生物の持つ可能性を示唆しているように思えます。つまり、自然界を見ても本項に記されている誕生直後の段階から生長する中で、どの生きものも驚くべきスピードで運動能力その他、生存の為の能力を身に付けているからです。

その結果、私達は自分自身も含めて自然界の中の生きものは皆、伸び伸び自分達の命の発現を謳歌しているのです。しかし、こうした能力は生きる上での最低レベルのものではないかと考えています。少なくとも私達地球人のレベルでは本講座のテレパシーについてもまだ未開発の状況であるからです。

この延長線上で考えれば、私達は幼子のように毎日、少しずつでも想念・印象の感受に精進し、自らの心の動きを監督すれば、遂にはこれらを意識することなく実現し、自由に活動することも出来るものと思えます。

099 This, of course, is but one level of impressions, yet one that is very important for man to understand; for it illustrates the dependency of all life upon thought, or intelligence. It is from this level of impressions that many carnal minds form their limited, opinionated, thought-patterns or habits.

099 このことはもちろん、印象の一つのレベルでしかありませんが、人にとっては全ての生命が想念、あるいは知性に依存していることを理解するという点で大変重要な所です。多くの肉欲の心がそれらの限界に満ちた、頑迷な想念パターン類、或いは習慣を作り出すのはこのレベルの印象類からなのです。

【解説】

ここでのポイントは想念あるいは印象というものが、知性の本源であることです。そしてその知性にもいくつかの段階があるということです。

私達の心はCarnal mind（肉体の心、肉欲の心）と称されますが、その由来は取り入れる知性（想念）のレベルに由来しているという訳です。私達が取り入れる想念のレベルに応じた人格に私達は同化して行くということでしょう。それ故にどのような想念を取り入れるかが重要であり、日常的にどのような精神状態に居ることがその人に大きな影響を及ぼすことになるのです。

100 In Nature, this urge for action comes directly from the Cosmic Cause of all creation. She does not arbitrarily try to grow a pine tree from an apple seed, but follows the archetype set down by the Creator. Therefore, the universe moves in orderly manifestation of creation and recreation.

100 自然においては、行動に対するこの衝動は全創造物の宇宙的因から直接やって来ます。自然は勝手にリンゴの種から松ノ木を育てようとはせず、創造主によってセットされた原型に従うのです。ですから、宇宙は創造と再創造の秩序ある現れの中で動いているのです。

【解説】

ここでのポイントは、私達が自分の身体に対してはその行動の指令のほとんどを心が指令し、それが半ば自動的に実行されるのと同様に、本来、宇宙の因も自動的に各自に行動を指示する状態になるということです。

もちろん、幼児の頃と同様に私達各自は宇宙の因による指示に対して最初は一步ずつゆっくりと実行に移す訳ですが、やがてはそれらを自動的に実行できるようになるのです。日々の練習、即ち精進を通じてこれら宇宙の因の指示に従ってスムーズに行えるようになるという訳です。

そして、その宇宙の因は各自の活躍の分野をしっかりと用意して呉れるということであり、それらがあいまって宇宙的な調和が保たれるのです。

101 We, too, are under this law. That is why we are driven by an inner urge to strive beyond our present limitations toward a higher understanding.

101 私達もまた、この法則の下にいます。それが私達が、より高次な理解に向かって自分達の現在の限界を越えようと努力するよう内なる衝動によって促される理由です。

【解説】

よく言われることは、作家は自分自身の考えやこれまでの作品には目も呉れずひたすら湧き起こる印象の表現者となろうとする時、優れた作品が生まれるという話があります。これは前項から続く宇宙的因に自身の進路を委ねる姿勢であり、宇宙的源泉に同化することで飛躍的な進化を遂げることを示唆しています。

このように宇宙的衝動は、飛躍の原動力ですが、それらと同期する為には、心の中を謙虚にし、無欲無我の状況にしておく必要があります。武士道にも同種の心境があるように思いますが、やがて宇宙深遠からの瞬時の印象スパークが来た際、それと一瞬たがわず同調する為には、私達は絶えずそれに備えておく必要があるというものです。

CHAPTER IV

Thought As Energy

102

This clearer understanding of the basic working of my mind, awakened me to the realization that impressions came through many different channels. It would now be necessary for me to study each one carefully to see whether it stemmed from a carnal origin, known as effect to effect, or if it were a truly Cosmic impression; coming from the Cosmic Cause to the pure Cause (or Force) within me.

第4章

エネルギーとしての想念

102 私の心の基本的な働きに関するこのより明確な理解は、私に印象類というものは様々に異なるチャンネルからやって来ることを悟らせることとなりました。私にとって、個々の印象を注意深く、それがいわゆる結果から結果として知られるように、肉欲に起原があるのか、或いは真実、宇宙の因から私の中にある純粹は因（或いはフォース）にやって来たものであるかを研究することが今や必要となるでしょう。

【解説】

問題はただやって来る印象を全て心に取り込むべきではないということです。実は想念・印象は様々な径路から来ており、それらの源泉を考慮しなければなりません。類は類を呼ぶという意味からすれば、私達自身と同種の者からの想念も多く受信しがちであることが分かります。

それ故に私達がどのような想念に同調しようとしているかを常時、監視し不適切なものを避ける必要があるのです。その上でより高次の想念・印象を志向することが重要になります。

多くの場合、やって来る印象は普段、私達が同調している類ですが、それでも中には光る宇宙的要素を帯びたものもあるでしょう。その時、それらを積極的に取り入れて、どのような新しいビジョンが生まれるかを良く学ぶことです。各想念・印象が帯びている雰囲気の中にその源泉の波動が残っているのかと思われます。

103 As we take up the subject of telepathy, or thought-transference, we must learn something of thought itself. To do this requires an understanding of the universe in which we live, for man is a product of Nature; and in his natural mental state, aligns himself with its laws either consciously or unconsciously.

103 私達がテレパシー、想念移動の課題を取り上げる際、私達は想念自体についての事柄を学ばなければなりません。これを為すためには、私達が住む宇宙についての理解が必要です。何故なら、人は大自然の産物であるからです。そして人は自然な精神状態において、意識的或いは無意識に自分自身をこの諸法則に従わせるのです。

【解説】

注目したいのは、想念や印象自体、宇宙的なものということです。つまりは宇宙空間こそその主たる活動の場であること、またそれに生命の息吹そのものを委ねている生き物すべても宇宙的ということですね。かつてイエスは「私はこの世のものではない」と語りましたが、それは肉体は地上の構成物から成っているものの、肝心の生命の本質は宇宙に属するということを述べたように思います。

従って、想念・印象を取り扱うテレパシー能力はとりもなおさず宇宙について学ぶことであり、宇宙と交流することにもなるのです。

私達の身体各部の活動も、これら宇宙的波動に同調同期して行われるということでしょうし、今度は私達の心の中もそのような状態に改質することが求められているのです。

104 To the best of man's knowledge, the universe is composed of three things: Intelligence . . . Force . . . Form. I have used the term intelligence here for lack of a better word. No language on earth possesses descriptive powers to define the true meaning of Cosmic Intelligence. We simply know that out of this Supreme Intelligence emerges all manifestation. Force and Form can be measured; one as an impulse, or energy; the other as a manifestation, or form. But the Creator of both, the Father principle in Christianity, is beyond the comprehension of mortal mind to understand.

104 人間の知る限り、宇宙は三つのものから成り立っています。知性、力、そして形です。私は知性という言葉了他により良い言葉が無い為に使って来ました。地球上の如何なる言語も宇宙英知の真の意味を定義できる表現力を持ってはいません。私達は単に、この至上なる知性から全ての創造物が出現したことを知っているだけです。力と形は計ることが出来ます。前者は衝動、或いはエネルギーとして、後者は現出した創造物、あるいは形としてです。しかし、両者の創造主であるキリスト教で言う父性原理は人間の心の理解を超えた存在なのです。

【解説】

既に私達は初等中等学校で整然と並ぶ原子の分類やそれらグループ間の特徴等を学んでいます。また、空を飛ぶ飛行機や快走する自動車を動かしているエンジンの機構は燃料の爆発的な燃焼がもたらすエネルギーであることを知っています。

このように私達の周りにはエネルギー ("力") と物質 ("形あるもの") が私達の日常を支えています。

しかし、本項は更にそれらの原動力となる宇宙的知性について、私達がこれまで如何に関心を払って来なかったかを指摘しています。実際、上記の2つの要素 (力と形あるもの) については日常の観察で多少の把握は出来ていても、"宇宙的知性"についてはまだほとんど理解出来てはいないのです。本項末尾に記されているようにその理解なくしては正しい宇宙観を得ることは出来ないことも確かです。私達はこの宇宙的知性について更に深く探求する必要があるのです。

105 Of universal force we know little except that it has two fields of action; attraction and repulsion. These are transformed into energy, which pervades all substance, or form. We recognize force only by the effect of its actions, which in mechanical fields is known as energy; and in psychological studies as thought, emotion, etc.

105 私達は宇宙の力について、只、それが引力と斥力という二つの行動の場を持っているということ以外、ほとんど知ってはおりません。これらの場はエネルギーに変換され、全ての物質、或いは形に行き渡っています。私達は力をその行動の結果から認識するだけであり、その力は機械分野ではエネルギーとして、心理学の研究においては想念や衝動等として知られています。

【解説】

本項に関して私達が良く知ることは、磁石の持つ力（ちから）についてでしょう。子供の頃、手に持つ磁石がN極とS極により相互に作用は異なり、互いに反発する場合と引き合う場合とがあることを体験した筈です。またこれら磁石の相互作用がモーターの動作原理であり、今日の文明を支えていることも分かります。

しかし、私達自身それらの「力」の由来について良く知るところではありません。不可思議な力が磁石相互に作用している訳で、それが証拠にどんな協力な磁石でも磁気を感じないものには何らの作用もなりのです。

また、静電気にしても同様で、私達を取り囲むこれら力の源泉については依然として神秘のままとなっています。そうした中で、これらのエネルギーを想念や衝動と同類だと見ることは画期的であり、深遠な意味を持っているのです。

106 It is this force that brings into existence, and activates, the atoms of form. But form in this sense is not confined to visible manifestation alone; for the same atoms which make up solid substance, also make up the elements of space. To our present knowledge, there are some hundred odd elements; out of which innumerable compounds and compositions are created. We are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Each manifestation we see about us is the effect of chemical action and reaction. Light, heat, sound, growth and disintegration, are all chemical actions. And believe it or not . . . thought is also a chemical action!

106 形有るものの原子達をこの世に存在させ、活性化させているのはこの力なのです。しかし、この形有るものという意味は目に見える創造物だけに限定されてはいません。何故なら、硬い物質を造り上げる同じ原子達が、宇宙の諸要素を造り上げているからです。私達の現在の知識では、百余りの元素がありますが、その中から無数の化合物と複合物が造り出されています。私達は正しく化学的宇宙と言うべき中で暮らしているのです。即ち、知性の中から生まれ、力によって永続されているのです。私達が目にする個々の創造物は化学的活動と反応の結果です。光、熱、音、生長や分解は全て化学的反応です。そして信じないかも知れませんが、想念もまた、化学反応なのです。

【解説】

私達はこの力についてその出所は未だ理解出来ておりません。しかし、全ての活動はこの”力”によって生み出されていると本項は断言しているのです。あらゆる原子達が各々の果たすべき役割を知っており、条件が満たされれば、所定の行動を遂行するということでしょう。

これら全ての要素が整然と宇宙の法則に則って遂行されるが故に宇宙の秩序が保たれているという訳です。

また、これら化学反応は想念や印象にも関わっているという訳です。言い替えれば記憶や感情も化学物質或いは化学反応の所産とも言えるでしょう。これについてはドーパミンその他、人間の感情に關与する物質も知られており、精神科医の治療薬等もこの類のものと思われます。

このようにあらゆる原子群が一つの知性の下で整然と行動する様の典型は私達人体にあるように思います。60兆の細胞が連携連帯して一つの生命体を維持する訳で、調和と強調が少しでも欠ければ成り立たない世界であることは言うまでもありません。そうした中、独り監理を任されている私達各人は自らの心身を健康に保ち貢献することが求められています。自らの心身の状況を整え、より高次の貢献活動に従事することが各自の使命であるからです。

107 We cannot explain Primal Creation from the effects we see about us, neither can we explain the creation of thought except as an activity brought about by the law of affinity. We do not know what causes certain attracting and repelling actions. We must simply accept the fact that such a law exists, and that it does command the combination of chemicals to create a form of energy. It is an aggressive force which radiates in all directions, causing pressure upon the surrounding force-space, thereby creating waves in that element.

107 私達は、私達の周りで目にする諸結果から、原始の創造を説明することは出来ません。想念の創造を親和の法則によってもたらされる活動という以外に言い表わすことは出来ません。私達はある種の引力と斥力が何によってもたらされるのか知りません。私達は単純に、このような法則が存在し、それがエネルギーの形を造り出す為、化学物質の組み合わせを命じているという事実を受け入れなければなりません。それはあらゆる方向に放射する積極的な力であり、周囲の力の空間に対し、圧力を生じさせ、それによってその要素に波を作り上げるのです。

【解説】

如何に科学が発達し、自然界の観察を通じて創造のメカニズムを探究したとしても、私達が自然界で行われている創造の活動の全てを理解することは出来ません。次から次に不可思議なことが潜在しており、所詮、私達は与えられた環境の下、創造主の恵みを受取る立場に変わりはありません。

同様に、私達の発する想念・印象についても、その実態についても良く分かっていません。しかし、私達は日常的にそれらの中に暮らし、想念の海の中に生きているという訳です。

これら全ては分からない中でも私達は最高位の創造物として創造主の意図を探究し、その意図に沿った生き方をすべきことは確かです。

身の回りには、様々な創造の活動が日夜生じており、その中に何を見るのかは各人に掛かっています。精妙な知性を感受出来れば、その者はその印象と同期同調でき、自身の心身を精華の途に導けるのに対し、それらに気付かなければ、それらの機会を無為に捨て去っていることとなります。無関心が最も避けるべき要素であることがこのことから分かります。

108 All thought registers as a vibration, in space. When thought is given to audible expression it create a pitch, or frequency, relative to itself. This same law applies to silent thoughts, for they, too, have a definite vibratory rate which registers upon the sensitive plate of space.

108 あらゆる想念は宇宙の中では振動として記録されます。想念が耳に聞こえる表現として与えられる時には、それはそれ自身に比例した音の高低即ち周波数を造り上げます。これと同じ法則が無言なる諸想念にも適用されます。それらもまた、宇宙の感光板に登録される明確なる振動率を有しているからです。

【解説】

本項では想念・印象が波動（振動）であることが明言されています。私達がそれら想念・印象に同期同調出来るのも、それらが波動であることに起因しているということでしょう。

丁度、各家庭のテレビアンテナが送られて来るテレビ電波の波長に合わせて作られているのと同様に、私達の想念感受もそれと同様に望む想念・印象に合致したものに調整して置く必要もある訳です。

また、これら波長が一定であったとしても、実際の電波には様々な変調の仕組みが組み込まれており、テレビ番組と同様、様々な内容が送信可能ということでしょう。

私達各自は高性能のアンテナを持てば、より明確なビジョンを得ることが出来る訳ですが、それまでは先ずは宇宙源泉の高次な印象を普段から感受出来るよう、工夫調整することから始める必要があるということでしょう。

109 Thought is not sent out in one straight line as a bullet travels from the barrel of a gun. It goes out in billions of straight lines in all directions. We may imagine a thought as a spark of light, with radiations extending as an equal force in all directions; giving the impression of a sphere at any point of its expansion. And like light, a thought vibration once created, will extend indefinitely unless intercepted by some object capable of absorbing and dissipating that particular ray of energy.

109 想念は鉄砲の銃身から打ち出される弾丸のように一本の直線として送りだされるのではありません。想念はあらゆる方向に向けた何十億の直線のように外に出て行くのです。私達は光のスパークのように拡大する過程のどの地点でも球体に見えるような、あらゆる方向に等しい力を広げながら拡大するものとして想念を想像しても良いかと思えます。そして光のように、一旦造り出された想念波動は、そのエネルギー線を吸収し、消失することが出来る物体によって遮られない限り、無限に拡がって行くのです。

【解説】

本項では想念がスパーク光のように周囲に拡散して伝播される様子を私達に説いています。本人としては何らかの対象を思って放出した想念も、実際にはその者の周囲に万遍に放出されているのです。

また、これら想念が宇宙くまなく進行して行くことも重要です。波動である想念はやがては反射してその発信源に戻って来る訳で、当然ながらその発信源にはそれら戻りの想念波が集中し、その作用は大きなものになってしまうことでしょう。良き想念は発信者に最も良い影響を与えるとも言えますし、また逆も同様です。

私達は自分の中のこれら想念の生成、放出機構について詳しく知るところではありませんが、想念・印象の持つ作用については、十分に学び取る必要があります。丁度、自動車の駆動メカニズムは知らなくても、当面、運転には困らないのと同様です。より重要なのは、与えられた自動車を安全に運転することであり、想念についても先ずはその取扱に十分注意し、与えられた環境を有り難く享受することが重要となります。

110 The question will now arise; if thought is merely a ray of energy produced by chemical action, what is mind?

110 そこで質問が上がるでしょう。もし、想念が化学反応によって造り出された単なるエネルギーの光線だとすれば、心は何であるかと。

【解説】

本講座を通じて私達は自らの想念や心というものの正体を突き止めることが求められています。その探求の途の手助けとして、要所要所で著者は私達に考える為のヒントを授けているのです。

重要な点は各自、自らの心と想念の働きについて調べることです。自らを実験台として毎日、それらがどのように作用しているかを観察し、実態を把握することです。従来座禅その他の修行もまた、こうした一連の訓練の意義を持つものと思われまます。

その上で、本講座を読み進み、著者が与えるヒントや解答と比較して、理解を深めることです。ただ、書物に記されている事柄を覚えるだけでは、その持つ意義は十分に理解することは出来ません。ご自身の探求の結果、得た答えと著者が示す答えが一致して初めて納得が得られ、不動の知識となるのです。真理は各自で立証される必要があるのです。

111 Mind is the medium by which thought is carried from one point to another. Common reasoning tells us that it is impossible for any vehicle, whether it be of vibration or matter, to travel from place to place without a medium of transference. Science, in its study of electrical energy, and light and sound waves, acknowledges various agencies of transference. The medium of light transmission they have named ether. While admitting they do not know the character of ether, science is sure of its existence and certain of the fact that it is diffused throughout all substance; that it pervades all space, and is capable of handing on undulations of various types from one point to another. Yet the only proof they have of the reality of ether, is the effect produced.

111 心は想念が一点から他の地点に運ばれる媒体なのです。一般的な推論では、振動であれ物質であれ、どんな乗り物も移動の媒体が無ければ、ある場所から別の場所に移動することは不可能だとしています。電気エネルギーや光、音波を研究する科学は、様々な移動媒体の存在を認めています。光の伝達の媒体を、彼らはエーテルと名付けました。エーテルの性質を知らないことを認める一方で、科学はその存在とそれが全ての物質に拡散浸透している事実については確信しています。即ち、それが全宇宙に行き渡り、一点から他の地点に向かう様々なタイプの波動を取扱うことができるということです。しかも、彼らが手にしているエーテルの事実に関する唯一の証拠は作り出された結果に過ぎません。

【解説】

先ず最初に、私達の心は想念を運ぶ媒体であると著者は私達に説いています。波動が伝播される為には、そのエネルギーを伝える媒体が必要で、湖面を伝わるさざ波も静かな水面があるが故に遠方まで伝わる訳です。

そういう意味では、"心"なるものが広く物質全体に浸透し、想念・印象の波動を万遍なく伝える機能をも果たしていることとなります。つまり、私達の心はこうした万物に浸み込むような性質を持っていると示唆されているのです。

こうした中で、私達は同時に自らの心をより精妙な想念・印象に対しても伝播させられるような鋭敏さを持つ必要があります。何よりも高次の想念・印象を積極的に周囲に伝えなければならないからです。

また、一方で本項で著者は光の伝播についても詳しく解説しています。遠い宇宙空間から地球に光が届く為には、本来、何物かがある訳ですが、昔の人々がエーテルと称していた空間媒体についても、正直その内容は不明確です。しかしながら、一方では毎晩、星々を見ることが出来る訳で、仮説は横に置いて私達はその事実をベースに探求する必要があるのです。

112 In like manner, because we have abundant proof of the transmission of thought from a distance, we must admit a universal medium for thought transmittance. We cannot define the characteristics or composition of mind, we only know from effect that, like ether, mind permeates all space and all substance; and that it is capable of passing through itself those thought-waves which are so much finer than the vibrations of light. Whatever mind is, it must be composed of highly charged particles; and, except for fineness of character, be much like the more concentrated substance composing material forms. For only by means of a relay, can energy be carried from place to place.

112 これと同様に、私達も遠方からの想念の伝達に関する豊富な証拠を持っておりまして、私達は想念伝達に対して宇宙に広がる媒体の存在を認めなければなりません。私達は心の諸性質や構成を定義することは出来ず、只、エーテルのように心が全ての宇宙空間と物質に浸透していることを知っているのみです。また、それが光の振動よりもはるかに微細なそれら想念波動をそれ自身を通して通過させられることもです。心が何物であれ、それは高電位に荷電した粒子群から構成されているに違いありません。そして、それが繊細な性格であることを除けば、物体を構成するより濃密化した物質に近いに違いありません。何故なら、リレーの手法によってのみ、エネルギーは場所から場所に運ばれ得るからです。

【解説】

同乗記の中で、母船内でアダムスキー氏と他惑星人との会話の最中、他惑星人がごく普通に相手に湧き起こる想念を相手と同時に感受する様子が度々記されています。実はそれ程に他惑星人はテレパシーの達人なのですが、それも本項に記されているように心の拡散に関連しているものと思われます。

よく"心が広い"という表現をしますが、想念・印象を受信する心が自らの身体内にのみ留まって居れば、相手に関心もなく自分と関係のない想念波動を感受することはありません。空間的にも自らの領域を超えて周囲に広がっているからこそ自分以外の者が発する想念を瞬時に感受出来るということでしょう。

古来より"オーラ"等の表現として、これら精妙なる荷電粒子体の存在が伝えられて来ましたが、実際にはそれらは心の状態を表すものであるかも知れません。

いずれにしても、私達は自らの心を拡張させ、周囲のものと同化し、それらと交流する努力をすべきでしょう。生物、無生物を問わず印象を交換することです。

113 To demonstrate this relay, let us set up a row of dominos on a table, leaving a space between each one two-thirds the length of a domino. Now, using our finger to exert a slight pressure we energize, or propel into action, the first domino, which falls forward striking the second; thereby imparting its acquired energy to that domino. The second, as it falls, imparts its energy to the third, and so on until the last domino strikes the table; their total energy now having been transformed into sound and heat. The initial action here was produced by the forceful contact of two objects, our finger and the first domino, then conferred to the other objects by a system of relays.

113 このリレーを明らかにする為に、テーブルの上にドミノを一行に並べましょう。各々ドミノの高さの3分の2の距離を残して並べるのです。そして、私達の指を使って最初のドミノにわずかな圧力を加えるか、動かそうとします。するとそれは前に倒れて二番目に当たります。そうすることで次のドミノに獲得したエネルギーを伝えます。二番目のものは倒れることでそのエネルギーを三番目に伝え、最後のドミノがテーブルを叩くまで続きます。それらの全体のエネルギーは今や、音と熱に形を変えられたのです。その最初の行動はここでは、私達の指と最初のドミノという二つの物体の力強い接触によって作られ、その後リレーの体系によって他の対象物に与えられたのです。

【解説】

本項でドミノの例から著者が示しているように、どんなに離れていても、私達の抱く想念は確実に伝わる事が分かります。距離に関係なく私達の放つ意思や抱く印象は、発した源そのままに各地に再現され、伝播して行くのです。

このことは私達の放つ想念が、そのまま創造主にも伝達されることでもあり、大変に畏れ多いことでもあります。かつて日本には言霊（ことだま）という概念があり、人の放つ言葉は実現力があるとされてきました。言い替えれば、言葉を放つ前の想念の段階で同様の効果・営業があるとも言えるのです。

また、ドミノの場合には、倒れたドミノは起き上がることはありませんが、自然界の波では、媒体は再び元の状態になり、次なる波を伝えることとなります。想念の場合も同様にやがては発した本人に向かって想念が戻ってくることも考えられ、今度は発信者に向けて集中してやって来ることが想定されます。自らの発した影響力ある想念が今度は自分に大きな作用をもたらす訳です。良質な想念を常に発することが周囲のみならず、自分にも良い影響を与え続けることが良く分かるというものです。

114

This is the way thought is transferred from one point to another. A thought-ray of energy, which is nothing more than a charged particle created by the contact of two or more units (remember, thought is a chemical action), is shot out imparting its energy to other particles by exerting pressure upon them. This continues indefinitely, or until this force once generated, is picked up by some instrument capable of changing its character. Energy of any type cannot be destroyed; it can only be transformed from one form to another. Thought, being a type of energy, will travel through space until it is put to some use.

114 これが想念が一地点から他の地点に移送される方法です。二つ或いはそれ以上の単位の接触によって造り出された荷電粒子以外の何物でもない想念のエネルギー線（想念は化学的作用であることを覚えておいて下さい）は、外に向かって発射され、そのエネルギーを他の粒子に圧力を加えることによって伝えます。これは、この一度生成された力が何かその性質を変えることが出来る何らかの装置によって取り上げられるまでは、無期限に続きます。如何なるタイプのエネルギーも破壊されることはなく、一点から他点に移送されるのみです。一つのエネルギーである想念はそれが何かに利用されるまでは、宇宙を旅するのです。

【解説】

このように私達の発する想念は瞬時に限りなく伝播され、距離に関係なく伝達されるという訳です。問題はこれら想念は効力を存続させ、それと同調する者に影響力を発揮するという事です。

宇宙の創造主も私達とそのスケールや威力は異なるものの、同様の原理を用いて万物の創造にあたったに違いありません。これら想念伝達の原理は万物創造の原理とも言えることでしょう。

各人の思いがやがて諸々の側面で実現して行くことの意義について、強調しすぎるということはありません。人々の暮らしの安寧を願う気持ちは高次のレベルと言えるでしょう。

これら各自の発する想念の響きについては、夏の夕方、山の林に響く無数の蝉の声を思い出します。無数の蝉が一斉に鳴き、大合唱になるその様は、こうした人々の思いを音として表現しているように思うのです。蝉の身体はそのほとんどが鳴く為の器官になっています。あの小さい身体で驚く程の声を出すのは、精一杯の鳴き声（想念）を出していることに他なりません。その成虫の短い期間の間、大宇宙に想念を発することに全てを懸けているように思えたことを思い出しました。

115 From this we can see that there is no center to the universe; no Throne from which all knowledge is broadcast. Each action is the center of the universe unto itself; for radiations going out from it travel in all directions, and fill space. Since everything, both tangible and intangible (in this case we are speaking of thought), comes out of the one Cosmic Cause, we can safely assume that there is no action that is not universal.

115 ここから私達は宇宙には中心が無いこと、全ての知識が放射されるような王座は無いことが分かります。行動の一つ一つがそれ自身に対する宇宙における中心なのです。何故ならそれから発せられる放射物はあらゆる方向に向かって旅し、そして宇宙を満たすからです。触れられるものと触れられないもの（この場合、想念について述べているのですが）を含めて、すべてが一つの宇宙的因から発せられている故に、私達は宇宙的でない行為は存在しないと思って差し支えはありません。

【解説】

確かに宇宙の形態上は、私達の暮らす惑星群はそれぞれ中心となる太陽を戴き、その周囲をいわば子供として周回しています。それ故に各惑星に住むそれぞれの人々を互いに兄弟達と呼ぶのです。これを古来の人々は太陽神や天照大神として中心なる太陽をあがめて来た訳です。

しかし精神面については、本項に示されているように、宇宙には中心という概念がないのです。私達各自が想念の発信者即ち、他への影響を与える存在として、宇宙の中心としての役割と責任を有しているのです。

このことを認識すれば、私達は自身の責任の大きさに畏れるほかありません。日常、心に湧き起こる想念が自分自身のみならず、多くの他者にも同時に影響を与えているからです。それ故、各自が自身を修める（修身）ことこそ人間として務めるべき基本であると教えられるのです。

116 Let us turn to the story of Creation for conformation. Careful reading of the first chapter of Genesis (or the first creation), tells us that creation was without form, meaning it was then only a thought forming in Divine Mind. In this chapter we find every detail scrupulously planned: the grasses, herbs, and trees yielding fruit; the waters bringing forth abundantly the moving creatures that hath life, and the fowl that may fly; the living creatures after his kind, cattle, and creeping thing and beasts of the earth after his kind. . . . Then God said, let us make man in our image, after our likeness.

116 創造の構造を理解する為、創造の物語に目を向けましょう。創世記の最初の章（或いは原初の創造の部分）を注意深く読むと、創造は形が無かったことが分かりますし、このことはそれは神聖なる心の中に作り上げられた一つの想念でしか無かったことを意味します。この章で、私達はあらゆる細部が綿密に計画されていたことを見い出します。草や草木、果実をもたらす木々、命を持つ多くの動く生き物をあり余るほどもたらす水、空を飛ぶ鳥等、それぞれの生きるものたち、家畜や地を這うもの達、地上のそれぞれの獣達です。それから、神は言ったのです、人を私達のイメージに、私達に似せて造ろうと。

【解説】

本項では私達の精神空間で生じる内容は、創世記に記されている万物創造の物語と実は全く同じであると説かれています。宇宙の諸々の創造物が生まれる為に最初に創造主の想念があり、そこから万物創造が始まったという訳です。

言い替えれば、全く同じ内容が日々私達が接している精神空間でも起こっている訳で、私達は自らの想念の持つ力に注目すべきです。自らの発する想念をチェックして妥当なものであるかを監視する必要があります。

もちろん、良質な想念は大切に記憶し、保護し、育成しなければなりません。私達が為し得る事柄の最も基本となるのは、この高潔な想念を維持することです。各自の想念は自分自身に最も影響があることはもちろんですが、他にも影響をもたらす力を有していることを忘れてはなりません。

ご連絡 [2019-02-18]

いつもご覧いただき有難うございます。
都合により、明日から木曜日まで更新をお休みします。

2月18日
竹島正

117 In the second chapter of Genesis (or the second creation), we are told how the mists went up from the earth and watered the whole face of the ground, causing the seeds to grow; how out of the ground the Lord God formed every beast of the field and every fowl of the air, and how the Lord God formed man of the dust of the ground, and breathed into his nostrils the breath of life; and man became a living soul. So the Creator, following the patterns that had been formed and pronounced "good," from formless void, brought into manifestation, heaven and earth and all life thereon.

117 創世記の第2章（または第2の創造）において、私達は如何にして霧が地表から上昇して全ての地表を潤し、種を発芽させ、その地面から主なる神が野原のあらゆる獣と空のあらゆる鳥を造り上げ、そして主なる神が如何にして地の塵で人を造り、その鼻の穴に生命の息を吹き入れられ、人は生きる魂となったと伝えられています。ですから、創造主は造られ、「良し」と宣言されたパターンに従って、形の無い空間から天と地とそれらの上の全ての生き物を創出したのです。

【解説】

以前、砂漠に何年かに1度の雨が降ると、一挙にあたりが一面のお花畑になるというテレビ番組を見たことがあります。水の少ない不毛の大地に一度雨が降ると、砂の中でじっとしていた種が一斉に発芽し、急いで莖を伸ばし、花を咲かせるのです。

こうした光景は植物の生命力の持つ潜在能力の大きさと同時に、万物創造の息吹を思い起こさせるものとなっています。

本項は創世記を記すものですが、著者はその物語がはるか昔に起こったものだけでなく、現代にも私達の目の前で起こっていることを示唆しているように思えてなりません。人の誕生、生きもの達の成長は皆、これら創造の過程を今もなお通ってこの世界に生まれ出ていると思うからです。

以前、砂漠に何年かに1度の雨が降ると、一挙にあたりが一面のお花畑になるというテレビ番組を見たことがあります。水の少ない不毛の大地に一度雨が降ると、砂の中でじっとしていた種が一斉に発芽し、急いで莖を伸ばし、花を咲かせるのです。

こうした光景は植物の生命力の持つ潜在能力の大きさと同時に、万物創造の息吹を思い起こさせるものとなっています。

本項は創世記を記すものですが、著者はその物語がはるか昔に起こったものだけでなく、現代にも私達の目の前で起こっていることを示唆しているように思えてなりません。人の誕生、生きもの達の成長は皆、これら創造の過程を今もなお通ってこの世界に生まれ出ていると思うからです。

118 This story of creation is not confined to our small planet, as we have been led to believe, but encompasses the entire Cosmos. All creation, from the firmament or sky (ether), through the varying states of density to minerals, was first a thought followed by the forming of matter (atoms) to produce the effect. Matter in this sense is not restricted to tangible manifestation, but refers to the Mother principle in creation. From the Father principle, or Creator, and the Mother principle composed of force, or matter, comes the Son, or all manifestation.

118 この創造の物語は、私達がこれまで信じさせられていたように、私達の小さな惑星に限定されるものではなく、全宇宙を包含するものです。天空あるいは大空（エーテル）から、様々な密度状態を通じて鉱物に至る全ての創造物は最初、想念であり、その後に結果を作る為の物質（原子群）の形成が続きました。この場合、物質は手に触れられる創造に限らず、創造の母性原理をも示唆しています。創造主すなわち父性原理、そして力或いは物質からなる母性原理とから、その息子即ち全創造物が生まれます。

【解説】

"満天の星"という表現がありますが、宇宙には文字通り無数の世界が広がっています。その星一つ一つが私達の太陽系である訳で、宇宙は驚くべき数の惑星で満たされていることが分かります。"Many Mansions (多くの館)"とありますが、その数は莫大です。

また、宇宙空間は創造の場でもあります。アダムスキー氏は同乗記の中で暗黒の宇宙空間で起こっている諸活動、例えば"宇宙ホテル"とも称された無数の光体活動その他を目撃しています。それらは外宇宙が単に、空間 (void) でなく、様々な物質が存在し、活発な活動が起こっている創造の揺りかごであることを伝えています。

本項で記されていることは、これらは共通した創造主の意思（想念）に基づく活動であり、私達各人はその成果物であり、息子であることです。イエスが度々、"父"と表現した由来はこのことにあるのです。

119 From this I now understood that Man is a thought in action! The original prototype was projected from Cosmic Intelligence; hence, Man is but an avenue through which Divine Thought expresses.

119 これにより、私は人は活動する想念であることを理解しました。最初の原型は宇宙の英知から投影されたのであり、それゆえ、人は聖なる想念が表現する大通りでしかないのです。

【解説】

人間には他の動物とは違う役割が設定されていることは、創世記の伝えるところです。その内容はくしくも今日私達が"クリエイター (creator、作家) と呼ぶような一連の芸術家を示すように、それまで無かった分野を新たに物事を造り出す作家に類似しています。自らひらめいたアイデアを具体化する人達です。

このような性質は元来の創造主の特質であることから、新しい分野にチャレンジし、新境地を開拓する者に老化という要素はありません。常に若々しく活気を備えている特徴があります。それは即ち、宇宙本来の流れに従っていることであり、私達の身体を通じて創造の力が発現されていることに他なりません。本項で言う"活動する想念"という表現が、そのことを言い得ているのです。

120 This may seem startling to some at first, but remember all creation is Divine Thought in action. Therefore man, with his reasoning mind, "given dominion over all the earth," possesses unlimited potential. Owing his very existence to this Cosmic Intelligence (or God), man instinctively feels a kinship with all life. And, the evolution, or refinement, of his thinking is the path by which the Prodigal Son eventually returns to the house of the Father.

120 このことは人によっては最初驚くべきことのように思えるでしょうが、全ての創造は聖なる想念が行動したものであることを忘れないで下さい。それゆえ、人は理性ある心を持ち、「全地上の支配権を与えられ」、無限の可能性を持つのです。この宇宙英知（神）への自身の存在に起因して、人は本能的に全ての生命に親近感を感じます。そして人の考えの進化や洗練は放蕩息子が遂には父の家に帰る道程でもあるのです。

【解説】

本項で大事だと思うポイントは、”全ての生命への親近感”であろうと考えています。そのこと自体は、本文に記されているように、人間が創造された意義にも関わることですが、人間以外の他の動物達を見ても、それらの要素はあまり見出せません。万物の頂点に立つべき人間ならではの特徴と言えるのです。

また、何事も対象への関心、更には親近感なくして探求は進みませんし、対象を理解することも出来ません。相手と一体化してはじめて相手の放つ想念を感知することが出来るようになるのです。

このように同胞を理解することは、私達自身にとっても視野が広がり、自分の暮らす世界が実は素晴らしく調和のとれたものであることが分かることでもあります。宇宙本来の整然とした営みを目の前にして、如何に恵まれた環境に暮らしているかを感謝する時が必ず来ることでしょう。その時、私達は本文にあるように、”放蕩息子”の名称を捨てる事が出来るのです。

121 To digress for a moment: the space people, understanding that man is Divine Thought motivated by the Divine Breath (for ether is Divine Creation), feel a reverence for all humanity. This is the explanation of the statement in INSIDE THE SPACE SHIPS which has proved so puzzling to people. Practical Earthlings have questioned the philosophy of accepting death for themselves rather than the taking of human life; but the visitors know that when another stands before them, they are in the presence of the Living God.

121 少しの間、本題からそれますが、宇宙人達は人間は聖なる息（エーテルは聖なる創造物である故）によって活性化された聖なる想念であることを理解していますので、人類全てに対して敬意を感じます。これは人々に当惑を与えた「INSIDE THE SPACE SHIPS（空飛ぶ円盤同乗記）」における言及への解説です。現実的な地球人達は人生を迎え入れることよりも死を受け入れる哲学に対し疑問の声を上げています。しかし、訪問者達は他人が自分達の前に立つ時、自分達は生ける神の面前に居ることを知っているのです。

【解説】

人間に対するこの根本的な理解は、本項で例示されている同乗記の中の他惑星人の発言に端的に表れています。相手に対する認識が私達地球人とは随分違うレベルに到達していることが分かります。おそらく、それらの会話は極く普通のこと、当たり前と考えとしてアダムスキー氏に話されたのです。

このことはかつてイエスが弟子達に説いていたことと同じです。一般には自己犠牲その他と称されていますが、実はその背景には対する相手の中に万物の創造主を見ているから出来る行為と言うことが出来ます。

従って当然のことながら、相手を殺傷することなど、どんな場合であっても出来る筈はなく、自らの命を絶つことを選択するということでしょう。私達の行動は対象の中に何を認識するかによって大きく変わります。私達が宇宙の因を見るようにと諭されるのは、そのことによるのです。

122 They do not condemn us for our shortcomings, for they know we are behaving according to our understanding. Where we now are in Cosmic growth, they once were; where they now are, through the natural evolution and refinement of our thought patterns, we will be. So it behooves us to remember our Divinity at all times; and try to guide our minds carefully.

122 彼らは私達の欠陥をとがめることはありません。彼らは私達が自分達の理解に応じて振る舞っていることを知っているからです。宇宙的成長において現在、私達が居る所に彼らもかつては居たし、彼らが今居る所は自然の進化と私達の想念パターンの精化を通じてやがて私達が到達する所です。それ故に私達は常に自身の神性について覚えて置かなければならず、自身の心を注意深く導くよう努力すべきなのです。

【解説】

改めて同乗記を読むと、私達は他惑星人が皆、テレパシーの能力、即ち相手の心に湧く想念を互いに敏感に感じ取ることが分かります。決して、それらは無理せず行われている訳で、彼ら他惑星人にとっては改めて解説するまでもない自然の事柄なのです。

それに対し私達は自身に残留している想念すら気付くことなくもっぱら暴力的、差別的な想念のルツボと化している訳です。同乗記の中で他惑星人から指摘されているように、私達がほんの些細な事柄でも怒りが発現してしまうのは、まだまだ私達の中に取り除かなければならない問題点が多いことを表しているのです。

その一方で各々の精進の結果に対しては皆、楽観視しているように思います。前進すれば必ずゴールに着く訳で、時間の長短は永遠の宇宙的時間の中にあっては意味を成さないということでしょう。私達各人は自分の想念パターンを精査し、浄化することがその歩みを支えることとなります。

123 Since each thought registers a certain pitch, or frequency, relative to itself, we will naturally find different levels of thought. The level of thought-frequency into which we tune daily depends entirely on our understanding. For remember, like attracts like. While at times we may contact either a higher or a lower level, our minds normally move in the ruts in which our understanding has placed them.

123 各々の想念はその想念に比例したある種の高低、或いは振動数を記録に留めるために、私達は想念の様々なレベルに自然と気付くようになります。私達が日常、合わせる想念振動数のレベルはことごとく、私達の理解力に依存しています。類は類を呼ぶということを覚えておいて下さい。一方では、時たま私達はより高い、或いはより低いレベルと接触することもあります。私達の心は普通、私達の理解力が敷いた轍（わだち）の中を動いて行くのです。

【解説】

私達が日常的に抱く想念が私達各自の進む方向を定めているという訳です。一つ一つの想念は瞬間的であっても、その積み重ねは本人の方向性を定め、遂には車輪の轍（わだち）のように、進路を決定づけてしまう危険性があるのです。

ただでさえ習慣性を好む私達はひとたびこのパターンを踏襲し、怠惰な日常生活を送り始めてしまうと本来の道に戻るのは容易ではありません。

自分の日常が正しい方向に向いているかいないかは絶えずチェックして、少しでも改善の必要を感じたら、躊躇なく修正することです。その際に役立つのが理解力を広げることです。より広い分野から先人達の忠告を学び、消化して、その方向転換の原動力にすることです。

124 Most of the time, the only thoughts we are aware of, are those familiar ones amassed through our senses and experiences. Yet, gems of universal wisdom are interspersed in our habitual thinking.

124 大抵は、私達が気付く唯一の想念は、私達の諸感覚と経験を通じて蓄積されたものと馴染みのあるものに過ぎません。しかしそれでも、宇宙の英知の珠玉は、私達の習慣的な思考の中にも散りばめられています。

【解説】

私達が日常的に抱く想念の中にも宇宙的なヒントが含まれていることがあるということでしょう。習慣的な日常を送る中でも感受力があれば、様々なアイデアが含まれていることに気付くことができますし、それは私達にとって救いになるものです。

このように私達の抱く想念の中には劣悪なもの他に、良質な要素を持つものも含まれている時がある訳で、前項（123）で示された轍（わだち）を抜け出る為にも大いに注目すべき事柄です。

結局、私達を導くものはこうした想念の要素であり、如何にしてそれらと結びつきを増やし、パイプを太くして行くかが重要となります。大事だと思ふことはこれら良質な想念が何処に起源を置いているかであろうと思います。もし、創造主の思し召しとして贈られているとすれば、私達は実に恵まれた状況にあるかが理解出来るというものです。

ご連絡 [2019-03-05]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、明日3月6日（水）から3月11日（月）まで、更新をお休みします。

3月5日
竹島正

125

Let us say we are going about our daily routine, our minds quietly following their customary pattern of thought. From out of the "blue" will come a thought totally foreign to our normal thinking-something of a universal nature. The majority of people, not comprehending the magnitude of what is happening, will often break the flow with the startled inquiry, "Where did that come from?" Whereas, if they had quieted their carnal mind and listened to the small still voice within, vast vistas of understanding might have been unfolded.

125 例えば、私達が日常の決まりきった仕事に出掛けるとします。私達の心は黙って、いつもの習慣的な想念パターンに従っています。「突然青空から降って湧いた」ように、私達の通常の考えとは全く異質な想念、宇宙的な性質を持つ何かがやって来ます。大多数の人々はその時、起っていることの重大性に気付かず、しばしばびっくりして「それは何処から来たのだろうか」と問いただしてしまうことで、その流れを壊してしまうのです。しかし一方、もし人々が自身の肉欲の心を静めて、ひそかな内部の声を聞こうとすれば、広大な理解の展望が解き明かされたかも知れないのです。

【解説】

私達が時折、それまでの自身の習慣的想念の隙間から、良質な想念が入り込むことがあります。まさに希望の光を垣間見る瞬間です。その時こそ、その者にとって好機であり、その恵みの機会を逃してはなりません。

本項はこうした日常の生活の中にも、本来の進化に向けて各人が活かせるチャンスがあることを説いています。もし、そうでなければ私達はトウの昔に滅んでしまっていたものと思われれます。

このインスピレーションの中には各人の生き方をはじめ、科学的発見や道具の発明など、様々な要素が含まれていることでしょう。それまでもがき努力しても達成出来なかった事柄も、これらのアイデアが支えとなって解決する事例も多いものです。それはそれまで私達が志向して来た中で、培って来た因への願いが叶い、はじめて因と触れ合うことが出来た瞬間でもあるのです。

126 By this I do not mean we should accept every unusual thought which enters the mind as being of a universal nature; for as we progress in this study, we will learn that thought comes from many different sources. We have been accustomed to thinking of thoughts as coming only from other human beings; when in fact they emanate from Cosmic Cause, from the very atoms of our bodies, and from all phases of nature. It is obvious therefore, that man should be extremely selective about the thoughts he entertains in his mind.

126 このことで私は私達が心に入って来るあらゆるいつもと異なった想念を、宇宙的性質を持つものとして受け入れるべきだと言っているのではありません。何故なら、私達がこの学習を進めるにつれて想念は多くの異なる源から来ることを学ぶことになるからです。私達は想念は他の人間から来るように思い馴らされて来ましたが、しかし実際には、想念は宇宙の因から、また私達の身体の中のまさに一つ一つの原子から、そして自然の全ての側面から発せられています。それ故に、人は自分の心を喜ばず想念については極めて厳密に選択する必要があります。

【解説】

全ての行動の発端は想念にある訳で、私達は想念の影響下にあると言えます。そしてその想念も感受する全てが妥当なもの、的確なものとは言えないところが難しいところです。様々な源泉から想念は発せられており、適切なものに同期する一方、そうでないものはいち早く捨て去る必要があるのです。

この瞬時の見極めの為には、各自の心はあらかじめ偏ることなく、冷静で落ち着いた状況であった、その想念の帯びる雰囲気鋭敏であらねばなりません。私達がどのような想念を取り入れるかは、その想念と生死を共にするくらいの覚悟が本来必要な程、重要な事柄なのです。

こうして何回かの体験を経て、どのような想念が建設的アイデアか、将来を拓くヒントであるかを分かるようになるものと考えています。そういう意味では失敗事例こそ、多くを学ぶべきかと思うのです。

127 Here is one more example of how help may be received unconsciously, which we all have experienced at some time; let us say our minds are struggling with a problem. We have studied it from every angle, and still the solution evades us. We may even be ready to give up . . . when, suddenly the answer is laid before us.

127 ここに如何にして援助が無意識の内に受信され得るかのもう一つの例があり、私達全てが時折、体験しているものです。それは、私達の心がある問題で奮闘しているとします。私達はそれをあらゆる角度から研究して来ましたが、未だに答えは我々をすり抜けています。私達もう諦めようとも思ったその時、突然にその答えが私達の前に置かれます。

【解説】

私達の多くは困った時にふと解決策がひらめいたり、誰かの助け舟が来たりした経験を持っていると思います。自分で考え模索して辿り着けなかった解決への道でしたが、私達の心がそれまでの自分の想念でいっぱいであった状態から、半ば諦めかけた結果できた隙間に新しいアイデアがようやく入り込めたという状況かと思われます。

とかく私達は自身の持ち物と同様、自分の習慣的想念を心に留めておく習性があります。これは仏教で言う執着と表現されている訳です。私達各々には所定の容量があり、それが満たされれば、他の要素は入り込むこともありません。それ故に当座重要でないものは捨て去ることが必要となるのです。

もちろん、捨て去るだけではダメで、その空いたスペース、軽くなった心に宇宙本来の上質な想念を導き、自由闊達な振動に自らを高め、本来の想念レベルに同調させることが必要なのです。

128 This is no mysterious extrasensory perception; but an unconscious tuning in to universal knowledge. The student, understanding the law he is employing, will control his carnal mind and allow the solution to come to him. This information has been verified by the space Brothers.

128 これは神秘的な超感覚的な知覚などと言うものではなく、宇宙的な知識への無意識の同調作用なのです。学習者は自分が用いている法則を理解すれば、自分の肉欲の心を制御して解決法を自分にやって来させるようにするようになります。この情報は宇宙兄妹達によって実証されて来ました。

【解説】

このような状態の時、私達は無意識に宇宙的な波動に自分の心を同調させているという訳です。特に何も不思議も神秘的な条件もありません。極めて普通の心の状態の中で自らの心を高次の波長に合致させることが出来たということです。

これを自然界の動物では"本能"、植物では"自然の生命力"と私達は称して来た訳ですが、いずれも各個体が自らの心を宇宙の知性に同期することにより、テレパシクに最良の方策を身につけているのです。

重要な点は如何に自らの心をこのような状況を常に作り上げて行くかです。その為には自らが感受したアイデア（想念）を信頼しそれらを行動に移すことで、その真偽を確かめ、経験を積み重ねる中で、これらアイデアを授けてくれる宇宙の因への信奉を深めることだと思います。

様々なレベル、段階の想念の発信元がある中で、価値あるものを探し出すこと、判別することは容易ではないとされて来ました。しかし、砂浜の無数の砂の中で、一粒の輝く砂粒の光は大きく、少し観察すれば手に取ることが出来ます。そして無数の砂粒の中で貴重な一粒を手にとることが出来たことは、何よりも勝る喜びとなり、私達が実はこれら恵みの中に暮らしていることを噛み締めることにもなるのです。

Summary of Part One

129 This first part is very important, for it is the foundation for the other two that are to follow. It should be read and reread until this knowledge becomes a part of you.

第1部要約

129 この第1部は大変重要です。後に続く他の2部にとって基礎となるからです。この知識が貴方の一部となるまで何度も読み返されるべきものです。

【解説】

第1部のまとめとして著者は、この第1部が基本であり、繰り返し独習することによって、その知識を自分のものにせよ、と説いています。

1, 2回読み通したからといって、その内容が完全に理解したということにはなりません。自ら実践、行動する中で様々な体験を積み、実証を経て確実な知識となるのです。そういう意味では単に読むことだけでは限界もあるのです。成功にしろ失敗にしろ、体験を経て記憶に残る知識となるということでしょう。

私達が毎日を生きる目的は、この体験を積み重ねることにある訳で、目の前に広がる未来に各自が貢献することが求められています。

130 Disciplining the senses is the first step you must take. They should not master you any more than do the hands and the feet. Our extremities do not suddenly develop a will of their own, and start acting independently. They obey the messages from the mind.

130 諸感覚を躰けることは、貴方が最初に取り組まなければならない一歩です。感覚は手や足以上に貴方を支配すべきものではありません。私達の末端手足は突如として自らの意思を発達させたり、個別に行動し始めたりする訳ではありません。それらは心から発せられたメッセージに従っているのです。

【解説】

各自の為すべき最初の事柄は、自身の感覚（四感覚）を訓練することであると、著者の指導は明解です。これまで私達は自分自身を自分の心と区別せず、もっぱら未熟な心の不安定な指示の下に行動して来ましたが、それではイケナイという訳です。舞台の上で演じる自分の姿を別の自分がしっかり観察しているように、心の動きを監視して、不要な心の意見に左右されないようにすべきです。

また、心自体、決して疎外されるべき悪者ではなく、発達途上の存在である訳で、それらを訓練して自ら育成する必要があるのです。自分自身を訓練すること、修練することは、他人に頼めることではありません。示された道は本人が歩んではじめてその者に成果がもたらされるという訳です。

131 Our senses of sight, hearing, taste and smell should be nothing more than conveyors of information to the brain, not the autocratic rulers of our lives. They should be our servants-not our masters. As you study these four senses, you will find they continually exalt their position in the scheme of life, belittling all that they see about them. Do not let this happen.

131 視覚、聴覚、味覚及び嗅覚から成る私達の感覚は、脳への情報の伝達人でしかなく、私達の命の独裁的支配者ではありません。それらは私達の召し使いであるべきで、主人ではない筈です。貴方がこれら四つの感覚を研究するにつれ、それらが見るもの全てを軽視することで、生命の図式における自らの地位を常に押し上げようとしていることを発見するでしょう。このことを起らせてはいけません。

【解説】

私達の持つ感覚の取扱について、例えば目及び視覚は目に見えたもの、そのものを伝えれば良く、見た時の判断は不要です。それらの裁きは目がその対象と外観で比較し、良し悪しの判定をつけていることになります。自分より劣っていると思う対象には優越感を、勝っている対象には劣等感を抱くのが感覚人の常という訳です。

その結果、視覚は本人を支配するばかりか、世の中全体を化粧品やファッションという一大産業になるまで成長させています。人間の傾向を利用した"ビジネス"が展開されている訳です。

しかし、所詮これらは表層的なものに過ぎず、私達はその奥にある実体を観るように努力しなければなりません。顕微鏡下では何気ない葉の中にも驚くべき美しさがありますし、水たまりの一滴にも様々な微生物が生きています。こうした目に見えない部分にも因を知ろうとする私達は気付くよう努めなければなりませんし、既存の感覚の限界を認識すべきなのです。

132 Observe nature with compassionate understanding, realizing that all forms are supported by the same Divine Breath of Life which gives you being. For within this Breath is contained the motivating Force of the vast Cosmos. It is this one Force, permeating all manifestation, which gives form the ability to fulfill its purpose.

132 自然を暖かみのある理解で観察し、全ての形あるものが貴方を存続させているのと同じ聖なる息によって支えられていることを認識することです。何故なら、この息の中に広大な宇宙の躍動を与えるフォースが含まれているからです。全ての創造物に浸透して、形あるものにその目的を成就する力を与えるのは、このフォースです。

【解説】

慈悲の心で万物を觀よと著者は説いています。まさに釈迦の教えです。その背景にあるのは、皆諸共に同じ空気を吸い、その呼吸を通じて宇宙によって生かされていることを自覚することから始める必要があるのです。

全ての生きものが同じ源泉に由来するところが、万物が家族であり、兄弟姉妹であると説く由縁です。各生物を細胞レベルで觀れば、皆同じ構成となっていますし、その生命の原理も同様です。私達全ての生きものは基本的に同じであり、構成結果において多少の違い、バリエーションを持っているだけです。

その相違は各人の個性、特徴であり、それらを生かすことで、多様性を生み出し、豊かさに貢献する訳で、差別や区別を生み出すようなものではありません。私達各人は自らの役割を果たすことで社会を豊かにし、自らも進化させるよう、努力したいものです。

133 So you can see there are no divisions. You must work until you honestly feel a oneness with all creation; for sympathetic feeling is the avenue of communication. This must be established before success in thought-transference can be expected. All Nature expresses the Creator in a free, unhampered manner, and you must strive to emulate her. A good example of what is meant can be found in the message given by the Masters in INSIDE THE SPACE SHIPS. You will notice they compared their way of life to ours, yet at no time did they pass judgment on us for our shortcomings.

133 その結果、貴方は分裂というものは一切無いことが分かります。貴方は正直に全ての創造物と一体になる感じを得るまで力を尽くさねばなりません。何故なら共感的なフィーリングが意思疎通の本道であるからです。このことは想念転移において成功が期待される前までに確立されていなければならない事項です。全ての自然は自由で妨げられることなく創造主を表現しており、貴方は自然を見習おうと努力しなければなりません。その意味での良い例が空飛ぶ円盤同乗記の中の長老によって授けられたメッセージの中に見出せます。長老達は彼らの生き方を私達のと比較しましたが、一度も私達に対して私達の欠点を非難しなかったことに貴方は気付かれることでしょう。

【解説】

私達の疎外感、孤独感の由来は、この長年の自然からの分離観にあります。独り人間だけが自我の迷いの中にもがいているということでしょう。その人間が頂点に立つ地球は、他の惑星に比較して、まさに救いようのない状況に陥っていることは、今日の世界を見れば明らかです。

しかし、それでも光明に続く道は示された訳で、私達は与えられた教材を抛り所として少しずつ前進出来ることは喜びでもあるのです。

今日、様々な指導者が現れ、各々の分野で人々を導いているように思いますし、また、アダムスキー氏に関連する新しい書籍も次々に出版されて来ています。しかし、本を読むだけでは不十分で、各自が工夫しながら如何に自然を教師として日常生活に取り入れるかが問われているのです。自他の境目を無くして同一化する中で初めて心自体の癒合、そして想念の共有も達成されるのではないのでしょうか。

134 You must master and control your emotions. Do not be discouraged when your habitual thought-patterns try to oppose your desire to see things in their true state. Remember, you have been building your thought habits all your life. Perseverance will enable you to realize your oneness with all you see about you, and recognize the fallacy of the man-made divisions.

134 貴方は自分の感情を支配し制御しなければなりません。貴方の習慣的な想念パターンが物事の真実の状態を見ようとする貴方の願いに逆らうことがあっても落胆しないで下さい。貴方は貴方の全生涯を通じて自分の想念パターンを作り上げて来たことを思い出して下さい。忍耐は貴方に周囲に貴方が見る全てのものとの一体感を知覚することを可能にし、人間の作り出した分割の嘘を認知させることでしょう。

【解説】

まさにこれまで培ってしまった自分との戦いが次に必要になるという訳です。これまでの習慣が築いてしまった自我の支配を脱する為に、私達は粘り強く自我からの横槍を押し留め、本来の生命の一体感を維持しなければなりません。

その為にも、自然界の諸物を学ぶことが重要です。多くの場合、野生の生きもの達は無言で、印象のままに生きているように思えます。時として警戒の声を発して仲間には注意を促しますが、それ以外は黙々と草を食み、餌を探して1日を過ごしています。危険が迫らない限り、厳しい環境の中にあっても皆伸び伸びを暮らしているように思えるのです。

私達も各々の日常生活を通じて、宇宙的一体感を持てるよう、またそれら良質な想念を引き続き取り入れられるよう、従来型の誤った想念パターンを断固拒否する決心が必要です。

135

Self-discipline is necessary before you can take the next step. Therefore, I suggest you keep a daily ledger to check on the thoughts and emotions that have influenced you during the day. Note and evaluate each one carefully (both good and bad), then weigh its effect upon your life that day.

135 自己訓練は貴方が次のステップに移る為に無くてはならないものです。それゆえ、私は貴方にその日の中で貴方に影響を与えた想念や感情をチェックする為の一日の記録簿をつけることをお勧めします。(良いものも悪いものも共に) 注意深く一つ一つをメモし評価し、貴方のその日の生活への影響を推し量ることです。

【解説】

具体的な自己研鑽の方法として、著者は私達に毎日の想念記録をつけることを勧めています。その日一日、どのような想念が湧き、自分の行動に対してそれらがどのような影響を及ぼしたかをチェックせよということです。

本来的には、数多くの想念に対してメモが追いつかないことも多いと思われそうですが、少なくともその日、自分に影響を与えた想念を列記することはお勧め出来る一例でしょう。冷静に自分を見詰めることに繋がるからです。

そういう点では野生の生きもの達は、実に優れた直感力を持っていますし、それらを生活に活かしているように思います。私達の自己研鑽も彼らを手本に、湧き起こる良質な想念に従うことで少しずつ達成されるものと思われま

136

Part Two, with its exercises, will give you a greater realization of yourself as an expression of Cosmic Intelligence.

136 第二部は、練習も含まれており、貴方自身が宇宙の英知の表現の一つであるとのより大いなる実感をもたらすことでしょう。

【解説】

このテレパシー講座は全3部から構成されています。これまで具体的に各部の関係を考察したことはありませんが、私達の学習の進展に応じて次第に深い内容を解説しているものと思われます。

また、本項の短い文章の中にexercises（訓練）という言葉が用いられていることにも注目すべきです。日々の実践こそ必要であり、その結果としてより深い内容まで理解出来るようになる訳です。

私達は体験によって自らの知識を確実なものとする事が出来ます。いくつになっても新鮮さを失わず、毎日の感動の中から自分にとっての真実を掴むことです。

PART II

Chapter 1 Cell to Cell Impressions

Chapter 2 Impressions From the Body Cells

Chapter 3 Effect of Emotions on the Body Cells

Chapter 4 Other World Impressions and Thought Habits of Earth

Summary - Part II

Suggested Exercises

CHAPTER

I

Cell to Cell Impressions

137 Since there are over two-and-a-half billion people living in the world today-all of them thinking to some degree-we can readily see that we live in a veritable sea of thought. Not only do we receive thoughts from human minds, but since the cell structures of their bodies and all the cells that make up nature, are constantly broadcasting, we also receive impressions from these sources. To augment our conception of the immensity of this truth, we must realize that there is a perpetual blending and an interblending throughout the whole of the Cosmos. Therefore, it naturally follows that there is an intermingling of thought frequencies between the worlds. We will discuss this phase more fully in a later chapter.

第2部

第1章 細胞から細胞への印象

第2章 肉体細胞からの印象

第3章 肉体細胞に及ぼす感情の影響

第4章 他の世界の印象と地球の思考習慣

第2部要約

推奨される練習法

第1章 細胞から細胞への印象

137 今日、世界には25億人を超える人々が住んでおり、それらの全てが何らかの程度に思考していることから、私達は容易に私達が紛れも無い想念の海の中で生活していることが分かります。私達は人間の心が発する想念ばかりでなく、人間の細胞組織や自然を作り上げている全ての細胞が常に想念を発していることから、私達はまたそれらの源泉から出た印象も受信しています。この真実の広大さに関する私達の概念をさらに増大させる為に、私達は全宇宙を通じて永続的な融合と混合が行われていることを実感しなければなりません。それ故、当然に世界の間での想念周波数の混ざりあいが起こることになります。私達はこの側面については章の後半でより詳細に述べることにしましょう。

【解説】

本項からテレパシー講座第2部に入ります。ここでは地球で暮らす私達には他の人間から膨大な想念、また他の生きもの達の細胞それぞれからの無数の想念にも晒されていると説かれています。つまり、知覚しているに依らず、私達は膨大な数の想念の中で生きているのです。それは海の中に生きる魚と同じく、私達は想念の海の中で生きていると言えるのです。

こうした中でどれが受け入れるべき想念で、どれを私達が避けなければならないかを知覚することは重要で、私達の進化に役立つ高品位な想念にこそアンテナを向けるべきです。

とかく類は類を呼ぶというように、類似したレベルの想念に同調し易い為に、最初の段階は努めて良質なものを取り入れるよう努力することが肝要です。

138 While this combination of thought vibrations bombarding us at all times staggers the imagination, if we take one vibration at a time it becomes understandable. A common example of how thought, or violent emotion-bear in mind that emotion is the expression of strong thought-will impregnate itself upon matter, can be found in the atmosphere of a dwelling.

138 この想念波動の組み合わせが常に私達に衝突して来るということは想像力をも驚かす一方、私達は一度に一つの想念を捉えるようにすれば、その想念は理解できるものとなります。想念ないしは激しい感情、即ち感情とは強い想念の表れであることを覚えていて欲しいのですが、よくある例として如何にしてそれらが物体にしみ込むかは、住居の雰囲気の中に見い出すことができます。

【解説】

おそらく想念は釣鐘の音のようにその帯びたものに長らくその振動は留まるものと思われます。そしてまた、それが振動している間は周囲のものに少なからず影響を与えるということでしょう。私達は感受する想念についてもそれが同調すべきものか避けるべきものかを注意して、受け入れるべきものみに着目する必要もあるのです。

同時に私達自身が発する想念はまた、他人にも大きな影響を与えることをよくよく自覚することが必要です。もちろん、自分自身の細胞が最も影響を受ける訳ですが、それは自業自得としても、他の者に悪い影響を及ぼすことは厳に慎まねばなりません。一方、優れた上質な想念は広く拡散することで多くの生きものの為になりますし、これら良質な想念を発することが善行でもあるのです。

このように想念は物体に残留する為、私達は物体からも影響を受けることは十分に有り得るのです。そういう意味では私達の感受力が高まるにつれて、高次元のものより、低次元の残留想念についても感受し易くなる為、より一層の精進が必要だということになります。

139 From the outside the house may appear very attractive. Upon entering we may find ourselves in a spacious, well-furnished room, with large windows offering a wide view of a peaceful countryside. But with the crossing of the threshold a strong revulsion, a deep depression, or in some cases an almost tangible feeling of hatred seems to fill the air around us. This disquieting effect will disturb us as long as we remain in the house.

139 その家の外側からは大変魅力的に見えるかも知れません。中に入ると私達は広々して上等な家具に彩られた部屋があり、大きな窓が平和な田園風景を見せています。しかし敷居を跨ぐや、強い反感と深い憂鬱、またある場合には肌で感じるような憎しみの感も私達の周囲に満ちているように思えます。この胸騒ぎの影響は私達はその家に留まる間中、私達を掻き乱すことでしょう。

【解説】

家というものは住人の放つ想念が染み込んでいると言えるでしょう。人が家の中に入って感じる雰囲気は物体である家の各部に染み込み、残留している住人の想念波動を感じ取っているという訳です。これについてはアダムスキー氏が英国を訪れた際、著名な城や教会を案内された時、中に入るのを断ったという逸話が伝えられています。それ程にアダムスキー氏は残留想念にも鋭敏であったということです。

同様に私達の周囲にも様々な歴史的な遺物もありますが、昔の戦いで残虐な殺戮があったところ等、あえて立ち入る必要もありません。むしろ大自然の調和の中でリラックスした方が遥かに健康的と言えるものです。

この地球の歴史は争いや殺戮が多く詰まっており、私達はこうした過去から反省することはあっても学ぶべきものはないと言えるかも知れません。それに代わって、未来や宇宙に目を向けて生命活動を探求することが有意義な道と言えるようです。

140 If we trace this feeling to its source, we will find one of two things. Either a tragic or terrible incident, involving the destructive emotions of intense fear and vehement hatred, occurred here, which impinged these emotions upon the cells (or atoms) of the house; or the thought-patterns of former occupants, or of those now living here, have filled the atmosphere with hatred, greed, selfishness and animosity. In either case, if people live continually surrounded by these strong emotions they will be affected adversely by them. It can, and usually does, bring dissension into their lives.

140 もし私達がその源泉に向かってこのフィーリングを辿るなら、以下の二つの事柄のいずれかを見い出すことになるでしょう。強烈な怖れと激しい憎悪の破壊的感情が含まれた悲劇的あるいはひどい事件がここで起き、それがこれらの感情をその家の細胞（あるいは原子）にぶつけたか、あるいは以前の居住者、または現在ここに住んでいる者達の想念パターンが辺りの雰囲気や憎しみや貪欲、わがままや恨みで満たしているのです。いずれの場合も、もし人々がこれら強い感情に囲まれて継続的に暮らしていると、それらによって悪影響を受けることになるでしょう。それは人々の生活に不和をもたらす可能性がありますし、通常は実際、そのような影響を及ぼしているのです。

【解説】

この例から考えても私達は絶えず自分の周囲の残留想念からも人知れず影響を受けていることが分かります。また、同様に私達自身が過去に発した想念も物体に染み付いてその周囲の人々に影響を与えている訳です。

よく知られているように地球には苛酷な歴史があり、近年だけでも大きな戦争が続いています。そのような環境からは決して良質な想念は生まれず、憎しみや怒り、悲しみや苦しみという生命本来の波長とは異なる低質な想念しか生まれません。こうした惑星の中にあっても本来の想念波動を発する人は闇の中の松明のような存在、人々を導く光となるべき人達です。

「宇宙哲学」の本の表紙はこの松明が表現されており、これらアダムスキー氏の書籍が人々を導く光となることを暗示しています。

141 Now, let us take an example of how equally strong, constructive emotions impregnate a dwelling. When we enter another house, a warm feeling of friendliness greets us at the door. In contrast to the first, the rooms may be small, the carpet thread-bare, and the view from the windows confined to shabby cottages across a narrow street; but the cells of this dwelling have been impressed with harmonious thoughts of love and laughter; and we instinctively respond to these emotions. We will find ourselves smiling unconsciously, and will settle back to absorb this feeling of peace.

141 今度は、如何に同様な強い建設的な感情が住居に染み込むかの例を取り上げましょう。私達がもう一軒の家に入ると、暖かい友好的なフィーリングが玄関口で私達を迎えます。最初の事例の家とは対照的に、部屋は狭く、カーペットは擦り切れ、窓からの眺めは狭い通りの向かいの古びた田舎屋が見えるだけです。しかし、この住居の細胞達は愛と笑いの調和ある想念によって印象付けられていますし、私達は本能的にこれらの感情に反応します。私達自身、無意識に微笑んでいることに気付きますし、この平和なフィーリングを吸収する為、ゆったり椅子に座ろうとすることでしょう。

【解説】

重要なのは想念・印象であり、物質・物体ではないということでしょう。私達が大切にしなければならないものは、外見や物質ではなく、それらに浸透している想念・印象であり、決して見かけでは決められないということがポイントです。

日常的にも私達は自分の受ける印象を第一に行動しなければなりません。私のささやかな体験でも、自分が感じ取った印象に先ずは従って行動することで、自分が正しい方向に進んでいることが分かるというものです。自分の体験を積み重ねることで、その印象が正しいことを確かめられるからです。

アダムスキー氏もよくインスピレーションを活用していたとされており、同乗記にも記されているように、他惑星人との会見にも活用されていました。彼ら他惑星人はもちろん、テレパシーの達人者達であり、互いの印象のやり取りに道具は必要ないのです。おそらく地球の野生動物、更には植物達もこれら印象の交流を行っていることでしょう。そうなれば、世界は素晴らしいものに見えて来る筈です。

142 So we have proof that bricks and mortar do not make a house a home -- for a home is made from the harmonious thoughts of the people living in it. If at all possible, we will avoid the first house after our initial visit, for we will never feel at ease there; but we will revisit the second house as often as the opportunity presents itself.

142 ですから、レンガやモルタルが家屋を家庭に築く訳ではないという立証がある訳です。何故なら家庭というものはその中に暮らす人々の調和ある想念から作られるからです。もし出来ることなら、私達は訪問の後、最初の家は避けようとするでしょう。何故なら私達はそこでは決して落ち着かないからです。しかし、二番目の家は機会があれば何度も再来したいと思うことでしょう。

【解説】

本項が示すように、各家庭の雰囲気はその家庭の構成員が放つ想念が造り出すと言えるでしょう。私達は毎日、どのような想念状態で送るかが家の雰囲気、即ちその家に染み付いた想念波動を決定しているのです。

当然、私達は良い環境、良い精神状態を空間に残さなければなりませんし、それこそが家庭に影響を及ぼす重要な要素になっている訳です。昔の言葉に"修身齐家治国平天下"という言葉がありますが、想念レベルの及ぼす順として、自分自身の次に家庭があり、国があるということです。

そもそも私達が何故、テレパシーを学び身に付けようとしているかは、私達自身が抱く想念がこのように周囲に大きな影響を及ぼすことにあり、より高次の想念・印象に親しむことによって、社会にも良い影響を及ぼす程の存在になり得るからに他なりません。

143 These impressions are known as cell impressions. The cells (or atoms) of the structure have absorbed the destructive or constructive emotions of the occupants, and have communicated these impressions to the cells (or atoms) of our body; causing either a feeling of depression or tranquility.

143 これらの印象は細胞印象として知られています。建造物の細胞（原子）が居住者の破壊的あるいは建設的な感情を吸収し、これらの印象類を私達の肉体の細胞（原子）に伝え、憂鬱なあるいは穏やかなフィーリングをもたらしていたのです。

【解説】

本項は前述までの事例は想念が染みこんだ物体の原子が直接、私達の身体の細胞・原子に働きかけた結果であると解説しています。つまり、私達が想念・印象を感じるということは、私達の身体の各細胞を通して行われることを意味しています。言い替えれば、既存の四感覚は全く関与せず、一つ一つの細胞或いはそれを構成する原子・分子が想念・印象に反応することが、想念伝達の仕組みであるのです。

このことはより柔軟で開放的な態度を保つことで、私達は身体各部の細胞、更には原子・分子に至るまで、その姿勢を調整し、その成果として自らの細胞を通じて、想念・印象を感じ取ることが出来ることとなります。

自身の姿勢・態度をそのような方向に統制・維持することによって、身体そのものがそうした高次の機能も発揮できるようになるものと考えています。想念は実現力を持つ中で、ご自身の健康管理にもこれら精神状態の訓練は役立つこととなります。

144 Those who receive these impressions are often referred to as "sensitives," but when properly understood, this is nothing more than an automatic reaction to the world of effect. In other words, the effect of the strong emotions absorbed by the cells of the buildings, affected the individual. This is one phase of telepathy where the "feeling" within us is altered to, or communicates with, so-called inanimate substance.

144 これらの印象類を受信する者はしばしば「敏感な人」と評せられますが、適切に理解すれば、このことは結果の世界への自動的な反応以上のものではないのです。言い替えれば、建物の細胞によって吸収された強い感情の影響がその個人に作用をもたらしたのです。これは私達の内側の「フィーリング」がいわゆる無生物の物体によって変えられたり、それらと意思疎通を行うというテレパシーの側面の一つです。

【解説】

前述までの事例は人が暮らす家自体に住人の放つ想念・印象が残留することを示していました。人が暮らすことから言えば、各自の身体こそ、その住人が放つ想念・印象をより以上に反映することになる筈です。即ち、身体の状態は各自が造り上げているものだとも言えるのです。

当然、本人の想念レベルが向上すれば、肉体もそれと呼応して進化を遂げることでしょう。そう考えれば、本来、肉体の老化は本人の想念レベルの劣化が主な原因となっていることが分かります。日常の想念レベルの結果として、身体状況が存在するということです。

従って、同乗記等に出て来る他惑星人達は衰えを知らず、楽しく充実した毎日を送っている訳で、彼らの高次な想念レベルが調和のとれた若々しい肉体として反映されているのです。各自の身体は日々の生きた教材であり、各自の精進を実証するものでもあるのです。

145 Ninety-nine people out of every hundred consider thought only in relation to the human brain. They would be amazed to learn that every cell in their body, as well as every cell constituting any other form, is a thought-producing unit; for all manifestation is composed of atoms. We receive the illusion of divisions because of the different vibratory rates of the atoms; but in actual fact, the basic atoms making up the human body, and those manifesting as minerals, are the same. Thus, when we have an understanding of our true relationship to, and oneness with, all creation, we will be able to commune consciously with all phases.

145 毎100人の内、99人が想念というものを人体の脳とだけに関連して考えています。しかし、彼らは自分達の身体の一つ一つの細胞が他の形あるものを構成している個々の細胞ともども、想念を作り出す単位であることを知れば驚くことでしょう。私達は原子群の振動の違いの為に分裂の幻影を受け入れています。従って、人体を構成している基本的な原子と鉱物を現出させている原子は同じものです。従って、私達が全創造物との真の関係と一体性の理解を得れば、私達は全ての段階のものと意識的に交流することが可能となることでしょう。

【解説】

私達が対象に親しみを感ずるのは相手と意見や印象を交わしあい、互いに意見や経験を分かち合うことにあるのですが、それはいわば相手と互いに想念を行き来することでもあります。

即ち、想念・印象を交流出来ることが親しみの由来であるとすれば、本項に描かれているように、万物を構成する分子・原子に想念・印象を与え、更にはそれら微細な粒子の中にこれまで得た想念波動が蓄えられ、それらを交わることが出来るとすれば、大変大きな世界が広がっていることに気付きます。

一握りの砂の中に、宇宙に匹敵する膨大な記録が蓄えられていることになり、私達は無尽蔵の知識の海の中に生きていくことが分かります。従って重要なのは、これら各分子・原子に膨大な知識が詰まっております。従って、テレパシー能力を高めることは、これらの中から湧き起こって来るインスピレーションにより多く気付くことを意味します。

146 Another good example of telepathic exchange between human and inanimate nature, can be found in people who possess what we call a green thumb. Everything grows abundantly for them, for while they are planting they unconsciously commune with the soil and the seedlings. You will notice these people know each plant intimately, pointing with pride to those which are thriving, and feeling concern for the plight of the sickly.

146 人間と無生物との間のテレパシー的交流のもう一つの良い例は、いわゆる園芸の達人とされる人々に見出すことができます。それらの人々の為に全てが豊かに育ちますし、彼らが植えている間も、彼らは無意識に土や種と会話します。皆さんはこの人々が親しく個々の植物を知っており、すくすく育つもの達を誇らしく指差し、また、病いの苦境にあるものに対しては気に掛けていることに気付くことでしょう。

【解説】

本項に関連して思い出すのは、ルーサー・バーバンクのことです。エジソンと同時代の育種家バーバンクの業績については、日本でもトゲ無しサボテンは有名ですし、他にもアイダホポテトやシャスタデージー等々が知られているところです。

植物と話が出来ると称されたこの育種家の著作は、日本でも戦前であったかと思いますが、"Training of Human Plant"（現在では"ヒト科植物の育て方"として発刊されています）が出版される程、注目されたときもありました。そのバーバンクは無数の植物の苗から最も適したものを瞬時に選び出し、交配させて次々に新しい品種を造り上げて行ったとされています。おそらく、その行動は本項で説くように、生物・無生物に係らず、相手と意思疎通が出来た人であった筈です。

同様に実は私達自身も幼年期はこれら植物達と意思疎通を行っているように思えてなりません。何処の幼稚園や小学校を見ても、皆、元気に花を咲かせる植物達が立派な姿を見せているのには、不思議な感じがしていたからです。

幼稚園その他の脇を通るたびに、例外なく豊かな花をつけている木々を見ることが出来るのは、園児達の素直な心と植物達が共鳴している姿のように思うからです。こうした高品位の想念のある所には、自ずと高品位に植物が育つということでしょう。

147 Though the person is not aware of using telepathy in this instance, the inanimate manifestations of the plant world definitely respond to the love pouring out from the mind of the individual. This phase of telepathy is little understood and almost never used consciously by Earthlings, for its application calls for a thorough knowledge of man's unity with nature. It is just as easy to exchange mental impressions with plants, vegetables, trees, minerals, etc., as it is with another human being.

147 その人物はこの場合、テレパシーを用いていることに気付いていませんが、植物世界の無生物的造形物はその個人の心から注がれる愛情には断固として応えるのです。この側面のテレパシーは地球人にはほとんど理解されておらず、これまでもほとんど意識的には用いられて来ませんでした。何故なら、その応用には自然との人間の一体性についての完全なる知識が必要となるからです。植物や野菜、木々や鉱物と心の印象を交換することは、他の人間の場合と同様に簡単なことだからです。

【解説】

古来の人々は自然界の全てのものに自分と同等の人格を認め、親しんでいたように思います。米国のインディアン、豪州のアボリジニー、更には北海道のアイヌ等、数多くの民族がその伝統を伝えているところです。

"山川草木、皆神宿る"とするように、私達の祖先もまた、自然界に人格を見出し、敬っていたと言えるでしょう。

これらはいずれも、本項では原子・分子に遡る微小な存在が各々知性を持ち、意思を有すると教えています。私達の愛でる想念に対して植物達はそれに呼応し、ますますその美しさを表現して呉れることになるという訳です。

各自の感じ取る想念と同期してその者を取り囲む環境が呼応した変化を遂げるということにもなります。従って自分が正しい本来の道歩んでいるかどうかは、本人が一番良く分かることになります。精進が進むにつれて、良い環境が否応なしに出現することになるからです。

148 Before going further, I believe it would be well to discuss the importance cell impressions play in our lives. To do this, we should have some understanding of the physical composition of both tangible and intangible manifestation.

148 先に進む前に、私は私達の生活の中で細胞の印象が果たす役割の重要性について論議した方が良いと考えています。そうする為には私達は有形及び無形の創造の現れに関する物理的な構成について幾分かの理解を得ている必要があります。

【解説】

私達自身の生命維持が、これら微小な肉体細胞や腸内に生きる多くの細菌によって遂行されています。細胞にしても細菌にしても直接目で見ることは出来ず、観察する為には高性能の顕微鏡を用いる他ありません。

これら目に見えない存在ですが、この微小な生きもの達は、整然とした一連の活動を行いながら私達の生命を支えて呉れています。食物が口から摂取されてから排泄されるまで、体内で行われている諸反応は皆、これによりますし、それらの活動が無ければ私達は1日たりとも生きて行けないのです。

このように微小な生命体が私達を支えている訳ですが、私達はその存在にほとんど気付いておりません。自分が毎日生活していることを当たり前のことと思っています。しかし本項で説くように、全てのものはそれが現れる為には、目に見えない段階の世界における積極的な活動があり、それらが結実した結果として、目に見える大きさの創造が達成されることに私達は気付かなくてはなりません。全ての結果は、より微小な存在の働きかけが継続してはじめて生まれ出るのです。

149 The average person is generally little concerned with the composition of space, for he conceives it to be a vast void existing between planets. The suns, planets and planetoids visible to the eye, he recognizes as form; but the space between these bodies appears to him as nothingness. However, our scientists know that space is a sea of activated attracting and repelling force, always in motion.

149 通常の人は一般的に宇宙空間の構成にはほとんど関心がありません。何故なら宇宙空間は現存する惑星の間にある膨大な空（カラ）の空間だと考えているからです。太陽や惑星それに小惑星を形あるものと認識していますが、それら天体の間の空間は何も無いように見えているのです。しかしながら、私達の科学者は宇宙空間は活性化された吸引と反発の力から成る海であり、常に活動状態にあることを知っています。

【解説】

よくある言い伝えに、"空中から何かを出現させた"等々の話があります。普通考えれば"有り得ない"とするところですが、中にはあながち嘘ではないと思われるような事例もあるようです。

実は私達を取り囲む空間には、様々な分子・原子が詰まっているといえれば驚かれる方も多いのではないのでしょうか。しかし、1辺1mの立体の中には質量1キログラムの物質が詰まっていることはよく知られているところですし、空間に分子・原子が詰まっていなければ、飛行機の翼で揚力を得ることも出来ないのです。

さて惑星を生み出す宇宙空間については、更に多様な分子・原子が詰まっていると考えるべきでしょう。むしろ、宇宙空間の圧力によって天体が球形に形成されているのかも知れません。

このように肉眼では何も無いように見える所にも、多くの分子・原子があり、創造の命令に従っているということです。各自の放つ想念・印象に対して、これら空間で待機している分子・原子が呼応することは十分考えられる訳です。

150 When man gives any thought to material substance, he is very likely to accept the image given to him by those organs of deception, the eyes, which hold to the solidity of matter; so he believes a vast difference exists between matter and space. Yet, in the laboratory we have discovered that form is not solid; but may be likened, as one writer expressed it, to a mass of soap bubbles.

150 人が物質的な物に何らかの想念を与えようとする時、人は欺く器官、即ち物質の固体性に執着する眼によって与えられたイメージを受け入れ易いものです。その結果、人は物体と空間とでは莫大なる差異があると信じているのです。しかし、それでも実験室で私達は形あるものは硬いものではなく、ある作家が表現したように、形あるものは石鹸の泡の塊に似ていると表現できることを発見しているのです。

【解説】

本項を極論すれば、私達が見ている全てのものには実体がない単なる泡のようなものだということです。既に私達は原子は太陽系のようなもので、中央の原子核に大部分の質量があり、その周囲を惑星と同様に電子が周回し、雲のように取り巻いている原子モデルを学んでいます。即ち、私達が触れているのは、この周囲の空域であるのです。

目には様々な色や形が見えますし、多様な変化を認める訳ですが、本質的にはこのような泡であり、そのほとんどが空間であるというのが真実の姿だということです。

このように本項で説かれている教えは、実は般若心経で説く"空"の概念と同じです。全てのものの本質は空間であるとするこれらの教えは源を一にしていることに私達は注視し、仏陀も同じ他惑星文明に起源を持つことに気付かなければなりません。

151 Every form is composed of definite measurements of space, surrounded by energized particles of force. All substance is made up of these tiny units, which we call atoms. An atom may be compared to a miniature solar system containing a central sun, around which, in definite orbits, revolve negative electrical charges, or units of force. The central sun, or nucleus of the atom, is a positive charge; equaling perfectly the total number of electrical charges revolving about it.

151 あらゆる形あるものは、周囲をエネルギーを持った粒子群によって囲まれた特定の寸法を持った空間によって構成されています。全ての物質はこれら微細な単位から成り立っており、それらを私達は原子と呼んでいます。原子は中央に太陽を持ち、その周囲の特定の軌道をマイナスの電荷あるいは力の単位が周回しています。中央の太陽、あるいは原子核はプラスの電荷であり、その周囲を回る電荷の全数と完全に等しいのです。

【解説】

全て形あるものは原子からなり、その原子は太陽系に相似するという訳です。マクロの宇宙もミクロの世界も同一の原理が貫いているということでしょう。こうした中、私達は自分自身も含めて形あるものは皆、同じ構成であり、外周の形は物質を形づくる電子の力によって形成されているのです。私達が美しいのだ、形がどうのと言っている、皆同じ構成要素から成り立っているのです。

おそらくそれら物質の基本構成要素の中で最も重要なのは、"核"と呼ばれる部分ではないかと考えます。細胞で言えば細胞の核であり、その細胞の遺伝情報を含んでいます。その延長で言えば、原子の核についてもより大きな意義があるのではないかと考えられます。これらから分かるように、原子核を勝手に解体させる等の核分裂操作は、膨大なエネルギーが出る一方で、私達が理解出来ていないような、より大きな問題をもたらしている可能性があるように思います。

152 The cells of manifestation are composed of manifold combinations of these atoms. All matter, ranging from the most dense, or what we call mineral, through the varying stages of form until we reach space itself, is composed of these tiny electrically charged atoms vibrating at different rates. So you see, contrary to the information received through the physical senses, form is merely space surrounded by inconceivably small particles of force. Yet it is the action of these tiny units that produces all visible and invisible phenomena. Manifestation is born out of the potential force, or basic vibration within the atom, which, through the law of affinity, forces the particles to unite.

152 創造物の各細胞はこれら原子の多岐にわたる組合せから構成されています。最も密度が高く私達が鉱物と呼んでいるものから、私達が宇宙空間自身に到達する様々な形からなる段階を通じて、全ての物質は各々異なる速度で振動している小さい荷電した原子から成り立っています。ですからお分かりのように、肉体の感覚を通して受けた情報に反して、形あるものは想像も付かない程小さくフォースを持った粒子によって囲まれた空間に過ぎないのです。しかし、全ての目に見える、あるいは見えない現象を造り出すのは、これら微小は単位の活動なのです。創造はこの潜在力あるフォース、即ち原子の内側の基本的な振動から生まれますし、それは親和の法則を通じてそれら粒子に結合するよう働き掛けます。

【解説】

以前読んだ本に原子の質量のほとんどは中央の原子核にあって、周囲の空間を形成する電子にはほとんど質量がないとされていたことを思い出します。（原子核を構成する陽子や中性子の1800分の1程度）つまり、私達が触る物質は電子が形成する空間に触れているに過ぎません。

原子の最外郭の電子が形成した空間の境目を私達は物体と認識しているのであり、そのほとんどは空間な訳です。それら空間が集積し、結合し合って様々な物体が形成されていることになります。

またそうであるならば、これら原子達は何か原子達に指令する存在の意図或いは意思に従って、それぞれの物体を形作っているに違いありません。

153 Primal Matter, the Mother principle of creation, preceded form . . . and is indestructible! Through the law of attraction and repulsion the tiny atoms composing matter are gathered together to build a form; but eventually that form will disintegrate and the atoms will be set free, to be used again in manifesting yet another form. For, "dust thou art, and unto dust shalt thou return," Gen. 3:19.

153 創造の母性原理である原始の物質は形に先立って存在し、それは不滅のものです。吸引と反発の法則を通じて物質を構成する小さな原子は形あるものを作り上げる為、集められているが、いつかはその形あるものは分解し、その原子は自由にされます。更に別の形あるものを再び現出するのに用いられる為に。何故なら「汝はチリゆえにチリに帰る」（創世記第3章19節）からです。

【解説】

何かが創造される時には、様々な要素がその創造作用に向かって集積し、新しい形あるものを形成します。春の芽吹きはその動きの早さに驚かされるものです。以前、竹林で竹の子を見たのですが、1時間ほどの間にも何センチか伸びたように思えたものです。

春は創造の季節でもあります。その間に内部で起こっている創造の出来事は実に大規模で活発なものとなっています。これらはいずれも一度、分子原子が活動期になると驚くべき速さで創造作用が生じるのです。

このように創造を担う分子原子ですが、やがてその役割を終えれば次なる創造への準備としてその物体を崩壊・解放します。私達自身もこれら一連のサイクルの中の一コマとして生かされているのです。

154 Our gardens furnish a very understandable example of this law in operation. The flower matures, broadcasts its seed, then dies. Through decomposition, the plant will return to the dust from whence it came; thereby releasing into the soil and the atmosphere, the atoms which once formed its body.

154 私達の庭はこの法則が働いている大変分かりやすい例を提供して呉れています。花々が円熟し、その種を散らすとやがてそれは死にます。分解を経て、その植物はそれが生まれたチリに還ることでしょう。その結果、かつてその身体を形づくった原子群は土や大気に解放されるのです。

【解説】

このように分子・原子が私達の身体も含め、あらゆる生きものを形作り、その生存を担う一方、その生きものの役割の終わりとともに再び元の状態に戻り、次なる創造に備えるという訳です。このように外見上は万物は消長を繰り返し、変化するもののように見えますが、実際にそれを担う分子・原子達の存在は変わることはありません。何ら変化することなく、各創造物の一員であった時の経験を積むのです。

即ち、万象を分子・原子のレベルで見れば、それらは知性を保ち、一糸乱れぬ調和の下、行動をとる等、驚くべき活動を行っています。膨大な数の個体が一斉に同期した行動をとる等、法則の実現を担っているのです。

これらの状況を古来の人々は山川草木万物に神宿ると洞察していたものと思われれます。季節の移り変わりの中で繰り返す植物や動物の死と復活の様子から、私達は本項の内容を学ぶ必要があります。

155 Let us now sow a totally different species in the bed. These new seeds will draw their sustenance from the soil enriched by the decomposition of the first plant, and in so doing they will use the very atoms that once made up that plant. Therefore, these same atoms are now bringing a new form into manifestation, yet basically, they have in no way been changed.

155 今度は苗床に全く異なる種のタネを播いてみましょう。これらの新しいタネは最初の植物の分解物によって豊かになった土壌から自分達の滋養分を取り込むことでしょう。また、そうする中で、それらは以前の植物をかつて作り上げた同じ原子を用いることになるのです。それ故、今やこれら同じ原子が新たな形あるものを現出させており、しかも原子は基本的に何ら変わっていないのです。

【解説】

本項は庭の枯れ草で作った堆肥がやがて腐葉土となって庭土を豊かにし、そこに蒔かれた新たな植物を形成するという自然のサイクルの本来の意義を説いています。

私達の目にとっては確かに新しい花が育つことのように思えますが、その根本の所の原子は不変で、活用される植物の種が異なるだけだという訳です。

同様により広い目で見れば、この地球という庭にあらゆるものが、生存・死滅を繰り返し、絶えず循環の道の中で歩んでいることが分かります。従って重要なことは、これらの永続的作用を妨げるような要素を生み出さないことであり、この循環過程の中に有害物の濃縮その他を極力防ぐ必要があるのです。今日"持続可能"という言葉をよく聞きますが、その意義はこれら自然界における物質循環を大事にすることを意味しています。

156 So it is with Man. The atoms of his physical body-made from the "dust," or atoms of matter-have been used and reused throughout eternity. Thus, these miniature universes carry an indelible memory of the experiences they have participated in during each manifestation.

156 ですから、それは人間についても同じです。「チリ」、即ち物質の原子から作られた人間の身体の原子達は永遠の時を通じて、利用され、再利用され続けます。こうしてこれらミニチュアの宇宙（訳注：原子を指す）はそれらが各々の創造物での間、参画した諸体験について消し去ることのできない記憶を運ぶのです。

【解説】

私達の身体には60兆個もの細胞があるとされていますし、その一つ一つの細胞はこれまた膨大な数の分子・原子によって構成されている訳です。この膨大な数の原子は各々の創造物を担う中で体験を積んでいるとすれば、宇宙開闢以来の長い歴史を各原子は知っていることになります。

これらの時間軸の下で見れば、私達各人の一生など、取るに足らない短い一瞬の出来事であり、私達自身が一生の間に体験することもわずかなものでしかありません。

こうした中、私達自身の中には、これら無尽蔵と言って良い程の知識を持った原子達が存在することは大変重要です。ほんの一瞬でもこれら原子達が保有する記憶にアクセスすることが出来れば、素晴らしい世界が開けることでしょう。私達各人は自分自身の中に膨大な図書館を保有しているのです。

157 This accounts for most of the so-called memories of previous lives. A person may receive an impression that he once lived on earth as Julius Caesar, and his ego will be inflated. But in reality, a few cells of his body may be composed of atoms which were once present in the body of Caesar.

157 このことはいわゆる前世の記憶と呼ばれるものほとんどに当てはまります。ある人は自分がかつてジュリアス・シーザーとして地球に生きていたという印象を受けるかも知れませんが、そのことでその者のエゴは増長させることでしょう。しかし、実態はその者の身体の細胞のわずかがかつてシーザーの肉体に有った原子から構成されていたに過ぎないのかも知れないのです。

【解説】

一方で私達がこのような原子達の持つ記憶にアクセス出来るレベルまで発達した場合でも、本項に説かれているような注意点が必要であるという訳です。

とにかく私達は自我を高めることに執心しがちです。ほんのわずかの原子が本項で例示されるような著名人を構成した体験を所持していたとしても、それは私達の自我とはあまり関係はありません。感受した印象を自我のプライドを高める為に利用すべきではないのです。

テレパシー学習を進めるにつれ、私達は感受性を高めることにはなりますが、そこにも課題はあり、自我を有頂天になって高慢になるようでは、テレパシー能力を得たために却って問題を抱えることになってしまいます。

そうした意味からも私達は注意深く創造主に誠実に一步一步、精進の道を進む必要があるのです。

ご連絡 [2019-04-26]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

連休中及びその後5月10日頃までは、都合により更新が不規則になりますので、ご了承下さい。

4月26日
竹島 正

158 Over the years I have made an interesting observation regarding these "memories." It is indeed rare to find an individual who claims to remember being just plain Mr. Average Citizen. These memories-which in many instances can seem very real-usually involve illustrious persons; everyone from the high priests who officiated at the initiation ceremonies in the Great Pyramid, to more recent characters of history familiar to us all. The vast majority of these are not even cell memories . . . they are simply man exalting his ego.

158 何年にもわたって、私はこれら「前世の記憶」に関して興味深い観察を続けて来ました。全くのところ、自分が只普通の一般市民であったことを覚えていると言う個人は珍しいのです。多くの場合に大変リアルに見え得るこれらの記憶には、通常著明な人物が含まれており、偉大なピラミッドの開始儀式を司祭した高位の僧侶から、新しくは私達全員が良く知っている歴史上の人物までが含まれています。これらの大多数は細胞の記憶どころではありません。それらは人を増長させる自分のエゴの為せるものです。

【解説】

私達が心しなければならぬのは、テレパシー能力、即ち印象の感知力が高まるにつれて、その高まった能力を正しく用いることであり、決して他人への優越感の道具として用いてはならないことです。ましてやほんのわずかの断片的印象を得たとしても、それば自身を高める為に利用されるのであれば却って逆効果になるという訳です。

多くの場合、自身が少し階段を登れたからと言って、その差は微々たるものであり、自我を高めてしまえば、すぐに下落すること間違いありません。自らを創造主の前に謙虚にさらけ出してその不遜を詫びるのみです。

このように多くの困難がある道程ですが、独り創造主に誠実に自らを戒めて生きる道はゆっくりでも確実な歩みになるのです。

159 But to return to the true cell memory; because all manifestation consists of atoms, which, through creation and recreation are used and reused to make forms, the interrelationship between all things is self-evident. The atoms which now make up your physical body, previously contributed to the construction of innumerable other bodies and forms. And like the cells of the dwellings mentioned earlier which were impregnated with the vibrations received from the occupants, the cells of the body will carry memories received from each manifestation.

159 しかし、真実の細胞の記憶に戻れば、全ての創造物は原子から構成されており、それら原子は創造につぐ創造に何度も再活用されている為、万物の間に相互関係があるのは自明のことです。今や貴方の肉体を作り上げている原子達はかつては無数の他の肉体や形有るものの建造に貢献して来ました。そして以前述べた住居の細胞のように、占有者から受け取った振動を染み込ませており、肉体の細胞も個々の創造物から受け取った記憶を運ぶのです。

【解説】

原子の一つ一つが実は想念を記憶するという事は重要なポイントです。これまでの私達の常識からは考えられないことですが、例えば今日の地球の技術レベルでも、デジカメや携帯の中のほんのわずかの素子の中に長時間の動画も記憶される時代となっており、原子の中の周回電子の波動の中にこれら記憶が書き込まれることも十分有り得るものと思われまます。

これら原子の記憶を理解することが出来れば、私達はこの宇宙の成り立ちや歴史についても多くを学ぶことが出来る筈です。私達がテレパシー能力を身に付ける意義はこの点にあると言えるのです。

私達は自身の中から必要な知識を引き出して、人々の役に立つ成果を出すためにテレパシー能力を活用すべきであり、その道程に個人の栄誉は関係ないのです。何故なら、その成果はこれら微小な原子達の持つ記憶に由来するからです。

160 The Living Soul, given to man when the Creator breathed the breath of Life into his nostrils, does carry the True Book of Remembrance; but few who have lived, or are now living on earth, have as yet evolved in understanding to the place where they may read. True, on rare occasions we may be given a glimpse of a word here and there, and with understanding can interpret these correctly. But since most Earthlings have not yet learned sufficient control over the sense-mind, more than a brief glance cannot be vouchsafed them.

160 創造主が人の鼻の孔の中に生命の息を吹き込んだ時、人に与えられた生ける魂こそが真実の記憶の書を運んでいます。しかし、地球にこれまで生きて来た、あるいは現在生きている者で、その者達がそれを読み取る場所まで理解力を発展させた者は極くわずかです。真実の所は私達はまれにそこここで記載されている言葉の一瞥を与えられ、理解力により、これらを正しく解釈することが出来るかも知れません。しかし、ほとんどの地球人が感覚心に対する十分な支配を学び取っていない為に、わずかの一瞥以上のことを与えられることはないのです。

【解説】

実は私達がこの世に生を受け、呼吸を始めた時に与えられた「生ける魂」こそ、真の記憶を保持するものだと本項で著者は説いています。つまり、私達自身も、個々の原子と同様、あるいはそれ以上に各自の体験の記憶の集積体を誕生の度ごとに引き継いでいるということでしょう。

しかし、これら各自の記憶の書も残念ながら中身を見ることは現状、容易ではないのです。私達があまりに既存の感覚に支配されているために、それらに同調することが出来ずに居るという訳です。

このように私達自身が自分の生命本体の中に記憶を保持しており、死を迎えてもその先の転生に記憶が継承されるということなのです。テレパシー探求は私達自身を知ることでもあるのです。

CHAPTER II

Impressions From the Body Cells

161 Some may point to the fact that the cells of the body are constantly changing. How, therefore, is it possible for them to retain their memory?

第2章

肉体細胞からの印象

161 肉体の細胞は常に変わっているという事実を指摘する人もいるでしょう。それ故、どうやって細胞達が記憶を保持することが可能となるのかと。

【解説】

前章まで私達は私達の身体を構成する究極の構成要素である原子が記憶を保持することを学びました。それ故、身体全体としての記憶はどのように保たれるのだろうかというのが、次の質問になる訳です。本項を通じて、私達はその仕組みを学ぶことになるのです。

これまでの知識からも人間はおおよそ6年周期で新しい細胞に入れ替わる程、新陳代謝が早いとされています。つまり、自然の活動であるこれら肉体の働きはかくも活発なのですが、私達自身、即ち自我（エゴ）と称される部分は10年1日のごとく頑なに進歩がない存在ではないでしょうか。本来であれば私達の精神活動もこれら自然の代謝活動と同レベルになれば、もっと早く自我も進歩し、活動的になるものと思います。

162 In man, as in the flower bed, the same atoms merely form new cells. Remember the law of affinity, the action of attracting and repelling, is the foundation of the universe. And these tiny atoms, so complete in themselves, obey unquestioningly the Cosmic Intelligence which, through the Mother principle, Matter, has brought them into being. They do not lose their individual identity, but rather, add one more experience through the new manifestation.

162 人においても花壇におけるのと同様に、同じ原子群が新しい細胞群を形成するだけです。親和の法則、即ち吸引と反発の作用が宇宙の基礎であることを忘れないで下さい。そしてこれら微細な原子達は、それら自身が完璧である為、宇宙英知に疑問を挟むことなく、従い、母性原理である物質を通じて生を受けています。それらは自らのアイデンティティを失わず、むしろ新たな創造を通してもう一つの体験を加えるのです。

【解説】

原子一つ一つが記憶を保持するという事柄は、単に分散する原子各々に想念が記録されるということではありません。膨大な数の原子達が時々の宇宙的な意図に従って互いに結合し、物体を構成する中で、その個体を通じて発信される想念波を同調・記憶することが重要なのです。

おそらくは鐘楼の釣鐘の音の振動が釣鐘を構成する銅の原子の全てに染み渡るように、私達各自の発する想念は私達の身体各部を構成する原子に等しく行き渡るものと思われます。

こうした想念に晒された原子は良くも悪くも私達の自我（エゴ）と同じ体験を積むということになるのです。従って日々高品位な想念を保つことは、これら原子達の最上位に位置する私達の最も重要な役目ということになります。

163 Atoms are endowed with alertness or awareness, and through feeling, can impress their messages upon man's mind. For instance, we may be strolling down a lonely road, or hurrying along a busy street; the mind occupied with its own thoughts when, through feeling, we become aware of someone staring at us. As yet the eyes have not seen this person, nor was the preoccupied mind aware of his presence until feeling alerted the brain. It was the cells of our body, responding to the directed thought from the other person, that alerted our mind to his fixed attention upon us. This same alertness can be awakened in us by the gaze of any living form.

163 原子達には警戒即ち、知覚力が授けられていますし、フィーリングを通じて自らの伝言を人間の心に印象付けることが出来ます。例えば、私達が人気（ひとけ）のない道を歩いている、あるいは賑やかな街路を急いでいるとします。心はそれ自体の想念によって占められていますが、フィーリングを通じて誰かが自分達を見詰めていることに気付きます。目はこの人物を見ていませんし、印象が頭脳に警告するまで、その存在に気付きませんでした。私達の心にその人物から私達へ動かない注目について警告したのは、その者から放射された想念に呼応した私達の肉体の細胞なのです。これと同じ警報は他の生き物の凝視によっても私達に知覚され得るのです。

【解説】

私達自身が気が付かなくても私達の肉体の各細胞あるいはそれらを構成する原子達が私達に向けられた想念を感受し、私達に通知して呉れるという訳です。私達は自身の生命のみならず、想念伝達の面からも私達自身の肉体細胞やそれらを構成する原子達に助けられているということでしょう。

このように肉体細胞の原子達は、私達に様々なアドバイスを伝令して呉れていることでしょうし、それらの伝言をしっかりと受け止めることが出来れば、アイデア豊富な存在になること間違いありません。

基本的な要件は私達自身がこれらの静かなる助言を素直に受け入れ、行動することであり、それら印象に従ったことによる成功体験を積むこと、自分の日常的な精神状態をその受信を行った状態に維持することです。

164 What has this to do with telepathy? It is a very good illustration explaining one phase of telepathic communion between man and the body cells, or man and nature. Following is another in which I was a participant.

164 このことはテレパシーとどう結びつくのでしょうか。それは人とその肉体の細胞との間や人と自然との間のテレパシー的な意思疎通の一側面をととても良く表わしている例証と言えます。以下は私が当事者となったもう一つの事例です。

【解説】

このようにテレパシーとは単に人との無言の会話術などというようなものでなく、遥かに広範囲な印象伝達を意味しています。自身の身体細胞から周囲の自然まであらゆる存在と印象を交流する径路となるのです。

従って、私達がテレパシー能力、即ち想念・印象の感受力を進化させることが出来れば、自分自身も含めて身の回りで起こる事象を事前に察知したり、今まで気付かなかった自然の生き生きとした鼓動の様子等に気付くようになりますし、益々自然の造形美やその調和性に気付くこととなります。

その結果、私達は各自が恵まれた環境の中に生かされていることに感謝し、これまで生きて来た先人達の業績にも実感を持って気付き、感謝することになるのです。その結果、桜の花を愛で、木々の新緑に見とれる古くからの日本人の自然に対する姿勢に落ち着くように思えるのです。

165 A number of years ago an acquaintance who had been feeling unwell, consulted a doctor. The doctor's diagnosis was that she was suffering from a serious heart condition, and that her teeth were so badly infected they would all have to be extracted. Naturally, she was very distressed by the diagnosis; and came to discuss it with me, asking for advise.

165 何年も前のことですが、長く気分が良くないと感じていた一人の知人が、医者にかかりました。その医者の診断は彼女が深刻な心臓の病を患っていること、また歯は細菌によりひどく感染している為、全て抜かなければならないだろうというものでした。当然のことながら、彼女はその診断によって大変心を痛め、助言を求めて私の所に相談に見えたのです。

【解説】

本例のように、アダムスキー氏のもとには生徒や知人など多くの人から相談事が寄せられていました。同乗記その他の著作の署名に"Professor"と記されていたのは、アダムスキー氏のこのような人生の導き手、教師としての長年月の活動があったことに由来しています。

このように悩める者、迷う人をより安定した道程に引き上げ、導くことは古来、多くの宗教指導者が行って来たことであり、このような事例をつうじて、人々の抱える問題点や課題を知ることによって、氏の哲学教義が私達現代の一般人に適したものになって行ったということでもあるのです。

もちろん、既に多くを学んだ私達は、今度は後に続く者を導く役割を果たさなければなりません。周囲に課題を抱えている同胞があれば、積極的に相談相手になり、その者が光明を見出せるよう、陰ながら応援することが大切です。

166 The woman's mind had been deeply impressed with the idea that her heart might falter and stop at any minute, and that her teeth were ulcerated beyond medical help. Remember, these were the thoughts she was holding uppermost in her mind when she consulted me. Yet, I received a definite impression from the heart that the action of that organ was normal; and I could detect the presence of only a slight infection in the cells of the mouth. Therefore, I informed her that her heart was perfectly normal, and there was nothing wrong with her teeth except for a slight infection of the gums, which could be eliminated with proper treatment. I did not acquire this information by visible means, for I am not a doctor and I made absolutely no physical examination. The diagnosis-if you wish to call it that-was the result of thought-transference from her body cells to my mind.

166 その女性の心は自分の心臓は何時、ふらついて止まるかも知れないことや、自分の歯が医療の手当てが及ばない程、潰瘍が生じているという思いに深く印象づけられていました。これらは彼女が私に相談した際に心の中で真っ先に抱いていた想念でありました。しかしそれでも、私は彼女の心臓からは、その器官の働きは正常であるという確固たる印象を受けました。口の細胞に若干の感染があることを感知しただけでした。それ故、私は彼女に彼女の心臓は完璧に正常であり、歯茎にわずかの感染箇所がある他は、彼女の歯には何も悪い所は無く、感染箇所も適切な処置によって取り除けることを伝えました。私はこの情報を視覚的手段で得たものではありませんでした。何故なら私は医者ではなく、どのような物理的な診察を行ったのでは決してありません。それを診察と皆さんが呼ぶというのであれば、その診察は彼女の肉体の細胞から私の心への想念移動の結果であったのです。

【解説】

確かに想念・印象の取り扱いはある意味やっかいなものです。本事例の場合、本人の謝った想念に固執するあまり、事実と全く異なる世界の中に本人は生きることになってしまいました。誤った想念に固執することが本人に如何に多大な損失をもたらすことになるか計り知れません。

この事例では、優れた教師が正しい状況を洞察することが出来、本人は救われた訳ですが、多くの場合には師も無く、そのまま誤った方向に進むことの方が多いのではないかと懸念しています。

このような問題を避けるすべを私達一人一人が持つことは非常に大切だと考えます。重要なのは固執する想念を解き放ち、自ら自身の身体から発する想念や自然の中の他の生きもの達が発する調和のとれた想念・印象を積極的に同期同調することです。自身の心の状態を落ち着いた自然と調和したものにすることで、自分の意見でなく真の宇宙的想念・印象の通り道に徹することが大切なのです。

167 This lady, still doubtful, went to a heart specialist who confirmed the impression of normal cardiac action I had received from the heart cells. She then visited a dentist, and the information I had received from the cells of her gums was substantiated, for, after taking X-ray pictures, he assured her the infectious condition could easily be cured by a few weeks' treatment.

167 この婦人はそれでも疑って、心臓の専門医の所に行ったところ、その専門医は私が得た正常な心臓の動きの印象を確証しました。彼女は次に歯科医を訪れ、私が彼女の歯茎から得た情報が実証されたのです。何故なら、レントゲン写真を何枚か撮った後、その歯科医が彼女に感染状態は数週間の治療で容易に治ると彼女に保証したからです。

【解説】

この事例の当人は自身の肉体の状況について全く理解出来ていなかったという訳です。本来は60兆にも及ぶ各細胞を統括する者として、私達は自身の肉体の状況を把握していなければならない訳で、それすら十分に行えていないのです。

しかし、実際には私達自身も同様なレベルにあります。自分自身の真の状況を把握できていないのです。多くは単に感覚器官を喜ばせる存在か否かで対象を評価し、不安定でしかない結果に一喜一憂するだけで、本来の落ち着いた精神状態を保てないのです。

これに対し、自分自身の正体を見極め、同時にその可能性を発現させるのは、これら細胞郡の頂点に位置する私達本来の役目です。自分自身が現在どのような状況を身体面、精神面の両面について探求し、落ち着いた本来の状況に持って行くことが望まれます。

168 This proves that thought can be transmitted from the body cells within a form, without the necessity of passing through the brain of the form as a conscious thought. If thought could only be produced through action of the brain cells, this knowledge could never have been revealed to me; for the woman's brain was broadcasting strong, frantic, thought-vibrations of serious disorder in the body.

168 これは想念は一つの意識出来る想念として形あるもの（訳注：肉体）の頭脳を通過する必要はなく、身体の中の肉体細胞から発せられ得ることを証明しています。もし想念が頭脳細胞の活動を通じてのみ作られるとしたら、この知識は私には明らかにされなかったからです。何故なら、その女性の頭脳は、身体の中の深刻な疾患状態についての強烈で気も狂わんばかりの想念波動を発していたからです。

【解説】

本項から、私達の身体細胞は常に心によって歪められていない純粋な想念・印象を絶えず発していることが分かります。私達は通常、頭でそれらの性質を歪めたり、無視したりすることで、多くの学習の機会を逃しているという訳です。

テレパシー能力とは本来、これら各自の肉体細胞からの訴えに耳を傾け、それらの情報を生かして行動することに役立てなければなりません。60兆の細胞から体内で起こっている状況の実態を知ることが出来れば、長寿は可能ですし、他惑星人の長老が千年を超える年齢を保つことも納得出来ます。

重要な点は、各細胞が永続する宇宙の原理、生命の法則に調和することでストレスや葛藤が消滅し、生命本来の生き方が出来るということであり、人間について言えば、各自の才能を各々の人生の中で開花させることにあります。想念・印象の感受力を高めることは、それに近づくことが出来ることでもあるのです。

169 Each atom making up the cells of the body possesses within itself the element of feeling-which is consciousness. Consequently, it is quite possible for the cells of one form, to convey the state of their activity to the cells of another form. When the cells of one body are impressed with vibrations from the cells of another body, the impulse is created in the nerve plasm and immediately carried through the afferent nerves to the brain, where it is decoded into a conscious thought. It may be difficult to accept the idea of cells as little conscious entities, capable of receiving and passing on vibratory impressions, or of forming their own messages; but experiments which have taken place in our laboratories have proved conclusively that all substance is possessed of consciousness.

169 肉体の細胞を構成する各原子はそれ自身の内部に意識であるフィーリングの要素を所有しています。したがって一つの形あるもの（訳注：肉体）の細胞群が他の形あるものに自らの活動の状況を伝えるというのは全くのところ、起こり得るのです。ある肉体の細胞群が他の肉体の細胞から来る振動を感受すると、神経の原形質に衝動が発生し、直ちに中枢神経を通じて脳に伝わり、そこで意識できる想念に解読されます。細胞が小さな意識ある実体で、振動による印象を受信し、転送する、あるいは自身のメッセージを作り出すとする概念は受け入れることが難しいかも知れません。しかし、私達の実験室で行われた実験では、あらゆる物質は意識を持つことを決定的に明らかにしているのです。

【解説】

ここでは更に踏み込んで各細胞を構成する分子・原子が各々フィーリング機能を有しており、それは意識でもあると解説しています。つまり、万物の究極の構成要素である原子自体が印象を介して意思を交流させることが出来る存在なのだということです。

このことはいわゆる生物・無生物を問わず、万物全てに知性があり、意識があることを意味しています。こうして鉛筆で原稿を書く間にも、鉛筆の先端部が紙面に残り、文字として記録される一方、筆者の意図を紙に記録するという役割を果たす中で、鉛筆の芯としての存在を終える訳です。これについて筆者はこれら鉛筆の芯に自分のアイデアを紙に記録して呉れたそれらの原子に感謝すべきことは言うまでもありません。

こうして見ると、毎日の自動車が走る中でガソリンが燃焼され、その反応エネルギーで乗用車が動き、人々を望む場所に移動させる等、いわゆる無生物の献身に私達は依存して生きていることが分かります。

170 For instance, living tissue taken from the body of a chicken has been kept alive for years without the aid of brain, spinal cord, or sense organs; not merely preserved but actively growing, or multiplying in cell composition. It is true that this tissue could not continue to live if it were not supplied with proper heat, moisture, and the necessary food; but if the cells of this living tissue were not conscious entities, how could they know how to assimilate the elements provided for their maintenance?

170 例えば、ひな鳥の身体から取り出した生きた細胞組織は、頭脳や脊髄あるいは感覚器官の助けがなくても、何年も生き続けられました。単に保存されたということではなく、活発に生育し、即ち、細胞分裂をし続けたのです。この細胞組織が適切な温度や水分、そして必要となる食物が提供されなかったとしたら、生き続けることは出来なかったのは確かです。しかし、この生ける細胞も組織が意識ある実体でなかったとしたら、どのようにして、それらは自分達の維持の為、提供された元素を取り込むことを知り得たのでしょうか。

【解説】

生体細胞が自立して生存できることを本項では述べています。つまり細胞自身が生命存続の為の知性を有している訳です。これにより、私達の身体各部もそれ自身である範囲において生命存続を可能としており、いわば他の器官とは独立してそれ自身の使命を熟知していることが分かります。

一方で、私達は最近の科学で、ブタに人間の臓器を作らせたり、鳥にワクチンを生成させる等、これら細胞の生命力を利用するようになって来ました。生命本来の機能を人間が利用するだけの存在として見るようになっているのです。

しかし、これらは生命に対する畏敬や慈しみとは懸け離れた姿勢のように思われます。人間が地球や宇宙の支配者であるとするおごりの下、利潤主義に紛れた科学という他はありません。

171 Every moment of our lives provides us with ample evidence of the intelligence of the body cells. While we go about our daily routine, these busy cells oversee the intricate functionings of our bodies. With no assistance from our conscious mind, they extract the essence of the foods we eat, parcel it out to the various parts of the body in proper proportions, and discard the waste. Admittedly, this is only what we have come to accept as a natural functioning of the body; yet when analyzed, it represents a miracle that man cannot duplicate. Does it not give us a wonderful insight into the workings of nature? And what is Nature but Cosmic Cause expressing Cosmic Intelligence?

171 私達の命の一瞬一瞬が私達にこの肉体細胞が持つ知性について有り余る程の証拠を提供しています。私達が日々の日課に出掛ける間にも、これら多忙な細胞達は私達の肉体の複雑な諸機能を見渡します。私達の意識ある心からは一つも援助を受けることなく、細胞達は私達が食べる食物のエッセンスを抽出し、それを身体の様々な部分に送り届け、老廃物を排泄します。明らかなところ、これは肉体の自然の機能として私達が認めるところです。しかし、分析すると、それは人間が真似することが出来ないような奇跡的なことであることを表わしています。それは私達に自然の諸作用に対し、素晴らしい洞察を与えているのではないのでしょうか。また、自然とは宇宙的英知を表現する宇宙的因以外の何者でもないことについてです。

【解説】

私達の心以上に私達の身体細胞が生命維持に関して知識を持ち、身体全体と調和して作用させていることは、本項に記されているように毎日の食事の後の摂取した食物の消化や身体各部への栄養素の配布、更には廃棄物の排泄等々の作用から良く分かります。

これらの各過程の内、私達の心が関与するのは食物を口に入れてから呑み込むまでのわずかな期間でしかありません。それも味覚や嗅覚等、感覚器官の勝手な意見に左右されている訳です。

私達は食物を飲み込んだ後、自分の体内でそのような変化を遂げているか等、全く関心がありませんでした。しかし、それらの動き無くして自身の肉体の維持は困難です。ご自身の健全な身体維持の上からも、自信の肉体で起こっている諸活動について、もっと私達は関心を持つべきだと言えるでしょう。

172 While our minds cannot consciously direct each detail of the complicated workings of the body - we must depend upon nature for this - through our mental attitudes we do wield a tremendous influence over these operations. If we are serene when we eat, the digestive processes are orderly; but if the mind is agitated by thoughts of anxiety or anger, the little cell chemists of the stomach and intestines will be thrown into confusion. This will result in an unbalance in the glands producing the gastric juices, and indigestion will follow. Because the digestive processes were unbalanced, the second group of little chemists, those responsible for controlling the gas, cannot perform their duties properly; and excessive gas will form, often settling around the heart. Since the waste matter was not fully digested, the third group, those responsible for elimination, will be unable to function properly.

172 私達の心は、このことを自然に対して依存しなければならず、意識的に肉体の複雑な作用の個々の詳細を指示することは出来ない一方で、私達の心の態度を通じてこれらの作用に対しては途方も無い程の影響を行使しています。もし、私達が食事する時、穏やかであれば、消化の過程は整然と行われます。しかし、もし心が不安や怒りの想念によって掻き乱されていると、胃や腸のそれら小さな化学者達は混乱の淵に投げ込まれてしまいます。これにより、胃液を作り出す分泌腺にアンバランスをもたらし、消化不良となります。消化の過程がアンバランスになった為に、ガスの制御を担う二番目の小さな化学者達は自分達の任務を適切に実行出来ず、余分なガスが生成し、しばしば心臓の周囲に溜まります。老廃物が完全には消化されない為、排泄を担う第3のグループは機能を適切に果たせなくなります。

【解説】

本項は私達の身体の中の様々な活動について説明しています。毎日、私達が口にした食物がその後、体内で消化吸収が起こり、最終的に不要物として排泄されるまで、私達の心はどのようなことが起こっているのか、全く知らないのですが、実際には本項に記されているように様々な反応と人体各部の器官が連携して整然とした諸反応が行われています。

つまり、それらの諸反応が調和して遂行されて初めて所定の消化吸収が行われる訳で、私達の心が不安定であったりする等、これらの反応を妨げる場合には、消化不良その他の不調を引き起こすと説いています。つまりは、私達の心がこれら自然の諸活動を妨害しているという訳です。

このことから分かるように、私達自身の生命を永続させる為にも、心はこれら体内の宇宙的諸活動に耳を傾け、これらを妨げるような低次元の想念を発することは厳に慎まなければならないということです。自身の敵は自身の心にあるという訳です。そしてこの心を訓練することこそが、私達の生きる上での最大の課題であるのです。

173 This unnatural condition in the digestive system is the direct consequence of the strong thought vibrations of anger or anxiety impinging upon the body cells, and if continued long enough can cause serious and lasting bodily damage. Science has definitely proved that anxiety and tension can terminate in neurosis, ulcers, etc. So here is evidence that the sense-mind can bring suffering upon itself, the physical man. There is great truth in the saying, "As ye sow, so shall ye reap." for it is applicable not only to our morals, as most people interpret it, but to every facet of our lives.

173 消化システムにおけるこの不自然な状況は、肉体細胞に衝突して来る怒りや不安の強い想念の直接的な結果であり、もし長く続く場合は、深刻で続く肉体の損傷を引き起こす可能性があります。科学ははっきりと、不安や緊張はノイローゼや潰瘍を起こして終結することを証明しています。ですからここに、感覚心が自分自身、即ち肉体としての人間に苦痛をもたらす得ることの証拠があるのです。「播く種は刈り取らねばならない」ということわざには、偉大な真実があるのです。何故なら、それはほとんどの人が解釈するような道徳ばかりでなく、私達の生活のあらゆる側面に適用できるものだからです。

【解説】

これまでも私達は過度なストレスによって胃潰瘍になった等々の話を聞いています。本項は私達の肉体に対し、私達自身の抱く想念が真っ先に作用することを説いています。良い想念は良い結果を、誤った想念はそれを反映した状況を造り上げるということでしょう。

それ程に私達の放つ想念は私達の身体細胞にも直接的に作用するという事です。このことは私達人間が本来の性質を発揮させることを、エゴと呼ばれる自分が長年妨げて来たということ事です。本来は生まれ出た赤ん坊が柔軟・素直で本来の美しさを表現出来ているのに、長年月生きて来た老人に老いの醜さが多く表れることを裏付けています。

その点、大自然の中の動植物は違うように思います。彼らは確かに老いはしますが、見苦しくなく、そっとその生涯を終えるように私には思われます。生まれてからどのような時間を過ごしたか、宇宙的波動に同調できていたかどうか、その最期の姿は語っているものと思います。

174 Stop and study yourself impartially. Do you rush about, your body a quivering mass of taut, jangling nerves? Is your mind racing ahead to all the things you feel you must accomplish? If so, you will find every muscle in your body is tense. At the end of the day your body and mind will be fatigued. Even sleep will not bring repose if the mind is not at rest, and in time nature will rebel against your continuously breaking one of her fundamental laws. For when your body and mind are tensed and worried, the cells will not function properly.

174 立ち止まって、片寄らずに自分自身を研究することです。貴方は自分の張り詰めて苛立つ神経の塊になった身体を急ぎ立ててはいませんか。貴方の心は貴方が成し遂げなければならないと感じる全ての物事に向かって、駆け出してはいませんか。もしそうであるなら、貴方はご自身の肉体のあらゆる筋肉が緊張していることに気付くでしょう。一日の終わりには、貴方の肉体と心は疲れ切っているでしょう。もし、心が安静になっていなければ、睡眠も休養をもたらすものとはならないでしょうし、また、やがては自然の基本的な諸法則の一つを継続的に破り続けている貴方に、自然は反逆することでしょう。何故なら、貴方の肉体と心が張り詰め、悩んでいる間は、肉体の諸細胞は適切に機能しないからです。

【解説】

私達は自身を自ら差配しようとする自分の心によって疲弊させられて来ました。他人との競争や契約時の無理な約束ごとを守る為、本来の姿とはかけ離れた状況、追い詰められた状況の中に生きて来たように思います。

その結果、遂には身体細胞が悲鳴を挙げて病気や老化の道を歩むことになります。元来はもっと豊かに調和した生活を送れる環境にあった筈にも係らず、それら宇宙的な好条件に感謝することよりも、習慣化した日常の中で心の支配に甘んじているのが私達の実状です。

このように身体細胞を本来の自由な状態に戻すことは、私達自身の寿命をのばし、より宇宙的存在になることをも意味します。日常生活の中でどのようにしてこれら調和的、宇宙的な想念・印象を自身の内外に保って行くか、私達は毎日、その実現に取り組むことが重要です。

175 The natural state of the body cells is a relaxed, yet busy approach to life. When you distort their normal expression through tenseness, they broadcast this inharmony to all about you. We have many examples of this in our daily lives. Notice that when you are tense and out of sorts, and lash out at someone with a sharp retort, you will usually receive a sharp answer. This is caused by the cells of your body impressing their feeling of discontent upon the body cells of the other person. And because you are expressing a strong, destructive emotion that most people have not learned to guard against, their body cells respond in like manner. So if you want to make a happy life for yourself and those around you ... watch those emotions! Stop worrying over every little thing-and over every big thing, too. Worry has never yet solved a problem or changed a circumstance.

175 肉体細胞の自然な状態とはリラックスして、しかも生命に近付こうと専念している状態です。貴方が緊張を通じてそれらの普通の表現をゆがめてしまうと、それらはこの不調和状態を貴方の全周囲に発信します。私達はこの例を日常生活の中で多く持っています。貴方が張り詰めていて機嫌が悪い時、誰かを辛らつな応酬で非難すると、貴方には大抵はとげとげしい応えが返って来ることでしょう。これは貴方の肉体の諸細胞が不満のフィーリングを他の人の肉体細胞に印象付けている為に引き起こされます。そして貴方がほとんどの人がそれに対して守らなければならない強烈で破壊的な感情を表現している為に、それらの肉体の細胞も同様に反応しているのです。ですからもし貴方が自分自身や周囲、等々に幸せな人生を成し遂げたいと思うなら、これらの諸感情を監視しなさい！個々の細かい物事、また個々の大きな物事についても心配することを止めなさい。心配が問題を解決し、あるいは環境を変えたことはありません。

【解説】

アダムスキー氏がよく言うリラックスの本来の意義について、本項では分かり易く解説されています。私達の身体細胞が本来の宇宙的活動に従事するとはどういうことなのか、また、その逆に心の嫌悪感に従うとどのような状況になるのかが本項では具体的に記されています。

本文から分かるように、本来、私達の身体細胞は宇宙的波動の流れに従って穏やかにしかも活動的に委ねられた活動に従事しているのですが、そこに心の不安や怒りの想念が入り込むと、真っ先にその影響を受けてしまい、全身がそれに呼応した態勢をとるといいます。その結果、身体全体が緊張し、身構えてしまい本来の柔軟な活動が出来なくなり、各細胞に大きな負担をかけてしまうのです。

こうして体内は緊張状態になるのですが、またその影響は相手にも伝播し、無用な緊張を生み出すこととなるのです。このようにご自身の心を制御しなければ、身体細胞のみならず周囲の者にも大きな影響を与えることとなります。テレパシーは想念伝達の域を超えた一大真理であり、宇宙的法則でもあるのです。

176 Here is another example of how a worried mind affected the body cells to the point of physical breakdown. For twenty years a friend of mine had prided herself on being an immaculate housekeeper. In fact, her home was so "freshly-vacuumed" looking, both family and friends were never quite comfortable in it. While entertaining, she had an annoying habit of watching the ash trays, fairly snatching them out from under cigarettes so she could replace with clean ones. Her every move, every facial expression reflected nervous anxiety, making the atmosphere in the home vibrant with uneasy tension.

176 ここに心配しがちの心がどのようにして肉体細胞を物理的な崩壊点にまで影響を与えるかに関するもう一つの例があります。私の友人の一人は20年間にわたり、完璧な主婦であったと自慢していました。実際には彼女の家は余りにも「真新しく電気掃除機がかけられた」ように見える為、家族も友人達もその中では決して心地よくはありませんでした。興じている最中でも彼女はタバコの下から灰皿をひったくって新しいのに入れ替えられるよう、灰皿を凝視するイライラさせる癖がありました。彼女の一つ一つの動作や顔の表情は神経質な心配の念を投影しており、その家庭の雰囲気は落ち着かない緊張感でみなぎらせていました。

【解説】

本項はいわゆる”神経質”の正体は”恐れ”にあることを説いています。事例ではキレイ好きの主婦の話が記されていますが、話の主人公は他人の自分への評価を恐れて、本来のお客のもてなしの本質を忘れた行動をとっている訳です。

もちろん何かに集中し、熱中することは物事が何であれ大切なことです。しかし、この場合は客をもてなす上で何が大切なのかという点で、理解が出来ていないことが背景にあります。まずは心からの歓迎とくつろいでいただきたいとする歓待の気持が何よりも優先するべきでしょう。

相手を快く受け入れ、自他の区別なく接することが接遇の基本かと思います。また、これら人との接する機会を通じて想念・印象の感受や発信について多くを学ぶことが出来ることも確かです。

177 The focal point of this woman's life was her home, her husband, and her children. In her fervid desire to be a good wife and mother, she had become so immersed in physical tasks that she made everyone around her uncomfortable. On rainy nights her husband stopped on the drafty back porch and removed his shoes, traversing the length of the house in his stocking feet so he would not mar the freshly scrubbed tile. The children's lives were ruled by stern admonitions: "be careful not to soil your clothes; pick up all your toys; for goodness sake, don't disarrange the furniture."

177 この女性の人生の中心は彼女の家庭であり、彼女の夫であり、子供達でした。彼女の良き妻であり、良き母でありたいとする熱烈な願望のあまり、彼女は物理的な課業に没頭するようになった為、彼女は自分の周囲のひとりひとりを不快にさせてしまいました。雨の夜には彼女の夫は肌寒い裏のポーチで立ち止まり、靴を脱ぎ、真新しく洗われたタイルを台なしにしないよう、靴下を履いた足で家を横切ります。子供達の日常生活は「衣服を土で汚さないように注意して。自分の玩具を片付けて。お願いだから家具を乱さないで。」との厳格な説諭に支配されていました。

【解説】

このような例は何処の家庭でもあるものです。本項で著者は日常、私達がどのような想念に縛り付けられているかを端的に指摘しているのです。私達は自分が良いと判断した事柄に固執しがちです。また、その結果、柔軟性を持つことなく、自分の良いと思うことを他人にも押し付けようとしがちです。

しかし、これらは仏教で言う執着に他なりません。常にやって来る新鮮な想念・印象に耳をそばだて、何時でもそれに対応する為には、何かに執着してはいられないものです。

柔軟性とは宇宙から時折やって来るインスピレーションという贈り物を受け取る為に必要な条件であり、それら贈り主に感謝する気持ちこそ最も重要視すべきものだと考えます。

178 Nature finally rebelled; and this prolonged tension brought on a serious lung condition. When the doctor gently told her the results of the laboratory tests, outlining a plan for the necessary months of bed rest, the woman ignored the serious condition in her body, but expressed deep concern over the state of neglect she felt sure would invade the home without her personal supervision. In other words, her thought-habit pattern had become so set, even the threat of a dangerous illness could not register its full impact upon her mind.

178 自然は遂に反乱を起こし、この長く続いた緊張は深刻な肺の状態をもたらしました。医者が彼女に優しく、検査室での試験の結果を話し、数カ月の長期療養の治療計画の概要を説明した時も、その婦人は自分の肉体の深刻な状況を見逃して、自分自身の監督が無くなった家庭には必ずや放任状態がはびこるとの思いに極度の懸念を示したのです。言い換えれば、彼女の想念習慣があまりに固定化されていた為、危険な病の脅威ですらも、彼女の心に十分な影響を留めることは出来なかったのです。

【解説】

本来なら自分の身体の状態については、自分が最も良く分かっているべきですが、実際にはそうならないことも多いのです。本人の心が何か別の対象に向いていて、肝心の自分自身の身体の状態にも気付いていないということもあるのです。

本項の場合は、主婦の責任感と言えるかも知れませんが、医者の忠告に対しても冷静な判断が出来ない程の執着となっています。一見すると特殊な事情に思えるかも知れませんが、実際には私達が自分自身に対してごく普通に行っていることでもあるのです。ご自身の身体状況に一切気付けず、生活習慣を改善出来ず、種々の症状が出ているのが中高年の常です。身体の悲鳴より、目先の味覚や習慣が優先されていることも本項と同様です。

私達はもっと、ご自身の肉体細胞の内なる声を聞くよう、心を謙虚にすることが必要です。各細胞や原子・分子の声に耳を傾ける中で得るインスピレーション（想念パルス）こそ、価値あるものであるからです。

179 The doctor's answer carried a philosophy it would be well to heed. "Forty years from now, no one will know, or care, about a little dust on your piano today. So just relax and look into the future forty years. This will give you some idea of how unimportant criticism actually is in your life."

179 その医者 of 次の回答はよく心に留めるべき哲学を備えていました。「今から40年経てば、誰も貴方のピアノの上のわずかなホコリについて知りもしないし、気にも掛けることはないでしょう。ですから、ちょっとリラックスして、これからの40年間を覗き見て下さい。それは貴方に貴方の生活には実際如何につまらない批判主義があるかに気付くことになるのではないのでしょうか。」

【解説】

本項で記されているように、私達が日常支配されている事柄の多くは実は、永続するような重要な価値を持つものではありません。もっと私達は自分の人生の今後を左右する根本的な課題にこそ日々取り組む必要があるのです。

長いようでも各人それぞれに人生最後の日は来るものです。その時、十分に生き、務めたご自身が評価出来るよう、毎日を過ごしたいものです。

この事例の場合、生きる源となる身体をいとえという医者からの忠告ですが、私達はそれに加えて自身の心も共に成長できるよう、宇宙的な印象を取り入れながら、バランス良く生活を送らなければなりません。

180 During the months of her enforced inactivity an amazing change took place in this woman. She found that the house-keeper managed very well without her. This awakened the realization that she had been laboring all these years under a self-imposed slavery to a false idea. The easy-going attitude the motherly servant introduced into the home, enabled the children to emerge from subdued little shadows, to become normal, boisterous youngsters; and as the woman listened to their uninhibited laughter, she could see that the same false standard which had ruled her life, had subjected theirs. Once she acknowledged this weakness and faced it squarely, she knew the doctor was right when he had said that anxiety and tension were the basic causes of her illness. Therefore, her first step on the road to recovery must be learning to relax.

180 彼女の強制的な不活動の数カ月の間、この婦人にある驚くべき変化が起りました。彼女は家政婦が彼女無しでも上手に家を管理出来ていることに気付きました。このことは彼女に自分が誤った着想に自ら課した奴隷状態の下、今迄の年月汗を流していたという悟りを気付かせました。その優しい使用人が家庭に導入したのんびりした姿勢は子供達に服従させられた影から、普通の騒がしい少年達にならせましたし、この婦人は彼らの抑制されない笑い声を聞いた時、彼女は自分の人生を支配して来たそれと同じ誤った規範が彼らの人生も支配して来たことに気付くことが出来ました。ひとたびこのことを理解し、それを真正面から直視した後、彼女は医者が不安や緊張が彼女の病の基本的原因である述べたのは正しかったことを知りました。それ故、回復への道の第一歩はリラックスの仕方を学ぶことでなければなりませんでした。

【解説】

本来、私達は何ものにも束縛されるべきではありません。確かに今日、社会制度上は各自自分の生き方は自由に選択できる仕組みになっています。しかし、一向に改善されていないのは私達自身の心が長年造り上げた習慣や固定観念による束縛なのです。

もっとも為政者にとっては大衆を習慣の奴隷に留めておく方が何かと便利な為、テレビその他の娯楽番組を通じて、大衆の覚醒を遅らせるようにする傾向の方が都合が良いものです。しかし、それでは惑星全体の進化にはつながりません。せつかく便利になった世の中です、もっと各自様々な事柄に関心を持ち、リラックスする中で新しい概念、新しい思想にチャレンジするべき時を迎えています。

次々に湧き起こる新しいアイデアを実行に移す中で人体そのものも活性化し、それらの成果が人々に役立つ、新たな概念を生み出す等、インスピレーションの効果は大きいものがあります。これらはいずれも一切の束縛が無く、自由にリラックスした心身の状態からのみ生まれるものと思われま

181 Upon her recovery she again took over the household duties. However, with her new outlook on life, a feeling of ease now prevails in the home. Where once guests were made uncomfortable by her eyes darting anxiously around the room, checking to see whether a cushion was out of place, a curtain not hanging straight, or an ash tray needing emptying, they now find a charming, composed, hostess, Where once she would have dashed for a cloth at the first sign of a thin film on the recently dusted furniture, she now laughs and says: "If you can write your name on the piano, it proves you're educated."

181 回復後、彼女は家事の仕事を引継ぎました。しかし、生活に対する彼女の新しい展望から、安らぎのフィーリングが今やその家庭を覆っています。かつては部屋の周囲に神経質そうに睨んでクッションが所定の場所から離れていないか、カーテンが真直ぐに吊り下げられていないか、或いは灰皿が一杯になって代える必要があるかをチェックする彼女の眼差しによって客達が不快にさせられていた場所で、今度は魅力的で落ち着いた女主人を見い出します。彼女がホコリを払ったばかりの家具についてのホコリの薄膜の最初の兆候に対して、かつては布切れを取りに走ったのが、今度は彼女は笑ってこう言います。「もし、このピアノの上にご自分の名前を書ければ、教育を受けていることの証しですわ。」

【解説】

リラックスした心境で日常生活を送ることは大切です。とかく私達地球人は時間や自ら課した条件に囚われ、束縛された中で日々過ごしがちですが、それでは解決策をもたらすような良いアイデアを得ることは出来ません。

もちろん何かに集中して成し遂げることも大事ですが、それらの状況の中にあっても自分を客観的に観察する余裕が必要です。よく言われるように舞台上で演じる自分を客席で観る心境です。このようにいつ如何なる時も心に余裕を持たせることでインスピレーションを受け入れる態勢を作り出すことが出来るものと考えます。

周囲のものを慈しみ、愛情を注ぐ一方で、宇宙的印象に門戸を開放し、生活することが重要だと考えます。

182 Her change of attitude reflects through the whole family. Now, their youngest boy, the only one still living at home, feels free to bring his playmates in after school for cookies and milk; and the grandchildren romp through the house with an abandon their parents were never permitted. The family has found a new fullness in life, a new freedom bringing laughter to replace the tension that once existed.

182 彼女の姿勢の変化は家族全員に反映します。家族の内、最も年少の少年は唯一、家の中で生活する存在ですが、学校が終わった後、おやつに自分の遊び友達を連れて来ても構わないように感じていますし、孫達は彼らの両親が決して許されなかったような放任の下、家中を走り回っています。家族は生活の新しい充実感をおかつて存在した緊張感に代わって笑いをもたらす新たな自由を見出したのです。

【解説】

家庭内の雰囲気は、その主要な構成員の心境を反映するものです。家族にいさかきがあれば、緊張した雰囲気をもたらすことになってしまいます。当然、訪れた者にもその雰囲気はすぐに伝わる訳で、来客に如何に繕おうとも、その染み込んだ想念波動を隠すことは出来ないものです。

一方、家族が和気藹々、調和して暮らしている場合は、穏やかで落ち着いた想念環境を造り上げる訳で、誰もが居て心地よいと感じるものです。

同様に、国や惑星についても、それらの雰囲気はそこに暮らす人々の想念波動の総体を反映したものであり、おそらく外宇宙からの訪問者は明確にその惑星やその国の人々の状況を瞬時に分かってしまうに違いありません。

先ずは私達にとって大事なことは、各自の毎日の生活をこのように調和のとれた穏やかな精神状態にして、自分ばかりでなく、周囲の者にリラックスした暮らしをもたらすことです。

183 Does this help you to see how important is your approach to life? how all lives are intertwined? Do you, through your anxieties and fears, keep those near you uncomfortable and upset? If so, recall the change the woman brought into her life once she had released her anxieties. Where, before her illness, her body cells were a tense, nervous mass because a chair was out of place, they now radiate a calm, peaceful feeling that is soothing to those around her. Face yourself honestly . . . for the truth cannot be hidden from your body cells.

183 このことは貴方に生活に対する貴方の接し方が如何に重要であるか、全ての生命が絡み合っているかについて理解する助けになっていますか？貴方は貴方の不安や恐怖を通して貴方の近くの者達を不快と混乱状態にさせていますか？もし、そうなら、この婦人が自分の不安を解放してから自分の生活にもたらした変化を思い起こして下さい。病気の前、椅子が一つ所定の場所から外れただけで、彼女の肉体細胞は緊張した神経質な塊になりましたが、今やそれらは周囲の者を落ち着かせる静かで平穏なフィーリングを発しています。正直に自分を見詰めて下さい。貴方の肉体細胞から真実を隠すことは出来ないからです。

【解説】

本項について思うのは、これらの事柄は家庭ばかりでなく、皆様の職場にも当てはまるということです。会社の同僚や部下、その他職場の周囲の人達にあなたの心境は大きく影響を与えているのです。

特に問題なのは、あなたが上司である場合ですし、その影響は職場のメンバー全てに大きな影響を与え、仕事の能率やメンバーの精神状態や体調さえ影響を及ぼすこととなります。その結果、うつ病になったり、会社を辞める等々のケースも出しかねません。

一方、上司がいつも落ち着いていて、メンバー各自の状況や抱える問題について関心を保ち、親身に応じること、人知れず応援すること、職場の課題についての取り組みを穏やかに行うことは、やがて職場全体に信頼感が広がり、メンバーが自主的に仕事に取り組む土台を作ります。

私達はこうした目に見えない想念・印象に大きく影響を受けることを常に自覚し、日々心に抱く想念をチェックして正しい思いを抱き続ける必要があるのです。

184 Remember, as long as we allow destructive emotions to govern our thoughts, we interfere with the natural operation of the body, and we set up an effective block against any incoming impression except those of a like nature. When properly analyzed, these emotions are expressions of the personal ego; and the personal ego must be controlled before we can reach the goal of selfless self-expression.

184 私達が破壊的な感情が私達の想念を支配するのを許す限り、私達は肉体の自然な働きを妨げ、同類の印象以外のやって来る如何なる印象も阻止する有効な障害物を設置していることを覚えておいて下さい。適切な分析を行えば、これらの感情は個人的なエゴの諸表現であることが分かりますし、個人のエゴは私達が無私の自己表現というゴールに到達する為には、統制されなければなりません。

【解説】

「怒りは敵と思え」とは徳川家康の遺訓とされているようですが、本項で説かれて来た自らの感情（心が発する想念）の問題点について、家康自身が理解し、自ら発する破壊的想念の及ぼす影響について自覚されていたように思えます。

その最も大きな影響を受けているのが、それら想念を発した自分自身であり、梵鐘がその余韻を長時間保ち続けるのと同様、しばらくは怒りが収まらない状況も続くものです。

こうした想念の力は時に殺戮行為や破壊行為にまで及び、本人にとって新たなカルマ（償うべき因果応報の法則）をもたらすことにもなりかねません。

私達は自らの心がこのように不安定であることを自覚し、自ら戒め、その成長に向けて養って行く必要があります。多くの体験を経て宇宙的真理を身に付け、理解を深め広げて行くことです。そうする中で邪鬼のような低次元の想念しか発せられなかった者がやがては穏やかな仏の姿に進化して行けるということでしょう。

CHAPTER III

Effect of Emotions on the Body Cells

185 The little cell chemists within us perform their duties according to an exact pattern laid down by nature. But if through fear, anxiety, or anger, the mind distorts this pattern by over-activating certain glands in the body, the whole "assembly line" is thrown into confusion. The Master Builder, anticipating all situations, has provided both animals and humans with the ability to summon super-strength, unaccustomed agility, etc., when the body is in danger, by over-stimulation of these glands. This is the law of self-preservation in operation.

第3章

肉体細胞に及ぼす感情の影響

185 私達の体内の小さな化学者達は自然によって敷かれた一つのパターンに正確に従って、自分達の任務を果たします。しかし、恐怖や不安、怒りを通じて、心は体内のある種の分泌腺を過剰に作用させることによって、このパターンを歪め、全体の"流れ作業"が混乱に陥れられます。偉大なる棟梁（訳注：創造主）はあらゆる事態を見越して、動物や人間に、その肉体が危険にさらされた時に、これら分泌腺を過剰に刺激することによって、超人的や尋常でない俊敏さを奮い立たせる能力を与えているのです。これは自衛本能が作用する法則です。

【解説】

時として報じられる事件に見られるような行動は、私達をこの世にもたらした創造主にとっては想定外の事柄であるに違いありません。本来はこのような蛮行は災害、その他危険な状況に遭遇した時、肉体を鼓舞して力を瞬発的に発揮させ、退避できるよう、私達に組み込まれたものであり、そのような蛮行を可能とするよう意図されたものではないからです。

しかし、私達地球は争いの歴史、戦いの日々が続いており、人と人とが殺し合う中、各々の勢力の維持を図って来た為、自我の攻撃的な想念を実行する際にもそのような力を発揮させてしまったのです。

このような緊張状態も本来、永続するものではありません。過度の緊張状態は私達の肉体各部に無理を強いる訳で、その結果、まもなく消耗し、短命な生涯に陥るものです。

これに対して、私達はこのような緊張状態に陥りやすい自分自身を鎮め、自我への執着を捨てることで、より広い分野からのメッセージを受け取ることが出来るよう、常に自ら発する想念を監視する一方、宇宙からもたらされるインスピレーションに気付くよう、感度を高めておく必要があります。

186 However, through our uncontrolled emotions many of us keep these glands over-active a great part of the time; thereby throwing the chemistry of our bodies out of balance. This goes back to the need of controlling the senses; for it is the sense-mind that arouses and tolerates these destructive emotions. So it might be well for us to take a closer look at these emotions, which, unless guarded against, make up so much of our lives.

186 しかしながら、私達の制御されていない感情から、私達の多くは大部分の時間、これら分泌腺を過剰に活動させ続けており、その結果、私達の体内の化学システムのバランスを陥れています。このことは諸感覚を制御する必要性にまで遡ることとなります。何故なら、これら破壊的な感情を引き起こし、許容するのは感覚心であるからです。ですから、それに対し警戒しない限り、私達に生活の多くを占めるこれら感情に対し、より綿密に観察することは賢明だと言えるでしょう。

【解説】

どのような理由であれ、私達が時折抱く強い感情は、私達自身の肉体を疲弊させ、深刻なダメージを与えます。

身体中に響き渡るそれらの強烈なる想念は、肉体各部の内分泌を刺激し続け、過度な負荷状況を長時間強いることになるのです。先に体内における想念の浸透を梵鐘に例える表現をしましたが、おそらく一度強烈な感情を放出した場合にはそれらの波動はその後長時間私達の肉体各部をその波長で振動させることになるに違いありません。もちろん、その結果は肉体細胞が疲弊し、健康を害することになるのです。

このように私達の最大の敵はこのような感情であり、その元凶である想念である訳です。そのような誤った想念を心から消し去ることが重要なのですが、これら想念を押し留めるというよりは、より広い観点からより高品位な想念の中に吸収、融合させてしまい、私達をそれらレベルの想念から無縁のものにすることが大事だと考えています。

187 We have ready proof that whatever thought a man holds in his mind affects every cell in his body, for his outward expression gives ample evidence of this. Anger quickens the respiration, raises the blood pressure - even to the point of apoplexy - causes the muscles of the body to tremble, and distorts the features. So it is obvious that it is not the brain alone which is affected; for every cell in the body reacts to the violent emotion. What is more, emanations radiating from that body can fill a room.

187 私達には人が心の中で抱く想念は何であれ、自身の肉体のあらゆる細胞に影響を与えることについて、いつでも準備できる証拠があります。何故なら、人の外的な表情はこれに対する十二分の実証を与えているからです。怒りは呼吸を早め、血圧を卒中する所までさえも上昇させ、身体を震わせ、顔の表情を歪めます。ですから、影響を受けるのは脳だけではないことは明らかです。何故なら、肉体のあらゆる細胞がその暴力的な感情に反応するからです。そして更にはその肉体から放射された発散物が部屋を満たすことも起り得るのです。

【解説】

私達は各自のこれまでの痛い体験から、怒りその他の低次な想念が私達自身の肉体や周囲の空間に如何に悪い影響を及ぼすかを知っています。私達の想念が脳ばかりでなく全ての身体細胞に影響を及ぼし、遂には周囲の者や環境にも浸み込むほどの影響力を持っているのです。

一方でこのことは、高品位で良質な想念を取り込むことが如何に大切かを示すものでもあるのです。仏様の歩いた足跡から次々に花が咲き起こった等々の逸話があるように、高品位な想念の持ち主は周囲の環境を浄化する力があることは十分に頷けます。

従って私達は自ら受け入れる想念には十分注意しなければなりません。人を神の宮と例える場合がありますが、神社の本殿の中には何も本尊たる物が無いように、私達の心の中には本来、元々に備わっているものは何も無いのかも知れません。外から来る多様な想念の内、何を取り入れるかが大事で、常に良質な想念を招き入れることが大切なのではと思うのです。

188 We are given a good illustration of the tangibility of these emanations when we walk into a room where two people are quarreling. Upon our entrance the quarrel will stop abruptly, and both parties will turn to greet us with a false heartiness. Though they are trying to pretend that everything is normal between them, their eyes will still be bright with anger and their features tense, making their smiles appear fixed. And as we cross the room, the atmosphere around us will be vibrant with the strong thoughts of wrath. All present will be acutely embarrassed until the participants are able to bring their emotions under control. Unless the animosity between these two people is deep-rooted, the atmosphere will clear and a feeling of friendliness will return. However, regardless of how carefully they try to cover their true feelings with polite conversation, if the enmity between them continues under the surface, we can become aware of it through the feeling channel.

188 私達にはこれら発散物についての明白さについて、二つの人々の集団が言い争っている部屋の中に入って行った際の良い実例があります。この場合、私達が入るや、その口論は突如止まり、両集団は偽りの愛想で私達を歓迎するでしょう。彼らは彼らの間に何も変わったことはないように装いますが、彼らの目は怒りに燃えており、表情は厳しく、その微笑みはこわばっています。そして私達が部屋を横切ると、私達の周囲の空気は強烈な激怒で震えるでしょう。同席の者全員が、彼らの感情が制御できるようになるまでは、ひどく困惑させられることになります。二つの人々の間の敵意が根深いものでなければ、その空気は澄んで、有効のフィーリングも戻って来ることでしょう。しかしながら、彼らが丁寧な会話で自分達のフィーリングを如何に注意深く隠そうとしても、彼らの間の敵意が表面下で続くなら、私達はそれをフィーリングの経路を通じて感知することが出来ます。

【解説】

動物は相手が自分に敵意や恐怖を抱いているか、或いは優しく受け入れて呉れる気持ちがあるかは容易に分かりますし、セラピー犬のように相手の痛みや苦しみに寄り添い慰めることさえして呉れます。それ程に人間以外の生きもの達は外観ではなく、想念・印象に大変鋭敏です。

本来は私達もこうした想念波動の感受性を高めて行くよう努めるべきであり、そのことが進化の道の発見にも繋がるというものです。

本項で掲げられている例はこれまでも私達各自が経験したことがあるような範疇に属しますし、日常生活の中で想念をごまかすことは出来ないことを知るべきでしょう。即ち、高度に発達した他惑星人にとって、私達の想念レベルを感知することは容易であり、私達は他惑星人の前で嘘をつくことは出来ません。全てはお見通しという表現がありますが、想念・印象の感受力を高めれば、相手の真意を察知することは極めて容易なのです。

私達は自分自身の中にどのような想念・思念を取り入れれば良いかについては、十分に注意する必要があります。それほどご自身の肉体の行く末を左右し、周囲の者への影響も大きいからです。自らの神殿に何を導き入れるかが重要なように、湧き起こる想念を注視することが重要です。

189 Here, again, we have received the true picture of existing conditions through telepathic impressions, or feeling, from the body cells. For even though we were sightless, the discordant vibrations in the room would impress themselves upon us, belying any honeyed words which might be spoken.

189 ここでもまた、私達は肉体細胞からテレパシー的な印象ないしはフィーリングを通じて現状に関する真の状況を受信していました。何故なら、仮に私達が盲目でありその部屋の中でお世辞が話されても、不調和な振動は私達にそれ自体の印象をもたらすからです。

【解説】

印象は単に心で感受するというよりは、身体全身で感受するということでしょう。とかく私達は目や耳を澄ませて、その感覚の先に何かを観ようとするのですが、実際には全身の細胞を味方にして、各々の細胞がキャッチした想念パルスを報告してもらうことだと考えます。

つまり私達は頭脳ではなく、全身を使って想念波を感知すべきなのです。これについては動物の触角や全身の体毛等、あらゆる器官を通じて、気配を察知し、迫り来る事柄を予知することに似ています。

人体には60兆個もの細胞があり、それぞれの感受した情報は有効に活用しなければなりませんし、それら細胞との意思疎通によりますます細胞は活性化し、創造物本来の美しさを表現するようになるものと思われます。

190 While we are discussing these undesirable emotions which play such havoc with our minds and bodies, it would be well to point out the danger of holding a grudge. When we nurse thoughts of hatred, feeding them constantly in our desire for revenge, we are poisoning our minds and our bodies as surely as if we were taking a noxious drug by mouth.

190 私達がこのように心や身体に大混乱をもたらすこれら好ましくない感情について議論する中では、他人に恨みを抱くことの危険性について指摘しておいた方が良いでしょう。私達が嫌悪の想念を育み、私達の願望の中で常に復讐したいと思う場合、私達はあたかも、有害な毒素を口から飲み続けているように自らの心と身体に毒を入れていることになるのです。

【解説】

私達は日々取り入れる想念・印象によって私達自身を育てているように思います。良質な想念・印象を取り入れることで私達自身の心身はより健康になり、それらを行動に移すことで更なる体験を積み、永続する記憶として自分のものとする事が出来ます。

もちろんどのような想念・印象を受け入れるかは各自に委ねられていますが、どちらの道を選ぶべきかは少し考えれば容易に分かることです。実際にそれを妨げているのは私達自身の習慣性にある訳で、努めて新しい事柄に取り組むことが推奨されるのはこの習慣性を打破したい為にあるのです。

私達各自は自分の人生に責任を負っており、その成否を他人に委ねる訳には行きません。自らの人生をどのように送り、終結を迎えるべきかは、こうした日々取り入れる想念・印象が左右しているのです。

191 The target of our hatred may be totally unaware of our attitude; or if he is aware, he can turn these thoughts aside by refusing to allow them entry. In other words, he can recognize our mental immaturity and not accept these derogatory thought vibrations from us. This adds frustration to our hatred, and causes us still more harm.

191 私達の憎しみの標的は全く私達の気持ちに気付かないかも知れませんし、或いは気付いてもこれらの想念が入り込むのを拒絶して、それらの想念を脇にどけることも出来ます。言葉を替えば、私達の精神上の未熟さを認めて、私達からのこれら他人を傷つけるような想念振動を受け付けなくすることが出来るのです。このことは私達の憎しみに失望を加え、私達に更なる害をもたらすこととなります。

【解説】

他人を恨むこと自体、論外と言うべきで、本項ではそれら憎しみの想念がどのように影響を及ぼすかを示しています。大切なのはこれら想念の最も大きな影響を及ぼすのは自分自身であることであり、相手はそれらを受付なければ影響を受けないのです。波長（周波数）を合わせるのはあくまで各自の意志によるからです。

従って、私達は想念・印象への感受性を高めるにつれて同調すべき想念をより厳しく選択する必要があることに気付きます。元来、長年月、殺伐とした環境にあった私達の地球には未発達で低次元な想念も多く残存している訳で、これらの波動の中に身を投じてはなりません。調和のある自然美の中で高品位な創造物の一員としてより高次元な存在へと続く進化の道を歩む決心が重要となります。

192 So it is apparent that we, alone, suffer in these circumstances. And if prolonged, nature will exact a terrible price, because we not only keep the atmosphere immediately surrounding us polluted with our discordant thought vibrations, which will eventually alienate us from our friends, but all the while we are inexorably poisoning our physical bodies.

192 ですから、このような状況の下では私達だけが被害を蒙ることは明らかです。そして長引けば自然は恐るべき代償を迫ることになります。何故なら、私達は私達を直接取り巻く大気を私達の不調和な想念振動に保ち、それにより私達を友人達から遠ざけるほか、その間ずっと私達は自分の肉体に容赦なく毒を盛っているからです。

【解説】

問題は怒りや憎しみだけではありません。とかく私達の心は成果をすぐに求める為、目先の結果の一つに一喜一憂し、不安定になりがちです。思い通りにならないと言って、憂鬱になり、全てを灰色の色メガネで見ることもしばしばなのではないでしょうか。

このような場合も、私達は受け入れる想念・印象を閉ざし、自ら造り上げた殻の中で動きを停止してしまうものです。当然、これらの傾向は体内の生命活動とは一致しないものである以上、その結果は不健康が待っていることになります。

このことから、私達の最大の課題は私達の心の傾向にあることが分かりますし、その原因は心が独りでは生きて行けないことにあります。良き指導者が必要で、その為に各宗教が存在しているのです。しかしこのような宗教に依存しなくても大自然の生きもの達はイキイキ毎日の生活を享受しているのは何故でしょうか。それは彼らが直接、大地の声、宇宙からの想念・印象を聞いていることからだと思えます。日々、創造主と接する中では何も不足は無く、満ち足りた生活を送ることが出来るのです。

193 Remember, we have shown earlier that thought can become a habit. We can develop thought-patterns of selfishness, discontent and greed; or we can cultivate thought-habits of humility, serenity and generosity. The choice is ours. And if a true analysis were to be made, we would find our lives are governed less by circumstances than by our thought habits.

193 私が以前、想念は習慣になり得ると説明したことを思い出して下さい。私達は自己中心や不満、そして貪欲の思考パターンを発達させることも出来ますが、一方では謙遜や落ち着き、寛容の思考パターンを育むことも出来ます。選択は私達の自由です。そしてもし、本当の分析がなされるなら、私達が自分達の生活が周囲の環境より自分達の思考習慣に多く支配されていることに気付くことでしょう。

【解説】

これら一連の講座において説かれている重要なポイントの一つとして覚えて置きたいことは、私達各自がどのような想念・印象を自分に招き入れるかです。以前にも述べましたが、私達の心を良く表現しているものの一つに神社の本殿があるように思います。神道では本尊というものを置きません。本殿の中にあるものは鏡のみであるように思っています。

つまり、汝自身を映すもの、自分自身の心を象徴しているように思うのです。しかし、その本殿に迎えているものは周囲に力を発揮し60兆にもものぼる人体細胞の隅々にまで影響を与えるのです。その威力は恐るべき程です。

即ち、良くも悪しくも私達は自分自身の心に抱く想念・印象に大きく影響を受ける訳で、それが習慣化すればより強固な力を発揮することになり、その修正にも大きな労力を必要とします。

本項ではこれら習慣的な想念が私達を支配していることを改めて警告するものですし、その修正にも根気よく努めれば、やがては曇りない心とすることが出来ることを示唆しています。

194 It does not matter whether we live in luxury, or in poverty; we have the right to choose our thought-patterns. Our bodies may be enslaved by the false economic barriers that have been raised on earth, but our minds are free. Thoughts are ours to control, when we better understand our bodies and our minds.

194 私達が贅沢な暮らしをしているのか、貧しい生活をしているかとは関わり無く、私達には自分達の想念パターンを選択する権利があります。私達の肉体は地上で培われて来た偽りの経済的障壁によって奴隷にされているかも知れませんが、私達の心は自由です。想念をコントロールするのは他でも無い私達ですし、そうすれば私達が肉体と心を今以上に理解することになるのです。

【解説】

読者の方々も含め、中には株式に投資している方もいらっしゃるものと思います。私もかつて株を購入したこともありましたが、その時に本項でいう”経済の奴隷”というような状態を経験したことがあります。また、当時は株式新聞を食い入るように見ていた帰宅途中のサラリーマンも良く目にしたものです。それは株式市場は毎日のように大きく変動する訳で、自分の購入した会社の株がどのような値動きにあるかは大変気になることも良く分かります。

しかしその結果、その方のもっぱらの関心事は日々の株式市場の動向になり、思考空間の大部分を株式に関連する事柄が占めることとなります。それでは利益は得ても、宇宙や芸術、技術というような歴史を越えて生き続ける高品位な想念レベルとは全くの無縁の存在に陥ってしまうことでしょう。経済の奴隷と化してしまったのです。

そういう意味ではお金を得ることと想念を浄化することは相反することが多いのかも知れません。しかし、いずれにしても私達各自が優先すべきは自らの想念パターンを上質なものとすることであり、先ずはご自身の心身を浄化した後、必要な環境条件は改質した心の想念環境が造り出す作用によって自ずと整備されるものと考えています。

195 Those with whom we come in contact daily, will affect our lives; but only to the extent we permit them. For example, when we meet a disgruntled person and listen to him expound his philosophy of gloom, unless we are on guard, a feeling of depression will envelop us which may last for hours or even days. This is caused by the melancholy vibrations emanating from his mind and body, affecting our mind and body cells with a feeling of despair. But when we have understanding, we can refuse to accept his attitude, and keep our minds serene while listening to him. This balance of mind will counteract any harmful radiations that might otherwise influence us.

195 私達が毎日接する相手は、私達の生活に影響を与えます。しかし、それは私達がそれを許す範囲までです。例えば私達が一人の不機嫌な人物と会ったとし、その者が自分の憂鬱の哲学を講釈するのに耳を傾けたとすると、私達は警戒していないと、意気消沈のフィーリングが私達を包み、何時間或いは何日も続くこととなります。これはその者の心と肉体から発散している憂鬱の振動によって引き起こされますし、私達の心と肉体細胞に絶望のフィーリングを作用させるのです。しかし、私達に理解があれば、私達はその者に耳を傾けている間にもその者の姿勢を受け入れることを拒み、自分達の心を澄んだ状態に保つことが出来ます。この心のバランスは私達に影響を与えるかも知れない有害な放射物を阻止するのです。

【解説】

想念伝達の原理から言っても、私達は相互に影響を及ぼし合っている訳で、否が応でも互いに影響を与え合っているのです。

そこで重要となるのは本項にあるように、100%相手を受け入れ自分も共感することには問題があるのです。相手が進化した他惑星人の場合にはむしろそうしなければ重要な真理を学び取れない訳ですが、相手が一般の私達地球人の場合には危険でさえあるのです。

もちろん相手を理解する為に、相手の想念環境を知ることが大切ですし、なによりも相手の想念環境の背景を理解することは必要です。しかし、それらは理解すべきものであって、私達のそのまま取り入れるべきものではないのです。必要だとして自身が判断した範囲を取り入れれば良いのです。

196 Let us now take the example of the cheerful, optimistic person, who looks upon all manifestation and "knows it to be good." The uplifting thought frequencies from this person will elevate our own vibrations, and our day will be enriched through contact with him. And although not necessarily conscious of it, as long as this influence lasts our minds will be operating on a higher frequency level. Just like the house that was impregnated with love and laughter, drawing us back for frequent visits, we will seek this person's company.

196 今度はあらゆる創造の現れを見て、「良きものであると知って」いる陽気で楽観的な人物の例について取り上げましょう。この人物からの高揚させる想念振動は私達の波動を高め、私達の一日はその人物と接する中で豊かなものになることでしょう。そして、それを意識しておくことは必ずしも必要ではないのですが、この影響が続く限り、私達の心はより高い周波数レベルで運用されることとなります。丁度、愛情や笑いで満ちた家のように、私達はそこを何度も訪れたいと思わせるように、私達はこの人物と同行することを求めることでしょう。

【解説】

本項まで読み進める中でいつも思い出すのは、昔、ある方から”人間、明るくなくてはダメだ”と伺った話があります。当時、若かった私はその意味について良く理解出来ていなかったように思います。しかし、本文にあるように、心に抱く想念をより高次なものにして行く中では、創造主への信頼が高まり、また周囲の人々を導く立場になるにつれて、より良い方法に導く為に明るさが必要であることが分かります。

Happy Go Luckyという言葉がありますが、それは単に楽道家ということではありません。自分が抱く想念の力を知るからこそ、努めて建設的な想念波動を心に招き入れる必要があるのです。

そしてより重要な点は、そのように仮に苦境の中にあっても、楽観的な想念波動を保つのは、自らが招く想念波動が自分自身のみならず、周囲の多くの者に影響を及ぼすことを知っている為なのです。

私達はこのように自らの想念の持つ大きな力について十分に自覚する必要がありますし、宇宙を流れる創造主の想念は明らかに明るく活気のある生命活動であるのです。

197 I strongly advise each student to observe this law working in his own life; for it is a perfect example of the meaning of "like attracting like." If we open our minds to the gloomy thoughts of the pessimistic person, these vibrations will have a depressing, narrowing influence on our lives; and if the contact with this outlook is continued long enough, our thought-pattern may drop to the same bigoted, mental level.

197 私は個々の学習者に、自分自身の生活の中でこの法則が働いていることを観察するよう強く促しています。何故なら、それが「類は類を呼ぶ」の完璧な例示であるからです。もし、私達が悲観的な人物の憂鬱な想念に対し私達の心を開けば、これらの振動が私達の生活に意気消沈と偏狭さを与えるでしょう。そしてこの人生観との接触が長く続けば、私達の想念パターンは同じ頑迷な精神レベルに落ちるかも知れません。

【解説】

何故、私達が明るく活動的な想念を抱く必要があるか、本項では著者が生徒である私達によくよく論しているのです。毎日の想念パターンは私達各自の生活や体調、その他人生一般に大きな影響を与えています。それは体内の各細胞はもとより、周囲の分子・原子に強く作用することに他なりません。

従って、人生を有意義に生きる為には、文字通り私達は心を入れ替えなければなりません。彼ら他惑星人の暮らしに近づく為にも、またご自身の人生を更に有意義にする為にも、毎日の心の持ちようはその基礎となるのです。

これらの事柄は大変単純なことですが、書物で読むことよりも、実践を通してのみ理解出来るのです。即ち毎日のご自身の実践体験を通じて、その価値が初めて分かるものです。これら実践体験を積み重ねる中で私達は次のステップに映ることが出来るという訳です。

198 But if we open our minds to the thought of the optimist, a feeling of well-being pervades us, bringing a sense of peace. For happy thoughts stimulate and expand, activating little used lobes in the brain; broadening our horizons and giving us a better understanding of the Cosmos and all that exists therein.

198 しかし、私達が楽観的な人物の想念に私達の心を開けば、幸福のフィーリングが私達に拡がり、平和な感覚がもたらされます。何故なら、幸せな想念は頭脳の中でほとんど使われていなかった脳葉（訳注：脳の内、全体の8割を占める大脳は、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の4つの葉[よう]から成るとされています）を刺激し、拡張して活性化させますし、私達の視野を拡げ、宇宙とそこに存在する全てのものに対するより良い理解を与えるからです。

【解説】

明るい想念は私達の身体を活性化する訳ですが、とりわけ私達の頭脳の脳葉部分を活性化させ、私達の知覚性全般を拡大するということです。

従来、私達は怒りや悲しみ等々、心の中に非活発な想念を戴くことにより、私達自身をそれらに同調させ、あらゆる部位を不活発な状態にしてしまったのです。それに代わって、生命本来の自由でイキイキした想念を心の中に招き入れることによって、私達の心自体も拡がり、寛容力のある本来の姿、宇宙の創造主に同期した存在に進化することも可能となるからです。

全ては心に何を招き入れるかであり、私達は自らの神殿に招き入れる想念については十分に厳選する必要があります。

199 You can easily demonstrate this in your own life. Consciously implant a thought of worry or anger in your mind, then study the effect it has on you. You will notice a feeling of heaviness spread rapidly through your body as the discordant thought impinges its influence upon the cells, disrupting their normal activity. Still holding the thought, watch how the law of affinity attracts impressions of a similar nature; and how each additional thought adds to the weighty feeling in the body. Here, we are breaking Nature's fundamental law of harmony. And because of the barrier of tenseness created in the mind, causing inharmonious functioning of the body cells, telepathic reception is almost impossible.

199 貴方はこれをご自身の生活の中で簡単に実証して見せることができます。意識的に貴方の心の中に心配あるいは怒りの想念を植え付けて、その後それが貴方に及ぼす影響を研究することです。その不調和な想念が各細胞にその影響を打ち付け、それらの正常な活動を妨げるにつれて、貴方は重苦しい感じが急速に貴方の身体中に広がることに気付くことでしょう。依然としてその想念を持ち続けた場合、親和の法則が如何に同種の性質の印象類を引き寄せ、更には個々の加わった身体に重苦しい感じを付け加えるかを観察することです。ここに私達は大自然の調和と言う基本法則を破っているのです。そして心の中に造り上げられた緊張の障壁の為、肉体細胞の不調和な機能をもたらして、テレパシクな受信はほとんど不可能になることでしょう。

【解説】

本項では、著者は各自自らネガティブな想念を試しに心に招き入れて、その後どのような影響を受けるのか、実感して見よと説いています。

しかし、少し考えれば私達のほとんどは、かつて同類の苦い体験を持っていることでしょうし、このようなある意味危険な”試み”は敢えて行う必要もありません。そうでなくても実社会で暮らす私達は常にそのような状況が望まずともやって来る訳で、自ら進んで”試み”に立ち入らずとも、類似した場面はすぐにもやって来るものです。

ここで重要だと思える点は、著者が私達生徒に、その取り入れたネガティブな想念がその後、どのような影響を与えて行くか、よく観よとしていることです。即ち、いわば自分を客観視していて、決して騒ぎの渦中に居る訳ではないということです。自分を客観的に観察することが出来れば、それら心の苦悩というものも解脱出来るということかと思われます。

200 Now, consciously change your thought-pattern by replacing the above thought with a cheerful one. Notice how the sensation of heaviness dissipates, and the body actually seems to lighten as the cells resume their normal activity. Notice how with the relaxing of the brain cells, thoughts once more flow freely. It is in this state of coordinated harmony between the mind and body cells, that true telepathic reception is possible.

200 今度は前述の想念を快活なものに置き換えることで、意識的に貴方の想念パターンを変えて下さい。如何にその重苦しい感じが消失し、身体が実際に個々の細胞が正常な活動を再開するにつれて、実際軽くなるように思えることに気付く筈です。頭脳細胞をリラックスさせることで、如何に想念が再び自由に流れるかに気付くことです。心と肉体の細胞との間のこの調和したハーモニー状態の中で、真のテレパシー的受信が可能となるからです。

【解説】

私達が私達自身の主人となる為に、先ずは自分の心が持つ作用、身体や周囲の環境に及ぼす影響を学ぶ必要があります。これまでも私達は、自らが抱く想念によってその後の心の傾向や身体各部の状態に大きく影響を受けることを知っています。病氣療養中の患者に笑いや美術その他の芸術が効果を発揮するのは、こうしたより高次元の想念パターンを撮り入れることに由来していることも確かな筈です。

更には私達は各自の身体細胞を本来の活動的な状況に保つ為に、努めて明るく活発な想念パターンを撮取する必要があります。おそらくその意義は高齢になる程、重要で、それまでの人生で蓄積され易かったネガティブな想念波動に打ち勝つ程のポジティブな想念パターンを積極的に招き入れることが必要となることでしょう。その延長線上には当然、テレパシー能力、宇宙的想念波動との同調力も増進される筈なのです。

201 Since we all have certain daily routines we must follow, it is advisable to learn to do everything with joy. Be happy there is a task for you to do, and be thankful you are able to do it. No task is irksome, regardless of how menial, unless we give it the power to irritate us. Do not allow the little vexations of life to control your mind and upset the functioning of the body cells, for this closes the door to receptivity.

201 私達は皆、何らかの決まりきった仕事を持っていますので、何事も楽しく実行する仕方を学ぶのは賢明です。貴方には仕事があることに幸せを感じることに、そして貴方がそれを為すことができることに感謝することです。仕事は如何につまらないものであっても、貴方がそれに苛立ちのパワーを与えない限り、退屈なものにはなりません。生活に関するどんな小さな苛立ちにも貴方の心を支配させてはならず、肉体細胞の機能を狂わせてはなりません。何故なら、これは感受性への扉を閉めてしまうからです。

【解説】

毎日をどのような心境で過ごすとするのか、為すべき仕事に対しどのような気持で取り組んだら良いか、本項はそれらについて明言しています。毎日感謝し、楽しい心境で仕事に向き合うことの大切さは著者アダムスキー氏のみならず、私の知る限り、あらゆる宗教者が説く所であり、共通する真理と言えるのです。

もちろん、その原理は本項で述べられて来たように、私達が心に招き入れる想念が及ぼす影響に由来している訳で、皆共通の真理を表現しているのです。

以前、若い頃、職場の先輩から「仕事は楽しく」というアドバイスを戴いたことがあります。その言葉はその方が悟った真理か、あるいは誰かに聞いた言葉なのかは、今となっては知る由もありません。しかし、物事を楽しく進めるという表現には、ご自身の中の心境を明るく保つこと、仕事の仲間同士協力、助け合うゆとりが必要であることを示しています。どのような仕事であれ、楽しんで取り組む必要があるという名言です。

202 I cannot stress too strongly the importance of our daily attitudes; for it is during the long hours of routine living that our thought-habits are formed. While it is an admirable practice to devote a specified number of hours each day to study, if, with the closing of the book, the mind reverts to the old thought-pattern of worry, the benefit gained from study is nullified.

202 私は私達の日々の姿勢の重要性について強調してもし過ぎることはありません。何故なら、私達の想念習慣が形成されるのは、決まりきった日常の生活の間であるからです。毎日、特定の時間を学習に充てることは賞賛に値する訓練ですが、その一方でもし、本を閉じると同時に心が心配の古い想念パターンに戻ってしまうなら、学習で得た恩恵は無くなってしまいます。

【解説】

毎日の生活、時々刻々の自身の心境こそが大事ということです。書物を読むことも重要ですが、その本を閉じた後に心が関心を止めてしまえば、心に作用しているのは本を読む時間だけであり、他の圧倒的な時間の全ては無益の昔ながらの状況となるのでは、進歩は遅いものとなってしまいます。

当然、日常生活の中では本ばかりを読んで居られませんので各自、自分なりの実践が重要となる訳です。私の経験からも努めて自分の心境を良質なものに保とうとする心掛けが非常に重要なように思います。とにかく私達は結果を急ぎがちですが、目に見える結果を求める前に、目の前の状況を素直に受け止め、解決策のヒントがやって来るのを待つことです。そしてもし成功裏の結果を導き出せたら、その時保っていた心境について、よく記憶して置き、次の機会に備えることです。

こうした日常生活における実践的研究はやがて大自然や宇宙への信頼に繋がり、それらの中で暮らす私達を包む環境の美しさを愛でるものとなり、日々の精進も楽しいものになります。

203 We have shown the detrimental influence destructive emotions have in our lives; yet, there is a simple demonstration to prove how easily their hold can be broken. If we can get an angry person to accept a pleasant thought, his strong, destructive emotion will quickly fade. The mind cannot retain thoughts of anger, fear, anxiety, worry, or any of the other destructive emotions which plague it, when one is happy. In this balanced state, we are using Nature's law of harmony; which relaxes the mind, releases tension in the body, and opens the way for unhampered telepathic reception.

203 私達は、私達の生活の中で破壊的な感情が持つ有害な影響について示して来ました。しかし、如何にそれらの支配が容易に壊れるかを示す簡単な実例があります。もし、私達が或る怒っている人間に、楽しい想念を受け入れさせることが出来れば、その者の強い破壊的な感情はすぐに消失することでしょう。心はその人物が幸せである場合、怒りや恐れ、不安や心配、その他、心を病に陥らせている破壊的な感情を保持出来なくなります。そのバランスのとれた状態では、私達は大自然の調和の法則を用いており、それは心をリラックスさせ、身体の中の緊張を解放し、妨げられることのないテレパシー受信への道を開くのです。

【解説】

私達の人生は私達自身の心にどのような想念を招き入れるかにかかっています。つまらない悩みや本文で例示されている怒り等は、私達自身を破壊させる程の影響を持つ一方、一たび心が明るく楽しい想念を招き入れることが出来れば、状況は一変するものです。

それ故に全てにおいて穏やかさ、明るさが必要であり、他の生きもの達もこれと同様の心境を保っていることでしょう。

古くから"怒りは敵と思え"という表現がありますが、私達はこれら想念の持つ影響力の大きさを知った後は、努めて日常生活の中でより建設的で調和ある心境を保ち、これらと類似した想念を招き入れるようにしなければなりません。

ご自身の心身の健康の他、周囲の人々への波及効果、環境への働き掛け等々、私達が抱く想念の持つ力の大きさについては強調しすぎることがない程、重要な事柄と言えるのです。

204 Since the adult mental attitude overshadows and molds the mental attitude of the young, we should be particularly careful in our dealings with children. The young mind, not yet cluttered by our accepted tenets, is naturally receptive to impressions. Because the child is dependent upon us, both for physical care and love, this makes a very close tie; and our thoughts will have a direct bearing upon the mental and emotional development of the young life. If we are tense and irritable, the child will become nervous and filled with a feeling of insecurity; if we are calm and balanced, the child will feel secure.

204 大人の心の姿勢が年少者の心の姿勢に影響を与え、形づくることから、私達は子供達を取扱う際には特に注意すべきです。私達が受け入れた諸々の教義に未だ散らかされていない若者の心は自然と印象に感受性があります。子供は身体上の保護や愛情の両面において私達に頼っていますので、これはとても親密な絆を形成しますし、私達の想念は年少者の生命における心や感情の発達に直接的に関連します。もし、私達が緊張し苛立っていた場合、子供は神経質になり、不安なフィーリングで満たされることでしょう。もし、私達が静かで調和がとれていれば、子供は安心を感じることでしょう。

【解説】

ここでは子供に接する際の注意点について、著者は私達大人によくよく説いています。

子供の頃は親の影響下にある訳で、良くも悪くも親の心境は子供の心身に大きな影響を与えるものです。

地球では未だ認識されていませんが、生まれ出て間もない乳児や幼児こそ、本来、私達が保つべき心境を保有しているように思います。イエスが"幼子のようにならなければ"と話された時も、そのことを説いていた訳で、他惑星社会において、宇宙本来の生命波動を保持している幼子こそ尊ばれているのです。

これに反して地球上では子供は親の支配下に置かれ、昔ながらの決まりごとに束縛されており、やがて保持していた宇宙的な記憶も薄れ、世俗の中に埋没してしまう人生を辿ってしまう例が多いのではないのでしょうか。

木々の若葉が豊かで美しいのと同様に、私達大人は宇宙の源から生まれ来る子供達からもっと大切なものを学び取る必要があります、これらやって来る子供達各々の持つ才能を開花する手助けを行わなければなりません。

205 Authorities now recognize it is the delinquent parent rather than the delinquent child who is the real culprit. This delinquency is not confined to the neglected child, for many of these young criminals come from homes where they have been given every advantage; but it would be interesting to make a survey of the mental outlook of their parents.
205 今や当局は本当の元凶は非行の児童よりは非行の両親であることを認識しています。この非行問題は捨て置かれた児童に限定されるものではありません。何故なら、これら若い犯罪者達の多くは、あらゆる点で恵まれた環境を与えられた家庭から出ているからです。しかし、彼らの両親達の心の視点について調査することは興味深いことでしょう。

【解説】

本項ではこれら問題の原因は物質的な貧しさではなく、経済的に恵まれた過程においてもその両親の心の状態、即ち心境に問題があれば、それが直ちに子供に影響を及ぼすと指摘しています。

"子は親の鏡"という表現もあるように、家庭の中で子供に対する親の影響というものは大きいということでしょう。事実、著名な芸術家はシュトラウスの例を引くまでもなく、代々、芸術分野で活躍されて来た例も多いように思われます。また歌舞伎や華道、茶道その他の"家元"によってそれら芸術が引き継がれ、発展するのもそうした親子関係の中で生まれ、継承される心境という要素が大きいのかも知れません。

これは家族ばかりでなく、一般の会社における上司の職責、企業における社長の役割についても似た要素があるものと思われます。即ち職場の上職にある者ほど、配下への影響力が大きいことを十分に自覚して置かなければなりません。

206 In infancy and young childhood, before the indoctrination of accepted beliefs has filled the mind with preconceived ideas, the young life is governed almost entirely by impressions. Long before a baby can talk, it can receive thoughts and respond to them. Therefore, is not the importance of the parent's attitude self-evident? Remember, our children are little mirrors reflecting our emotional stability or instability.

206 古くからそのまま受け入れられて来た信条による洗脳が行われる前の幼児期や幼年期においては、年少者の生活のほとんどは印象によって完全に支配されています。赤ん坊が喋れるようになるはるか前、赤ん坊は想念を受け取り、それら想念に応答します。それ故、両親の姿勢が重要であることは自明のことではないでしょうか。私達の子供は私達の感情の安定あるいは不安定さを映す小さな鏡だということを忘れないで下さい。

【解説】

かつて植物育種家のルーサー・バーバンクはその著書Training of Human Plantの中で人間の赤ん坊ほど、感性が鋭敏な存在は居ないという主旨の記述をしていたと記憶しています。おそらく本来、最高位の創造物として創造される人間はその誕生した際には、驚くべきほどの想念波への感受性を持っているということでしょう。本項で述べられている事柄についてルーサー・バーバンクも良く自覚していたということです。

実はこのような幼児期から遠く離れてしまった私達も目指すべきは赤子のような天真爛漫、宇宙的想念波動に素直な心境なのです。柔軟性はこれら素直さを表すものであり、努めて宇宙的な想念、自然界の生命活動と同期する心の状態を保つことが重要です。私達の心自体は何らのメボシイ能力が無い訳で、そのほとんどを外からの印象に依存していることを認める必要があります。神の導き手に従うということかと思っています。

207 These are but a few examples of what I meant when I referred to impressions as being from effect to effect. This thought can be enlarged upon almost indefinitely; the only limitation placed on it is the scope of our imaginations. Each person should search thoughtfully into his daily life, recognizing and studying as many of these examples as possible. The key to opening the consciousness to commune with the Cosmos, is a thorough, impartial analysis and understanding of . . . mind. For it is through consciousness man expresses; so the better his understanding of the many pases of creation which are capable of influencing his mind - both from within the body, and from space itself - the more comprehensive will be his understanding of Cosmic Cause.

207 これらは、私が結果から結果への印象と表現した時に意味したことの多少の事例でしかありません。この考えはほぼ無限に拡大出来ます。唯一置かれた限界は私達の想像力の限界です。各自はこれらの事例を可能な限り多く見つけ出し、学びながら自分の日常生活を注意深く調べ上げるべきなのです。各自の意識を大宇宙との交流に開くカギは、……心を完璧に片寄らず分析し、理解することです。何故なら、人が表現するのは意識を通じてであるからで、肉体の内からと宇宙自体の両方から自分の心に影響を与えることが出来る多くの創造の歩みを良く理解すればするほど、大宇宙の因の理解は幅広いものとなるでしょう。

【解説】

本項は私達の意識を広げるにはどうすれば良いかを的確に説いていると言えるでしょう。この場合の意識はこれまでアダムスキー氏が説いて来た「意識」のことであり、それらがどのように発達させることが出来るかを述べているとも言えるのです。

ポイントは私達自身、自分で概念の限界を作り出してしまいましたが、実際には日常生活の中で数多くの創造物との間で印象のやり取りがあり、万物が互いに意思疎通を行っていることに先ず気付く必要があります。更にはそれらが自然界の調和、均衡の中でどのような役割を担っているか等々を良く学ぶことによつて、私達は神の計らいを学ぶことになるのです。

こうする中で、私達は知覚出来る範囲を増やし、創造主を理解して行くことになり、文字通り意識する範囲を広げることが出来る訳です。各自が気付くことによつてのみ、各自の意識を広げることが出来るという訳です。

訂正 [2019-07-12]

昨日の「第2部第3章一段落207」ですが、中身が「203」のままでしたので、本日訂正いたしました。

CHAPTER IV

Other World Impressions and Thought Habits of Earth

208 Now let us return to a fuller explanation of the blending and interblending of the Cosmos. As a planet moves through space, traveling at awe-inspiring speeds both on its axis and in the orbit it follows around the sun, it is eternally depositing portions of its body in space as dust, gases, etc. The atoms forming these particles are all impregnated with thought frequencies from that planet - just as were the cells of the dwellings mentioned earlier impregnated with the thought vibrations of the occupants.

第4章

他の世界の印象と地球の思考習慣

208 さて、ここで宇宙における融合と混和のより完全な説明に戻しましょう。惑星は宇宙空間をその自転軸及び太陽の周囲を付き従う公転軌道の両方で荘厳なスピードで運行していますので、その天体の幾分かを宇宙空間の中にチリやガスとして永久的に放出し続けています。これら粒子を形成する原子は丁度、以前お話した家の細胞が住人の想念振動を染み込んでいるように、皆その惑星からの想念振動を染み込ませているのです。

【解説】

第4章においては、これら想念波動を宇宙空間との関係において説かれています。

私達の暮らす惑星、地球は普段、日の出や日の入りを見ているように、宇宙空間を高速度で移動、運行しています。その過程で本項に述べられているように宇宙空間にチリやガス等を残すと同様に、隕石のように宇宙に漂う物体を取り込むことも多いのです。

即ち、惑星は絶えず宇宙空間と物質のやり取りを行っており、それらの物質が保有する想念波動も相互に行き来しているという訳です。

太古の昔に何らかの事情で放たれた物体と接することで、それら物体が帯びていた想念波動とも接する機会もあることでしょう。私達が自らの理解の幅を広げればこれら宇宙の起源にまで遡る想念・印象ともアクセスできることになるのです。

209 These gases and dusts will travel the waves of the sea of space, mingling and intermingling with similar dusts and gases from other worlds, until eventually they are gathered unto another planet through the same motion that cast them free from their home body. For centuries man has been aware of this star dust falling to earth, and science has studied it closely. While this cosmic dust sifts down from countless other worlds, our planet, in turn, is broadcasting dust particles and gases from its own body into space.

209 これらのガスやチリは宇宙空間という海の波に乗って移動し、他の世界からの類似したチリやガスと混ざりあい、混和して遂にはそれらの故郷の天体から放たれたと同じ運動を通じて、別の惑星に集められます。何世紀にわたって人はこの星屑が地球に降っていることに気付いており、科学はそれを綿密に研究して来ました。この宇宙のチリが他の無数の世界からの篩下（訳注：ふるいの目を通過する粉の意）である一方、私達の惑星はその天体からチリやガスを宇宙空間に放出しているのです。

【解説】

私達は文字通り唯一無二の宇宙空間の中を旅している惑星上に住んでいます。海の中に行く大型船と言った方が良いかも知れません。その航行の中で宇宙の海に漂う様々な物質と接触し、それらが取り込まれると同時に、その航行の過程で船から離れるものもあるのです。そのいずれにしても、私達は宇宙空間と親しく接し、相互に関係し合っているという訳です。

この場合、地球誕生の前から宇宙は存在する訳で、これら惑星自体、また太陽系自体も元はと言えば宇宙空間に漂うチリ、星々を創る原始物質から創造されたということになります。

地球上で自然界の生命の活発な営みについては、私達も目にすることが出来るのですが、その源となる宇宙空間におけるいわゆる星間物質による星々の誕生については私達の想像を超える活発でスケールの大きな創造活動があるに違いありません。著者アダムスキー氏は自身で宇宙船から見た宇宙空間のこれら活動を踏まえて、本項を述べているのです。

210 The thought frequencies pervading these dusts and gases are not altered by their trip through space. So when we intercept one of these vibrations that has come from another world and is now moving in our atmosphere, it does not mean we are in contact with a dweller on that planet. It can mean we have merely picked up a discarded thought from there, which contains no more value than any of the billions discarded by our own Earthlings.

210 これらのチリやガスに浸透している想念振動は、それらが宇宙空間を旅する間、変化することはありません。その為、私達がこれら振動の一つを掴み取ったとしても、それは私達はその惑星の住人とコンタクトしていることを意味するものではありません。それは私達が単にそこから捨てられた一つの想念を拾い上げたことを意味するだけで、私達地上の者が捨てた何十億もの内、いずれかを含む程度の価値しかないのです。

【解説】

私達の感受性が高まるにつれて、注意しなければならない事柄も増えるという訳です。元来、"類は類を呼ぶ"という言葉のように、まだ低次元レベルを抜け切れていない者達は、少しテレパシーの能力を身に付けると、私達と同レベルの者達の想念・印象が増えるという問題です。

本項のように現在、生きている人達の想念の他に、トウの昔に発せられたものも物体には帯びている訳で、これらの一つ一つに同調していたのでは、本来の進むべき向上の道は歩める筈もありません。

これらの想念は発信源が他の天体であっても価値あるものでない以上、私達は感受すべき想念について監視することが重要となります。即ち、自らの心の横暴という面の他に、心が感知した想念パルスもそれが適切なものかどうかを見極める必要もあるのです。もちろん、自らが高位な想念の発信者になれば、それら低次元の想念波動が入り込むことがない為、これらの事柄は私達が次のステップに飛躍するために越えなければならないハードルと言えるかも知れません。

211 It must always be borne in mind that all levels of mental development exist throughout the Cosmos. Since in recent years so much publicity has been given to the coming of visitors from other worlds, and particularly since some theologians now recognize that the mysterious visitations spoken of in the Bible undoubtedly referred to space people, many Earthlings are inclined to think that all dwellers on other planets are more advanced than ourselves. This is not true. All planets are class rooms in the Cosmic School of Life; and there exist many grades, from those far below us in development, to the very highest . . . which are beyond our present comprehension.

211 宇宙全体を通じては、あらゆる精神的発展レベルが存在することを常に頭に入れて置かねばなりません。近年、他の世界からの訪問者の来訪についてあまりに多くの宣伝広報が為されましたし、またとりわけ何人かの神学者は聖書の中で伝えられた神秘的な訪問は宇宙人を指しているものと今や認識している為、多くの地球人は他の惑星の全ての住人は私達よりはるかに進んでいると考えがちです。これは真実ではありません。全ての惑星は生命の宇宙的学校の中のクラスであり、私達よりはるか下から私達の現在の理解を超えた最高次のものまで多くの段階が存在するのです。

【解説】

宇宙には様々な段階の惑星社会があり、私達もその中の一つに過ぎません。中には科学技術においては私達の遙か先を行くものの、精神面や社会の発達については私達の遙か昔のレベルに留まるものも多いということです。

従って外宇宙から地球を訪れる者全てが私達より進化した者とは必ずしも言えない訳で、私達も注意が必要です。映画「スターウォーズ」の中の一連の登場人物が地球人一般と何ら変わらず、争いの中に居るように描写されているのも、単なる娯楽以上の意味を持つのかも知れません。

こうした中でももちろん、私達は進化した他惑星人との交流を求めるものであり、彼らとの交流に向けて想念感受の訓練を行い、彼らに近づけるよう、日々精進を進めている訳です。

212 Earth is one such class room in the Cosmos. It is a holy place, where we are given the opportunity to grow in understanding that we may climb to another rung on the endless Ladder of Life. When, through our own efforts, we place our feet upon a higher rung, we must then pause to assimilate the lessons to be learned at that level. But climbing far below us, struggling through the phases of development we have already mastered, are the dwellers of countless other planets.

212 地球は宇宙の中のこのようなクラスの一つです。それは私達に終わることのない生命の梯子でもう一つ上の段に登れる理解への成長の機会を与えられている聖なる場所なのです。私達自身の努力によって両足を上の段に置いた時、私達は次に立ち止まってその高さで学ぶべきレッスンを理解し、自分のものとしなければなりません。しかし、私達のはるか下方を登っていて、私達が既にマスターした発達の諸段階で奮闘している無数の他の惑星の住人達がいるのです。

【解説】

私達の各自の生涯や各惑星は、私達各々が進化を遂げる為の各段階に過ぎません。私達の中にあっては、私達は各自進化を遂げる道程を歩んでおり、その学習の目的に合った惑星がその環境として与えられているのです。

従って、宇宙には多種多様な環境があり、各々に合致した者がそこで生きることになります。言い換えれば、私達は自分に合った環境の中で暮らしていると思うべきでしょう。本生涯で学ぶべきものが目前に用意されているとも言えるのです。

こう考えれば、私達は高度に発達した惑星社会を憧れるばかりでなく、足元の環境を見詰めなおし、自分の何が問題かを突き詰めて、一つ一つ解決して行くことが重要となります。これら地球において学ぶべき事柄を学び終えた時、初めて私達も他惑星社会の一員となれるのです。

213 True, the space people I have met from our system are more advanced than we on earth. That is why they have such compassionate understanding of our present struggles; for they once met and conquered the same problems which face us today. They know we will eventually place our feet upon the rung where they now stand, while they in turn, will climb even higher.

213 私が会った私達の太陽系の宇宙人達は、地球の私達よりさらに進化しています。そのことが彼らが現在の私達の奮闘に同情的な理解がある理由です。何故なら彼らもかつては今日私達が直面しているのと同じ諸問題に出会い、克服して来たからです。彼らは私達が何時かは彼らが現在立つ踏み段に私達の両足を置きたろうことを知っていますし、その間、彼らは更により高く登ることでしょう。

【解説】

私達が目指すべきは、各自の進化とともに惑星全体のレベルアップです。その為に私達は関心を持つ多くの人達に対し適切な知識を提供して覚醒への機会を設ける必要があるのです。

また、本講座を学ぶ私達自身もかつてはGAPその他のグループからアダムスキー氏や他惑星の兄弟達の考えや生き方について教えられて来た訳で、真理への道筋を教わって来たのです。

残念ながらアダムスキー氏の死後、今日に至ってはその正統の教えを堅持する活動グループはわずかしが残っておりませんが、これからは各自が自ら後続の人達に導きの手を差し伸べるべき時代となっています。また、そうする中で他惑星の兄弟達が良しとすれば、そのように努力する私達を支援して呉れるものと思っています。

214 So we can see that surrounding us in space are planets below us in development, and others far beyond the scope of our understanding. Impregnated vibrations from both lower and higher planets, through the blending and interblending of the Cosmos, influence our world in an ever-changing pattern.

214 ですから、宇宙の中で私達を取り囲んでいる惑星は進化において私達より下位にあるものもあり、一方では私達の理解の範囲をはるかに超えたものもあることが分かります。低次と高次の両方の惑星から帯びた振動は、大宇宙による混合を混和作用を通じて、永遠に変化し続けるパターンの内に、私達の世界に影響を与えているのです。

【解説】

よくアダムスキー氏は万華鏡（カレイドスコープ）を私達が暮らす宇宙空間になぞって表現しています。万華鏡は1回転毎に異なる紋様を私達に見せて呉れますし、その紋様は色彩豊かで同じものは二度と出てきません。

実は宇宙にも様々な要素があり、私達が通り抜ける空間には過去には様々な出来事があり、現在も多様な段階の天体が運行しているのです。これら多様な天体相互の影響を受けながら私達は広大な宇宙の海を航行している訳です。

現在、地球では各地で異常気象を遭遇している所ですが、それらも単に惑星だけの範囲で考察しても理解出来るものではありません。私達の惑星が運行する宇宙空間の状況変化も大きく影響しているからです。

このように私達は小は自分自身の心の状態から、大は宇宙空間の状況変化まで様々な要素と相互に影響し合っているという訳です。

215 These emanations are the source of many of the confusing "messages" supposedly being received from people on other planets. You will notice they are filled with personal names, predictions of events to come, (usually dire), and divisions of all sorts. To all and sundry, they give personal messages confirming and condoning hidden desires in the heart of the recipient. These should be disregarded, for they are worthless to us in our present growth.

215 こうした放射物は他の惑星の人々から受信したものと想定され、多くの混乱を与える「メッセージ」の源です。それらは個人の名前や今後起る出来事の予言（通常は悲惨なもの）、またあらゆる種類の分裂で満たされています。各自に対しそれらは受信者の心の中の隠れた願望を確認し、容認する個人的なメッセージを与えます。これらは無視されなければなりません。何故なら、それらは私達の現在の成長にとって価値のないものだからです。

【解説】

宇宙から来る印象もその全てが有益という訳ではないのです。私達とさほど変わらないレベルの惑星の断片やそれ以下のものも宇宙には多く漂っており、それらからの残留想念波動に同調できたからと言っても、逆に混乱を及ぼしかねないものもあるのです。

従って私達は浮かび上がる想念一つ一つをチェックして妥当なものであることを確認した上で取り入れなければなりません。各自の自我を喜ばせるようなもの、或いは悲惨なイメージのみを伴う場合については特に注意が必要です。いわばそれらは悪魔（サタン）と呼ばれるべきものであり、私達が想念・印象を開発する際に必ず現れる現象とも言えるのではないのでしょうか。

一方、これらの低レベルの想念は私達の側で真の進化が遂げられた後は私達に同調することが出来ず、退散するということでしょう。私達がある程度以上の進化を遂げれば、無くなる種類のものから

216 The higher thought vibrations, coming from the more advanced planets, often flow undetected through our minds; for they do not confirm our divisions, judgments and personal opinions. These people have grown to the realization of the oneness of all life. and their impersonal thoughts do not exalt our ego. Therefore, they do not fit into the familiar thought pattern of most Earthlings.

216 私達より進歩した惑星からのより高次な想念振動は、しばしば私達の心の中を感知されることなく流れ去ります。何故なら、それらは私達の持つ差別や裁き、個人的な意見を確認するものではないからです。これらの人々は全ての生命の一体性を自覚する程に成長しており、彼らの主観を交えない想念は私達のエゴを持ち上げることはありません。ですから、それらの想念はほとんどの地球人の馴染みのある想念パターンには合わないのです。

【解説】

想念というものは距離に関わらず伝わるということは、私達はこれら無数の想念が飛び交う空間の中に生きていることになりましょう。その中であって日常、私達が感知する想念波が限られたものになっているのは、受信機である私達自身の感度が鈍いからであり、多くの想念が感知されないまま私達の心を通り過ぎて行くということでしょう。

本項で述べられているように、私達の受信機（心）は自らの程度のものには反応出来るものの、より高次な波動には同調同期することは出来ないのです。せつかくの良質なアイデアも何ら気付かれることなく、私達の中を無為に通っているのかも知れません。

これら高次な想念波動を感知する為に、私達自身を先ずは進化させ、より高次の発信体へと改質させなければならない訳です。

217 To make this illustration more understandable, should you, while daydreaming, have the good fortune to receive one of the great thought-frequencies Plato set in motion while he lived on earth, you would not be receiving a "message" from Plato in the "spirit world." You would merely be picking up that thought vibration which was imprinted in space during his lifetime.

217 この説明をより分かりやすくする為に、貴方が空想している間に、幸運にもプラトンが生きていた時、思いを起こした偉大な想念振動の一つを得たとしても、貴方は「霊の世界」のプラトンからの「メッセージ」を受けたことにはならないということです。貴方は単に彼が生きていた間に空間に刻み込まれた想念振動を拾い上げているに過ぎないのです。

【解説】

私達は無数に飛び交う想念の海に暮らしています。それ故、鈍感な私達でも時としてこれら想念の一つと同調出来る時もあるのです。

しかし、その場合でも同調したその想念が実はかつて放たれたものが今日まで残留していたものということもあり得るのです。この場合、私達はその発信者から直接、メッセージを受け取ったことにはならず、単にかつての想念に遭遇したに過ぎません。

今後、私達がテレパシー能力を開発して行くにつれて、同種の事柄は増えて来ると思われますが、私達はこれら著名人から直接、指導を受けたなどと自分のエゴを喜ばせることなく、それらを有益な助言として有り難く受入れ、活用することが必要だと考えます。

このように私達は今後は空間から学ぶという態度が必要となる訳です。

218 Many mediums are caught in this trap, and never escape from the illusion that they are in actual contact with the person. Not understanding the workings of their own minds or the impressions coming from the cells of their bodies, and having no comprehension of the vast sea of thought vibrations within which they live, they eagerly accept the "prophecies and messages" contained in the innumerable frequency levels around them. True clairvoyance is a natural unfolding of the perceptions, which will be discussed in Part Three.

218 多くの霊媒達はこのワナに捕えられ、自分達はその人物と実際にコンタクトしている幻影から逃れ出すことはありません。自分自身の心や自分達の肉体細胞から来る印象類の作用を理解せず、また自分達が生きている広大な想念波動の海を理解しないまま、彼らは自分達の周囲の無数の振動数レベルに含まれている「予言とメッセージ」をひたすら受け入れています。これに対し、真実の透視とは知覚の自然な開示であり、それは第3部で討議されることになるでしょう。

【解説】

かつては日本でも霊媒とか心霊とかに人々の関心が集まった時期もありました。海外でもエドガー・ケイシー等々、依頼者の過去生を透視したり、未来を予言した事例も多くあるように思います。

これらの内、本項では何か特定の人物と霊的にコンタクトし、その者から特別な情報を得ていると主張する事例と特に戒めているのです。

私達が注意しなければならないのは、これらは宇宙に漂う残留想念に起因するもので、決して生きている本人からリアルタイムで発せられたものではないということです。とかくそれらの予言が的を得たものであったり、各自のエゴを喜ばせるものである場合、これらの情報源に信頼を置きがちですが、こうすることで結局はこれらの情報を伝える霊媒者に傾倒し、支配されることになってしまいます。

多くの宗教団体は同様の手法をとり、信者を集める訳ですが、私達は先ずは自らこのような宇宙に漂う想念波動を自ら感受し、それらの妥当性をチェック出来なければならないのです。

219 But of more importance to us in our daily lives than either the strong, destructive emotions, or the interception of vibrations from the lower planets, is the subtle manner in which we are influenced by the waves of thought floating around us at all times. Inasmuch as the total universe is composed of thought-producing action, we can easily perceive that the human form as well as every other type of manifestation, is not only bombarded with billions of thoughts per second from outside sources, but is also creating billions of thoughts pertaining to itself. In most cases, the thinkers who gave birth to those thoughts coming to us from the outside, were limited to an understanding of the world of effect. Therefore, their thought emanations are steeped in divisions, discriminations, personal likes and dislikes, and other expressions of the ego.

219 しかし、日常的な生活の中で私達にとって強烈な破壊的感情や低次元惑星からの振動の傍受より重要なのは、いつも私達の周囲を浮遊している想念波に影響を受けているような密かな種類のものであります。全宇宙は想念造成の作用から成り立っている以上、私達は人体は他のタイプの創造物と同様、外部発信源から毎秒何十億個の想念が衝突するばかりでなく、自身に関連して何十億個の想念を造り出しています。多くの場合、外部から私達にやって来るそれらの想念を生み出した思考者は、結果の世界への理解に限られています。その為、彼らの想念放射物は分裂や差別、個人的な好き嫌い、またその他、エゴの表現に浸っています。

【解説】

重要なことは、私達は日常的に他の者から発せられた想念から影響を受けていることです。前述のような事例の起こる頻度は少ないのですが、それよりもはるかに大きな影響を私達は日頃接するこれら想念から影響を受けているのです。

これらの想念は皆、私達と同類の者が発するものである以上、差別や好き嫌い等々、低レベルのものが多くあります。せっかく培った想念感受の能力もこれらにばかり同調していたのでは、先々の進化はおぼつきません。それ故に私達は自身の感受性を高める以前に自身を精査して十分に内容を高めることに重点を置かなければならないのです。

私達が知らず知らずの内に心に入り込むことを許してしまっている想念にこそ、注意を払う必要があるのです。

220 While these will not have the immediate impact upon our consciousness that contact with the strong emotions registered, unless guarded against constantly, they will insinuate themselves insidiously into our thinking pattern as opinions, criticism, snobbishness, and so forth. A flare of anger impresses the mind momentarily, but unless the person develops into a perpetual grouch, the mind will gradually regain its normal equilibrium; and once again resume its pursuance of thoughts in the same old rut it has been following.

220 強烈な感情と接触する際には記録する私達の意識に対し、これらは直ちには影響を与えない一方で、常時見張っていないと、それらは自分達を気付かれぬよう私達の意見や批判、上品振り等々の思考パターンの中に巧みに入り込ませます。怒りの炎は瞬時的に心に印象付けますが、当人が不機嫌を永続させない限り、心は次第に通常の平衡状態を取り戻します。そしてこれまで追従して来た古い轍（わだち）に沿った想念の追求を再開するのです。

【解説】

本項は私達が感知し心に同調を許した想念が、その後どのように私達に影響を与えるかを解説しています。もちろん、怒りその他の強烈な想念は一時的には私達をせきたてるような働きかけをしますが、それ以上に注意しなければならないのは、いわば慢性的な働きかけについてです。

実は私達の心が侵入を許した低次元の想念波動は、その直後は目立った影響を発揮しなくても、その後徐々に私達に影響を与えるというのです。私達の思考の傾向に影響を与え、ゆっくりと性格を変えて行く潜在力があるというのです。いわば慢性的な疾患として瞬間的な影響よりも大きな影響を私達に及ぼすことに注意しなければならないのです。

巧みに私達に近づき、私達を同調させ、やがては支配する存在をサタンとすれば、私達の周囲にはサタンなるものが多く居ることが分かります。是非それらの誘いに乗ることなく、正しい道を歩いて欲しいし、その為に各自の力を発揮してもらいたいと思うものです。

221 It is the instinctive, inborn desire in Man for a better understanding of all he sees about him, that keeps his eyes raised heavenward and his hand ever reaching for a higher rung on the Ladder of Life. If this were not so, he would have been content with a sub-human existence; never seeking the answer to why the Sun God rode through the sky each day, or how his protector from the storm, the mighty oak, sprouted from a tiny acorn.

221 人が生命の梯子のより高い段を目指して両目で天空を見上げ、手を上の段に伸ばすのは、自分に関するより良い理解を得たいとする本能的な生まれながらの願望です。もしそうでなければ、人は類人の状態で満足していたでしょうし、何故毎日太陽の神が昇るのか、どのようにして小さなドングリから彼を嵐からの守護者となる櫟の木が芽吹くのか知ろうとはしなかったでしょう。

【解説】

先日、ある神社で東日本随一と言われる樹齢1370年以上の大杉を見る機会がありました。普通、神木をされる大樹は巨木であるが故に長年の風雪で幹が痛んでいるものが多いのですが、その杉は大変若々しく堂々とした姿をしており、地面から真っすぐに幹周り8mにも及ぶ太く立派な幹を伸ばしておりました。人々の敬愛や信仰の証として周囲に柵が整備され、幹にはしめ縄が回されていました。神々しいとはこのようなことかと思った次第です。

聖徳太子の時代に神社が建立された時に植えられたものと伝えられており、1300年余の時間の長さを実感させるものとなっています。

もちろん、私達は各自、過去生も含めて長い年月を生きて来た者でありましょう。その中で、少しずつ進化の道を歩むことを続ければ、1本の苗木からこのような巨木にまで自然は私達を育てて下さるということでしょう。その為には各自はこの杉の木のように揺るぎない信仰を基礎として真っすぐに伸びていく決意を必要としているのです。

222 To the impatient mind, man's progress seems discouragingly .slow; but the Living Soul is ever unfolding and expanding. And though at times we may appear to have slipped back two steps where we have taken one, slowly but triumphantly man is preparing himself to become an occupant in another of the many mansions in the Father's house.
222 せっかちな心にとって、人間の進歩はがっかりする程、遅く見えます。しかし、生ける聖霊は永遠に開示し続け、拡張し続けます。そして時として私達は一段昇った所で、2段滑り落ちるかも知れませんが、人はゆっくりではありますが、意気揚々と父の家の多くの館の内のもう一つの館の主人となるよう準備を進めているのです。

【解説】

本項では人間が各々の惑星間での生まれ変わりを通じて進化の道を歩むことを説いています。これら転生の教えは仏教において色濃く伝わっていますが、本項では宇宙的視野においても正しいことを示唆しているのです。

結局、私達の進歩には長い時間がかかるということであり、一生の中で各自が学び取る内容も限られているということでしょう。しかし、永遠なる宇宙の時間軸から観れば、私達の一生などほんの一瞬に過ぎません。それ故、その短い一生をどのように過ごすかは大変重要なのです。

芸術家はその一生の内にどれ程の作品を残すかが常に問われるのと同様、私達各自は自らの一生をどう生き、どう進化させられるかについて十分に注意を払い、日々の生活を送るべきなのです。そうする中で私達は各々準備が整った段階で次なる飛躍としてもうひとつ上の段階の惑星に転生するということでしょう。「父が用意した別のマンション」という訳です。

223 But to accomplish this he must first learn to control his emotions, his sense reactions, his selfish desires; and to understand that he is one with all creation. He must comprehend that the atoms vibrating in his present body have been used and reused throughout creation; therefore, they have participated in every phase, from the lowest conceivable form, to immense planetary bodies that ages ago were absorbed back into space. There are no divisions except those man has imposed upon himself.

223 しかしこれを達成する為には、彼は自らの感情や自らの感覚の反応、利己的な願望をコントロールすることを学ばねばなりません。そして自分が全ての創造と一体であることを理解する為にでもあります。人は自分の現在の肉体の中で振動している原子群は創造を通じて利用され、また再利用されて来たことを理解しなければなりません。ですから彼ら原子群は考えられる最も低次元な形状物から大昔に宇宙空間に吸収された惑星体に至るまであらゆる段階に参画して来たのです。人が自分自身にこれらを押し付けられない限り区分というものはないのです。

【解説】

私達自身の肉体が実は悠久の昔から続く創造と分解の歴史の中で決して消えることなく、様々な存在を生み出して来た分子・原子から成っており、それぞれの分子・原子はその記憶を保持しているのです。それ故、私達は他の者、他の創造物を決して他人とは観ることはなく、自分の肉体と何ら変わらない同胞と観なければなりません。

このことが進化した他惑星人達がエゴに囚われている私達にも命の危険を顧みず支援の手を差し伸べる遠因でもあります。自分の兄弟姉妹と思うからこそ諦めることのない援助を続けているのです。

現在、地球では個人主義が席卷し、互いに助け合う気風が薄れています。昔のように貧しい中、人々が助け合って暮らしていた社会から、他人から利益を得ようとする者ばかりが増えてしまっているようです。こうした中、私達が為すべきは、あらゆるものが互いに関連し合い、繋がって生きている事実を学び、互いに調和して生きて行くことなのです。

224 We have shown earlier the influence uncontrolled emotions play in our lives; how bad temper can separate us from our friends and cause people to avoid us; how anxiety can bring unhappiness to us and to all around us. Therefore, is it not clear that our first task should be the conquering of these destructive emotions? No one can do this for us. Only we can change our thinking habits. However, now that we have a clearer understanding of the workings of our bodies and minds, this should be an easier goal to reach.

224 私達は先に、制御されない諸感情が私達の生活に及ぼす影響、即ち、如何にして不機嫌が友達から私達を引き離し、人々が私達を避けるようにさせ得るか、如何にして不安感が私達や私達の周囲の者全てに不幸をもたらす得るのかを示して来ました。従って私達の最初の任務はこれら破壊的な感情を克服することにあるべきだということは明らかではないでしょうか。誰もこれを私達に代わって行うことは出来ません。私達だけが私達の思考習慣を変えられるのです。しかしながら、私達は私達の肉体や心の働きについてより明確な理解を得ている今、これは到達するに易しいゴールである筈です。

【解説】

私達はこれまで私達の激しい感情や憤慨その他が如何に私達自身を痛めつけ周囲の環境を破壊して来たか、また私達自身が如何にダメージを受けて来たかは各自身に染みている程、経験を積んでいます。

これらの状況を見れば、私達の当面の課題はこれら自身の感情の制御にあることは明白です。またそれらの事柄は各自の問題であり、他人は何もしてあげられないという訳です。相手に説いても本人が実践しない限り、変わりようはないのです。

おそらく有史以前の昔から、私達地球人に対し、これら感情の抑制について多くの師が教えて来たことでしょう。それにも拘わらず文明が発達した現代においてもあまりに多く感情の制御が行われない為に起こる事件が多いことが懸念されます。

これらの事柄はそうした状況の中に身を置いて訓練する環境が私達の惑星の現状なのかも知れません。私達全体のレベルがこれら事件として表面に出ていると思うものです。何よりも自己統制（セルフコントロール）が私達地球人の課題と言えるのです。

Summary of Part Two

225 There are six channels of impressions; three of effect, and three of Cosmic value. As we have shown you, the three of effect carry discriminations, divisions, and hatreds, so well-known in the world today.

第2部要約

225 印象には6つの経路があります。3つは結果の、残り3つは宇宙的価値を持っています。これまで示したように結果の3経路は差別や分裂そして憎しみ等、今日の世界で良く知られている要素を運びます。

【解説】

本項から第2部の要約が記されています。

これから私達が各自を訓練し、想念波動への感受性を高める中で想念波動の発信源について事前によく知って置くべき想念波動の径路について本項以降で整理されています。

とかく未熟な私達は感受した新奇性のあるアイデアに即応し、直ちに受け入れてしまいがちですが、それら想念波動には本来の宇宙的なものや世俗的なものがあり、様々な発信源があることを認識しなければなりません。

これらいわば感受した想念が託して良いものかどうかを先ずは探ることも必要でしょう。あるいは日頃の生活態度の中で自ずと良質なものしか入って来なくなれば最高です。私達は自身の質を高め、高品位なものにしか自動同期しないような体質づくりも必要となるのです。

226 The first channel of effect that you should guard against comes from the average human mind. Since there are over two-and-a-half billion people on our planet, most of whom live under the daily influence of thought-patterns of avarice, personal judgment, and a thousand and one petty worries, you must try constantly to protect yourself against attracting these impressions to your mind. Remember, like attracts like. So endeavor to keep your thoughts on a level where they will not attract these emanations. If one is to develop to the state of Cosmic understanding, although these impressions will come to him, he will recognize their character and not lend himself to them. This is a major thing to watch for.

226 それに対し身を守るべき第一の経路は平均的な人間の心から来るものです。私達の惑星には25億を越える人々があり、それらのほとんどが強欲や利己的な裁きで千一夜の些細な心配事という日常的な想念パターンの影響下で生きている以上、貴方はこれら諸印象を自分の心に誘引しないよう自身を常を守らなければなりません。類は類を呼ぶことと覚えておいて下さい。ですから貴方の諸々の想念をこれらの放射物を誘引しないレベルに常に保つよう真剣に努力することです。もし、人が宇宙的な理解の状態まで進化すれば、これらの印象がやって来ても、それらの性質が分かり、自身をそれらに委ねることはないでしょう。これが警戒すべき主要な事柄です。

【解説】

先ず最初に注意したいのは、この惑星に私達と同様、現在暮らしている人達から発せられる低次元の想念波動です。類は類を呼ぶとあるように、とかく私達は同レベルの想念と同調しやすいものです。よほど注意していないとこれら無益な想念波動が私達に入り込み易いという訳です。

もちろんこれらに対して、身体に入って来る際に、その性質を見抜くことが出来ればそれらの侵入は無いです。私達は同意した想念だけが、私達に入り込み、それらに私達に生き方を託すことになるのです。

そういう意味から、現在生きている人、地球に生きる人々が日常放っている想念こそ、最も影響を与える存在であり、多少に関わらず私達は影響を受けていることになるのです。一人一人がこれら低レベルの想念波動に影響を受けることなく、本来の道を歩むことを決心することが、如何に尊い貴重なものであるかは、この例を見ても明らかです。

227 The second channel of effect that we should avoid comes to us through the interblending of the Cosmos, bringing thoughts from other planets, or systems, where the inhabitants have not yet evolved to our level. These, too, will carry divisions, judgments, discriminations, etc. Such thoughts are of no help to us. They will only add to the confusion already prevalent in the world today.

227 私達が避けるべき第二の経路は宇宙の混和を通じてやって来るものであり、他の惑星や太陽系等、その住人が私達のレベルまで未だ進化していない所の想念をもたらすものです。これらもまた分裂や裁き、差別等々を運んで来るでしょう。このような想念は私達には何の助けにもなりません。それらは今日の世界に既に流行っている混乱に付け加わるだけです。

【解説】

私達は文字通り無数の想念波動が飛び交う宇宙空間の中に生きています。これら想念の内、最も影響を受け易いのは現在同じ惑星に生きている他の人間が発している想念であり、次に他の惑星に生きる人達から発せられている想念波動であるという訳です。

これらの内、私達を取り入れて良いのは、私達自身より高次元、高品位のものであり、他は私達の進歩に役立つものでない限り捨て去るべきで、決して取り入れるべきものではありません。

繰り返しになりますが、これら想念波動を感知した際にその持つ性質を見極めることが大切で、同調すべきでない類は近づけてはならないのです。しかしそれらの状況に出会ったとしても恐れることはなく、それら怒りや悲しみ、憤りの想念に対し、優しく接し、浄化することで本来の穏やかなものに改質、中和させることも必要だと考えます。

228 The third channel to be shunned is that of the memories of discarnate entities who have lived in this world. These thoughts are often mistaken for "spirit communion." Remember the illustration we used about tuning into a thought frequency Plato had set in motion while he lived? This same principle applies to thought frequencies from others who have lived on earth; but unless they have evolved above the personal pettiness of most Earthlings, these thoughts are of no value to us. We are growing and unfolding daily, so except for a few outstanding minds who have sojourned here, we have advanced past the place in development these people had reached. The Law of Progression is a fundamental law of the Cosmos.

228 遠ざけるべき第三の経路はかつてこの世界に生存し肉体を失った存在の記憶の経路です。これらの想念はしばしば「霊的な交流」と誤解されています。私達が用いたプラトンが生きていた間に起こした想念振動に同調した事例を思い出して下さい。これと同じ原理が過去に地球に住んだ他の者達から来る想念振動にも適用されるのです。しかし、それらが大部分の地球人の個人的な些細な事柄を越える程進化したものでない限り、これらの想念は私達に何ら価値はありません。私達は日毎に成長し目覚めています。ですからここに逗留した一部の秀でた心を除けば、私達はこれらの人々が到達していた発達の場所を既に越えて進化しています。進化の法則は宇宙の基本的な法則なのです。

【解説】

地球という惑星が宇宙空間に誕生してから今日まで、想像すらできないほどの数の人々が地上で暮らし、過ぎ去って行ったことでしょう。まさに私達一人一人はこのように星々に転生を繰り返す宇宙の旅人であるのです。

各々の人生で何かを学び終えた人々は、次なる館を目指して移り行く訳ですが、同時にその発した想念はしばしの間、地球に残留するという事でしょう。

問題はこれら残留する想念波動が私達に有用であるか否かです。客観的に考えれば私達は緩やかであっても進化している訳で、これら昔の残留波動が有用とは必ずしも言えないのです。私達自身、少なくとも昔よりは進歩した社会に生きている訳で、これら過去の想念に捉われることはむしろ避けるべきことなのです。私達の進歩、進化に役立つ宇宙的な高品位なものに私達の指向を移して行かねばならないのです。

229 For the most part, impressions coming from all three channels of effect are steeped in discriminations and judgments; but occasionally a message may come which contains certain gems of Cosmic Truth. The average person will recognize these gems and because of their presence, will then accept the entire message, divisions, personal promises, etc., as being of Cosmic origin. Whereas, the very presence of discriminations proves it to be from a confused source.

229 大抵の場合、これら結果の3つの経路から来る印象類は差別や裁きに染まっています。しかし時には、宇宙的真理について或る種の珠玉を含んだメッセージもやって来るかも知れません。平均的な人はこれらの珠玉に気付く、その存在の為に次にはその全体のメッセージや分裂、個人的な約束等々を宇宙の源泉から来るものとして受け入れてしまいます。しかしながら、差別の存在そのものが、それが混乱した源からのものであることを証明しているのです。

【解説】

テレパシー研究を進める中で私達が陥りやすい問題について、本項が説くポイントは重要です。とかく私達は何かに全てを託しやすくなりがちです。これは多くの宗教分野に当てはまります。初めて聞くその教えの中に何か少し輝くものを見出したが故に、その後その源泉から発せられる全ての情報を受け入れてしまったために、本来の道を見失うケースも多いのではないのでしょうか。

中東の過激集団は信者の導入時には崇高な教えを説くことですが、その後、実際に行っている事柄は常識を超えた残忍なことばかりです。

本項では、そこまでの危険までは言及されていませんが、私達の周囲には私達を餌食にしようとするオカルト集団も多いということでしょう。

そうした中、私達自身に受け入れるべき想念・印象についてはその性質を見極め、真に宇宙的なものか否かを吟味する、あるいは感觸で知る能力を身に付けなければなりません。自らを世の中に溢れる邪悪なものたちから守り、泥沼の中でも一人一人が美しいハスの華を咲かせることが求められているのです。

230 The first channel of Cosmic impression comes from Cosmic Cause, or true Life Force, to the pure cause, or life force within us. We have shown that this Force in Intelligence permeates all manifestation, carrying no judgments or divisions. This is the Law of Relativity wherein, through interrelationship, pure knowledge is accessible to those who seek in humility. For the Cosmos can become an open book when we overcome our personality.

230 宇宙的印象の第一の経路は、宇宙の因、即ち真の生命力から、私達内部の純粹なる因、即ち生命力に向けてやって来ます。私達はこれまで英知におけるこの力が全ての創造物に染みわたり、如何なる裁きも分裂ももたらさないことを示して来ました。これは謙虚さを希求する者にとって相互に関係することによって、純粹な知識に触れることが出来る相關法則なのです。何故なら、大宇宙は私達が自らの個人性を克服する時、開かれた一冊の本になり得るからです。

【解説】

よく説かれることですが、私達生きるもの全ては同じ空気を呼吸し、同じ星の元に暮らしています。また生きものを構成する原子・分子についても皆、共通であり、太古の昔から生きものを構成して来たこれら原子・分子の変遷を考えれば私達生きものを構成する原子・分子は実は各生きものの中で大きな違いはないことに気付きます。

また同時に、これら生きもの達が生き生きと暮らす為にはオーケストラのコンダクターのように一定のリズムを指揮することが必要です。本項は全ての生きものに対して宇宙の本源から絶えず生命活動を促す力が注がれていると説いているのです。そしてその力こそ、私達人間が最も大事にしなければならない想念波動だという訳です。この径路こそ私達を進化に導く源泉なのです。

231 While not of Cosmic value, when you receive a thought from a relative or a friend who is now living, you can accept it. This communication is natural, and will often carry an important message from a loved one. But guard against thoughts of discrimination or dissension--even from those we know best. For a discordant thought is just as harmful when received from someone dear to us, as it is from a total stranger.

231 宇宙的価値を有しないものの、現に生きている親類や友人から想念を受けた場合には、貴方はそれを受け入れても良いでしょう。この意思伝達は自然であり、しばしば愛する者の大事なメッセージを運ぶことでしょう。しかし、差別や口論の想念からは、私達が最も良く知っている者達からのものであっても、守る事です。何故なら、不調和な想念は私達と親密な者からのものであっても、全くの未知なる者からのと同様、有害であるからです。

【解説】

親しい者同士の以心伝心と言う表現があるように、親しい間柄には想念伝達の径路が確立するという事でしょう。互いに許しあった仲には想念波動の面からも太い伝達径路が形成されるという訳です。

著者はこの種の想念伝達については可としており、互いに活用することが望まれます。しかし同時に、これらの間柄にあっても差別や非難その他のマイナスの要素のものは遠ざけねばならないと忠告しています。

私達が最も親しくなるべきは創造主であることを考えれば、私達は常にこの生命を与え、支えて呉れている創造主に対し感謝の念を親しみを持つべきでありましょう。創造主とのパイプこそより太く揺るぎないものに育て上げることが大事なのです。

232 The second channel of Cosmic impression, comes from the same interblending of the Cosmos which brings the thought frequencies from the lower planets; but in this case the thought frequencies are coming from people of higher development than those on earth. Impressions from them can be of great value to us, since they can help us better conditions in the world.

232 宇宙的印象の第二の経路は、低次元惑星からの想念振動をもたらすのと同じ宇宙の混和現象から来ますが、この場合、想念振動は地球人よりも高次元に進歩した人々から来ます。彼らの印象は私達にとって大いなる価値を持っています。それらの印象が、この世の中の状況をより良くする為に私達の手助けをしてくれるからです。

【解説】

仏典には"仏国土"という表現があります。宇宙空間に仏が住む無数の星と惑星があるという訳です。この仏国土から発せられる慈悲の想念波動は私達にも向けられていることでしょう。これら宇宙的な想念・印象も私達が生きる上で道しるべとなって呉れる筈です。

先日も夜中のTVで美しい星空を映す番組が放送されていました。青い夜空の中で無数の星々が天空を揃って回転する様は、私達が本来恵まれた宇宙的な環境の元、生きていることを示すものでした。

これら宇宙の下に生きている私達には本項で示すように多くの偉大な宇宙人から支援の想念も向けられていることでしょう。私達は残念ながらこのような天空に溢れるばかりの星空を日常見ることが出来ませんが、少しでもこれら天空の真実を自覚して宇宙の賢者からの指導の声にも耳を傾けたいものです。

233 For instance, those of you who have read INSIDE THE SPACE SHIPS, will notice that the space people mentioned in the book compared their way of life to ours quite impartially. They did not criticize or pass judgment upon us; they merely analyzed the two phases of life. They pointed out the path of brotherhood we should follow, but they did not condemn us for our selfish shortcomings. Rather, theirs was an attitude of compassionate understanding for a wayward, younger brother. These more highly evolved people are the only ones we should look for enlightenment and help. Their thought frequencies are as accessible to us as the impressions from lower planets; but here again, because they do not conform to our normal thought patterns, we allow them to pass through our minds unnoticed.

233 例えば同乗記を読んだことのある皆さんは、その本に書かれている宇宙人達は何ら分け隔て無く彼らの生き方と私達の生き方を比較していたことに気付くでしょう。彼らは私達を批判したり、裁いたりしていません。彼らは単に、生命の二つの姿を分析して見せたのです。彼らは私達が従うべき兄妹愛の道筋を指摘しましたが、彼らは私達の利己的な短所に対し非難することはありませんでした。むしろ彼らの姿勢は一人のわがままな弟に対する思いやりのある理解の姿勢でありました。これら更に高度に進化した人々は私達が啓発と支援を期待すべき唯一の人達です。彼らの想念振動は低次元惑星からの印象類と同様に私達が近付き易いものです。しかし、ここでもまた、彼らが私達の通常の想念パターンと一致しないが為に、私達は気付かないままそれらを私達の心の中に通過させているのです。

【解説】

著者はここでは明確には述べていませんが、同乗記その他、氏の伝えたこの太陽系における私達が暮らす地球の位置づけを考えれば、本項の意味する所はより鮮明になる筈です。即ち、太陽系の中で最も遅れた惑星、人間的に進化が遅れている星が地球であり、悠久の歴史の中で様々な救世主が地球を訪れて来たとされています。

それらの導師は皆、私達が進化する上で克服すべき課題を説き、人々を導いて来た訳です。現代の途上国支援と同じく、教師役は本国に帰国してからも引き続き担当した国のその後の進展を見守るでしょうし、次なる渡航に向けて準備もする筈です。

このようにこれまで地球に関わった導師達は皆、その後も私達の行く末を案じ、また支援の想念を抱いてくれるのです。そういう意味でも私達は自分に向けて発せられている支援の印象に気付くべきであり、無為にそれら支援を放置し捨て置くべきではありません。自らの振動を高め、これら高貴な想念と共鳴出来る心身を作り上げることが必要です。

234 The third channel of Cosmic impression, is the cell to cell communication. Remember, that every atom in the universe speaks the cosmic language, and is capable of communicating with every other atom. We have shown that the Mother principle in creation forms matter by gathering together atoms vibrating at different rates to bring forth manifestation. This Mother principle is equal to the Divine, or Father principle of creation; therefore, you will find in it no judgment or discrimination; for this would be discriminating against itself. Nature respects man equally; so does Cosmic, or Natural law. As the sun shines alike on the just and the unjust, judging no form-life, so does Cosmic Matter lend itself impartially to all manifestation. When we can look upon all form-life and see it in its true light, Nature unlocks her secrets, and gladly shares them with us.

234 宇宙的印象の第3の経路は細胞から細胞への意思疎通です。宇宙空間の中のあらゆる原子は宇宙的言語を話し、他の全ての原子と意思疎通が出来ることを覚えておいて下さい。私達は既に創造における母性原理は、創造物を生み出す為に異なる速さで振動している原子達を集めることによって形有るものを形成していることを示して来ました。この母性原理は聖なるもの、即ち、創造における父性原理に等しいのです。ですから貴方はその中に如何なる裁きも差別も見つけることはありません。何故なら、これは自分自身に対する差別になってしまうからです。自然は人を平等に尊敬します。ですから、宇宙や自然法則も同様です。太陽が正しい者にも不正な者にも等しく輝くように、宇宙の物質も全ての創造に分け隔てなく自身を委ねています。私達が全ての形ある生命を見て、その真実の光を見ることが出来る時、自然は諸々の秘密を明かして、それらを喜んで私達に分ち与えるのです。

【解説】

生命活動の中、生きもの達が生まれ、成長しそして再び死を迎える等、様々な生命活動を私達は観ることが出来ます。これらは皆、分子・原子レベルの結合や分離の結果であり、その背景には細胞間の意思疎通、即ち想念・印象の交流があるのです。

このことは各自の身体内部でも生じていますが、宇宙の中のあらゆる場所で起こっていることでもあるのです。本項の細胞と細胞の間の意思疎通はごく日常的に行われているものです。

私達自身の身体は60兆もの細胞から成り立っているのですが、これらの間には日常的な想念伝達もありますし、近隣惑星等で暮らす惑星の住人の細胞に由来するものもあるかも知れません。

しかし、最も身近な存在である私達自身の身体細胞こそ、日常的に親しみ、育成してより宇宙的な身体に昇華できるよう大切にしたいものです。まさに各自、ご自愛下さいという訳です。

235 There is one thing you must keep firmly in mind when practicing telepathic communication. Let no thought go out from you bearing discrimination, judgment, or harm to another form. And at all times guard vigilantly against allowing similar thoughts to enter your mind. Cosmic impressions, with their all-encompassing understanding of the whole, are the only three avenues which can be of any help to us in climbing the Ladder of Life.

235 貴方がテレパシー通信を練習する際にしっかり記憶して置かなければならないことが一つあります。それは貴方から差別や裁き或いは他の形あるものへの危害を帯びた如何なる想念も出してはならないということです。そして、常に同様の想念が貴方の心に入り込まないよう絶えず見張っていることです。全体に対する全てを包み込む宇宙的印象類のみが私達にとって生命の梯子を登る上での助けになり得る唯一の3つの大道なのです。

【解説】

ポイントはたとえ瞬時たりとも裁きや怒りが心に入り込むことを防ぐことです。それらは私達自身にも、また私達が発する想念波動が影響を及ぼす人達にとって、有害の源となるからです。

この背景には私達の抱く想念波動の持つ大きな力、物事の実現力、未来に対する影響力が私達が想像する以上に大きいことがあるのです。

私達が日頃、どのような想念を抱いているかは、その者の将来を決定づける大きな要素です。そういう意味からも私達は日常、自分達がどのような想念活動を行っているのか、十分に注意しなければなりません。もちろん、良質で宇宙的な想念を抱き、或いは招き入れることが出来れば、肉体細胞は本来の調和的な活動の姿に復帰し、支障（病気）はすぐにも解消されるものと思われま

す。宇宙への信頼こと、私達の導き手であるのです。日本語には"日頃の心がけ"という表現がありますが、日常、私達が時々刻々どのような心の状態を維持しているか気をつけていることが大切だということです。

236 Since we are part of this world, we must differentiate between the acts in our lives. We are allowed to analyze for the purpose of understanding, but must not divide or condemn. We have not the right to sit in judgment on our brother. He has come this way to learn his own lessons. And just as we cannot attend school for our children and expect them to receive an education, so we cannot attend the School of Life for another. We can offer a helping hand or a guiding word, but at no time should we try to force our will upon him. Remember, he may be struggling to learn the lessons we have already mastered, but he must master them himself.

236 私達はこの世界の一部である以上、私達の生命における諸活動の間を識別しなければなりません。私達はその理解の目的の為に分析することが許されています。しかし、差別したり、責めたりしてはならないのです。私達には兄妹に裁きを下す席に座る権利はありません。その兄妹は自身の教科を学ぶ為、ここに来たのです。また、私達が私達の子供達に代わって学校に行くことで子供達に教育を受けさせることが出来ないことと全く同様に、他の者に代わって生命の学校に出席することは出来ません。私達は助けの手を差し伸べたり、導きの言葉を掛けることは出来ますが、如何なる時であっても私達の意味をその者に強制しようとするべきではありません。覚えておいて欲しいのは、その者は私達が既にマスターした諸教科を学ぼうと努力しているかも知れませんが、彼は自分でそれらをマスターしなければならないということです。

【解説】

東南アジアの仏教は通常、小乗仏教とか南伝仏教、或いは上座部仏教と称されています。確かな知識ではありませんが、日本に伝わった北伝仏教、大乘仏教とは大きく違うところがあるとされて来ました。とかく日本では衆生の救済を願う大乘仏教の方が各自の修行を尊ぶ小乗仏教より、優れているとされがちです。しかし、現実に東南アジアで過ごして見ると、その見方とは異なる印象を持ちます。

本項は同様に各人がこの地（惑星）に生まれた宿縁を全うする中で所定の学びをすることが重要であり、その学びを私達が本人に代わって行うことは出来ないことを改めて説いています。

また同様に、仮に私達が他の者よりも多くを学び取っていたからと言って、相手に強制したり、ましてや相手の至らなさを非難することは厳に慎むように命じています。

もちろん必要な助言は与えるべきですが、最後は本人の選択と決断、実践に掛かっているのです。こうした中、地上で暮らす各々が各自の勤めを果たすことが基本であり、その姿を見せることで衆生の目覚めを願うのが南伝仏教の本意であり、また本項で著者が説く所です。

237 Let us use the example of a wayward child. The parents will correct the child for a breach of discipline, but they do not condemn it. They understand that as the child grows, it will gradually learn right from wrong. All human beings throughout the Cosmos, are children learning lessons . . . and should be recognized as such. Jesus exemplified this when He said, "Father, forgive them; for they know not what they do." If this law is obeyed, we shall have no trouble in employing the Cosmic Language.

237 わがままな子供についての例を用いましょう。両親は躰を破ったとしてその子供を正しますが、責めることはしません。両親は子供が成長するにつれて次第に誤ったものと正しいものの違いを学ぶようになることを理解しています。宇宙を通じて全ての人類はレッスンを学ぶ子供達であり、そのように見なされるべきなのです。イエスはこう言ってそれを例示しました。「父よ許して下さい。彼らは自分達が何をしているのか分かっていないのです」。もしこの法則に従えば、私達には宇宙的言語を導入しても何ら問題は起きないでしょう。

【解説】

本項ははからずも私達がテレパシーを真に学び始めると遭遇する周囲とのあつれきについて、よくよく私達に説いているのです。本文の最後の言葉に著者の思いが良く表れています。

即ち、私達がより宇宙的な分野を学び、宇宙に遍満する想念・印象の波を感知出来るようになると、私達と周囲の差が拡大し、私達の間からは他の一般人が陥っている状況を時に疎ましく見え、時には責めるようにもなりかねません。

そのような状況に対し、著者はイエスが自らはりつけに遭う最中に語ったとされる言葉の真の意味を伝えると同時に、進化した他の惑星人が私達をどのような視点で見ているかを伝えています。そこには自らを殺そうとしている者に対しても哀れみを示す程の深い理解が本来、必要だということです。

目下の段階では、私達はわずか一步を他の者に先んじただけであり、私達自身、未だ多くの解決すべき問題点を抱えています。私達自身がこのように暖かく見守られていることに感謝し、同時に周囲の者にも同様の気持で接する必要があるというものです。

Suggested Exercises

238 If you wish to test your ability to receive impressions, there are many simple experiments you may try. But while doing so, always bear in mind these three important facts. First, when you allow the feeling to give the impression freely, there is no division between your mind and the mind of the one with whom you wish to communicate. Second, all objects are living forms. In their structure, besides the elements necessary for them to maintain their individualized form, each cell contains the same Intelligence which gives you life. Each particularized cell can receive impressions, and is capable of transmitting its experiences. Third, control your sense reactions carefully. They must remain completely neutral. Do not let your senses tell you anything is impossible simply because they have not had experienced it previously.

推奨される練習例

238 もし貴方が印象を感受する自分の能力を試したいと思うなら、貴方が出来る幾つかの実験があります。しかし、それを行っている間、常に心に留めて置いて欲しい大切な事実が三つあります。第一は、貴方がフィーリングに対し自由に印象を与えるように許す場合、貴方の心と貴方が意思疎通を行いたいと思う人物の心との間には何らの区別は無くなるということ。第二は全ての対象物は生き物であること。それらの構造の中には個々の形を保つ為に必要な元素の他に、一つ一つの細胞には貴方に生命を授けているのと同じ英知が含まれているということ。一つ一つの個別化された細胞は印象を受け取ることが出来、またその体験を発信することが出来るということ。第三は貴方の心お諸反応を注意深くコントロールすることです。心の諸反応は完全に中立に保たれなければなりません。貴方の諸感覚が貴方に何事も過去に経験したことがないという理由だけで、不可能だと告げさせてはなりません。

【解説】

私達がテレパシー能力を修得する際の極意が本項に簡潔にまとめられています。

先ずは想念を感知する心自体、他の者と実は融合出来るし、事実融合しているという訳です。更にはその想念波動の記憶先として各原子分子があり、私達自身の身体を構成するこの微細要素に通過したあらゆる想念波動が記録されるという訳です。また、これら想念波動は実現力を備えていることに注意せよということですよ。

おそらく古代よりこれらの真理の断片が"極意"として伝えられて来たものと思われます。とりわけ、想念・印象の実現力については日本では言霊（ことだま）と称され、人間の発した言葉には良し悪しに関わらず実現力があることが認識されていました。即ち、どんな事柄も心に抱くことは実現するという事です。

それ故、私達は日常的にも心には望ましい事柄のみを抱くこと、またその実現を信じる事が求められる訳です。また万物に神宿るとして、物質を単なる"物"とは見なして来なかったことも特徴的と言えるでしょう。これら古来の思想こそ、宇宙時代に向けて私達自身が身につけなければならないものと言えるのです。

239 Exercise 1. Two people can experiment with sending and receiving messages. Try this while in the same room, then at a distance; confining your attempts to simple impressions at first. When you are the "sender," form the mental picture clearly in your mind, then release it. Do not concentrate! Concentration does not add power to your thought, but rather interferes with it through the tension it creates in your mind. This is fully explained in Part • of this course. The recipient should remain relaxed, allowing his thoughts to flow freely. It is considered a good average if at first you can successfully exchange three out of five impressions.

239 練習1. メッセージの送り手と受け手の2名で実験出来ます。最初は単純な印象に試みを限定し、同じ部屋の中で試した後、次に離れて行きます。貴方が「送り手」の時には貴方の心の中に明確な心像を作り上げた後、それを放出します。集中してはいけません。このことはこのコースの第3部に完璧に述べられています。受け手はリラックスを保ち、自分の想念が自由に流れさせるようにしなければなりません。最初は5つの内、3つのやりとりが成功すれば、良い打率だと考えられます。

【解説】

本項ではテレパシー訓練を行うに当たっての注意点について説いています。通常、私達は自らの思念の実現力を高めようとして極度に集中したり、"行"を行ったりしがちですが、それでは心を緊張させるだけで効果はむしろ下がるとしています。

つまり、私達の身体細胞を通じて想念を発するには何よりも自分自身をリラックスさせ各々の細胞を緊張から解きほぐし、自由活発な本来の宇宙的融合状態に保つ必要があるのです。

また同時に、思念を心に留めるのではなく、解き放つことも重要なポイントです。もちろん"長年の願望"という面もあるのですが、想念波動が本来の活躍をする為には心からいち早く放出されて宇宙空間に働きかける必要がある為です。

私達各人は誰でもこれら想念波動を感知する能力を備えている訳で、それを活用することで人生を更に豊かにすることが出来るというものです。

240 All experiments should be conducted as a game, for a serious attitude will produce tenseness; thereby defeating your purpose. Human nature being what it is, tension from trying too hard is bound to enter, so your first attempts should be for short periods only. These experiments should be discontinued at the first sign of fatigue, for nothing constructive can be accomplished then.

240 全ての実験はゲームとして行われるべきです。何故なら真剣な姿勢は緊張を作り上げ、それによって貴方の目的を挫くことになるからです。そもそも人間の性質として、一生懸命やり過ぎると緊張が入り込むことになるのです。そこで貴方の最初に行う試みは短時間にしておくべきです。これらの実験は疲れの最初の兆候が現れたら、中断しなければなりません。それ以降、何ら建設的なものは達成されることはないからです。

【解説】

本項と類似した印象の延長戦上として、以前にも紹介した「仕事は楽しく」という表現を再び提示したいと思います。経験上、何事もそうですが、心に余裕がないと良い仕事は出来ないように思います。心がリラックスしていて何ものをも受容出来る心境でなければ心に新規の想念波動など入って来るものではないと思われるのです。

心にゆとりがあり、何ものをも受け入れる状況であれば、自ずと想念波動にも気付きやすくなりますが、心が何かの想念のみに集中している間は、他の印象波に気付く筈もないのです。

テレパシー訓練も同様に、心が余裕を持って訓練に向き合える間に限るべきですし、少しずつ成長させること、毎日の精励にこそ価値があるという訳です。

241 Exercise 2. Thoughts can be received from jewelry or other personal effects; for the frequency of the owner has been recorded upon the metal, or cell structure, of the object. It is interesting to try this experiment without the owner's knowledge, then see how nearly correct your analysis has been. If that person knows what you are attempting, thoughts pertaining to the object will naturally pass through their mind; and these could be picked up by you. This would be thought-transference from the person, rather than testing your ability to receive recorded impressions from the cell structure of the object.

241 練習 2. 想念は宝石や他の個人の持ち物からも受信出来ます。何故なら所有者の振動がその対象物の金属や細胞構造に記録されているからです。持ち主に対する知識の無いまま、この実験を行おうとすることは興味深いものがあり、どれくらい近く貴方の分析が正しかったかを知ることです。もし、その人物が貴方が行おうとしていることを知っていれば、その物体に関連する想念類は自動的にその人物の心を通過することでしょう。そしてこれら想念は貴方に拾い上げることが可能となります。これは、その物体の細胞構造からの記録された印象類を受信する上での貴方の能力を試すというよりは、その人物からの想念移動になることでしょう。

【解説】

他人が所持していたものから、その者のことが分かってしまう能力もテレパシー能力の一つのことです。具体的な仕組みについては明確に述べられていませんが、基本はその物体に残留している想念波動を感知するということでしょう。

また、その残留想念から、発した本人を知るということもあるのです。世の中のIDのような想念に伴われている何らかの要素により、それら想念波動と本人とが関連つけられるということでしょう。その延長として、何か本人が使用していた物に触れて、本人がどのような人物人格であったかを知ることが出来ることにもなる訳です。

想念と想念の結びつきが高速度で行われることで、主人公に辿り着くということも有り得ることです。し、現在生きている本人と想念伝達を通じて交流も出来るということでしょう。そういう意味でいわゆる「絆(きずな)」というものは、こうした相互の関連性を示すものとも言えるのです。

242 Try this same experiment with the contents of a sealed letter. If you are able to receive two or three thoughts from the letter, it is a very good average. This same exercise can be used with playing cards.

242 これと同じ実験を、封をした手紙の中身について行って見て下さい。もし、貴方がその手紙から二、三の想念を受け取ることが出来れば、とても良い成績です。これと同じ練習はトランプカードについても用いることが出来ます。

【解説】

これまでも私達はこの種のテレパシー能力を”勘”と表現して来ました。それほどにインスピレーション（想念波動の感知）は生まれながらに私達自身に備わっているということでしょう。

問題はこれらのテレパシー能力を一過性のものとせず、継続的に訓練し高めて行くことにある訳で、そういう意味からは本項に示されている封筒やトランプによる透視訓練を各自、取り組むことも大切だということです。

しかし、以前、ある方から伺った心に留め置くべき言葉の中に、これらテレパシー訓練をゲームとして取り組んではダメだとう話がありました。当時の日本は念写等の超能力現象がマスコミで取り上げられていた頃です。その方のご主旨は、表面的な遊びに終らせてはダメだということにあったと思われます。本来、テレパシーは生命そのものに遡る重要な要素であり、これらの訓練をゲームに終らせてはいけないということであったと思われます。万物相互が関連しあい、意思疎通、印象交流を行っている径路がテレパシーであるからです。

243 Exercise 3. Test your ability to unify your mind with an object by giving a command to a coin to appear "heads" when it is tossed. Try this same command with dice

243 練習3. 投げ上げた時、硬貨に「表」を出せと命じることで、物体に対して貴方の心を一体化させる貴方の能力を試して見て下さい。これと同じ命令をサイコロに対しても試みて下さい。

【解説】

本項で説かれている内容は従来、テレパシーとされて来た範ちゅうのものとは様子が異なります。従来は、目に見えない中での真実、遠隔地の状況を感知することが出来るというものでした。

しかし、本項は私達自身が物事を自らの思いに沿った形で実現できることを示唆しているのです。これらはこれまでの透視等の内容から更に進んで私達の思考は現実化されることを意味しているのです。

即ち、私達が望む方向で物事は変化するという訳です。これは訓練としては硬貨やサイコロの面を一定方向に向けさせるというものですが、実際にはその作用は私達が望むあらゆる物事に応用することが出来る筈です。私達がより宇宙的に進化し、万物と親しくなることが出来れば、万物は私達の願いをはるかに早く実現して呉れるということでしょう。万物と一体になることで、私達の意思があまねく原子・分子に伝わるのです。

244 When you look at a fire, endeavor to see the coarser substance transformed into gaseous elements through intense friction.

244 貴方が火を見る時は、粗い物質が強烈な摩擦により、ガス状の元素に変質する様子を見ようと努力することです。

【解説】

固体が気体に変化する"燃焼"にはゾロアスターの例を引くまでもなく、古代人の多くが本項と同じ視点を持って観ていたのかも知れません。今日の私達は焚き火の中で木が燃える様を見て、その炎の発する熱や光を夜のキャンプファイアーで享受する一方で、その燃えるという作用の中で、固体が目に見えない程の微細かつ激しい摩擦現象で気体へと変化する状況まで、認識しては居りません。

丁度、電子レンジでは水の分子が振動することで熱が生じることは知られていますが、実は一般の燃焼も分子レベルで見れば、これと類似した振動により分子が互いに擦れあって離れ、新たな分子と反応し合い、気体化するという訳です。

著者はこれら日常の現象の奥で行われている分子・原子の活動について極力、自らの力で観察せよと説いているのです。テレパシー訓練とは単にやって来る想念を黙って待っているというものではありません。積極的に外に出て、あるいは身の回りの物事を分子原子レベルの目を通じて観察すること、自ら肉眼では見えない世界に対して感性を高めて探求せよとしているのです。

245 Approach a tree with a feeling of unity, then try to realize, your oneness with that life-form. In time, you will feel its pulsation. You will be able to trace its intricate network of roots through the earth, understand how they gather the needed elements for growth, and at the same time act as a ground for the tree. The portion above ground, the trunk, spreading branches and leaves, serve as an antenna; drawing life-giving elements from space that are just as necessary for its growth as are the minerals it obtains from the earth. The entire history of the tree, from the time the seed germinated, through all the years of drought and flood can become an open book when you are able to receive impressions from it. This knowledge and much more is available to you, because the same Breath that gives you life as a form, gives the tree life. You will find that the more you work with this inner feeling, the more you will become united with all phases of nature. This can be carried to the point where a flower will turn and nod to you.

245 自分と一体であるとするフィーリングを持って木に近付き、その生命体と貴方が一体であると認識するように努力することです。やがて貴方はその木の脈動を感じるようになるでしょう。貴方は地面の中の根の複雑なネットワークを辿ることや、それらの根が生育に必要な諸元素を如何にして集めるか、また同時に木の基盤として役立っているかが分かるでしょう。地面から上の部分、幹や広がる枝や葉は地中から得るミネラルと同じように成長に必要な生命を与える元素を引き込むアンテナの役割をしています。木の全歴史は貴方がそこから印象を受けることが出来れば、種の発芽から、日照りや洪水を含んだ木の全ての歴史が明らかになるでしょう。この知識やそれ以上のことが、貴方には手に入ります。何故なら貴方に生命体として命を与えているのと同じ生命の息がその木に命を与えているからです。貴方がこの内なるフィーリングについて力を尽くす程に、貴方は自然の全ての側面と一体化することに気付くことでしょう。このことは花が貴方に振り向き、うなづくという所までに成し遂げられ得るのです。

【解説】

おそらく本項はアダムスキー哲学の真髓を示すものでありましょう。私達がテレパシー訓練をする意義が本項にみごとに表現されています。

この本文の中でそもそも私達が他のものと一体化する意味がどういうものであるか、またそこから私達がどのような知識を得るのが具体的に述べられているのです。

とりわけ、樹木は長年月、そこに留まって生きている訳で、当地に起こった様々な出来事を体験しています。先々月、たまたま旅行の途中、東日本最大の大杉といわれる巨木を拝見したことがあります。聖徳太子の時代、その神社が造営された際、境内に植えられた杉は現在では人が何人も手を繋がない程の幹周りとなっています。

現在は幹の周囲にしめ縄を巡らして神木として大切にされていますが、その勢いは今も健在で、堂々とした風格があります。おそらく長い年月を生きていた中で様々な出来事を見て来たであろうその大木には、古代から現代までの歴史の流れが蓄えられていることでしょう。これら老師とも言うべき存在に対して私達は等しく礼を尽くしてその知識を分かち合って戴くよう教えを請う姿勢が必要であり、それは丁度、同乗記に記されている長老に接する他惑星人達と同様です。

246 Exercise 4. If possible, stand some distance from a body of water (its size is unimportant), preferably on a hilltop or rise, so you are looking down on it. Then, realizing your unlimited capability as consciousness, picture how cool and refreshing that water will feel as you place your foot in it. You can soon get to the place where your whole body will be invigorated by the contact; for in reality, there is no distance between your body and where you have directed your feeling. The feeling is the consciousness of the body. Once we realize feeling is not shackled to the physical form, therefore is not confined to one place, distance offers no barrier. It is in this manner that consciousness can roam the universe.

246 もし可能なら、水面（その大きさは重要ではありません）から、ある距離離れて、望ましくは丘の頂上か高台に立ち、下の水面を見下ろして下さい。そして意識としての貴方の無限の能力を実感しながら、貴方が自分の足をその中に浸けたらどんなに冷たく気持ち良いかを思い描いて下さい。貴方は貴方の全身がその水との接触で爽快になる所までにまもなく到達出来るでしょう。何故なら、実際には貴方の身体と貴方が自らのフィーリングを差し向けた場所との間には距離は無いからです。そのフィーリングは肉体の意識なのです。ひとたび私達がフィーリングは肉体に鎖でつながれるものではないことを実感すれば、即ち一箇所に限定されることはなく、距離は障壁にはならなくなります。意識が宇宙空間をさまようようになれるのは、このようにして為されるのです。

【解説】

本項では改めて私達が想念・印象を感じ取るということはどういうことか、いわゆる"意識"との関係について解説しています。

具体例としては、遠く離れた湖を一体化する際に、何が起こるのかから説明しています。アダムスキー氏の哲学の基本に"意識"という表現がありますが、その意識が自由に肉体から離れて一体化する相手にまで拡がるという訳です。その意識で相手に浸透することで双方の意識が融合するという訳です。

その作用から具体的な分子原子の記憶振動が共有され、心に感知されるのかと思われまます。

そういう意味では、意識は肉体の範囲に限定されることなく、常に自由であり、宇宙をもさまようことが出来るということでしょう。私達はテレパシー訓練を行う際、単にやって来る想念に鋭敏になるということだけでなく、積極的に対象に自らの意識を融合させ相手を理解しようとする姿勢が重要です。

247 When your impressions are not received clearly, examine yourself and try to analyze what is wrong. Did one of the four senses interfere? Did an old thought habit reassert itself? Do not allow either. For even a split-seconds interruption can cause misinterpretation of the impression. We have really illustrations of how easily a trend of thought can be lost; for when we are relating an incident and someone interrupts, quite often we completely forget the point we were discussing. And because impressions flash through the mind at high speed, this situation is magnified a thousandfold.

247 貴方の印象類が明確に感受されない場合は、貴方自身を調べて何が間違っているか分析することです。四つの感覚の何れが妨害していませんか。古い思考習慣が再び顕在化しませんでしたか。そのいずれも許してはなりません。何故ならほんの一瞬の妨害も印象の誤った解釈を引き起こすからです。私達は如何にたやすく想念の方向性が見失われるかについて実際例を知っています。何故なら、私達がある出来事について説明している時、誰かが話に割り込んでしまうと、しばしば私達は議論していたポイントを完全に忘れてしまうからです。また、印象というものは心の中を高速度で一瞬ひらめく為、この状況は一千倍も拡大したものになります。

【解説】

仏教でよく用いられる言葉に"妙"という表現があります。精妙という意味かと思われませんが、その意味するところは、本項で言う想念の流れる径路によく似ています。つまり、想念の流れる径路はそれ程に細かく、繊細なものだということでしょう。何万、何億という想念波動が通過する中で、ある特定の想念波動をしっかり把握し、理解する為には、それ程に心が鋭敏でなければならないのです。

体験上もわずから油断で今まで考えていた事柄を見失ったりすることも多いものです。それ程に貴重なアイデア、想念に巡りあった際には、それを忘れぬようメモを取る等の工夫が大切なのです。これら妙なる想念波動は大変貴重なものであり、私達地球人にとっては生涯再び巡りあえるかどうかも分からないものです。それ故、この種の訓練においては誰からも邪魔されてはならないのです。

248 The more disinterested we become in ourselves as a personal ego, the finer our perception becomes. Cosmic Life, or conscious awareness, is never confined to the body. Our limited mind—the mind of effect—tries to hold all things within the realm of its concrete understanding. But the mind that we know is only a shadow; while Cosmic Cause is Reality expressing. When the individualized mind recognizes its limitations, then wills itself to that which knows its purpose for being, its power becomes unlimited.

248 私達が各個人のエゴとしての私達自身に対して関心が薄れるにつれて、私達の知覚力はより繊細なものになります。宇宙的な生命、あるいは意識の知覚力は私達の肉体に限定されることはありません。私達の限られた心、即ち結果の心は全ての物事をその確固たる理解の領域の中に把握して置こうとします。しかし、私達が知っている心は影でしかなく、宇宙的因が表現されている現実なのです。各自の心が心の限界を認識し、心の存在目的を知るものへ自身を仕向ける時、心のパワーは無限になるのです。

【解説】

第2部を終えるに当たって、著者アダムスキー氏は私達の心の横暴や支配傾向を取り除き、真の自由を獲得する為には、何よりも自分（自我）への執着を取り除き、自分を自らの肉体を越えた自由な宇宙空間に広げることが必要で、その為にもこれまでの自分自身の限界を悟らねばならないと説いています。自分の事柄には関心を持たず、また価値も置かないことが求められています。こうして自分への関心が薄れれば、それだけ宇宙への融合が享受出来るという訳です。当然、利己的という概念は消え去り、他者への慈しみ等、仏の教えに近づくことが分かります。心が自らの価値を捨てる中で、その空いたスペースに新しい宇宙的要素が入り込むことになるという訳です。

Part

III

CHAPTER I

Control of the Ego

249 In olden times, teachers of philosophy demanded strict adherence to certain disciplines of body and mind before they would accept a pupil. They did this because they knew that if a man could not control his sense mind and body-habits, he was not yet ready to receive higher instruction. Some great teachers demanded a five-year period of absolute silence from the pupil before they would even consider the possibility of instructing him. This may seem drastic to us today, yet it served a two-fold purpose. The student learned self-control through not being able to participate in conversation around him; and the enforced role of an impartial listener made it possible for him to study and evaluate both sides of every question.

第3部

第1章 エゴを統制すること

249 古くは哲学の教師達は弟子を受け入れる前に肉体と心についてある種の訓練に厳密に従うことを要求したものです。教師達は、もしその者が感覚心や肉体の習慣を統制できなければ、より高次の教えを受ける準備が出来ていないことを知っている為、そうしたのです。偉大な教師の中には、その弟子を教えられるかを考える前に、その弟子から5年間の間、全くの沈黙を課した教師もいました。これは今日、私達にとっては過激に見えるかも知れませんが、それには二重の目的があったのです。弟子は自分の周囲の会話に参加出来ない為に、自己統制を学びましたし、また隔てない聞き役としての強い役割によって、すべての問いに対する両方の側について学び、評価することが可能となったのです。

【解説】

伝えられているところではアダムスキー氏は幼少期にチベットに連れて行かれ、そこで訓練を受けたとされています。自我を統制する為に行われたであろう様々な訓練について、本項で紹介されているのは、そうした背景があるのかも知れません。

これまでも多くの学習者は、とにかくアダムスキー氏に関する自分が知る事柄を自慢し、また相手の意見に耳を傾けることなく、持論を述べるか、或いは新しい情報を求め続ける事例も多かったように思われます。

しかし、これらの場合、結局は本質を掴むことなく他人と意見をたがえ、再び自分の殻の中に戻ってしまうことも残念ながら多かったように思います。

これに対して、本来の私達の最大の課題は、アダムスキー氏でも他人でもなく、私達各自の自我、自分自身にある訳で、これを如何に攻略し、本来の姿に戻すのかにあるのです。この第3部第1課はこうした意味で各自の自我のコントロール（統制）の重要性について私達に説いているのです。

250 We would do well to ponder this ancient requirement, and incorporate a little of it into our lives today. Most of us are so busy imposing our opinions upon others, that we really do not listen to what they have to say. While others are presenting their side of the subject, our minds are so busy marshalling our own arguments to prove them wrong, that we do not hear more than a fraction of what is being said.

250 私達は古代のこの要件についてじっくり考え、今日の私達の生活にその少しを組み入れた方が良いでしょう。私達のほとんどは他の者達への自分達の意見を押し付けることに躍起になっており、私達は実際には他の者達が何を言おうとしているのかに耳を傾けてはいません。他の者達が課題に対する自分達の側面を提示している間に、私達の心はそれらの提示が誤りであることを示すべく、自分達の議論を先導しているだけで、私達は相手が話している事柄の一部しか聞いていないのです。

【解説】

本項が執筆されていたアメリカは民主主義、自由主義の国であり、各自自らの責任で全ての生き方や選択を自分の意思によって行われるといっても良いでしょう。しかしその一方で自己主張しないと人格が認められない風潮があるのかも知れません。

とりわけ最近では日本でも盛んに行われるようになったものに、ディベートがあります。互いに異なる意見を戦わせて、勝敗を決めるものです。そこでの内容は、本項の中身そのものです。こうした中、各人の自我は自分の主張、自我の主張を強める訳です。

しかし、テレパシー訓練はこれとは真逆の方向で自身を訓練せよと言っているのです。これらディベートは政治家の討論会でも同じであり、物事の真の解決にはならず、互いの溝を深めるだけとなっています。このように私達の身の回りには、本項で指摘されているような事例は数多くあると思われまし、私達はこれらを観察する一方、これらの中にある課題に注意する必要があります。

251 So the great teachers of the past, comprehending that real development cannot come until man has disciplined himself, refused to waste either their time, or that of the pupil, where growth would be doubtful. They understood that the Cosmic Law of Progression would in time inspire the person to realize the necessity of an honest evaluation of himself, and of his relationship to all creation. He would then know that self-control was a prime requisite.

251 その為、昔の教師達はその者が自身を訓練し終わるまでは真の発達がやって来ないことを理解していた為、成長が疑わしい間は、自分達やその生徒の時間を無駄に過ごすことを拒絶したのです。彼らは進化の宇宙法則はやがてはその者に自身について正直な評価を行う必要性を認識させることを理解していました。その者は次に自己統制が主要な必要条件であることを知るようになるのです。

【解説】

その人にとって、これまでの自分の限界を超えて新たな進化の道を歩み始めるには、それなりの厳しい訓練が必要だということです。指導者についてだけではその説く教えを理解し身に付けることは難しいのです。まずは自身のこれまでの批判的な態度や自己意識等、徹底的に解消する必要があると説いています。

もちろん、これらの著者の指摘は以前記したように、自己主張を重んじる欧米社会という背景もあるでしょうが、私達日本人にも長年、社会で揉まれる中で増長させてしまった自我をコントロール（統制、制御）することが重要である点にいささかも相違はありません。

やって来る想念・印象に対して素直に受容出来る態勢を自身に作り上げることが進歩の道の前提となる訳ですし、そうする中で創造物の一員として創造主の庭で過ごすことが出来るというものです。幼子のように宇宙的波動に素直に従えることがカギということになります。

252 Telepathy is an expression of the Law; which is as ageless as the Cosmos. If man hopes to use it with understanding, he must recognize how imperative it is for him to practice self-discipline. As long as he allows dissension to continue within himself, his receptivity will be confined to the level upon which his mind works. The Laws of the Cosmos are immutable, and in time man will awaken to his potential; for the only limitations placed upon man, are those his unawareness imposes.

252 テレパシーは偉大なる法則の内の発現の一つであり、それは大宇宙と同様、永遠不老です。もし人がテレパシーを理解して用いたいと望むなら、自身にとって自己訓練を実践することが如何に必須なことであるかを認識しなければなりません。その者が自身の内側で意見の不一致を許す限り、その者の感受性は心が働くレベルに限定されるのです。大宇宙の諸法則は不変であり、やがては人は自身の潜在能力に目覚めることでしょう。何故なら、人の上に置かれた唯一の限界は自身の鈍感さが押し付けたものだからです。

【解説】

テレパシーの発動原理は宇宙の法則そのものであり、その作用に限界はないのです。個々人について唯一、その限界を設けているのはその個々人の自我の設定する限界だけであると説いています。

これを見る限り、私達は改めて現在学んでいるテレパシーとは、単なる無言の会話術などに収まるようなものでなく、広い宇宙に拡がるあらゆるものと融合する能力、更には物事を創出する潜在力を持つものであることに気付きます。

私達一人一人が進化を遂げる中で、理解を深めて行くのがこのテレパシーであり、様々なものと心を通わせる能力であり、物事を生み出す原動力と言えるのです。

253 Nothing in the universe is at rest; so all things must be conscious. The only difference between consciousness and intelligence is that intelligence, or the perception of thought, is the result of consciousness, or activity, acting upon itself. In other words, thought is produced by one unit of consciousness contacting another unit of consciousness; and the recognition of thought is intelligence, or knowledge. Consciousness is abstract awareness... intelligence is concrete awareness. Thus, all concrete facts, or phenomena, are merely manifestation of the abstract; and are dependent upon it for their existence.

253 宇宙には休止しているものは何一つなく、それ故に全てのものには意識的でなければなりません。意識と知性の間にある唯一の違いは知性ないし想念の知覚は、それ自身に作用する意識あるいは活動の結果であるということです。言い替えれば、想念は一つの意識単位からもう一つの意識単位と接触することで作り出されます。そして想念の認識は知性あるいは知識なのです。意識は抽象的な気付きであり、知性は具体的な気付きであるのです。このように全ての具体的な事実あるいは現象は、単にその抽象物の現れに過ぎず、その存在をその抽象物に依存しているのです。

【解説】

ここではアダムスキー哲学で言う"意識"について更に深く記述されています。その具体的内容について完全に理解出来ている訳ではありませんが、常に活動を続ける宇宙にあって、意識はその複合的な英知であると説いており、その意識と意識の接触、交流において想念が生まれるとしています。

このように私達各人が持つ意識は、全体の知識の統合体の役割があると同時に、それら相互作用によって想念を生み出すという訳です。従って、私達が宇宙空間で数多くの意識と交流すればするほど、発信される想念は数多いものとなることとなります。

人により、感受するアイデアの数は異なるでしょうが、それはその方の意識が如何に多くの意識体と交流しているかにかかっているのです。多くの意識体と交わる程に、感受するアイデアも増えることとなります。また、創造的な仕事もそれに比例して数多いものになるに違いありません。

254 When we consider that consciousness is activity, and that thought is energy produced by that activity, and that thought cannot be destroyed but can be transmuted or transformed, we must stand in awe before the realization of the prodigious bombardment to which our bodies are subjected by billions upon billions of charged particles flying through space in never ceasing activity. Since these countless variations of vibrations surrounding us at all times, and the human body is capable of receiving all of them through the feeling channel, why is that the average person receives so few? Why are some more receptive? What determines the type of vibration to which each individual is receptive?

254 私達が意識は活動であり、想念はその活動によって作り出されたエネルギーであり、想念は破壊されず変質あるいは変容するだけだと考え、私達の肉体が止むことなく宇宙空間を飛来して来た何十億もの荷電粒子による桁はずれの数の衝突にさらされているという自覚を前にして私達は驚きの中、立ち尽くす筈です。私達を常々取り囲むこれら無数の諸振動はフィーリングの経路を通じてそれら全てを受信することができますが、一方で何故平均的な人間は感受がそんなに少ないのでしょうか。他の者がより多く感受できるのは何故か。各々が感受する振動の形式はどのようにして決まるのでしょうか。

【解説】

本項では宇宙空間を猛烈な速さで伝播する想念波動の様子について、細かく描写されています。私達はその真只中に暮らしている訳で、私達の身体には絶えずこの荷電粒子が衝突していると言っても良いでしょう。

これら想念波動はおそらくはあらゆるものに影響されることなく通過し、宇宙を文字通り飛び回り駆け回っているに違いありません。私達はそれらの中で自分の身体を通過したものの内、自らが感受できたもののみ、アイデアや印象として感知するということでしょう。

何ものにも邪魔されることなく、宇宙を駆け巡るという点では、素粒子研究の世界と似ているように思われます。宇宙から降り注ぐ素粒子を地中深くに建設した検出装置により観察する装置の存在は著名ですが、私自身としては、地中深くまで貫通する宇宙から来る素粒子のパワーに本項で言う想念波動に似た要素を感じます。

私達の発する想念も、岩をも貫くパワーがあり、どこまでも進み、物事の実現力を備えていることに改めて驚く限りです。

255 To answer these questions, let us imagine the creation of a human consciousness through a concentration of forces, or rather, particles of force. Let us visualize a vast sea of force, composed of invisible units.

By a means inconceivable to the human intellect one of these units is project forward through this force-space in a whirling motion, creating a form of magnetism within itself which draws other particles to it. Because of the magnetic force within them, which we have called the law of affinity, these particles cling together and gradually become more and more concentrated, or bound to each other, by a mutual form of activity.

255 これらの疑問に答える為、人間の意識が力の集中、あるいはむしろ力の粒子群を介して創造される過程を心に描いて見ましょう。目に見えない単位から構成された広大な力の海を目に浮かべましょう。人間の知性では認知できないある方法によって、これらの単位の一つがこの力の空間の中に回転しながら打ち出され、それ自身の中に磁力を造り出す結果、他の粒子をそれに引き寄せます。私達が親和の法則と呼ぶこの内部の磁力の影響から、これら粒子は互いにくっつき合い、やがてより密度が高まり、相互の活動形態を通じて互いに結合します。

【解説】

本項は広大な宇宙空間の中で私達の意識がどのように創造されているかを説いています。丁度、創世記に記されているように、万物の始まりに先立って、その形が出現するはるか前の意識段階での創造作用が本項で描かれています。

現時点で私達は本項の内容について検証するすべはありませんが、創造力のある宇宙空間において創造主が意思を持って投げかけた「言葉」が空間を通過するにつれ、その元に呼応した様々な粒子が結合し、一つの形を形成する様子は良く理解出来ます。

物事を実現させるには様々な要素や物質を結集しなければなりません。創造主が意思を持ってその想念を空間に投げかければ、その意思に呼応する粒子群がこのようにして様々な要素を引き寄せ、物事を実現して行くということでしょう。

256 Professor Einstein spoke of substance, or any mass, as a knot in time-space - a very logical definition. For any material form is simply a section of space tied, or bound, together. This concentration, or binding together of particles, creates a sense of individuality (which is almost totally interested in itself).

256 アインシュタイン教授は物質、あるいは質量を時空における一つの結び目のように表現しており、それは大変、論理的な定義です。何故なら、どのような物質についても形は縛り付けられ、あるいはくくられた一部の空間のまとまりでしかないからです。この集中、即ち、諸々の粒子群を一緒に束ねていることが、個性（全ての関心をほとんど自身に向けていること）を造り出しています。

【解説】

アインシュタインは物質を時間-空間座標における結び目と捉えていたと本項は紹介するとともに、その洞察が進化した他惑星人の思想の上からも理に適っていると延べています。

この視点は同時に、私達がとかく捉われ易い執着というものが、物質特有の性質であり、私達が肉体人間として留まる限り、抜け出せないある種の特徴なのかと思われます。

一方、同理論によれば、物質自体は単なる結び目であり、実体が無いとすれば私達のこの従来概念は、あくまで仮の姿に固執していることを意味します。重さを測定すれば確かに物質の量を測ることは出来ますが、それも一時的なものであり、物質は時間の経過とともに変化して行き、永続するものではありません。

従って、私達が軸足を置くべき場所は、これら空間の結び目のような不安定なところではなく、もっと永続するものに置くべきであることを本項は示唆しているのではないのでしょうか。

257 For instance, let us mentally picture our own solar system-which resembles in every detail the tiny, invisible atom described earlier-with its twelve planets and countless planetoids revolving around a central sun. This solar system is traveling through space-force, which is composed of an infinite number of particles and innumerable other planets and suns, yet our own little system is so interested in itself that not one of the planets will wander off. They cannot help being affected to some extent by every other concentrated force in the universe, because no atom, or unit, can separate itself from the Cosmic Whole. But the planets do not allow any force to influence them sufficiently to draw them out of their chosen orbits around the sun.

257 例えば心で私達の太陽系を思い描いて見ましょう。それは以前お話したように、小さく目に見えない原子に細かい所まで似ており、中央の太陽の周りに12の惑星と無数の小惑星を伴っています。この太陽系は力の空間の中を移動しており、その空間は無数の粒子と他の無数の惑星と諸太陽から成り立っていますが、私達自身の小さな太陽系ではそれ自身の指向性が高い為、惑星のどれ一つとしてさまよい出るものはありません。諸惑星は如何なる原子や他の単位もそれ自身を宇宙全体から分離することが出来ない以上、宇宙空間の一つ一つの他の集約された力により幾分かは影響を受けざるをえません。しかし、諸惑星はそれらが選択した太陽の周囲の軌道から引き落とす程の影響を与えるような如何なる力も許すことはありません。

【解説】

本項では私達が暮らす惑星が中央の太陽の周囲を巡る様子を原子に例えて、中央の原子核を中心に電子が周回する姿と相似させています。その記述の中で特出すべきは、太陽系における惑星が、また、原子の中で周回する電子が中央の核を離脱しないのは、それ程に中央の太陽や原子核に強くひきつけられているからだと指摘している点です。

私達が毎朝、太陽の光に感謝や美しさを感じる事が、この惑星に暮らす生きもの共通の思いであるばかりでなく、海や陸も含めた惑星全体の姿勢であることに気付くものです。これは天照大神と畏敬していた古代の日本人の姿勢でもあるということです。

太陽系という表現がありますが、中央に太陽をいただき、周囲をその子供達である惑星が周回する姿は一家団欒の姿に似ているように思われます。

258 Because of its higher state of concentration, the same thing is taking place in our bodies to a much greater degree. The human consciousness, or personality, has come to the place where it is almost wholly interested in itself. That is, the chemicals composing the form are so highly organized that they do not feel the need of outside forces; although they must draw upon those sources for their support. Each human form is interested only in perpetuating itself; and through thousands of years it has created the habit of accepting only those impulses, or vibrations, that pertain to its own well-being.

258 そのより高密度の状況の為、同様の事柄は私達の身体の中では更に大きく起っています。人間的な意識、あるいは個性というものは、ほとんど全く自分自身にしか関心がない状態の所までに至っています。それは即ち、形を構成している化学物質は余りに高く組織化されている為、それらはそれらの維持の上から原材料を引き込む必要はあるものの、人体の外側の諸々の力を必要だとは感じていません。一つ一つの人体はそれ自身を永続させることのみに関心があり、何千年もの間、自分自身の安寧に係る衝動もしくは振動のみを受け入れる習慣を作り上げてしまいました。

【解説】

確かに私達の身体は優れた機能と美しさを備えていると言えるでしょう。もちろん、その身体を委ねられた私達はその機能を十分に発揮し、その美しさを表現して行く必要があります。

しかし、それだけでは問題があるのです。自分自身にしか関心が無く、他者はあくまで自分との比較においてのみ利用するのでは、行き詰るというものです。かつてウェイン・ダイヤー氏の講演の中で、"私達はあまりにも自分自身に関心を集中して来た"と延べられていたことがあります。私達はもはや必要以上に自分に向けての関心を持っていることに問題があるのです。

この状態では外からやって来る宇宙的な想念や周囲の者達の苦悩等について情報が入って来ることはなく、やがては自己中心的な性格に陥ってしまいます。

自分への執着を捨てることによって、ようやく宇宙的な要素が入り込むことが出来るということでしょう。今日、流行の"断捨離"もこうして作った隙間に、宇宙的要素を入れることを本来、目指しているのかも知れません。

259 The intense concentration of the particles composing the body has set up such a definite barrier of resistance to the free-flying atoms of space, that the form appears to be acting under a self-made law; or to have a separate will of its own. The law of evolution which has brought the cells of the body to such a fine degree of organization, or concentration, does in time lead them into a field of universal expansion so that this barrier of resistance is lessened; and the human consciousness becomes more receptive to the vibrations about it.

259 人体を構成する粒子の強固な集中状態は宇宙空間を自由に飛翔する諸原子に対し、断固とした防御壁を作り上げており、人体は自ら作った法則の下で行動している、あるいはそれ自身の分離した意思を持っているように見えます。人体の諸細胞にこのような緻密な組織、あるいは濃度をもたらした進化の法則はやがて、この抵抗の防御壁を宇宙拡張の領域に導き、その結果、この障壁は小さくなり、そして人間の意識はそれに関わる諸振動をより多く感受するようになります。

【解説】

実は各細胞にはそれを取り囲む細胞膜や細胞壁が各細胞の中身を守っておりますし、身体全体は皮膚組織が外部からの異物の侵入を防いでいます。これらはいずれも身体を形成する各要素を守る大きな役割を果たしていますが、その一方で各々のユニットの存在を維持すべく、内向きの態勢であるとも言えることが出来ます。

本文の文脈から、著者は私達にこれら内向きの関心や対外的な守りの姿勢は長年、各々のユニットに要素を集結し、形を維持して来た為、ある意味、当然の成り行きであると説いています。

しかし、私達がこの段階から進化を遂げて、宇宙的な存在になる為には宇宙から来る働きかけに対し、素直に門戸を開いていなければなりません。人体を統括する心を穏やかに、また柔軟にすることで、身体各細胞をリラックスさせ、外宇宙からやって来る想念波動を受け止められる状態にする必要があるのです。

昔、ある剣術家が対峙する相手と剣の先端を当てた時、しなやかな動きをする者は強いと評していたことを思い出します。あらゆる事態に臨機応変に対応する為には、心身は常に柔軟でなければならず、何かの事柄に凝り固まっていたら発展は無いということでもあるのです。

260 We are an intensely selfish lot. If you were to make an impersonal analysis of your mental reactions, you would find that ninety-nine and ninety-nine-one-hundredths percent of your thoughts pertain to yourself, your home, your business, your mate, children and possessions. To break this down, eighty-five percent of your thoughts are dedicated to the idea of self-preservation; the other fourteen-and-ninety-nine hundredths percent, to self-pleasure. That leaves a mere one-one-hundredth percent to be devoted to a searching for universal knowledge.

260 私達は強烈なる利己的な奴です。もし貴方が自分の心の諸反応を客観的に分析するなら、貴方は貴方の想念の内、99.99%が自分自身や自分の家族、自分の仕事、自分の仲間や子供達、持ち物に関連していることが分かるでしょう。更に分解すれば貴方の想念の85%が自己保存の想いに、他の14.99%が自己快楽に捧げられています。つまりはわずか0.01%が宇宙的知識の探究に捧げられているに過ぎないのです。

【解説】

私達の日常はほとんど自分への関心事に向けられています。即ち、この地球では他者や宇宙に関心を抱く者は極めて少なく、もっぱら各自が自分自身の事柄に追われて生活していると言っても良いでしょう。

この傾向は、会社等の組織、国家間でも同様であり、各々が自分自身と見なす範囲のことだけを常に考えている訳です。

おそらく文明の始まりの頃は、これでも許されたのかも知れませんが、人間が力をつけ、影響力を増した現代においては、問題が大きくなっているのです。限られた土地や資源の奪い合いや侵略行為等もそうですし、各国の支配者は国民の志向を誘導し、敵対的な想念を持たせ、宇宙的な覚醒を持たせないよう、マスメディアを用いることに余念がないように思えます。

しかし、これらの傾向も今までの自己中心の志向では問題が解決しないことを悟れば、良き方向に転換する他、ありません。そこに参考とすべきは他の生きもの達の立ち居振る舞いです。たとえ明日の朝、屠られる宿命であっても残された1日をいつも通りに過ごす水牛達の悲しげながらも穏やかな目を見た時、これら水牛達は死に向かう人間より、はるかに潔い人生観を持っていると感じ入った次第です。たとえ明日はどうなるか分からずとも、穏やかに宇宙の鼓動に耳を傾けていたいものです。

261 The human must have a definite reason for acting; first, as a duty of self-perpetuation; second, because the act brings pleasure. Either of these is pure selfishness; and creates this barrier of resistance against universal knowledge. This self-interest created by the concentration of cell consciousness, we call the ego. And because of our lack of understanding, it is this human ego which we seek to perpetuate.

261 人間は行動する際には明確な理由を持たねばなりません。第一は自己を永続させる為の義務として、第二はその行動が快樂をもたらす故です。これらのいずれもが純粋に利己的なものであり、宇宙普遍の知識に対して抵抗の障壁を作り上げています。この自己への関心は、私達がエゴと呼ぶ細胞意識の集中化によって造り上げられました。そして私達の理解の不足の故に、私達が永続させようと求めているものは、この人間のエゴなのです。

【解説】

人体を維持する為に人は食物を摂る必要がありますが、同時に味覚や視覚、嗅覚を喜ばせる上から、食事はこれらエゴを満たす上で最も重視されて来た行為と言えるでしょう。グルメこそ究極のエゴの行為と言えるのではないのでしょうか。

くしくもイエスが人はパンのみにて生きるにあらざると私達に警告した通り、私達は食べることにあまりにも重きを置いており、テレビでは次々とする新しい商品の宣伝に余念がありません。

当然、その結果は体重増となり、富める国と飢餓に苦しむ国々との間で人々の身体に大きな差が生じており、食料の分配に不平等が生じています。

しかし、イエスが指摘したように、私達は自身の身体の保持の目的以上に食物を摂取することに価値を置くべきでないかも知れません。以前あった宇宙人とのコンタクト事件の中で、自宅に水を貰いに飛来した宇宙船の搭乗員からお礼に貰ったパンケーキは何かダンボール紙のように味気なかったという話があります。進化した宇宙人にとっては、もはや味覚は食事の支配要素でなくなっているのではないかと思う次第です。美味しい、まずいという感覚の支配を超えた先に生きていると言っても良いのかも知れません。

262 As I have said, all manner of vibrations are constantly beating upon the cell portals of our bodies. Inasmuch as every cell is a conscious entity, the mass as a whole is perfectly capable of intercepting any one of these vibrations. When the cell-minds do not receive them, it is because they have become too interested in the central ego of the form. This means that they have concentrated their actions about the ego to such an extent that they are not aware of the existing outer force.

262 これまで述べましたようにあらゆる形態の振動が常に私達の肉体の正面入口部分の細胞を叩いています。一つ一つの細胞は意識を持つ存在でありますので、全体の質量としての塊は、これら振動の如何なるものも捉える能力があります。細胞の心がそれらを受信出来ない場合は、それらが形あるものの中心のエゴに対し、あまりにも強い関心を持っている為です。このことはそれがエゴに自分達の行動をそれ程に集中化させて来た為に、それらが外部の力の存在に気付かなくなっていることを意味します。

【解説】

よく言われる表現に"自意識過剰"という言葉がありますが、私達自身でもある私達の各細胞はそれぞれ自身を守り、その存在に不都合は要素の侵入を警戒するあまり、常に自身でもある細胞の中心核を見詰めているという訳です。その為に私達は外からの信号や想念波動にはすこぶる鈍感になっています。

野生動物が危険を察知し、天候変化も予知する一方、私達は迫り来る地震その他の災害にも気付くことなく、専ら自らの関心事に心を奪われているのです。

しかし、そのような状態では、他人との融和も宇宙から来る想念波動の感知も出来る筈はないのです。自分自身への行き過ぎた関心や集中を取り去り、自らの心を他の者へ開放し、拡張することが必要です。心を自分自身から広げることが出来れば、それ程に受信のアンテナが拡がる訳で、感知するインスピレーションは格段に増えるに違いないのです。

263 Let us use an illustration such as this: We will take an ordinary pie tin, sprinkle a very light layer of fine steel dust over the bottom, then place it at one end of the room. Standing at the opposite end of the room, we will play a note on a violin. Since it is a recognized fact that a musical note creates a certain vibratory wave in the atmosphere relative to itself, if the note is held steadily we will find that the steel particles have moved about to form a picture of the note played. Because these particles are in a state of non-resistance, therefore easily moved, waves will appear in the layer of steel dust. This non-resistant state is comparable to the atoms when they are free in space, vibrating in harmony as they express Cosmic Cause. In this state they recognize their oneness with, and dependency upon, Cosmic Force.

263 このような事例を用いましょう。一般的なパイ焼き用ブリキ鍋を用意し、底に細かい鉄粉を極く薄く散らばせ、それを部屋の隅に置きます。部屋の反対側に立ってバイオリンで曲を弾くことにしましょう。音楽の音曲はそれ自体に相関して大気中にある振動波を造り上げることはよく知られている事実です。もしその音曲が一定に保たれば、私達はその鉄粉が演奏された音曲の絵を形づくろうと動き回る様子を見ることでしょうか。これらの粒子は非抵抗の状態にある為に、容易に動いて鉄粉の層の中に波紋が現れることでしょうか。この非抵抗の状態は宇宙空間の中で自由に存在する原子達になぞらえることが出来、それらは宇宙の因を表現しながら調和した振動を起こしています。この状態の中で原子達は宇宙の力と一体化していることと、それに依存していることを悟っているのです。

【解説】

鉄粉がバイオリンの音に共鳴したブリキ皿の振動に従って模様を作るこの事例は、私達自身の細胞もまた、空間を流れる波動に共鳴し、その英知を表現できる可能性を示すものです。

その為には、先ず私達を構成する各細胞をリラックスさせ、通過する有用な波動に共鳴出来るよう、フリーな状況に保つ必要がある訳です。何か特定の関心事に気をとられてばかり居ては、外部から来るインスピレーションには即応出来ません。

先ずは一つ一つの鉄の粒が各自自由になること、自ら大事と思った事柄に躊躇無く融合出来る柔軟性も必要な筈です。物事を解決する上でエゴは無能であり、空間を流れる宇宙の英知に従うという他力本願こそが本来的な意味を持つと言えるのです。

264 Now let us take the steel dust, sprinkle it lightly over the tin once more, and place a magnet in the center of the vessel. What happens? The particles immediately respond to the magnet, and gather around it in a concentrated form. It makes no difference what note we play on the violin now, nor how long we hold it.

The particles will not be moved by the lesser vibration, because they are so intensely interested in another and stranger force . . . the force of magnetism

264 今度はその鉄粉を取り出し、再びブリキ鍋の上に薄く散らばせ、その容器の中央に磁石を一つ置きます。どうなるでしょう。粒子は直ちに磁石に呼応し、それに向かって集まるように取り囲みます。今度も何ら変わることもなく私達がバイオリンでどのような音曲を弾こうとも、あるいは如何に長く音を鳴らそうとも何の変化も生じません。粒子は別のもの、磁石と言う見知らぬ力に対し強烈に関心を持っている為、弱い振動では動かされなくなっているのです。

【解説】

私達の各身体細胞が各々の中心核に対して如何に忠誠を保ち、自らのエゴによる心身の統制が為されているか、本項の事例により良く表現されています。私達はそれ程に各自の自我の示す一挙手一投足に忠実だということでしょう。多くの精神的疾病はこのような過度な集中状態に基づいているということでしょう。

しかし、このような状態では、注目する自我の問題の他に関心はなく、当然、その他の状況について目を閉ざし、耳を塞いでいるという訳です。その結果、本人は外宇宙から来るヒントはもちろん、他の事柄に自らの視野を閉ざしており、袋小路の中で苦悶することになります。

従って、先ず私達は本項に示されているような自らの一大関心事を一端捨て去って、執着のない世界に自分自身を置いて見る必要もあるのです。自らの60兆個もの身体細胞を従来にくびきから解き放って、本来の自由な心境に戻すべきなのです。そうする中でやがては各細胞は本来の柔軟、自然な状況に復帰し、健全な状態を取り戻す筈です。

265 This is exactly what happens within our bodies. Since we are one with the Cosmos, our rightful condition is a free state so that we might be receptive to all vibrations. But, due to the exaltation of the personal ego within us, we are usually adhering to the false magnetism with which we have endowed it.

265 これがまさしく私達の身体の中で起っていることです。私達は大宇宙と一つである以上は、私達にとってふさわしい状態は私達が全ての振動を感知できるような自由な状況です。しかし、私達内部の個人的なエゴの増長によって私達は自ら与えた偽りの磁力にいつも付き従っているのです。

【解説】

私達自身、何事かに悩んだり、心を痛めたりすることは常ですが、これらの真の原因は本項に示されているように、私達が自分自身（エゴ）に関心を奪われ、集中（執着）していることに由来します。

本来、私達はもっと自由、澁刺に生きて良く、それらを叶えるだけの条件は創造主から与えられています。それを阻んでいるのは前項の鉄粉の中に据えられた磁石のようなエゴによる統制支配という訳です。

従って、私達の各身体細胞が各々従来からの自縛を解けば、私達の想像すら及ばない宇宙的想念波動が流れ込み始めることとなります。この自縛は長年の積み重ねから来るもので、短時間では難しいかも知れませんが、継続的な取組によって、あるいは各種の「行」によって非日常体験を通じて、次第に解消するものと考えます。

私達は先ずは各自、自分自身への関心を捨て、広く宇宙自然の中の生命波動にこそ、日々の関心を置くことです。

266 It is quite possible, nevertheless, to bring about a free state of cell activity. We speak of this state as relaxation. And the secret of being a good recipient of telepathic communication is the ability to keep the body in a state of active relaxation at all times.

266 それでも細胞活動の自由な状況を取り戻すことは全く可能です。私達はこの状態をリラクゼーション（訳注：本来は「緩和」或いは「弛緩」と訳すべきですが、原文の意味合いを込めてカナ表記にしました）と呼んでいます。そしてテレパシクな意思交流の良い受け手となる秘訣はいつの場合も活動的なリラックス状態に身体を保つ能力にあります。

【解説】

私達がテレパシー能力を高める上で重要とされて来た「リラックスした状態」について、本項で重要な点を述べていることに注意したいものです。

それはリラックスでも活動状態にあることです。私達生命体は全身くまなく静止していることはありません。細胞内の各構成要素も各器官も皆、常に活動的です。先ずはそれら基本的な生命活動と共鳴することが必要で、私達は常に活動的であり、同に何かに執着することなく、外宇宙から来るインスピレーションに即応する鋭敏性が求められることとなります。

読者の多くの方が、確かに仕事がかどる時は、私達は活動的であり、臨機応変に物事を解決していますが、何か問題にぶつかって悩んでいる間は身体は不活発で停滞していることを体験していると思います。これでは身体がリラックスしていることにはならない訳です。宇宙本来の活動的な波動と一体化してはじめて、周囲と調和することが出来るということです。何事にも積極的で関心を持つこと、自然を見習った心境を大事にしなければならないのです。

CHAPTER II

Relaxation, Interest and Receptivity

267 We have been taught that intense concentration is the only means by which anything can be accomplished in this world. We are told that the happy-go-lucky individual never becomes an outstanding figure in any line of endeavor; so we should at all times keep our shoulder to the wheel, our eyes on the ball, and our nose to the grindstone (a most uncomfortable position). But here again, we will find that we have been unwisely informed.

第2章

リラクゼーション、関心及び感受性

267 私達はこれまで強烈な集中が、この世の中で何かが成し遂げられる為の唯一の方法であると教えられて来ました。私達は楽天的人間は決して如何なる努力の分野でも秀でた人物になることはないと教えられて来ました。ですから私達は常に車輪に肩を付け、ボールに目を置き、砥石に鼻先をつけ（最も不快な姿勢を）続けるべきとされて来ました。しかし、ここで再び私達は愚かなる情報を与えられ続けていることが分かるでしょう。

【解説】

前章から引き継ぐ内容として、本章ではリラクゼーションについて学びます。

想念波動に鋭敏になる為、ひいては物事を達成する上で、とかく私達は精神を集中し、気合を込めてその成就を求めるべきだとされて来ました。強く気持を集中することが不可欠だ、或いは有効だとされて来たのです。

しかし、実際はどうでしょうか。貴重なアイデアは悩んだ末に心が完全に放棄した時に訪れることも多く、強く念じたとしても必ずしも望む事柄が実現するものではないようです。

その一方、本講座で繰り返し説かれているのは、心が束縛から解き放たれ、自由になった時、宇宙の妙なる想念波動に遭遇することで、新境地が拓けるという事実です。これをもたらず真のリラクゼーションとはどのようにして生まれるのか、私達は本章を通じてじっくり学ぶこととなります。

268 Let us look into past history, back to the great minds still influencing our thinking today. Here, we find the Master Teachers: Buddha, Jesus, Aristotle, Socrates, Plato, to name but a few, all sharing one common faculty. All were possessors of serene, balanced minds; which enabled them to pierce the veil of materiality and trace manifestation to its true Cosmic Source. Long after the big business tycoon has returned his body to the dust and been forgotten, their guiding words will continue to influence the destiny of the world throughout time.

268 今日の私達の思考に今なお影響を与えている偉大な心について過去の歴史を覗いて見ましょう。ここに偉大な師である仏陀、イエス、アリストテレス、ソクラテス、プラトン等、わずか数人を挙げましょう。これら全員は一つの共通した才能を共有しています。全員が澄んでバランスがとれた心の持ち主であり、そのことが物質性というベールを貫くことを可能とし、真実の宇宙的源泉に繋がる創造作用をたどることを可能にしたのです。この大御所がその肉体を塵に返し、忘れ去られた後も長い間、彼らの導きの言葉は時間を越えて世界の運命に影響を与え続けることでしょう。

【解説】

以前にも述べたかと思いますが、樹齢1200年余の杉の大木を見たことがあります。伝承では聖徳太子にゆかりのある神社にそれが大切に守られていました。その巨木を見た時、1200年という年月の長さ、これら長年月を見守って来た巨木の持つ知識に改めて恐れ入った次第です。

しかし、少し考えれば、本項に記載のあるイエスや仏陀等々の聖人は皆、この巨木を遥かに超える昔、その痕跡も不明となるような昔に生きていた方々であり、いまだに後世の者達はその教えの真髄を探求し、実生活に活かそうとしていることに気付きます。

まさに言葉は物質より、長持ちする訳で、メッセージこそ永遠に受け継がれるべきものと言えるでしょう。宇宙空間の中で言葉、更にはその表す心境こそ永続するものであり、物質は一時的な結果物に過ぎず、それは私達の身体も含め移ろい易いものであることが分かります。

そして同時に、私達が学ぶアダムスキー氏についても、やがてはこれら偉大な魂として未永く私達の道しるべとなるに違いありません。

269 It is true that all form is brought into being through a drawing together of free elements; that concentration is the father of manifestation. So if we are interested only in discovering how much space we can press into the smallest conceivable mass, concentration is a marvelous thing. But I sincerely hope that the goal for which we are striving is much higher.

269 全ての形あるものは自由な元素を互いに引き寄せることを通じてもたらされたこと、集積は創造の父であることは真実です。ですから私達が如何に考えうる極小な塊に空間を圧縮させることが出来るかを知ることだけに関心を抱くなら、その集積は驚くべきものになります。しかし、私としては私達が努力しているゴールはもっと高いものであって欲しいと心から思っています。

【解説】

確かに形あるものは空間を自由に動き回っていた分子・原子をある意味、究極な密度まで集約し、しかもその内部では各要素がそれぞれ密接に連携している等、奇跡的な機能を果たしていると言えるでしょう。これまで私達は集中こそ、重要だとして来たものです。

しかし、本講座では今までのように形になった世界にはそれ自身の存在にのみ関心が集まる為、発展はないと主張しています。

内向きの関心を解消し、宇宙に広がる概念や意識を育む為には、私達はこのような形あるもの、即ち結果物から、その原因、即ち無から有になる過程、生命活動に自らの関心を向けさせなければなりません。自我への執着を捨て、もっと深遠な想念・印象レベルの活動を感じ取る努力が必要とされているのです。

270 Our aim in this study is to discover how far out we can work from any given point. We are not trying to draw the universe into the level of the human consciousness, but to turn the human consciousness away from the personal self, that it may become universal. So the development of the true sense-man, and the reception of telepathic communication, does not depend upon concentration . . . but upon interest.

270 この学習における私達のねらいは、どんな与えられた地点からも如何に遠くに私達が作用することが出来るかを発見することにあります。私達は宇宙を人間の意識のレベルにまで引き寄せようとするのではなく、人間の意識レベルを各自の個我から離して宇宙的にしようとしているのです。ですから、真の感覚人の発達やテレパシー的意思疎通は集積にではなく、関心に依存するのです。

【解説】

テレパシー開発のポイントはこれまでのような”集中”でなく、”拡張拡大”であると、本項はその秘訣を説いています。私達の問題や意識を自分自身や身の回りから如何に拡張させるかにあるということです。その為には私達の感覚範囲を広く宇宙にまで拡張すること、そして拡張した感受範囲に何が起きているのか常に関心を持つことだとしているのです。

とにかく私達は何らかの課題や対象に集中しがちですが、実際に必要とされているのは広く拡張した意識をどのような想念・印象が通過するか、警戒することにあります。感受性を高め、やって来る価値あるインスピレーションを逃さぬよう、それらが通過する際に心の中に生じるわずかなさざ波に気付ける心境を保持することが大切です。

271 A very great difference exists between the two. Concentration is a fixed, or set condition, which allows only one idea to manifest at any given time. Interest is a state of curiosity which opens real consciousness to all ideas around it, and in this way actually creates an impersonal participation with them in a free state.

271 両者の間には非常に大きな違いがあります。集中とは固定化した固まった状況であり、如何なる時でも一つのアイデアしか現出を許さないものです。一方、関心は現実の意識をその周囲の全てのアイデアに開放する好奇心の状態であり、このようにして自由な状態の下、それらと非個人的なる参画を実際に作り出すのです。

【解説】

テレパシー能力を高める為には何より自らの関心の範囲を広げることが肝要であり、物事に集中、執着することはそれに逆行するものだと説かれています。

自らの意識を拡大拡張し、あまねく領域に広げるとともにその染み出す範囲で想念、印象の検知を待つという訳です。

とかく答えを見出せないでいる私達ですが、それは求める範囲を自ら狭め自らの関心その一点に集中しているからに他なりません。もっと自由に自らの想念を広げれば絶えず流れ込む宇宙の英知に自ずと接することが出来、インスピレーションを得ることが出来るのです。通常、このような心境と他力本願と称するかと思いますが、その背景にあるものは創造主への信頼、信仰なのです。

272 During experiments conducted in the field of intentional telepathy by researchers, it has been found that the rate of accuracy in reception in any group is higher for the first series of tests than it is later. They have attributed this to mental fatigue, but it might more logically be explained as concentration fatigue; for it is produced by the enforced focusing of the attention upon one point, or idea. Because it demands an increased expenditure of the potential body force, any form of concentration will produce fatigue. The energy of the cells is being dissipated at a very high rate, and due to their tenseness caused by this mental strain, they are not able to replenish their energy as fast as they are giving it out. This creates an unbalanced condition in the body.

272 研究者達による意図的テレパシーの分野で行われた実験の間、如何なる集団においても正確さの割合は最初のテストが後のものよりも高いことが発見されています。彼らはこれを精神的疲労のせいとしていましたが、集中化による疲労と説明する方がもっと論理的と言えるかも知れません。何故なら、ある一点あるいは概念に注意を強制的に集中させることで疲労が作られるからです。その集中が潜在する肉体の力の消費量を増加させることになる為、どのような形であれ、集中は疲労を作り出します。細胞のエネルギーが非常に高速度で消失し、心の引き締めによって作り出された緊張の故に、細胞は自分達のエネルギーを補給することが出来ないまま、エネルギーを放出してしまいます。これは肉体にアンバランスな状態を作り上げます。

【解説】

本項はこれから私達がテレパシー能力向上を目指して各自訓練して行く上での指針となるものです。

とにかく私達は成果を急ぎがちです。その為に何かの目標に集中しますが、その際の心の持ちようについて注意しています。つまり、説明事例にあるように、多くの場合、最初はうまく行く場合が多いことです。これは心が未だ集中しておらず、リラックスしていたり、成果に執着することのない心境であったためという訳です。

これに反して、2回、3回と続けて行く中で、私達の肉体細胞が疲弊し、感受性を失うことを警告しています。つまりはこのような心の訓練は心の状態即ち心境を如何に理想的な状況下に統制して行くかがカギとなる訳です。これはテレパシー分野に限らず、スポーツその他何事にも当てはまるのではないのでしょうか。如何に平常心を保ちつつ、目標に立ち向かうか、このバランスが重要です。

273 We are living examples of this law in action. Our modern mechanical age with its labor-saving devices, which should give us more time to become acquainted with ourselves and the universe in which we live, has enslaved the average person by the fast pace they now expect. We work, eat, sleep and play in a state of high concentration; then wonder why we suffer from constipation, colds, high blood pressure, and drop dead with heart failure in the prime of life. All the medicine in the world cannot make the little cells of our bodies operate efficiently while our minds are under tension.

273 私達はこの法則の生ける実例です。私達の現代の機械化の時代には労働を軽減する装置があり、それらは私達に自分自身と私達が住んでいる宇宙をよく知るためにより多くの時間をもたらす筈なのですが、平均的な人間を自分達が思い込んでいるテンポの速いペースの虜にしています。私達は高い集中度の下、働き、食べ、眠りそして遊びます。そして何故、私達が便秘や風邪、高血圧に苦しみ、生涯の全盛期に心臓麻痺で倒れるのかを不思議に思うものです。この世の全ての薬は私達の心が緊張下に置かれている間は私達の肉体の微小な細胞を効果的に動かすことは出来ないのです。

【解説】

せつかくの文明社会に居ながら、私達は依然として旧態ながらのあくせくした心のままで日常を過ごしています。その結果、心の過度の緊張や集中によって、肉体は疲弊した状態にあり、様々な病気を抱えるに至っています。

本項はこのような心の問題が解消しない限り、薬では効果が出ないと断言しています。つまり私達が抱える肉体細胞の問題は薬よりも心の問題を先に解決する必要があるということです。

私達が本来、授けられた恵まれた環境を生かす上でも、自らの心の問題こそ、真っ先に対処すべきという訳です。しかし、この課題は各自が解決に向けて努力しなければなりません。他の者は助言は与えられるものの、その行動実践は本人でしか為しえないのです。

本項で説かれている集中の問題は、はるか2000年以上も前に仏陀が説かれた執着の問題に対応しています。

274 Interest, unlike concentration, does not deplete the cells. Due to their state of curiosity regarding the new information, the cells are open to the incoming force. Being in a free state, instead of using their stored-up energy as they do with intense concentration, the cells are so normally balanced in action that they receive equally as they give out; so no fatigue is felt.

274 関心は集中とは異なり、細胞を消耗させることはありません。その新しい情報に関する興味を持った状況の為、細胞は入って来る力に対し開放しています。激しい集中ではそれら貯えたエネルギーを使っていたのに対し、自由な状態においては細胞は正常にバランスされ、出すのと同量を受け入れることとなる為、疲労は感じられません。

【解説】

年を取ると新しい物事に対する関心が薄れがちですが、これが大きな問題なのです。絶えず新しい分野に関心を持つこと、新鮮さを失わないことが長寿の秘訣かと思われま

す。その為には、昔のことに囚われることなく、また自らの欲望に執着するのではなく、あらゆる事象を内観し、その中に隠れている様々な要素に気付くことも必要かと思われま

す。その点、大いに参考とすべきは自然界の生きもの達です。彼らは言葉を発することなく、無駄なく、また不平不満を述べることなく与えられた環境を享受しています。この頃は朝晩の通勤途上で爽やかに鳴くコオロギの声を聞くようになりました。ささやかな環境の中でも精一杯、驚く程のキレイな音色を出す虫達の生活振りに想いを寄せるのも楽しい秋のひと時です。

275 But even with interest we must analyze our mental reactions; for there is personal interest, and universal interest. One may find that he is able to receive many impressions or premonitions regarding his own affairs; yet be a closed channel for national, world, or universal impressions. If this person will watch his thought action closely, he will discover that hundreds of thoughts pass through his brain during each day which do not register strongly; because they do not seem to pertain to himself, his personal experiences, or have appeal to his individualized knowledge of outside affairs.

275 しかし、関心についても私達の精神面の反応を分析しなければなりません。何故なら、個人的な関心もあり、宇宙的な関心もあるからです。人は自分が自分自身の事柄に関しては多くの印象や予感を受感することが出来ていることには気付くかも知れません。しかし、国家や世界、あるいは宇宙的な印象類については閉ざされた経路になっています。もし、この人物が綿密に自らの想念波動を観察するならば、毎日何百もの想念が強い印象を残さないまま自身の頭脳を通過していることを発見するでしょう。何故ならそれら想念は自身や自分の個人的な体験に属するようなものでなく、自身の外部の出来事についての個人的な知見に訴えるものではないというのがその理由です。

【解説】

確かに私達には少なくとも何百、何千という想念・印象がやって来ることでしょう。その内、実際に私達が気付き取り入れるのは、ほんのわずかという訳です。本当はもっと多くのアイデアを持ち、事業も発展できる環境にあるのに、それを生かし切れていないのが私達です。

本項ではその原因を、私達が事前に特定の分野の印象しか受け入れようとしめない傾向にあることを指摘しています。つまり、私達自身の関心事を如何に広げるかが求められているのです。

しかし、本人の関心事を広げるのは容易ではありません。本来、最高位の創造物である人間はあらゆる事柄に関心を持たねばなりません。エゴが高慢になった挙句、自分以外の存在物に敬意もなく、尊敬もなくなってしまったのではないのでしょうか。

それを打破するためには、再度、自ら自然を探求する他、手段はありません。植物画や昆虫の絵本等、精緻な絵画を描く画家は皆、年配になっても生き生きとされているように思われます。言葉を発しない生きもの達を観察し、画としてその姿を再現する過程にそれら生きもの達との一体感の中で、より深い理解が広がって行くに違いありません。

276 If he gives these thoughts any recognition, he generally releases them immediately as mere figments of his imagination. But, after all, what is imagination? Is it not the faculty to objectify, or imagine, that which is invisible to the senses? As one Eastern philosopher aptly phrased it, "Imagination is the bridge between the known and the unknown."

276 もしその者がこれらの想念に何らかの認知を与えたとしても、その者はそれらを単なる自分の想像の産物だとして通常は手放してしまいます。しかし、結局のところ想像とは何でしょうか。それは既存の諸感覚には見えないものを具体化し、考えてみる能力ではないでしょうか。ある東洋の哲学者はこれをうまく表現しました。「想像とは既知と未知との間の架け橋である。」

【解説】

本項は私達が日常的に遭遇している想念がどのようなものかを改めて示しています。

即ち、通常、私達が単なる想像、幻想と言った類の思いつきだとして捨て去るものの中に、それらの要素が入っているというのです。通常、私達がそれらのアイデアのカケラが心に浮かんでもそれらは単なる妄想だとして捨てている為に、テレパシー能力が育成されないのです。

本項で言う東洋の哲学者が誰なのかはわからないのですが、私達が通常、想像として分類しているものの多くは因からの想念波動であり、それらはやがては現実化することを説いています。宇宙空間の中を流れる創造作用を持つ印象類である可能性があるという訳です。

テレパシー能力は単に相手の発する想念を理解出来るという段階から創造的な想念波動、因に起源を置く創造主の意図を理解する段階に進むべきなのです。

277 The wise man will learn to pay attention to all thoughts passing through his brain. He will heed not only those pertaining to self, but also those thoughts taking place outside his personal field of comprehension. For only in this way will he grow in knowledge and receptivity. It is indifference and lack of interest which causes man to lose the greatest jewels of wisdom . . . lose them through apathy when he actually holds them within his grasp.

277 賢明な者は自分の頭脳を通過する全ての想念に注意を払うことを学ぶでしょう。彼は自身に属するもののみでなく、自分自身の理解の分野以外で起る想念についても心に留めることでしょう。この方法を通じてのみ、知識や感受性において成長するからです。人に智恵の最大の宝石を失わせるのは無頓着と関心の薄さであり、実際、手に握っているにも拘わらず無感動のまま無くしてしまうのです。

【解説】

私達は自らに与えられる恵みに鋭敏であらねばなりません。私達が成長するのはこれら時として心に浮かぶインスピレーションが元となるからです。これらの現象は日常的に起こっており、これらに気付かないことは、実にそのチャンスを自ら放棄しているに等しいのです。

この場合、どうしたらそのようなチャンスを生かせるのでしょうか。その為には常に心の中を穏やかにかつ鋭敏に保つこと、何事にも関心を持ち、自らを成長させたいという意思を持つことかと思えます。優れた発明をする場合も、何かの課題を解決し、技術を進歩させたいと願うことがベースになっている筈です。

このように考えると、私達に必要なのはやって来る印象に対してどのようなものにも拒むことなく取り入れてそれがどのような意味を示唆しているかを先ずは観ることが大切です。その為には心を広く構えて、あらゆるものを受容する包容力が必要だということでしょう。

278 Often, however, the loss of important telepathic communications - whether from animate or so-called inanimate sources - is not due to lack of interest, but due to a too intense interest; or a personal greed for knowledge. A thought, as we have explained, does not travel in a lump like a cannon ball, but in a series of waves. One complete thought may produce itself in fifty thousand individual undulations. Yet, nine times out of ten the instant a forerunner of a thought-message strikes the human brain the ego, if interested, will grab it and immediately tense the brain and body cells by concentrating upon the incoming thought. That sudden tensening of the cell activity is merely slamming the door in the face of the incoming thought. The five or six hundred impulses which found their way into our conscious brain cells before the door was closed, produced only a fleeting impression in our awareness; which, because we have received only a portion of the message, often results in a sense of confusion.

278 しかし、重要なテレパシクな意思疎通の喪失は生物からであれ、いわゆる無生物からであれ、関心の欠如に起因するのではなく、しばしば過剰な関心や知識に対する個人的な貪欲さにも起因しています。想念は私達が説明して来たように、大砲の弾丸のように塊で移動するものではありません。一つの完全な想念は50,000個の個別なうねりによって自身を作り上げているかも知れません。しかし、10の内、9回は想念メッセージがエゴである頭脳を叩く瞬間、エゴが関心を示せばエゴはそれをつかみ取り、そのやって来る想念に集中することで、頭脳と肉体の細胞を即座に緊張させます。細胞活動をそのように急に緊張させることは、入って来つつある想念の目の前でドアをボタンと閉めていることに過ぎません。その扉が閉まる前に私達の頭脳細胞の中に入った500から600の衝動は私達の知覚の中に先頭の印象しか作り出すことが出来ませんし、私達はそのメッセージのわずかな部分しか受け取らなかったため、しばしば混乱の感じしか結果として残らないのです。

【解説】

本項では私達のインスピレーションに対する感度の実態が示されていると言えるでしょう。全体で5万の想念波に対してわずかその100分の1の5百前後を感知した段階で身体細胞が緊張のあまり、扉を閉ざしてしまうのが実態なのです。

このように折角、インスピレーションに巡り会っても、それら新しい知識に対し強欲である為に身体細胞がそれ以上受信できないような緊張状態に陥ってしまうという訳で、実に惜しい状況だと指摘しています。

私達にとって無関心であることはもちろん、このように過度な関心の集中についても問題があるという訳です。努めて穏やかな心身の状態を保つ中でインスピレーションが私達に伝える全容を理解するよう、当面、心が理解出来なくてもまずは全体を受け入れようとするのが重要です。

279 Thought-transference is much like a radio broadcast. In radio, a message or vibration is spoken into the microphone; passes through an amplifier and transformer; travels through space as an electric wave; is picked up by a receptive instrument; carried through the wires to the detector tube and transformer, where it again changes into the original sound waves. But if the power fails, or a tube goes dead in the middle of the message, the sound waves coming from the set will stop, and the speaker's voice may be interrupted in the middle of a word. When we tense our minds to an incoming thought, it produces the same effect on the brain that the power failure, or dead tube does in the radio set.

279 想念伝達は、ラジオ放送により近いものです。ラジオの場合、メッセージあるいは振動がマイクロホンの中に話され、アンプや変圧器を通り、電気的な波として空間を移動し、ある受信装置に拾い上げられると、電線の中を通過して検波管や変圧器に運ばれ、そこで再び元の音声波に変換されます。しかし、メッセージの途中でも、電力が無くなれば、あるいは真空管が作動しなくなれば、ラジオから出る音声波は停止し、話し手の声は途中で中断させられることになるでしょう。私達が入って来る想念に対し、心を緊張させると、ラジオにおいて電力が落ちたり、真空管が切れるのと同じ影響を作り出すことになるのです。

【解説】

本文から想念伝達の原理が明らかにされています。

ここで重要だと思うのは、想念波自体は何か放送電波のようなものかもしれませんが、その大本の内容は受信者の中にある諸機能により、受信後再び送信者の意図が再現されるということです。つまり、受信者側にその再現機能の問題が生じれば、送信者の想念が再現されなくなるということになります。

そこで重要となるのは、受信者が自らの受信機能を安定して保ち、目新しい想念・印象に出会ったからと言って、妙に緊張したり、拒絶するようなことのないよう、穏やかさを保つことです。

私達自身の受信機を常に正常な状態にしておくことが次なるインスピレーションを受ける上での準備となるのです。

280 It is not easy to hold one's self always in a state of receptivity, because it demands a perfectly balanced consciousness. It is not a simple task to keep the body in a state of relaxation and still maintain a positive interest in all action around, and within us. Yet, this state is necessary to a good recipient. We must learn to look upon our mental reactions as though we were an impersonal bystander, and our thoughts were nothing more than actions taking place upon a stage.

280 自我を感受性のある状態に保つことは容易ではありません。完全なる調和した意識が必要だからです。肉体をリラクゼーションの状態に保ち、しかも周囲や自らの内面のあらゆる活動に対して積極的な関心を維持することは容易な任務ではないのです。しかし、良い感受者にはこの状態は無くてはならないものです。私達はあたかも自分が個人的に関係がない傍観者であるかのように、私達の精神的な反応を観ること、また、私達の想念がステージで起っている演技でしかないかのように観ることを学ばなければなりません。

【解説】

本稿はある意味テレパシーの極意を示唆するものと言えるでしょう。空間を通過する妙なる想念を感知する為に心はバランスのとれた穏やかでかつ他者に対する関心を保っていることが必要なのです。

これを成し遂げるには、各自は自分自身の心身の状況を把握し、バランスのとれた状態を維持する必要があります。つまり、マイナスや過度のプラス、即ち攻撃的な姿勢を改め、静かに心を通過する想念波を観察することが求められます。

かく言う私も心身を安定した状況に保つことは容易ではありません。その渦中に入ってしまうよりは、一歩引いて、客観的に自身を見詰め直すことも必要でしょう。本文に表現されているように想念を舞台上で演じられている劇のように、少し引いたところから観察する自分が必要であると著者が説いている所は重要です。

281 To some people, this may seem a very haphazard way of experiencing life. For has not the human ego, through hundreds of thousands of years, been trained to the idea of accomplishment by aggression and personal effort? Yet, there are the fortunate few who have discovered the universal way of life. Such persons include not only the seers and the philosophers (who, we pointed out earlier, understood that mastery of the body was essential), but those in all walks of life. Thomas Edison, one of the great scientists of our times, once remarked, "I have found that the answer to some of my most perplexing problems come to me after I have ceased trying to solve them." In other words, the thoughts started to flow freely when his interest was impersonal; when his intense concentration had been released.

281 人々によっては、これは人生を経験する上で行き当たりばったりのように思えるかも知れません。何故なら、人間のエゴは何十万年もの間、攻撃と個人的な努力による物事の達成という概念で訓練されて来たのではなかったでしょうか？それでも宇宙普遍の生き方を発見できた幸運な人達もいます。これらの人達の中には予言者や哲学者（彼らは古くから肉体の支配が不可欠であることを指摘し理解していました）ばかりでなく、あらゆる人生の歩みの中におりました。今日の偉大な科学者であるトーマス・エジソンはかつて、こう述べました。「私のいくつか悩んでいた問題の回答は、私がそれを解決したいとする努力を止めた後にやって来ました。」言い換えれば、彼の関心が非個人的になった時、即ち彼の強烈なる集中が開放された時に想念が自由に流れはじめたということです。

【解説】

もちろん自ら努力する者でなければなりません、そもそもその努力する方向について大切な示唆を与えているのが本項です。

問題解決に向けて自分の経験や知識を探すことはもちろん必要です。しかし、それでは十分ではありません。実はこうして自らの関心、即ちアンテナをその課題に向ける訳ですが、実際の解決は過去の経験だけでは進まないのが通例です。どうしても新しい方法や知識が必要なのですが、これら解決法に巡り合うには外部からの手助け、即ちインスピレーションに頼る必要があります。そこに外からの印象を受け入れる心身の状態が必要になるのです。

その為に必要となるのが心身が十分に柔軟で外部から来る微小な想念波動に気付ける状態を維持することです。エジソンはこうして数多くの発明を成し遂げたということであり、エジソン自身、問題解決の為にメカニズムを理解していたという訳です。

282 Relaxation is generally misunderstood. In consequence, there few people who have ever experienced true relaxation. Contrary to popular belief, it is not a state of inertia. It is a condition of intensified activity . . . because it is free activity.

282 リラクゼーションは概して誤解されています。結局のところ、これまで真のリラクゼーションを体験した人は少ないのです。よく信じられているのとは反対に、リラクゼーションは何もしない惰性の状態ではありません。それは、自由な活動であるが故に、激化した活動の状態なのです。

【解説】

様々な場面で”平常心”という表現が用いられますが、私達が真に課題に直面した時、必要になるのはこのような心身の状態であると言えます。

仮に危機的な状況であっても解決策に巡り合うには本項に示されているように宇宙からやって来るインスピレーションに同調出来る健全な心境が必要なのです。

その為にも私達は普段から、自ら進んでこのようなバランスを取れた心身の状態を作り出し、それを維持するよう心掛けることです。これら一連の訓練は日常生活を通じて私達が実践可能なのです。

283 As an illustration; let us imagine we place a large number of goldfish in a small bowl. This crowded condition will not enable them to move about freely, and any motion on their part will cause them to bump into other fish. Each contact-shock will result in the expenditure of a certain amount of energy. If they try to force their normal activity in such congested surroundings, they will soon become fatigued. If they are wise, they will instinctively lessen their action; in which case they are reduced to a condition of lethargy. But as soon as these fish are placed in a larger receptacle they will again expand their activity to its natural state.

283 例示として小さな鉢に沢山の金魚を入れた場合を想像しましょう。この混み合った状況は金魚達に自由に動き回ることを出来なくさせており、少しでも動くると他の魚にぶつかってしまうこととなります。この接触の衝撃は幾分かのエネルギーを消費します。もし、金魚達がこのような詰め込み状態の中で通常の動きを無理にしようとするれば、すぐにも疲れてしまうでしょう。彼らが賢ければ本能的に活動を低下させるでしょうし、その中で彼らは不活発状態に弱められて行きます。しかし、これらの魚達がより大きな容器に入れられるや否や、彼らは再び自然な状態まで活動を広げることでしょう。

【解説】

この金魚鉢の事例は私達に何を示唆しているのでしょうか。まずはその事柄から考えて見る必要もあるでしょう。

一つの例として、自分自身の器（うつわ）の中に整理し切れない程の問題を抱えてしまっている場合も当てはまります。問題を自分に引き集めてしまい、解決が出来ずにいる例も多いのです。

しかし、課題は一度に一つずつ対応することで、自分の中で自由に構想することが出来れば、却って全体としての解決は早まるものです。また、問題点を明らかにして再発を防ぐことも容易になることでしょう。

一方、問題を多く抱え込んでいる場合には、解決策が見つからず悩んでいるだけで長期の時間を要するものです。

また、同時に自分が当面している諸課題に対して、何が真の問題であるか、解決すべき課題を絞り込むことも必要になります。

284 The same holds true of the cell entities of the human body. Our minds are constantly "bumping" into the worries and anxieties around us in the crowded fish bowl of our own creation; and each contact-shock dissipates a certain amount of energy. So we can safely say that tension is the chief cause of non-activity of the cells, and non-receptivity of telepathic impressions. But due to a misunderstanding of the true meaning of relaxation, there exists another condition that is just as detrimental as tension.

284 これと同じことが人体の各細胞実体についても当てはまります。私達の心は私達自身の創造物である混み入った金魚鉢の中の私達に心配と不安を常に「ぶつけて」おり、一つ一つの接触の衝撃が何かしかのエネルギーを消耗させています。ですから私達は確かに緊張は細胞の非活発やテレパシー的印象の非感受性の主原因であるということが出来ます。しかし、真のリラクゼーションに対する誤解から、この緊張と同じくらい有害な状態も存在するのです。

【解説】

先ずは私達はあまりに多くの心配事や欲望その他強烈なる想念を自らの心の中に投げ込んでいることに注意しなければなりません。それらの想念は私達自身の身体細胞を痛めつけ、それらを疲弊させていることに気付く必要があります。これこそが身体細胞を本来の状態に戻すカギであります。

即ちこれら過度の心配や悲しみ、怒り等々の想念を解消し、心の中から捨て去ることです。それは”心を貧しくする”、心を空にすることでもあるのです。心が心配事やその他の感情から解放されれば、やがて本来の宇宙的想念を取り込むゆとりが出来、進化につながる道を歩むことが出来るというものです。

エゴを縮小させることは、同時に宇宙的要素を増やすことでもある訳で、自らの心は貧しくして置くことに越したことはありません。

285 Not unlike the goldfish in the small bowl, the individual nearly always reverts from the extreme of tension to the extreme of lethargy . . . completely ignoring the half-way house of relaxation. Usually, if a person is told to relax, he simply lets down and loses interest in everything. By doing this he not only retards the cell action of the body, but he often goes even further and by main force of will tries to create a mental vacuum. This torpid state is what takes place in nature when certain animals hibernate through the cold weather, but with them it is in obedience to a natural law for the perpetuation of the species. You will notice that the customary foods of these animals is not available during the winter months; therefore, nature slows down the activity of their body cells, so they may husband their energy until Spring sets her bountiful table.

285 その小さな鉢の中の金魚とは異なり、個人はリラクゼーションという中間施設を完全に無視して極端な緊張から極端な無気力に逆戻りする程の方向転換を大抵は行います。普通、もしある者がリラックスするように言われると、その者はあらゆるものに対する関心を低下させ失わせてしまいます。こうすることで、彼は肉体の細胞活動を遅くするばかりか、しばしば更に進んで意志の主力を使って精神的な空白状態を作り出します。この不活発な状態は自然界ではある種の動物が寒い季節を通じて冬眠する時に起るものですが、動物達にとっては種の永続性の為に自然法則に従っているものなのです。皆さんは冬の間、これら動物のいつもの食べ物が手に入らないことにお気づきでしょう。それゆえ、自然はこれらの肉体細胞の活動を低下させ、彼らが春が食卓を用意するまで自分達のエネルギーを節約出来るのです。

【解説】

私達地球人は極端から極端に移行するだけで、全体として調和が取れた状態というのを知りません。進むべきはバランスの取れた道ということです。

結局、私達が進化する為に必要なのは、エゴの指令ではなく、宇宙的な想念・印象による導きです。その導きに出会う為には先ずは心自体を受け入れ可能な状態に保ち、求める解決策の方向に耳を傾ける必要があるのです。従来のような心身を静止させるような不活発な状態は無関心・無気力であり、リラックスとは言えないという訳です。

一端、宇宙的印象への道筋がつながれば、あとはその心境を維持すればよく、以降次々に貴重な知識が流入することになります。自らこのような成功体験を持つことが重要なのです。

286 More than once I have heard the remark: "Oh, I was in such a beautiful state of relaxation. I was barely conscious of having a body, and my mind was simply a blank!" That is not relaxation. It is merely a state of lethargic indifference; and has almost no constructive value. When a person is truly relaxed his body feels tremendously "alive," and thoughts pass through his consciousness at such a high rate of speed it may seem to him afterwards that he has lived years in a few moments. Relaxation is the releasing of personal desire to the natural sequence of relativity, or continuity of thought; and the person has normal, unbiased interest in everything while in this state.

286 一度ならず私はこうした発言を耳にしたことがあります。「そう、私はとても素晴らしくリラックスしたことがあった。ほとんど自分が肉体を意識することなく、心もまっさらな状態だった。」しかし、これはリラクゼーションではありません。それは単なる無気力で無関心の状態でしかなく、建設的な価値はほとんどありません。人が真にリラックスしている時は、自分の肉体はとてつもなく「生き生き」感じ、想念は本人の意識の中を非常な高速度で通過する為、後でわずかの時間に何年間も過ごしたような感じをその者に与えます。リラクゼーションとは個人的な願望を人の手を加えない一連の関連性の流れ、即ち想念の連続性に解放することであり、その時、人はこの状態の中であって、あらゆるものに先入観の無い関心を抱いているのです。

【解説】

本項は私達が目指すべき心境を明示しています。

従来、私達は肉体を静置させ、心は無気力にすることがリラックスだとして来ましたが、真のリラックスとは随分と活発な状態を指すというところに着目しなければなりません。私達生命体の本来の姿はこのような静置状態ではなく、もっと活動的な状態であるということです。

これまで私達は仏教で言う”悟り”(Enlightenment)を目指して来ましたが、これこそがその状態であると言うべきでしょう。肉体的には過度な行動状態ではなく、むしろ安静にしている状態かも知れませんが、その精神活動は活発です。本項で言うように短時間でもおびただしい数の想念が行き来する訳で、私達はその中でこれまでとは比較にならない穂との数の想念・印象と出会う訳で、その記憶量の大きさは、本文で言う短時間にも関わらず何年も過ごした程の記憶となる原因です。

感知する想念の数こそが私達の心身の状態を表すバロメーターと言えるかも知れません。充実した1日とはこのことを表しています。

287 I have said that in general, lack of receptivity is due to lack of interest on the part of the individual. We know that some persons are intensely interested in all that goes on around them, whereas others have limited interests. Why should this be? What causes the psychological difference?

287 私は一般論として、感受性の不足はその個人の側における関心の不足に起因すると言って来ました。私達はある人々は身の回りで起る全てに強烈に関心を持つ一方で、他の者達は限られた関心しか示さないことを知っています。これは何故でしょうか。その心理面の違いは何によるのでしょうか。

【解説】

本項を読んで思うことは、人の関心や感受性の差はどこから来るのかということです。仮に同じものを見ても、感じる内容は人によりさまざまです。どうもこれらの差は長い人生の中で各自が培った偏りや各自が人生を歩む中で得た経験も影響しているものと思われます。

そう考えれば、過去生も含め、歩んだ人生が個々人で異なる以上、感受性の差はやむを得ないと言えるでしょう。しかし、各自が成長する為にはより広い分野に関心を拡げ、次々に新しい世界を開拓する必要があるので。

よく芸術家が年配になってますますその技量が増し、傑作が生まれるように、本来は年齢（即ち経験）を積むにつれて、進化すべきという訳です。その原動力こそ、関心（interest)にあるのです。

288 To answer these questions, we must again refer to the universal law of action. The scientific definition of this law is, "Any object set in motion has a tendency to continue in motion in the same line, or direction, until acted upon by some external force."

288 これらの疑問に答える為、私達はもう一度、運動の普遍的法則を引用しなくてはなりません。この法則の科学的定義は「如何なる物体も動かしはじめると、何らかの外力が作用しない限り、それと同一の直線、同じ方向に運動を続けようとする傾向を持つ」としています。

【解説】

私達は各自、これまで培ってきた習慣の上に毎日を送っていると言っても良いでしょう。馴れた道、馴れた仕事の方がスムーズに行くことも確かですが、そればかりではマンネリ化し、やがて単に惰性に流される人生にもなりかねません。実は習慣性ほど注意すべき要素はないと考えています。

本項で示される物理法則は、私達人間にも当てはまるという訳ですが、決して私達の人生の歩みをこれで良しとするものではありません。基本的にそのような傾向があることに注意すべきだとしているのです。

この問題を回避し、日々新鮮な気持で生きる為に各自それぞれ工夫も必要です。私も若い頃、毎日の通勤途上でその日一日を何か新しい事柄を撮り入れることを考え、歩いていたものです。努めて新しい分野や要素にチャレンジすることが私達には必要です。歳をとる中で一日一日を新たな気持で迎えることは、若い頃よりもはるかに大切になっているように思います。

289 Psychologically, we express this law by the statement that "a habit is difficult to break." In other words, any thought that is allowed to impress itself upon the body, sets the cells of the body into a state of motion corresponding to the thought-vibration. The body then has a tendency to continue in that particular motion until acted upon by another force which is strong enough, or positive enough, to change that vibration. The highly organized, concentrated, personal ego, in its aggressive manner, is so prone to force-frequencies that it intensifies the natural tendency of matter to continue in any motion, once that motion is created. When we allow habit-motions to become set, it necessitates contact with a very positive vibration to change them.

289 心理学的には私達は「習慣は打破するのが難しい」と表現します。言い換えれば肉体に対して印象付けることを許された想念は皆、肉体細胞をその想念波動に対応した運動状態に整えます。肉体はそれ故、次にその振動を変化させるに十分な強さや大きさを持った別の力によって作用されるまで、その特定の運動を継続する傾向があります。その攻撃的な振る舞いにおいて高度に組織化され、集約化された各個人のエゴは、力のある振動から大きな影響を受け易いため、一度運動が創り出されると継続するよう物質の自然の傾向を強めてしまいます。私達は習慣的な運動をセットすることを認めた後は、それらを変える為には別の強力な振動と出会う必要があるのです。

【解説】

私達の身体細胞は心が受容した想念波動に同調し、その共鳴作用は継続しやすいという訳です。即ち、本質的に私達は想念波動に共鳴しやすい特徴がある訳なのですが、一旦同調した後は、次により強力な想念波動が来ない限り、その振動を保つということです。

このことは、共鳴した波動が良質なものであれば良いのですが、そうでない場合は時間の経過とともに身体細胞に悪い影響を与え続けることになる筈です。即ち、私達は自分が現在、同調している波動にもっと注意を払うべきなのです。

一方、これまでの私達自身を変革する為に、より高次で協力な想念波動を撮り入れなければなりません。優れた師との出会いや古今東西の良書に出逢うことは、それら波動と巡り合うよい機会となるものです。

290 Remember the illustrations we used of the pessimist and optimist? The pessimist has formed the thought-habit pattern of always looking at the gloomy side of life, and will resist the presentation of joyous ideas. Even though the sun might be shining brightly, if you were to comment on the beauty of the day he would remind you of the terrible storms we had last winter. His thought-habit pattern looks upon all manifestation with suspicion.

290 以前、私達が用いた悲観論者と楽観論者の例示を思い出して下さい。悲観論者は常に生命の暗い側面を見る想念習慣パターンを形成してしまい、楽しいアイデアの披露に抵抗しようとします。太陽が明るく輝いても、貴方が日光の美しさを評しようとしても、その者は貴方に前年の冬にあったひどい嵐のことを思い出させようとするでしょう。その者の想念習慣は全ての創造を疑問の念をもって観ているのです。

【解説】

以前、ご紹介したかも知れません。1982年に私が当時、存命であったエマ・マーチネリ女史にお目にかかった時、彼女からアダムスキー氏の「宇宙のパイオニア」という幻の著書を戴きました。その本にはアダムスキー氏の署名とともに記されていたのが"Good Luck"という言葉でした。

何故、アダムスキー氏がその著書を贈呈するに当たってその言葉を記したのか、詳細は分かりませんが、何か英語の表現にある"Happy Go Lucky"という意味合いに近い響きを感じます。

様々な苦難があろうとも、先ずはそれを受け入れ、対処する技量、度胸が必要だということでしょう。

本項で著者が言う”楽観論”とは、即ち宇宙普遍の法則自体がいわゆる”真善美”に貫かれていることを悟っていることに由来するのです。

291 On the other hand, the optimist will see the beauty in the drifting snowflakes. He will call your attention to the majesty of the towering clouds, and point out the gratitude of the thirsty ground. These two minds are using the same universal law of action. But one has set his mind in motion along a destructive, vibratory thought-habit pattern; while the other follows a constructive vibratory thought-habit pattern; recognizing all creation as a manifesting expression of the Supreme Intelligence.

291 他方、楽観論者は漂う雪片に美しさを観ることでしょう。その者はそびえ立つ雲の偉容と渴いた大地の感謝の気持ちに貴方の注目を呼び起こすことでしょう。これら二つの心は同じ宇宙普遍の運動法則を用いているのです。しかし、一方は自分の心を破壊的な振動の想念習慣に沿って動かしていますが、もう一方は全ての創造は至上なる英知の現出された表現として認め、建設的な振動の想念パターンに沿って自らの心を動かしているのです。

【解説】

夕立をもたらす入道雲に対して、マイナスの面のみを見る者と、プラスの面に感動する者、両者が各々人生にその光景をどのように役立てるか、その差は明らかです。

私達各自は体験を通じて知恵を身に付け、自らの進化に役立てねばなりません。一つ一つの体験は各自に役立つ形、即ちプラス面として取り入れるべきなのです。

本来、私達は創造主の造り上げた作品を鑑賞し、めでるように創出された存在です。それ故に私達の前には様々な自然がその姿を見せてくれる訳です。その姿を観ることによって、創造主の深い思いを汲み取ることこそ、私達の存在意義だということでしょう。

292 We must understand that the human cell has a basic vibratory rate, that naturally responds more easily to other human vibrations than it will to those of animal, plant, or mineral life. But the human cells are just as capable of receiving impressions from all of these phases of nature, as they are from human beings. The same atoms, vibrating at different rates, make up the forms of human, animal, plant and mineral and they all speak the one universal language.

292 私達は人体の細胞は基本的な振動率を持っていて、動物や植物あるいは鉱物の生命に対するよりも、他の人間の振動により容易に自然と反応することを理解しておかなければなりません。しかし、人体細胞は丁度、それらが人間からであるのと同様に、自然のあらゆるこれら側面から来る印象を受信することが出来ます。同じ原子群が異なる振動率で振動し、人間や動物、植物や鉱物の形状をつくり上げており、それら全ては一つの宇宙普遍言語を話しています。

【解説】

以心伝心という表現があるように、親しい間柄では容易に意思疎通が可能です。それを可能としているのは、本文にあるように双方の身体細胞が同種の振動に共鳴している為、想念波動を鋭敏に感受出来ることが背景にある訳です。

従って、普段からどのような想念・印象を受け入れているかによって、身体細胞は大きく影響を受け、同時に同種の想念に共鳴し易くなっているのです。

しかし、私達人間の本来の存在意義を考えれば、私達は広く自然や宇宙を観察し、創造主の意図を探究することが求められますし、その為にこれら従来の想念パターンとは異なるより広い宇宙的なインスピレーションにも心を寛容に保って置く必要もあるのです。

293 For example: We know that different species of the animal kingdom are able to communicate with one another. They do not use a spoken language as we do, but they convey their meaning to each other very clearly. I well remember a little fox terrier and a deaf white cat that belonged to friends of mine. These animals were inseparable companions, and although the cat was as deaf as a post, they often gave positive proof of their ability to commune with each other.

293 こういう例があります。私達は動物界の中の異なる種が互いに意思疎通を行えることを知っています。彼らは私達のように話す言語は用いませんが、互いに大変明確に自分達の意図を伝えます。私の友人が飼っていた小さなフォックステリア（訳注：犬の種名）と耳の聞こえない白い猫のことをよく思い出します。これら動物達は、離れがたい間柄であり、その猫は耳がまったく聞こえないのですが、彼らはしばしば互いに心を通じ合う明確な証拠を示してくれました。

【解説】

誰もが分かることですが、人間以外の動物に言語の問題はありません。フランスで飼われた猫を日本に連れて来て日本の猫と遊ばせても、コミュニケーションの問題はないのです。彼ら動物は人間とは異なるコミュニケーション法を用いているのです。

本項の場合は、犬と猫との間の意思交流についてですが、これも何ら不自由はなく、彼らの間で意思疎通は容易に行われるという訳です。まして本項の場合には、猫の方は耳が聞こえないにも拘わらず不便はないのです。

この理由として彼ら動物達は音声による意思疎通の他に想念波動を読み取るような状況を有しているのではないかと考えています。いわゆる本能と呼ばれるものもそれに属する筈です。私達が学んでいるテレパシーを彼らは既に日常的に活用出来ているということでしょう。

294 It became quite a game with my friends to place a tasty titbit in the center of the table, well out of reach of the little dog. The family would then pretend complete indifference to the action of the animal, who would circle the table, sampling the air. When he was assured his nose was not deceiving him, he would trot off to find the cat. Upon locating her sleeping curled up in a chair, he would nudge her awake and silently obviously converse with her. She would rise, stretch, and stalk across the room. One nimble leap would carry her to the center of the table, where she would pick up the morsel in her mouth and drop it to the waiting dog. Her task performed, the cat would resume her interrupted nap, while the dog chewed contentedly on the stolen food. This was no coincidence, for it so delighted the owners that they had the animals repeat it frequently for interested friends. In this case the dog and cat, different species of the animal kingdom, were merely using the universal language which is natural to all forms of manifestation.

294 私の友人達にとって、その小型犬が届かないテーブルの中央に、一口大のうまい食べ物を置くことは、楽しい遊びになりました。家族達はその犬の行動には全くの無関心を装うこととし、犬はテーブルの周囲を回って空気を嗅ぎます。自分の鼻が偽っていないことを確認するや、犬は猫を見つけようと小走りになります。椅子の上で丸まって寝ている猫を見つけるや、犬は猫を軽く突いて起こし、無言のまま、明らかに猫と会話します。猫は起き上がり、伸びをしてゆっくり大またで部屋を横切ります。敏しょうな一飛びで猫はテーブルの中央に乗り、そこで食べ物の一片をくわえて、下で待つ犬にそれを落としてやります。猫は任務を果たした後、邪魔されたうたた寝を再開し、犬は奪った食べ物を満足気に噛みしめていました。これは偶然の一致などではなく、飼い主は大変喜び、興味を持った友人達の為、その動物達に度々繰返えしやらせました。この場合、動物界の異なる種である犬と猫は創造の全ての形有るものにとって自然である宇宙普遍の言語を用いているに過ぎなかったのです。

【解説】

猫が犬の願いに応じて犬の欲しがるものをテーブルから落として犬にやるのは、双方が互いに気持ちを理解し合っている証拠です。種が異なっても互いに意思を分かり合えるのは、音声でなく想念レベルでの意思疎通が出来るからに他なりません。動物達がかくも日常的に想念レベルのコミュニケーションを実践しているという訳です。

よく言われることに、カマキリはその年の積雪を見込んだ高さに卵を産み付けるとされていることがあります。秋の段階で来るべき冬の光景を予見するのもかも知れません。自分の子孫を守る為に親は安全な場所を探るといことでしょう。

そういう意味では、私達人間は更に高い能力を本来、有している筈です。昨今の大雨や来るとされている大地震等への備えとしても、各自の予見能力を高め、現象が起きる前の想念段階をキャッチし、各自の生活に活かすことが必要となる時代を迎えています。

295 The basic vibration of any form is a constant thing; otherwise, the cell would not always reproduce its kind. But so far as the cell's activity and capability of transmitting impressions is concerned, it is unlimited in a relative, or natural state. It is this relative activity with which we are dealing in the study of telepathy; and it may be referred to as the sympathetic vibration. This sympathetic vibration can be demonstrated by using two violins exactly attuned. When we pluck the string of one, the other violin will respond in the same key. A similar experiment may be performed with ordinary drinking glasses, but these are limited in their vibratory range.

295 如何なるものもその基本的振動は不変のものです。さもなければ細胞はいつもその種を再生産できなくなるだろうからです。しかし、細胞の活動に関する限り、また印象を伝達する能力に関する限り、それは相対的あるいは自然の状態としては制限がありません。私達がテレパシー学習で取扱っているのは、この相対的な活動なのです。また、それは共感的振動と表現されるかも知れません。この共感的振動は正確に調律された二つのバイオリンを使って実証することが出来ます。私達が弦の一つを弾くと、もう一つのバイオリンが同じ音で呼応します。同様な実験が普通のコップについて行われるかも知れません。しかしこれらはその振動範囲に限られているのです。

【解説】

相手の気持を感知できることは、本文では”同情”に由来すると説明されています。この能力は細胞一つ一つに備わったものと言えるでしょう。これを仏教では”慈悲”と表現しているものと思われます。私達は常に心を静かに保ち、この妙なる想念波、印象の振動を受け入れるように努める必要があります。

その為には、これまでのように自分自身へのこだわりや関心を先ずは捨て去ることが必要です。心配事を無くして、心を明晰に保つ中で、創造主（因）から発せられた印象波にも同調することが出来るものと思われます。

私達にとって究極のテレパシー能力の発揮は、創造主の意思に近づくことであり、その意思に基づいて行動することにあります。共鳴すべきは万物の贈り主という訳です。

296 The human form, in a natural state of impersonal relaxation, is receptive to all vibrations. Of course, it must be freed from habit action, the sense-man must be controlled, and the ego, or intense concentration upon its basic vibrations, must be relaxed. Telepathy comes as an impression through the feeling channel; and when we control our reasoning mind (or the ego), we can receive impressions from all phases of manifestation: for we are a unit with them.

296 個人としての感情を持たないリラクゼーション状態にある人体は、全ての振動に対して受容的です。もちろん、それは習慣的行動からは解放されなければなりませんし、感覚人は統制され、また、エゴあるいはその基本振動への強烈なる集中は緩められなければなりません。テレパシーはフィーリングの経路を通じて一つの印象としてやって来ます。そして私達が詮索する心（即ちエゴ）を統制すれば、私達はあらゆる創造の側面からの印象を受信することが出来ます。何故なら私達はそれらと一体になっているからです。

【解説】

本項では私達は自然界のあらゆるものと一体になれると説いています。また、そのことにより、あらゆるものと印象の共有が出来るという訳です。

その為には、私達は日頃からどのような心境を保つべきか、本文では自然体によるリラックス、習慣的行動から離れ、感覚による支配を取り払い、我執を無くすことの注意事項が述べられています。

これらの問題の全てが一定程度、解消された時、私達は印象を鋭敏に感じ取ることが出来るようになるのです。そもそも従来の悪習で一杯になった心では、宇宙からの妙なる印象を把握することなど出来る筈もないのです。微小なヒントにも対応出来る宇宙との一体感が必要という訳です。

297 Some individuals find they receive only telepathic communications of a dire nature; while others receive beautiful visions of a more universal expression. This difference in quality of receptivity can be explained by the fact that the relative vibrations of each person is different. (In speaking of relative vibrations here, I mean to denote the thought-habit of the individual.) And since it is not possible to receive a vibration to which we are not attuned, we will attract those sympathetic to our habitual thought pattern. Remember, when the violin is not properly tuned it will not respond to the sound frequency of the other instrument.

297 ある個人は自分達が不吉な性質のテレパシー的意思疎通しか受け取らないことに気付きますが、他方ではより宇宙的な表現の美しい幻影しか受信しません。この感受性の性質の違いは、各個人における相対的な振動が異なるという事実によって説明出来ます。（ここで言う相対的な振動とは、私としては各個人の想念習慣を印す意図で用いています。）そして私達が調律を受けていない振動を受信することは不可能である以上、私達は私達の習慣的想念パターンにそれら同情的なものを引き寄せるのです。バイオリンが適切に調律されていなければ、もう一つの楽器の音声周波数に呼応することはないことを思い出して下さい。

【解説】

私達は単に想念・印象に鋭敏になろうとしても、私達自身が同調できるのは私達自身のレベルのものでしかないのです。高次の想念を望んでいても通常、私達が感受出来るのは自分と同類のレベルという訳です。

従って、より高次の想念を知覚する為には、私達自身がそれにふさわしい存在になる必要があります。いわゆる卵が先かニワトリが先かの議論になりますが、それでもまずは心身を清め、行動力を高める努力が必要となるのです。その上で、一定程度まで進んだ時、私達はそれら高次の想念波動に共鳴出来る段階に至り、その後はそれらのインスピレーションの指導により、急速に進化を遂げるということでしょう。訓練（修行）が大事である理由はそこにあるのです。

298 The human instrument, or mind, may receive thought vibrations corresponding to its own thought-habit; but may be totally oblivious of vibrations of another nature. Thus, we perceive, it is necessary to develop a universal interest if we are to become unlimited telepathic recipients.

298 人体の道具である心は自らの想念習慣に対応した想念振動は感受するかも知れません。しかし、他の性質の振動に関しては全く気に止めないのかも知れません。このようにもし私達が無限のテレパシー受信者になろうとするなら、宇宙普遍の関心を発達させる必要があることが分かります。

【解説】

心は私達人間に備わっている道具であると説かれています。即ち、各人が持つ機材であり、この心によって想念・印象を私達が把握し、理解する訳です。

しかし、心が認識するのはもっぱら、これまで親しんで来た部類の想念パターンである為、より本質的な想念、宇宙的印象を認識することは少ないのです。馴れた周波数、見慣れたテレビ番組に目が行きやすいという訳です。

この状況から抜け出るには、私達自身が意志を持って、より宇宙的な関心を高めることが必要なのです。関心を向けることによって、それらの方向から来る印象を感受出来るようになると本項は説いています。私達各自の進化の上で、より高品位な宇宙的想念を体内に取り入れることに絶えず努めることが基本的条件となります。

299 We find that in the case of thought, like the spark of light, vibrations proceed outwardly from it in all directions. We can tune in on any radiation of that impression, and receive the full thought. Therefore, contrary to current belief it is not possible to transmit a thought directly to any one individual, to the exclusion of everyone else! For inasmuch as mind, the medium of thought transmission, permeates the whole of space and form, there is no place where a thought vibration is excluded.

299 私達は想念は光の閃光のようにそこからあらゆる方向に外に向って進行する振動であることに気付いています。私達はその印象のどんな放射線にも同調させ、その完全な想念を受信することが出来ます。従って最近、信じられていることとは逆に、他の者を除き、何か一人の個人に直接想念を伝達することは出来ないのです。何故なら心、即ち想念伝達の媒体は全宇宙と形あるものに浸透している為に、想念振動が排除される場所はないからです。

【解説】

想念はスパークのように四方八方に広がりながら宇宙空間の果てまで伝搬するという訳です。それは決して何か特別の対象者のみに対して注がれるものではないのです。

従って誰でも他人が発した想念を察知できる為、本来、想念に秘密という要素はないのです。同乗記の中で他の惑星人達が相手の気持ちを察知する能力に長けていたのにアダムスキー氏が驚いたように、他惑星社会では言語によらないコミュニケーションが普通の事柄だということでしょう。

また、同時にこれらは言語によるものでない為、この原理は動植物全般に適用されるものと考えべきでしょう。即ち、植物と会話したとされる育種家のルーサー・バーバンクの事例もあり、仏典にも仏陀の足跡に花が咲いたりした状況は植物達が喜びを表現したものと考えべきでしょう。

私達も、自らの心を平安に保ち、宇宙の一員としての自覚を持つことで、宇宙と一体感を育み、より高位な存在になることが出来ると考えています。

300 The secret of what is termed "direct transference" from one individual to another, is simply that with the thought projected the sender incorporates the image of the person he has chosen as recipient. A million people might receive the thought, but because it does not pertain to their personal affairs, they will let it pass through their minds unnoticed. But the chosen recipient will recognize his image in the thought, and direct his attention toward its perfect reception.

300 一人の個人からもう一人の個人への「感情の直接転移」と名付けられることの隠れた実体は、単純に放出される想念に送り手が受け手として選んだ人物のイメージを組み込んでいるのです。百万人の人々はその想念を受信するかも知れませんが、それらの人々の個人的な事柄にそれが関係しない為、それらの人達は自分達の心の中を何ら気付かれずにそれを通過させるのです。しかし、その選ばれた受信者はその想念の中に自分のイメージを認め、自らの関心をその完全な受信に向けて導くのです。

【解説】

基本的に誰でも受信できる想念であっても、その想念波に相手のイメージを組み入れることで、より確実に相手に伝わるということです。親しい者同士の以心伝心もそうした仕組みの中で相互が共に高い能力を有している為に起こるものと言えるでしょう。

よく神社等で祈る人々を見ますが、それも伝える相手を具体的にイメージした上で祈ることで、願いが相手に伝わるというものです。私達が願う創造主との出会いはこうした誠実な祈りの中で伝わるものと言えるのです。

常に創造主を思い、少しでも近づきたいと思う中で、やがては自らの行動が創造主の望む通りに行えるようになれるのです。

301 Now the question will arise: How is conversational privacy possible under these circumstances? I believe a good illustration of this occurred during a lecture I once gave. I had just finished explaining how the images and voices came silently to the mind, when a man in the audience rose and interrupted, saying he heard voices speaking distinctly. He was very insistent that these were audible, and his reception was not in the least silent. I then asked him, "If I were standing beside you, would I hear the same voices?"

301 そうなると質問が起るでしょう。このような環境の下では会話の秘密は可能となるのでしょうか？私としてはかつて私が行ったレクチャーの間に起ったことが良い例かと思っています。私が丁度、イメージや音声が無言のまま如何にして心にやって来るかの説明を終えた時、聴衆の中の一人の男が立ち上がって自分は明瞭に聞こえる声を聞いたと言って、私の話をさえぎりました。その男性はこれらは耳に聞こえるものであると主張し、自分の受信したものは少しも無言ではなかったと主張しました。私はそれで、「もし、私が貴方の脇に立っていたとすれば、私はその同じ声を聞けたのでしょうか？」と彼に尋ねました。

【解説】

感受した想念・印象が強い程、受信した者は音声や映像としてそれらを認識出来るということでしょう。いわゆる”啓示”や”お告げ”その他の現象は、そのことを示しています。また、多くの宗教家が主張する”天の声”もこうした現象のように思われます。

私達は日々互いに想念を発していますが、それらはまだ未熟で純粹でない為に、十分な力を有していないと考えるべきでしょう。送る側も受け取る側も未発達の状態なのです。

こうした中、私達は心を穏やかに保ち、やってくるインスピレーションに常に備える態勢が重要であり、心の中から雑念が排除されれば、受け入れた想念・印象は鮮やかに認識できるようになることでしょう。

302 "Of course not," he answered without hesitation; then grinned, sheepishly. "Now I understand what you mean," he said, and sat down. The voices were audible to him, but not to those around him. Yet, if a person were to tune in on the same thought frequency he, too, would receive the same thought.

302 「もちろん、そんなことはありません」と彼は躊躇なく答え、次に恥ずかしそうにニコリと笑いました。「今、私は貴方の言う意味が分かりました」と言って席に座りました。その声は彼には聞こえたのですが、彼の周囲に聞こえるものではなかったのです。それでも、もし何らかの人物がそれと同じ想念波動に合わせることが出来れば、その者も同じ想念を受信したことでしょう。

【解説】

私自身、未だ本項のような体験はありませんが、声が聞こえたとする事例も多く聞くところです。想念が放送の電波のようなものと仮定すれば、送り手の言葉を私達自身の受信機が再び送り手の音声を再現することはよく理解出来ます。各人の受信機の性能を高めれば、その想念波から忠実に送信者のメッセージを再現出来るということでしょう。

私達自身がこれら宇宙的想念の表現者、再現者になれば、この惑星全体が宇宙の楽園と化し、禁断の惑星という汚名を晴らすことにつながることでしょう。その為にも、より良質な波動に共鳴出来るよう、自らの心身を整える必要があるのです。

303 A very good example of this may be found in the way many of our scientific discoveries are made almost simultaneously in separate parts of the world. Working independently, and often unaware of the research the other is doing along the same line, each scientist actually tunes in on the same thought vibration of universal knowledge; (the same as any number of people can tune in on a radio program).

303 これについての大変良い例は、多くの私達の科学的発見がほとんど同時になされているという経緯に見ることが出来ます。個別に取り組んでおり、しばしば他の者が同じ経路に沿って進んでいることを知らないまま、各々の科学者は世界の離れた場所で、実際には宇宙普遍の知識の同じ想念振動に同調しているのです。（他の多くの人々が同時に一つのラジオ番組にチューナーを合わせる事が出来るのと同じです）

【解説】

本項で述べられている科学的発見の同時性については、いくつかの事例があります。中でもマルコーニの無線通信については、同時期に様々な人々が無線通信に関して類似した発見を行っていました。その中で、特許を取得したのがマルコーニであった訳です。

同じ啓示的な想念波を多くの研究者が感受した中で、その発展性に気付いた者がマルコーニであったということでしょう。おそらくは時代背景がその発見を活用できる状況になった時、適切なタイミングで啓示が与えられるということでしょう。私達各人が常に警戒して置く必要があるのは、こうした天の啓示を活用したいからに他なりません。

私達が天の啓示の実行者になる時、創造主はそれを見て、大いに喜ばれることは間違いありません。

304 In developing telepathy as a means of communication, remember impressions work from mind to mind; and distance is no barrier. As we first begin to use this universal language, we will find it easier to exchange impressions with a few chosen individuals until confidence is gained. With all parties working in sympathy a certain wave length can be established between them; making it possible for them to communicate much as radio "hams" talk back and forth around the world.

304 意思疎通の手段としてテレパシー能力を発達させるについては、印象は心から心に作用し、距離は障壁にはならないことを覚えておいて下さい。私達がこの宇宙普遍の言語を最初に用いるに当っては、確信が得られるまでは少数の選ばれた個人の間で印象を交換する方が容易であることがわかるでしょう。仲間意識を持って働く仲間の間では、ある波長が出来上がりますし、ラジオの「アマチュア無線家」が世界中と通話するように意思疎通を可能とするのです。

【解説】

野外で鳥の観察をしていると、群れは一団となって行動している様子が良くわかります。もちろん、外敵に対して一斉に行動することは安全性を高めることでもあり、餌の効率的な確保の上でも有利と言えるでしょう。

鳥が群れで行動する中で驚異的なのは、皆、一団となって自由自在に飛行することです。あたかも一つの生き物のように各々が全体の行動に従っているのです。このような場合、文字通り、何百何千という鳥が“心を一に”していると言えるでしょう。そしてその原理こそ、本項で説かれているよう、あるリーダーの下、想念が各構成員に瞬時に伝わり、一致した行動を実現しているのです。

また、同様の事象は魚にも当てはまり、蟻やミツバチの昆虫にも同様な現象を見ることが出来ます。即ち、自然界の生きものは皆、これらのテレパシー能力をごく日常の能力として発揮しているのです。

305 I believe the telephone makes a very understandable illustration for the exchange of impressions . . . which, of course, is operable telepathy. Remember, we have stressed the importance of an open, receptive mind; and mind, like the telephone, is a two-way instrument. If we keep our minds continually occupied with consciously sending out thoughts, any impressions coming to us will receive the "busy signal" and be turned away. The connection between mind and mind cannot be completed, because the frequencies of the incoming impression cannot get past the thought vibrations our own mind is broadcasting.

305 私は電話が印象の交換、それはもちろん実行力のあるテレパシーですが、それをとても分かりやすく説明する例になると思っています。私達がオープンで受容的な心の重要性を強調して来たこと、また心というものが電話のように双方向の装置であることを覚えておいて下さい。もし私達が想念を意識的に送ることで私達の心を常に占拠していたら、私達にやって来る想念があっても、それらは「話し中の信号」を受け取り、戻されることでしょう。入って来る印象が私達の心が送信している想念振動を抜けることが出来ないため、心と心の間の接続が完成されないのです。

【解説】

前項（304）の冒頭に説明があったように、テレパシーは私達の心を通じて行われます。それ故、心が既存の想念で一杯になっていたり、想念の発信過程にある間は、他の想念が入り込む余地がなく、受信ができないこととなります。

まさにテレパシー能力は如何に自らの心を穏やかに保ち、あらゆる微妙な波動にも気付けるよう、警戒を怠らないかに掛かっています。

即ち、心の中にいつまでも自己の想念を保持することも、テレパシーを妨げることとなります。心を空 (Empty) にすること、心を空しくすることについてはイエスの教えであります。これもテレパシーの本質を説いたものと思われま。

306 So let us make an effort to keep an open, receptive mind at least part of the time; and when our mental telephone bell rings just lift the receiver quietly, and impartially accept the impressions coming to us. This does not mean sitting idly in meditation, waiting with folded hands for some great thought to come to us out of the universal storehouse; but that we should continue normally about our daily lives.

306 ですから、少なくともある時間、私達はオープンで受容的な心を保つよう努力して見ましょう。そして私達の心の電話器のベルが鳴ったら、静かに受話器を取り上げ、そして偏らずに私達の方にやって来る印象類を受け入れることです。これは何もせず座って瞑想して何か偉大な想念が宇宙の倉庫から私達の所に来るのを、手を組んで待っていることを意味するものではありません。そうではなく、私達は私達の日常生活について普通の暮らしを続けるべきなのです。

【解説】

芸術家がインスピレーションを得る時と同様、私達も日々の暮らしの中で、宇宙から贈られる高次元な印象を受けることが出来ます。私達にとっては、座して印象を待つよりは、当たり前な日常生活をする中で、それら印象の訪れに気付くこと、更にはそれらに対し、静かに落ち着いて全容を受け入れるよう努めよと著者は説いているのです。

以前にも説かれていることですが、私達は単に瞑想するだけでは心が不活発になり、本来の生命を表現できていないのです。日常の義務を果たす行動の中で発想が湧き、次なる活動につながる中で徐々に維持する振動数が高まるものと思われまます。

心を穏やかにし毎日を誠実に生きる中で、宇宙からやって来る印象波が響きあえる心境を目指すべきだと言い換えてもよいのかも知れません。

307 I am assuming that by now you have seen the fallacy of tolerating thoughts of fear, worry, anger, anxiety, etc., and are viewing all things calmly; knowing that through this new balance in your life, you are truly about the Father's business. Therefore, your daily chores will no longer be a drudgery, and you can perform them with a composed, receptive mind. If you watch your mind carefully, you will find many of the real universal thoughts come while you are contentedly, physically occupied. This is what Jesus meant when He said, "Be ye therefore ready also; for the Son of man cometh at an hour when ye think not." Luke 12:40. He did not refer to His appearance in the physical body, but to a communion between the mind and universal knowledge.

307 私は今や貴方は恐れや心配、怒りや不安等の想念を許容することが誤った考えであることが分かり、あらゆるものを静かに眺め、貴方の生活のこの新しい調和を通じて真に父の御わざに従事していることを知っていることと確信しています。ですから、貴方の日常の雑事はもはやつまらぬ仕事ではなくなるでしょうし、貴方はそれらを落ち着いた受容的な心で行うことができます。もし、貴方が貴方の心を注意深く観察するなら、貴方は数多くの真に宇宙的な想念は貴方が満ち足り、肉体的にも手一杯の間にも貴方の所にやって来ることに気付くことでしょう。これがイエスが「あなた方も用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」(ルカ伝12章40節)と言った時、イエスが意味したものです。イエスは肉体としてのご自身の出現のことを述べたのではなく、心と宇宙普遍の知識との間の交わりについて述べていたのです。

【解説】

伝えられているところでは、アダムスキー氏は過去生においてイエスの高弟であったとされています。事実、氏がそれまでのビジネスを辞めて啓蒙活動に身を投じることになったのも、夢の中でイエスが現れ、促されたからとされています。

2000年前にもイエスが本講座と同様な事柄を教えていたと説かれていますが、それも当時の記憶を著者が忘れずに保持していたからと言うべきでしょう。

言葉こそは時間を超えて伝えられると言われており、仏典もそうですが、それでもそれらを受け止める私達に理解力が育たない限り、その教えの真意は容易には伝われないということでしょう。学ぶ者は単に言葉を覚えるのではなく、その真意を自ら学ぶ努力を惜しんではならないのです。

308 Being the recipient is much more difficult than the conscious sending of impressions, because we have never been taught the necessary restraint to develop this facet of our lives. Since time immemorial, our four senses have quarreled and bickered amongst themselves; yet we have not been conscious of the unbalance this was causing within our being. We have worried and fretted over conditions we could not change; and we have unquestioningly accepted the concepts of gloom and doom because these strong vibrations impinge themselves on our bodies. But I believe it has been made apparent that with a measure of self-control, and a practical approach to life as it really exists throughout all manifestation, we can cast off these detrimental thought-habits and expand our consciousness to a clearer understanding of our rightful place in the Cosmic Plan.

308 意識して印象類を送信することよりも、受信者であることははるかに難しいものです。何故なら、私達はこれまで私達の生き方におけるこの側面を発達させる為に必要な抑制を教えられて来なかったからです。太古の昔から私達の4つの感覚は互いに言い争い、口論して来ました。それでも私達は、このことが私達の中にもたらしているアンバランスについて未だ意識していません。私達は私達が変わることの出来ない状況について心配し、思い悩んで来ました。また私達は憂鬱や非運の概念を疑い無く受け入れて来ました。何故なら、これらの強い振動はそれらを私達の肉体に衝突させて来るからです。しかし、私達は自己統制の手法とあらゆる創造を通じてのありのままに存在する生命への実践的なアプローチによって、私達はこれら有害な想念習慣を投げ捨て、私達の意識を宇宙英知の計画における正当な地位のより明確なる理解へと拡げることが出来るのです。

【解説】

私達が当面する課題は、想念を発することではなく、想念を受け取る側の能力を高めることです。普段から私達はその内容の是非は別として、自らの願いや思いを発しているからです。

しかし、印象を受容するとなると、私達は大きな問題を抱えているのです。自らの欲求を勝手に放出してはいても、それは一方的に発するだけで、それに対する答えや導きの声を聴こうとはしていないのです。本項はその問題は、私達自身の心にあると説いています。まずは自らの心の中の争いや高慢さを取り除き、自我を抑制する中で素直な心境にならない限りは妙なる印象波を感知できないからです。

私達自身の想念習慣を捨て去って、新しい心境の下、宇宙の一員として宇宙的印象に従うことが求められているのです。

309 To accomplish this, however, we must learn to listen to the "small, still voice." This is a vital necessity in true telepathy. When a friend calls us on the telephone, for instance, we do not lift the receiver and rush into a monologue that lasts until the other party finally hangs up. We carry on an exchange of conversation. The same holds true when we are practicing telepathy. If we expect to advance, we must learn to listen-answer-then listen again, etc. And we will discover that the more we learn to listen, the more profound and impersonal will be the impressions coming through to us.

309 しかしながら、これを成し遂げるには、私達はその「小さく、ひそやかな声」に耳を傾けなければなりません。これは真のテレパシーにおいて決定的に必要なことです。例えばもし、友人から私達の所に電話が掛かって来たとしましょう。私達は受話器を取り上げて、相手が最後に受話器を置くまで、ぶっ続けの一人語りを慌ただしく行うことはありません。私達は会話の交換を続けます。それと同じことが私達がテレパシーを実践する際にも当てはまります。もし私達が進歩したいと思うなら、私達は聞く－答える－再び聞く等を行うことを学ばねばなりません。そして私達が如何に多く聞くことを学べば学べ程、私達にやって来る印象はより深遠で非個人的なものとなるでしょう。

【解説】

本項にはある意味、テレパシーについての訓練、練習方法の極意を示唆するものです。

私達はこれまで、自らの願いをひたすら祈り続けることが成就につながるとして来ました。しかし、そでは片側通行、送信するだけで終わってしまう通話でしかありません。実際には送信に対する相手からの助言を交互に進める中で、問題についての正しい理解が得られる訳で、このような一方的な想念の発信では効果が少ないのです。

私達が自らを訓練し、他惑星人のように精神感応力を高める為には、送信とともに受信についても注意深く進める必要があるのです。どのようなヒントがもたらされるかをいくつかの実例を体験できれば、私達自身が宇宙の始原から常に助けられていること、自らの進路に対してもいつでも支援を頂ける宇宙的存在に守られていることに気付くことができます。

310 The space people I have met use telepathy in their daily lives. If you were to visit their planets, you would find the people smiling and greeting each other in apparent silence. Yet, they are actually conversing by mental communication, much the same as we use the spoken word. Many Earthlings have questioned the statement that personal names are not necessary among them; but a moment's consideration of what the free use of telepathy would mean, makes the statement self-explanatory.

310 私がこれまでに会った宇宙人達は、日常生活にテレパシーを使っています。もし貴方が彼らの惑星を訪れたら、貴方は人々が一見して声を出さず、互いに微笑み、そして挨拶していることを見出すでしょう。しかし、彼らは実際には心の交流により、私達が話し言葉を用いるのとほとんど同様に、実際には会話しているのです。多くの地球人が宇宙人の間には名前が必要ないとする声明に疑問を投げかけて来ました。しかし、テレパシーの自由な使用が何を意味するのかを少し考えれば、その声明は自明のことになります。

【解説】

私達が日常的にテレパシーを活用できるようになれば、どのような情景になるのかを本項は説明しています。

これまでも、他惑星での生活の様子を示すと思われる伝承が神話や物語として伝えられて来ました。その中で以前、どなたからか”浦島太郎”の物語について、面白いお話を伺ったことがあります。

そもそも浦島太郎が乗った”亀”なるものは”宇宙船”で、別世界でお目にかかったお姫様の名前が乙姫様というのは”音を秘める”という意味があり、音声によらないコミュニケーション、テレパシーのことを指すとか、波動の持つ潜在的な力を指すとのことでした。

やがて竜宮城から故郷に帰った浦島太郎は玉手箱を開けてしまうと、一挙に年齢が老けてしまうのですが、これも地球での暮らしが老化を早めることを示唆しているということでしょう。テレパシー能力を活用することが、若さの原動力にもなることを示唆しているものと思われます。

311 When mind talks to mind, it is the projection of mental pictures; so, for example, when space people want to refer to a mutual friend, they form a mental image of that person in their mind. I am sure we all can see the advantage of this; for how many times have we tried in vain to recall someone's name, and although it was right on the "tip of our tongue," the name eluded us? The person's face was pictured clearly in our mind and in a case like this, had we been talking to an individual able to receive telepathy, he would have recognized the person immediately. Every thought to which we give audible expression must first be clarified in the mind. So if, like the space people, we had been trained from infancy in the use of telepathy, we could receive thought frequencies without a word being spoken.

311 心が心に語りかける時、それは心に映るイメージを投影しているのです。ですから例えば、宇宙人が互いの友人の一人に言及しようとする時、彼らは自分達の心の中にその人物の心に映るイメージを形成します。私達は皆、この場合の好都合が分かると私は確信しています。何故なら私達は何度となく「口の先まで出掛かっている」けれど、誰かの名前を思い出そうとしてもだめだったことがあるからです。その人物の顔は私達の心の中にはっきりと描かれており、このような場合には私達がテレパシーを受信出来る人と話しをしている場合には、その人はその人物をただちに認識出来たと思うからです。私達が声に出して表現するあらゆる想念は、先ず最初に心の中で明確にされなければなりません。ですから、宇宙人達のように私達が幼い頃からテレパシーの使い方を訓練されていれば、私達は言葉を話すことなく、想念周波数を受信することが出来ることでしょう。

【解説】

章の最終部に当たって、著者はそもそもテレパシーでやり取りされる想念とはどのようなものかについて具体例を揚げています。その伝達は想念が私達の中で音声になる前、イメージの段階から相互に伝え合えると説いているのです。

即ち、言い換えれば、私達の心の中で生まれるものは全て感知できる相手の中に同期して沸き起こり、両者の間の距離は関係しないということでしょう。

そうなれば、互いに言葉に変換することなく、膨大な量の情報を瞬時に伝えることが出来るように思います。たとえ母国語であっても、アイデアを言葉にするには大きな努力を必要とするからです。その点、その原初のアイデアの段階で伝えることが出来れば、効率的であること「、この上ないと言えるのです。これらの方法は幼年期から訓練する必要があることも確かであり、素直で柔軟な心の段階で真理を身に付けることは何を置いても優先すべきです。

312 Some of our scientists now tell us that telepathy is the language of the future. They say that when man has a better understanding of his mind, it will be the common means of communication. They recognize the importance of breaking the language barriers, for once the peoples of the world are able to exchange ideas freely, lasting peace will finally come to Earth. This concept can be expanded beyond the confines of our own planet. For if we were conversant with telepathy, it would not be necessary for the space visitors to learn our many languages. We could exchange ideas with ease with dwellers from other worlds by using telepathy, since mental impressions know no boundaries.

312 科学者の何人かはテレパシーは未来の言語であると述べています。彼らは人間が自らの心をより深く理解する時、意思疎通の共通した手段になるだろうと言っています。一旦、世界の人々がアイデアを自由に交換できるようになれば、地球に永続する平和が遂にもたらされるが故に、彼らは言語の壁を壊すことの大切さを理解しているのです。この概念は私達の惑星に限定されることなく更に拡がります。何故なら、もし私達がテレパシーに精通していれば、宇宙からの来訪者達にとって多くの言語を学ぶ必要がなくなるからです。私達はテレパシーを用いて他の世界からの住人達と気軽にアイデアを交換できることでしょう。心の印象類には境界がないからです。

【解説】

私達の将来の世代はテレパシー能力がごく普通の機能として日常用いられるようにならなければなりません。アダムスキー氏が交流した進化した他惑星人は皆、この能力を備え、言語によらない印象波動のやり取りを相互に行っていたからです。

即ち、私達の身体にはその潜在能力が備わっており、私達は他に道具を用いずとも自身の力で互いに想念イメージを伝えることが出来るのです。

このことは、他人に隠し事など出来る筈もなく、全ては皆のお見通しということになり、より開かれた自由闊達な世の中になることにつながります。その上で私達各自はより高次なる進化を目指して、宇宙の深淵なる源泉を求めて、探求の道を歩むことになるでしょう。

もちろん、日常生活においても様々なアイデアや発見のインスピレーションに気付く訳で、より活発で建設的な毎日を送ることもあるのです。このようにテレパシー能力は私達自身の生活を豊かにしてくれる一大要素なのです。

CHAPTER III

Clairvoyance, Clairaudience, Premonitions, Etc.

313 Through ignorance, man has endowed clairvoyance, clairaudience, the ability to foresee future events, etc , with mystical, unknowable powers. We are inclined to view with awe that person whose hunches are invariably right, and attribute this ability to a mysterious extrasensory origin. But the use of any or all of these, whether consciously or unconsciously, is merely perception, or alertness, working in the individual. This is true not only in regard to personal affairs, but this perception can also encompass universal conditions.

第3章

透視、透聴、予知、その他

313 無知故に人は透視、透聴、未来の出来事を予測する能力その他を神秘的な人知を越えた能力のせいにして来ました。私達はその予感がいつも変わることなく正しい人々を畏敬を持って眺めがちであり、この能力を何か神秘的な超感覚的な源泉に起因するものとして来ました。しかし、これらのいかなるものも用いることは、意識的であるか非意識的であるかに関わらず、それは単に各自に働く知覚或いは警戒の作用でしかないのです。この知覚作用は個人的な物事に関するばかりでなく、宇宙的な状況を包含することも可能なのです。

【解説】

そもそもこれまで透視その他、いわゆる超能力と称されていた事柄は、私達が学んでいるテレパシーに他なりません。その能力を発揮させているのは、本人の秀でた想念波の知覚力、即ちテレパシー能力の発言の一つであるということです。

私達はこの講座を通じて、各自がそれぞれ自分が何を身に付けようとしているのかを明確にする必要があります。そもそもテレパシーを学び、訓練する目的です。

有史以来、多くの事例で優れた先人達は、これらの能力を人々の救済に生かして来ましたし、導く方向性の拠り所として来ました。そういう意味からは、皆様各自が何を学んでいるかを改めて確認し、その目標の妥当性とともなこれまでの取り組みについても見直す必要もあるでしょう。私達はとかく習慣に流され易く、初期の目的を見失いがちです。少しでも好ましい体験が得られたなら、努めてその時の心境を思い出し、次なるステップに繋がられるよう、その方向に継続努力することが重要です。

314 To understand how this can be accomplished, we must remember that feeling is the channel of perception. For regardless of how refined the organs of sight may become, they cannot possibly receive the image of anything that is not yet a concrete manifestation; yet, because the blueprint, or plan for all manifestation is drawn in advance, such information is obtainable. In the case of true clairvoyance, the personal ego must be controlled by an impartial interest in Cosmic Cause. The only limitation placed upon knowledge, is that put there by the personal, or particularized consciousness.

314 このことがどのようにして達成されるかを理解するには、私達はフィーリングが知覚の経路であることを思い出さなければなりません。何故なら、如何に純化しようとも、視覚は未だ確かな創造物となっていないもののイメージを受け取ることは出来ないからです。しかし、あらゆる創造の青写真或いは計画は先立って描かれていますので、これらの情報は入手可能なのです。真実の透視の場合、エゴは宇宙の因についての隔てのない非個人的な関心によってコントロールされねばなりません。知識に対して置かれた唯一の制限は、個人的な或いは個別特定化された意識によるものでしかありません。

【解説】 いわゆる予知というものは、物事が現実化する前に先行して構築されるイメージを知覚することであると説かれています。つまり、イメージの段階を知覚する訳で、それを可能とするには、私達自身が何も制限なく、素直にそのイメージを知覚する鋭敏さを持っているかにかかっています。それを実行するには、私達の心自体を目に見える状態のものばかりでなく、未だ確定していないいわば、創造過程、イメージの段階の世界まで深く知覚できるようにならねばならないこととなります。その為には、先ずは私達の周囲の世界にそのような徴候、ヒントを知り、その方向について関心を持ち、因果関係を学ぶことが必要だと考えます。既成概念を取り除いて、宇宙の摂理として物事の生じる仕組みについて学ぶ姿勢、観察する心境が重要ではないでしょうか。

315 Let us imagine the universe as an infinite expanse of space-force in a passive state of activity, denoting a condition of calmness. Every positive, or aggressive motion within that calm sea of space-force will produce an impulse, or vibration, throughout the whole span of the universe. And as every impulse, whether of light or thought vibration, will continue traveling through space until it has dissipated its energy either through friction, or has transmuted it by contact, when we introduce the time element we can understand that at some time practically every ray will contact every other ray in the universe.

315 宇宙空間を静けさを象徴する受動的な活動状況の中にある宇宙的力の無限の拡がりとして想像して見ましょう。その静かな宇宙的力の海の中では、あらゆる肯定的あるいは積極的な運動は一つの衝撃あるいは振動を宇宙空間全体にわたって作り出します。そして各々のインパルスはそれが想念振動の光であろうと、摩擦でそのエネルギーを消散するか、接触によって改質されない限り、宇宙空間を進み続けることでしょうし、私達が時間的要素を取り入れるなら、私達はいつの日にか、あらゆる放射線は宇宙空間で他の放射線と接触するだろうことは分かります。

【解説】 宇宙が静寂であることは誰もが知ることですが、その静寂さの中に全てのものが包まれ育まれていると言っても良いでしょう。本項は私達が発する想いや行動が生成するあらゆる種類の波動が、この静寂なる宇宙空間に拡がって伝搬して行くことを説いています。波動は途中で減衰するものの、宇宙の果てまで進行し続けることも理解できます。丁度、鏡のように静かな水面を一か所で生じた波がどこまでも伝わって行くのと同様です。多くの人々の発する想念も同じ宇宙空間を行き交う訳ですから、同種のもものが重なり合えば、その実現力は相乗されるということでしょう。人々の想念の状態こそ、大きな力を発揮するのです。振り返って過去の文明の崩壊についても、当時の人々の想念がもたらしたものと考えるべきかと思えます。私達一人一人が日々発する想念が宇宙に影響を与えるとんでも良いかも知れません。

316 This geometric pattern of magnetic and electric rays is the cause of all manifestation. So, inasmuch as the human is capable of perceiving these vibrations consciously, there is only the necessity of overcoming the illusion of time-space interference in order to foresee future events-or look back on past happenings.

316 この磁氣的及び電氣的な放射線の幾何学パターンは全ての創造作用をもたらす因なのです。ですから、人間がこれらの振動を意識して知覚することが出来る限りは、未来の出来事を予知したり、過去の事件を回顧する上で必要なのは、時空の幻影の妨害を克服することが必要なだけです。

【解説】 私達は未だ想念波なるものがどのようなものか計測することは出来ていません。しかし、本項では、それは電磁的な放射線、即ち、私達が知る電磁波の一種であることを示唆しています。そして電磁波は光でもあり、その伝搬速度は1秒間に地球を7周半する程の速度を持っているとすれば、同じ惑星に暮らす者同士の間では、距離に関係なく、同期的に感知されることはよく理解できます。また、私達各自が発する想念波は何らかの幾何学的パターンを持っていることも重要です。その形が物事を生み出す原動力となるからです。未だ著者の示唆する高遠な内容を理解できていませんが、少なくとも冬の空から舞い降りる雪の小片は皆美しい幾何学的模様を形成していることが最も良く本項の要点を表しているように思いえてなりません。

317 We know that by ascending to a higher elevation we are able to overcome the illusion of space limitation to some degree. Even a small rise will broaden our horizons, and the view we have from the high mountain top seems unlimited compared to that which we had from the valley. When man turned his eyes toward the stars, he realized he must build instruments to aid him to view them more closely. So in his efforts to see ever farther into the universe, he invented and developed the telescope. But our scientists are aware that any instrument built by man is limited. It must be with a feeling of frustration that astronomers view the heavens; knowing that beyond the detection of their finest telescopes lies galaxy after galaxy, stretching into eternity. But once man consciously accepts his oneness with Cosmic Cause, the Cardinal Sense within him (the feeling element), is free to roam the universe at will.

317 私達はより高く昇ることにより、ある程度、空間の限界の幻影を克服できることを知っています。わずかな上昇でも私達の視野を広げますし、高い山の頂上から見る景色は私達が谷間から見る景色と比べて無限の拡がりのように思えます。人が星々に目をやる時、人は自分はより近くにそれらを見るのを助けるための装置を建設すべきだと自覚しました。そこで宇宙空間の更に遠くを見ようとする努力の中、人は望遠鏡を発明し、開発しました。しかし、科学者達はどんなものにせよ、人間によって作られた装置には限界があることに気付いています。天文学者達はある種不満気な気分天空を眺めていることでしょう。彼らの最も精密な望遠鏡の探知範囲の先には銀河に次ぐ銀河が無限に続いて存在することを知っているからです。しかし、ひとたび人が自分と宇宙の因が一体であることを意識して受け入れるや、人の中にある基本感覚（フィーリングの要素）は自由に宇宙空間を歩き回ることが出来ます。

【解説】 私達の日常は周囲の限られた地上の環境の中で過ごされています。「そしてその問題や苦悩の種もその中に帰属しています。しかし、視点を少しでも上げればより広い視野の下、それらの事柄が実に小さいものであることに気付きます。結局、私達の抱える問題は私達自身がより高い視野を持つことによるのみ、解決が得られるということでしょう。そういう意味でも宇宙こそが私達が目指すべきものであり、物事の判断の基軸は宇宙に置くべきなのです。初めて望遠鏡で覗いた時、土星の環や木星の衛星群が見えた時の感動は今でも覚えている訳ですが、全てを包み込む宇宙空間の中で暮らして行けることに感謝する中で、私達は自ずと宇宙空間への親しみを増し、意識を自由に通わせることが出来るようになりますと著者は説いているのです。

318 We ordinarily think of space as the distance between given objects, and of time as the intermission between acts. But space and time cannot rightly be separated - for they are twin infinities. We are quite correct in saying that time is the distance between events. When we consciously perceive forthcoming events, we are traveling in time, just as surely as we are traveling through space when we perceive hitherto unseen stars and nebulae through the telescope. In either case, we have expanded our vision by eliminating the time-space bug-a-boo.

318 私達は普通、空間を与えられた対象物の間の距離であると考えていますし、時間については行為の間の中休みと考えています。しかし、宇宙空間と時間ははっきりと分離は出来ません。何故なら、それらは対の無限物であるからです。私達が時間を出来事の中の距離であると言うことは全く正しいのです。私達がやがて来る出来事を意識的に知覚する時、私達は丁度、宇宙空間を旅して、今まで知られていなかった星々や星雲を望遠鏡を通して知覚するのと同じです。いずれの場合も私達は時空のお化けを取り払うことで、自分達の視界を拡げたのです。

【解説】よく言われることですが、私達が眺める夜空の星は実際には、その星々が遠く離れている為、何百あるいは何千年も前に放たれた光であることです。まさに目で見える光景が距離と時間が対になっている世界に宇宙はあるということでしょう。本項では更に進んで、本来、空間と時間は一つのもの、分離できない要素であると説いています。特にテレパシー分野、印象を取り扱う分野では、私達はこの時空空間を自由に行き来できることとなります。言い換えれば、因を理解することにより、物事の起こる前にそれらの出現を感知することや過去の出来事を知覚出来るような自由な探求も不可能ではないということでしょう。各自の将来を拓く上でも、近未来を知覚して置くことは、大いに役立つものと思われ

319 You may consider the illustration meaningless, because in the case of piercing space with the telescope to discern material objects we are looking upon something that has already happened, or upon manifestations that have already taken form. But how can we foresee that which has not yet taken place? It may even seem that we are in contradiction to the law of Cause and Effect; for we are seeing the effect before the cause has produced it. But is this true? 319 貴方はこの説明は意味をなさないとお考えになるかも知れません。何故なら、望遠鏡で物体を見つけようと宇宙を貫いて見ようとする場合、私達は既に起ったものや既に形を持った創造物について見ていることになるからです。しかし、未だ起っていないものをどのようにして予知出来るのでしょうか。それは私達が原因と結果の法則とは矛盾しているように見えるかも知れません。何故なら、私達は因が作り出す前にその結果を見ているからです。しかし、これは本当でしょうか？

【解説】果たして未来は予見できないのか、と本項は私達に真剣に考えることを求めています。毎日の生活を通じて私達はルーチンに追われ物事の本質を考えることを怠っています。確かに望遠鏡で遠く離れた星々を見る時は、時空間における過去の光景を見ていることになりませんが、果たして私達は未来をどのように覗き見ることが可能なのでしょうか。現実には未来を予知した事例も少なからずありますが、それがどのようにして可能となったのかは、十分に解明されていません。沈没する船に乗ることを何故か止めたり、結果的に何十年か後に見る光景を夢の中で見たりすることも予知に属するものです。これらはいわば事前に因の領域で起こりつつある事柄を覗いていることであり、私達が因の世界と親しくする中で、自ずと明かされることではないでしょうか。因即ち、印象の世界と交流している中で、私達はこれから起こる事柄を知るという訳です。

320 The greatest minds in the world today will not deny that all phenomena is the result of action. Here, we are dealing with that particular invisible vibration called thought, which, like light, travels out from its point of projection in millions of straight lines in all directions. There are billions upon billions of thought actions taking place in the universe. Like light, their vibratory radiation is a constant thing; traveling at a definite rate which never varies. These vibratory rays traveling through space at a certain speed will, according to the law of accuracy, contact or cross each other at a given point: producing predictable results. Anyone who has learned to turn his awareness to the state of universal interest, can consciously perceive these vibrations contacting; and from the reactions produced, can foretell the outcome before these actions have become visible to the recognized channels of sense.

320 今日、世の中の最も偉大な心を持つ者達は、全ての現象は行動の結果であることを否定しないでしょう。ここでは私達は想念と呼ばれる特別な、目に見えない振動を取扱っており、その振動は光のように放射のポイントから全方向に何百万もの直線として旅出しています。宇宙空間では何十億の何十億倍もの想念活動が起っています。光のようにそれらの振動する放射線は一定に動きます。決して変わることはない一定速度で進行しているのです。宇宙を通して旅するこれら振動する放射線は正確さの法則に従って、互いに与えられた地点で接触し、互いに交差することでしょう。そして予想可能な結果をもたらすのです。誰でも自らの気付きを宇宙的な関心の状態に転換することを学んだ者は、意識的にこれら振動が互いに接触しているのを知覚出来、その際作り出される反応から、これらの活動が認識された感覚の経路に見えるようになる前に、その事態を予見することが出来るのです。

【解説】全ての事象には何らかの原因があるという訳です。台風にせよ地震にせよ、自然現象とは称せられているものの、実際には様々な力が働くことで、それらが現実化するということでしょう。そのような力の作用を観ることが出来る者を偉大なる者、優れた者という訳です。その作用の中でとりわけ、注視しなければならないのは、私達各人が日常的に発する想念なのです。本文に記されているように、想念は発した私達から四方に放射され、物事の実現力を作用させながら、宇宙空間を進行します。また他の者も同様に想念を発している訳ですので、宇宙空間はそれらの想念で満ちていることとなります。これら想念が重なると作用も倍加するでしょうし、その最も強い作用はその想念の発信者において最大になる筈です。即ち、発信者の身体やその周囲の環境への作用が最も強いと考えられます。例えば、他人を憎んだり、怒ったりを双方の当事者で行ったとすれば、双方とも酷い結果を得ることになるのです。宇宙は無音、暗黒の空間と言われておりますが、想念に関する限り、大きな増幅作用を持ち、想念の持つ創造の力が発揮され易い空間ではないかと想像しています。私達が直面している地球規模の気象変化も実際にはその由来は宇宙空間から来ているのかも知れません。

ご挨拶 [2019-12-27]

本日は2019年最後の更新となります。
この一年、ご覧いただき、有難うございました。
来年は1月6日に再開の予定です。

変動の時代の只中ではありますが、皆揃って良き年をお迎え致しましょう。
来年も宜しく願いいたします。

2019年12月27日
竹島 正

321 An example of this occurred involving an acquaintance of mine who was the head of a large concern in the east. Wanting to make his home in the western part of the country, this man had left his business in the hands of a capable and apparently trustworthy manager; who also happened to be a large stockholder in the company. Except for the annual reports, and occasional correspondence between the two, the head of the company was not worried with the operational arrangements of the business, for he had utmost confidence in his manager's ability and honesty. I knew that my friend's interest lay in the east, but at that time, I was not familiar with the managerial details.

321 このことの一例が、東部（訳注：米国東部）における大きな仕事の社長であった私の知人の一人について起りました。西部に自分の家を持ちたいと思っていたこの人物は自分のビジネスを有能で見掛け上も信頼出来そうな支配人の手に委ねたのです。その支配人はまた、たまたまその会社の大株主にもなったのです。年間報告や二人の間の時々の連絡を除けば、その会社の社長は事業の運営手はずについて心配はありませんでした。彼は自分の支配人の能力と誠実さには絶大な確信を持っていたからです。私は私の友人の関心が東部にあることは知っていましたし、その頃、私はその経営上の詳細についてよく知りませんでした。

【解説】 他人を見抜く力や物事の真偽に関する察知能力というものも、本来はテレパシーに属するものと言えます。外見や言葉、見かけの行動の背後にある想念パターンにこそ真実な姿があるからです。本項は著者アダムスキー氏が実際に体験した事例かと思われませんが、氏は物事の判断や行動の指針を常に勘 (hunch) によっていたとされています。即ち、目に見えるもの、耳に聞こえるものでなく、自分が受けた”感じ”に従っていたのです。これこそがテレパシーに基づく生活のありようであり、印象に従うことの大切さを示すものです。この場合、応用実践に当たっては最初の内は自らの心の声の方が大きい為、失敗も多いのですが、やがてはその妙なる声に気付くようになるものです。特に声が聞こえるようなものでなく、自然とその印象に従えるようになるところが大切です。素直に躊躇なく従う姿勢が大事なポイントであると思われまます。

322 However, I received the impression that the manager was planning to gain control of the business and defraud the owner of his holdings. I conveyed this information to my friend, and although doubting its veracity, he started a quiet investigation into the company's affairs. The report he received carried overwhelming confirmation of these conditions, just as I had revealed them. My friend returned east immediately and took the necessary steps to protect his interests and regain control of the company.

322 しかしながら、私はその支配人が事業をコントロールし、オーナーの保有財産を騙し取ろうと計画しているという印象を受けました。私はこの情報をその私の友人に伝え、またその真実性を疑いながらも彼は会社の内状について隠密裏の調査を開始しました。彼が受け取った報告書にはこれらの状況を確信させる膨大な証拠を伝えており、私が明らかにした通りでした。私の友人はただちに東部に戻り、自分の財産と会社の支配権を取り戻す為、必要な措置をとったのでした。

【解説】 同乗記にも生前、アダムスキー氏が多くの人々から様々な個人的相談を受けていたことが記されています。その背景には、氏が長らくラジオ番組や集会を通じて人の生き方に関する教師を務めてきたことがあります。本項もその一つであると推察しています。さて、想念は一発放射された後は発した本人には何も痕跡を残さないのでしょうか。私は寺の梵鐘と同じく、鐘を突いて音を四方に発した後、鐘自体は引き続き長時間、同じ振動数を保っているように、私達の身体はその想念波動を保持しているものと思っております。即ち、発した想念は決して本人から離れることはない筈です。それ故に遠く離れていても想念を手掛かりに発した本人に容易に辿り着くことが出来、特定できることとなります。本事例の場合、アダムスキー氏は相談を受ける中で対象の人物の本当の姿をわずかな時間で探し出し、隠されていた全容を明らかにしたという訳です。テレパシー能力、即ち想念や印象に対する知覚力が如何に万能な能力であるかを本項は示しているのです。

323 This experience was a case of unintentional telepathy. Certainly, the manager had no intention of broadcasting his dishonest thoughts; and undoubtedly believed them carefully guarded from the world. Because of his perfect assurance in the integrity of the man he had left in charge, the head of the firm, the person most closely concerned in the affair, was not receptive to the thoughts of mismanagement. But I, who was receptive to all thought vibrations in an impersonal way, received the thought. As it came to my mind, I recognized it was pertaining to my friend, and thereby saved him much future difficulty.

323 この体験は非意図的テレパシーの一例でした。確かにその支配人は自分の不誠実な意図を広めようとするような意志は全く無かった訳であり、疑いなくそれらを世間から注意深く隠していたものと思われます。その友人が会社の首脳として後に残したその人物の持つ有能さに完全な確信を持っていたため、そのことに最も高い関心を持っていたその人物は、その経営の失敗についての想念を受容出来なかったのです。しかし、非個人的になって全ての想念波動に受容的であった私は、その想念を受信しました。それが私の心に来た時、私はそれが私の友人に関係していることに気づき、そうして彼を将来のより大きな困難から救ったのです。

【解説】 想念波は隠すことは出来ません。更に言えば、発した本人が忘れていても鋭敏な人にはそれを感知する能力があるのです。これについては同乗記等の中で他惑星人がアダムスキー氏本人が忘れていたような想いを容易に指摘していたことから分かります。おそらく、前項解説で述べたように発した本人が気づかなくてもしばらくの間、想念波は発した本人に残留していると考えられます。いずれにしても、高度に進化を遂げた者は、こうした精妙な想念波について鋭敏であり、一面識のない者であっても、案件について真相を指摘することが可能だということでしょう。相談者の話を聞く中で、或は相談の手紙を読む中で「相談者が訴える状況をその場に居るような現実感で理解するような一体感を持つのかも知れません。想念・印象の世界は言いつくろいや隠し事が無く、全てがオープンという訳です。

324 These same thought frequencies were intercepted by innumerable people, but because they did not recognize any of the participants they discarded them as being meaningless. This is further proof of the fact that it is not the pretentious front we show to the world that is of lasting importance, but it is the inner man who is the true expressor. To those around us we may appear a paragon of honesty, but if we harbor dishonest thoughts in our minds they can be intercepted at any time, thus unmasking us before the world. Truth has a way of revealing itself; for whether we like it or not, our thoughts belong to the universe.

324 これら同じ想念波動は無数の人々によって捕えられましたが、それらの人々にとって自分の関係者のものとは思わなかった為に、意味がないものとして捨て去っていたのです。このことは永く重要性を持つのは私達が世間に示す見せ掛けの前面ではなく、真の表現者である人間の内側であるという更なる証拠です。私達の周囲にいる人々にとって私達は誠実の模範のように見えるかも知れませんが、もし私達が不誠実な想念を心の中に抱くなら、それらは何時でも捉えられ、私達の正体を世間に暴露することになるのです。真実は自ら現れる道を持っています。何故なら私達が好む好まないにかかわらず、私達の想念は宇宙のものだからです。

【解説】 ”隠されているもので知られずに済むものはない”というイエスの言葉がありました。どんなに隠した事柄でも、表には必ず現れるという訳ですが、その原理を本項は示しています。即ち如何なる想念も万人に「知覚され得る訳で、たまたま感受した者が自分に関与しないと無意識に判断して気に留めないことも多いものです。その延長から言えば、私達は文字通り、無数の想念の中に生きていることとなります。感受した想念の中に自分に関連した要素に気付けば、その内容をより深く知ろうとする訳です。これはラジオに似ており、私達が無数の周波数帯の中から自分の趣味に合った番組を選局するようなものです。こうして選局次第で私達はあらゆる種類の放送電波、言い換えれば想念を知覚出来ることになるのです。

325 Science has discarded the idea that universal ethers are a fixed standard of space, being absolutely motionless: and they now admit that nothing in the universe is entirely at rest. The units composing ether are in constant motion, as are the units of matter; and all are stirred by the same element of animation that gives impetus to thought. Just as each action within the human form leaves its impression upon the body cells, so every action that takes place in the universe leaves an impression, upon the cells of ether - not as a form-picture, but as a frequency.

325 科学は宇宙空間のエーテルが全く動きのない固定化した宇宙の基本単位であるとする概念を捨て去って来ました。そして彼らは今や、宇宙には何一つとして完全に静止したものはないことを認めています。エーテルを構成している各単位は物質の各単位がそうであるように、常に活動の状態にあります。そして全ては想念に衝動を与えるのと同じ要素によって揺り動かされています。丁度、人体の内側の個々の活動がその印象を肉体細胞に残すように、宇宙空間で起るあらゆる活動はエーテルの細胞単位に印象を残すのです。それは形のイメージではなく、振動としてです。

【解説】 宇宙空間が静寂ではあるが、常に活動状態にあることは、遠い星雲を見ても分かります。銀河系は皆、渦巻く形ですし、私達の住む惑星自体も自転・公転という大きな運動のさなかにあるからです。本項はわずかですが、想念が伝搬する媒体も同様に活動的だと示唆しています。宇宙にあまねく遍在している要素こそが私達に想念波を伝達し、常に私達に活動を促しているという訳です。テレパシー講座を学ぶ私達にとって、想念自体の探求は必要ですが、それ以上にこれら想念を伝達する宇宙空間の媒体にこそ、もっと探求の目を注ぐ必要があるのです。

326 We have called this accumulated data memory. And the Universal Memory is compiled from all individualized memories. So it is quite plausible to assume that a true sensitive, or one who is alerted to all phases of life, can recall the events of ten thousand years past, just as readily as he is able to recall the events of his childhood. By carefully observing the trend of sequences, he can predict what will take place fifty years from today from a careful evaluation of past events. The law of relativity demands certain results, or actions of balance, which are determined by the original motion.

326 私達はこの蓄積されたデータを記憶と呼んでいます。そして宇宙的記憶は全ての個別の記憶から編纂されています。ですから、真に敏感な人、即ち全ての生命の側面に対し鋭敏な者は、あたかもいつでも自分の子供時代の出来事を思い出すことが出来るように、過去1万年の出来事を思い出すことが出来るとするのは、極めてもっともなことなのです。過去の一連の出来事の傾向を注意深く観察することによって、その者は今日から50年後に何が起るかを予想出来るのです。相関性の法則はそのままの運動によって決定づけられたある種の結果、即ちバランスの行動を要求するからです。

【解説】 本項は記憶とは何かを私達に説いています。個々人の記憶が何処に保存されているか明確な説明はここでは為されていませんが、少なくとも当時発した想念波動が身体細胞に残留すると同時に、伝搬した宇宙空間の各部に波動として残留しているということでしょう。私達はそれらを感じることによって過去に遡った変遷を知り、真の歴史を学ぶことが出来るという訳です。即ち、宇宙空間に記録された過去の想念波を知ることが出来れば、当然、その影響下にある未来も予見することが出来るようになるという訳です。このように様々な物質や空間に記憶された想念波動を知ることが出来れば、それら想念の影響を受ける未来の事象も予測することが出来るということでしょう。テレパシー能力の基本はこれら想念・印象への感度を高めることにあるのです。

327 Let us digress for a moment and discuss hypnotism briefly. Much publicity has been given lately to the practice of hypnotism for the purpose of recalling past lives. Many believe that by using this means, they can send the subconscious back to read the Book of Memory. But what does hypnotism really do?327 少しの間、脇道に入って催眠術について簡単に議論しましょう。最近では過去生を思い起こす目的による催眠術の実施について多くの宣伝がなされています。多くの人々がこの手法を用いることで、潜在意識を記憶の書を読みを送り出すことが出来ると信じています。しかし、催眠術は実際には何を行っているのでしょうか。

【解説】催眠術による退行操作により、被術者が過去生に遡ることは、本書執筆の頃から既に米国で行われていたということでしょう。しかし、アダムスキー氏は催眠術の危険性について様々なところで私達に警告しています。日本でもエドガー・ケーシーによる催眠状況下での遠隔透視は良く知られているところですが、これらについての危険性をアダムスキー氏は強く警告しているのです。その理由については先ず、その出発点が本人の意識の発達によるものではないことが挙げられます。そもそも私達が目指しているのは眠っている時の夢に重きを置くことではなく、目覚めている中で自らが想念波動を含む様々な波動を感知することであり、自らの進化を伴った能力開発であるからです。一方、被術者のままであれば、そのような自己開発とは程遠い状態となるのです。自分自身で覚醒すること、“悟る”ことが最も重要なのです。

328 In order for anyone to be hypnotized, he must voluntarily give up his will to the will of the hypnotist. This can be extremely dangerous if repeated too often, for the will of the individual is weakened. The sense-mind is stilled by hypnotism, and thereby opened to suggestions from the operator. The sensory reactions are so subdued that you can suggest to a hypnotized person that ammonia smells like essence of roses, actually holding a bottle of it close enough for him to take deep breaths. Under hypnosis the person will insist the aroma is pleasing, yet you will find that it is impossible not to recoil from the pungency of ammonia fumes while in a natural state.

328 誰でも催眠術にかかる為には、その者は自らの意思を催眠術者の意思に委ねなければなりません。これは頻繁に繰返された場合、極めて危険になり得ます。何故なら、その個人の意思は弱められるからです。感覚心が催眠術によって鎮められ、それによって操作者からの提案に心を開きます。感覚の反応があまりに抑制されている為、催眠術にかけられている人物に実際にビンを手を持って鼻に深呼吸させる程近づけて、アンモニアの臭いをバラの精油だと暗示することも出来ます。催眠術下では、その人はその香りは心地よいと主張するでしょうが、自然の状態ではアンモニア蒸気の刺激からは尻込みしないでは居られないのです。

【解説】 催眠術が何故危険かについて、本文の冒頭の一文で断言しています。即ち、催眠術は被験者が自らの意志で自分の意志を施術者に委ねるところに問題がある訳です。また、その目的も問題です。即ち、自らの過去生その他、自らが関心を持った神秘的事項について知りたい為に、全てを捨てる心境が危険という訳です。興味本位の知識欲の為に自己を捨てることは本末転倒と言えるでしょう。偽の施術者が多く居る中で、仮にその施術能力がある者であっても、その施術者に自分の意志を委ねるべきではありません。自らの進化は自らの精進により達成すべきで、いたずらに知識のみを追いかけては成就出来ないものです。何より自らの自由意志を担保する中、自ら進んで”父”の下に戻る必要があるのです。即ち委ねるべきは”創造主”であるのです。

329 The so-called memories revealed while under hypnosis are usually due to one of two conditions. One, it is possible for the hypnotist unknowingly to suggest personal experience he has had to your mind; or you may receive strong thoughts pertaining to something he has seen or read that has impressed itself deeply upon his consciousness. Two, you may merely be recalling an incident that happened to you, which your sense-mind had forgotten; or it may be some information you read or heard in early childhood. We would be astounded at the information stored in our memories in this fashion.

329 催眠術の下で判明したいわゆる記憶とは、普通は二つの内、いずれかの条件によるものです。一つは催眠術者が知らずに術者の個人的な体験を貴方の心に暗示している可能性がありますし、あるいは貴方が催眠術者が術者の意識に深く印象づけられた何かを見たり、読んだことに関連した強い想念を受信した場合があります。二番目は、貴方が貴方の感覚心が忘れてしまっていた貴方に起った出来事を単に思い出しているだけなのかも知れませんが、或いは貴方が幼児期に見聞きした何かの情報であるかも知れません。私達はこのようにして私達の記憶が貯えられていることに対して、仰天することでしょう。

【解説】 いずれにしても催眠術には問題があるという訳ですが、その具体的な仕組みについて本項は解説しています。その一つは施術者の想念が被験者に渡ってしまうことがあるということです。被験者本人は自分の記憶だと思っても実際には施術者の想念であることもあるのです。また、一方では被験者の記憶がよみがえる場合があるとしています。即ち、ある意味ではそれは忘れていた被験者本人の記憶が催眠状態の中で思い出すことが出来たこととなります。長年忘れていた幼年期の記憶がよみがえった訳です。後者については被験者本人のものであり、成果と言えないことはないのですが、それはあくまで今生涯において体験したことが全て記憶され得るということを示すもので、他人の手助けを受けて得るべきものではない筈です。本来は自らの心を鎮める中で適切な時期に自然とよみがえれば良いとすべきものかと思われまふ。従って先ずは自分で自分を探求すべきであり、他人の手に委ねるべき事柄ではないというのが本来の答えかと思われまふ。

330 Only outstanding events in our lives are retained in our active memory files. Anyone can remember important happenings dating back to childhood; but, unless something momentous occurred on that day, can you remember the details of what happened to you one year ago today? Or, for that matter, can you recall every detail of a month ago today? Yet, these details were itemized and catalogued in your memory, and can be recalled.

330 私達の生活の中の目立った出来事だけが私達の活動状態の記憶のファイルに保持されています。誰でも子供時代に遡って重要な出来事を思い出すことは出来ます。しかし、何か重大な事がその日に起らない限り、一年前の今日、貴方に起った事柄の詳細を覚えていられるでしょうか。あるいはその件について一ヶ月前の今日の細かい個々の事柄を覚えていられるでしょうか。しかしそれでも、これらの詳細は貴方の記憶の中に箇条書きされ、分類されており、思い起こすことが可能なのです。

【解説】 不思議なことに誰でも幼年期に体験した事柄は高齢になっても鮮明に覚えているものです。それほどに幼年期は全てが新鮮で真新しい体験であると同時に、無垢の心は体験した様々な事柄を容易に記憶できる高い能力があると言えるでしょう。高齢になると物事を記憶できにくくなり、感度も鈍くなる現象は、地球人が次第に感性的に退化してしまう現実を示しています。本来、全ての人間には体験した物事を記憶出来る仕組みが備わっており、それらは本当は終始機能していると本項は説いています。各想念波動が身体細胞に帯びる訳で、それらは消えることがないという訳です。即ち、適切な心境下においてそれらに共鳴出来ればその具体的な波動を再現し、想念をより具体的にイメージできるということでしょう。今日、私達は多くの家庭でビデオレコーダーを有しており、一度放送された番組を後日、再生させることが出来ますが、そのような機能を私達の身体細胞が有していると理解すべきなのでしょう。私達の身体の機能は消化吸収、運動その他の物理化学的な機能の他に、想念レベルにおいても重要な機能を有しているのです。

331 Lying dormant through the years may be a memory involving some incident (either major or minor), that happened to your parents or to a neighbor, and which was discussed in your presence when you were very young. When a suggestion relative to any of these long-forgotten memories is given under hypnosis, they became readily accessible to us; for everything we have ever read, or heard, or seen, is stored in the mind.

331 貴方がとても小さい頃、貴方の居る前で貴方の両親あるいは隣人に起った（大きいにして小さいにして）何かの出来事に関連したある記憶が何年も休眠していたのです。催眠術下でこれら長い間忘れられていたものに関して暗示が与えられると、それらが私達に容易に接することが出来るようになります。何故なら、私達が読み、聞き、見たもの全ては心の中に貯えられるからです。

【解説】 誰でも幼年期の日常の記憶の断片については、よく覚えているものです。ここでは催眠術の中で被験者はこのような幼年期の記憶を呼び起こすことになるかと説明しています。即ち、このような記憶は誰でも保持しており、催眠状態の中、心が鎮まった際によみがえったものである訳です。重要な点は何か神秘的な世界に入った訳でなく、元来全ての経験、想念は各自の心に記憶されているところです。従って、私達各人は本来、いつでも過去の経験を学び直すことが出来、未来に生かすべきなのです。二度も三度も同様な過ちを犯すべきではないのです。私達は各自の経験から多くを学ぶべきで、その事象となった原因と対応する結果についての相関性に気付くことが重要です。自らの体験を通じて、これら宇宙における法則性を学ぶことが出来れば、その体験は価値あるものになる訳です。そうでなければこれら体験に費やした努力が無駄にしたことにもなるのです。

332 Hypnotism is an exact science. In the hands of a competent person it is unsurpassed for the relief of pain. It has proved invaluable in aiding psychologists and psychiatrists to untangle confused impressions that have been causing mental disturbances to the patient. But it is not a parlor game! When used as such, it can create drastic upheavals in our minds.

332 催眠術はまさしく一つの科学です。力量のある人物の手によれば、痛みの解放にとって催眠術はこの上ない手法です。患者に精神的な動揺をもたらしている混乱した印象類を解きほぐす為、心理学者や精神科医を手助けする上でそれ（訳注：催眠術）は非常に貴重な手法であることが明らかにされて来ました。しかし、それは室内ゲームではありません。そのように用いられた場合には、私達の心の中に激烈な地殻変化をもたらす可能性があります。

【解説】 一方で催眠術的な方法は、精神面の治療においておおきな力を発揮すると本項は述べています。患者の心を鎮め、気持ちを整理する上で近年、カウンセリング等が行われていますが、その際にも催眠術の要素は大きな力を発揮するということでしょう。よく経験することですが、痛みを軽減する上でご自身の心境は大きく影響するものです。つまり、ご自身で自分の痛みを減らすことは出来るものです。私達自身で自分の身体の反応を制御出来ると言った方が良いのかも知れません。特に薬を用いずともこうした効果はご自身の心を制御することで相当量、緩和される筈です。私達自身の心のありようが自身を左右していることについて、私達は早期に発見し、自覚する必要があります。まさに自身の思った通りに自身の人生を生きていることに気付き、早期に望ましいご自身のイメージを模索し、進化させる必要があるのです。

333 Why should one delve into such a dangerous medium when he can recall his past without the aid of a hypnotist? When man gets to the eternal care of his real Self, this can be done in a true sense. Then will be revealed to him the many states through which he has passed in development; and the purpose for which the form of man was created. For the first time, he will then realize that he was a witness as one with the Father to all creation; for the story of creation and the part man played in it has been indelibly impressed throughout space. Therefore, since man is the product of space, and he is a Divine Thought in action, he ever strives toward his natural heritage; which is an understanding of the Primal Story.

333 人は催眠術師の助けを必要とせず自らの過去を思い出すことが出来るにも拘わらず、何故このような危険な媒体を探求しようとするのでしょうか。人間は彼自身の真の自我による永遠の庇護に到達すれば、これは正気の中で為されることになるのです。そうなれば、自分が成長の過程で通過した多くの状態を自らに現すことでしょう。また、その人が創造された目的についてもです。その結果、彼ははじめて自分が全ての創造の父と共に居た目撃証人であったことを自覚することでしょう。何故なら、創造の物語と人間が行動したふるまいは宇宙全体に消えることなく印象付けられているからです。従って、人間が宇宙の産物である以上、また人間が活動する聖なる想念である以上、人は自分の生まれながらの相続財産、即ち原始の物語の理解に向かって努力を続けるのです。

【解説】 印象 (impression) という言葉には何かの体験が刻印されるように記憶されるような状況のイメージがあります。本項は私達の全ての想念が宇宙空間に刻印されるとしています。この記憶は私達が読み解く能力が身についた後は容易に引き出すことが出来るという訳です。私達人間は本来、全ての創造過程に立ち会い、見届ける役割があり、その創造を学ぶ特権を有しているということでしょう。多くの他惑星人が宇宙を旅行するのはこうした創造の御業 (みわざ) を学ぶ為に他なりません。これらの探求は自分自身で行うべきであり、催眠術などのように他人の力に依存しては断片的な知見は知り得ても、本質的な自身の進化には結びつきません。宇宙・創造主への探求はご自身で始める必要があります。

334 All knowledge is available to man from the vast sea of thought in which he lives. Out of the billions of thought-rays that radiate from the center of projection of one action, only ten may be intercepted by human intellects; while the rest of the thought-rays will travel on through the universe. Yet, at any time they may be picked up by an individual who is receptive to them. Though all the writings of man be destroyed, a truth once recognized can never be lost; for it has made its impression upon the mind-substance of space, and remains a universal memory. In the ancient teachings these thought patterns, or individualized records of action, have been referred to as the Akashic records; while the Bible speaks of them as the Book of Remembrance.

334 人には自らが住む想念の広大な海から、すべての知識が入手可能なのです。一つの行動の放射の中心から発する何十億もの想念線の中で、人間の知性はわずか10個の想念しか感受しないかも知れません。しかし、その一方では残りの想念線は宇宙空間を進行し続けます。しかも、いつかそれらは感受できる個人によって取り上げられるかも知れません。人間の書いたもの全ては破壊されたとしても、一度理解された真実は決して失われることはありません。何故ならそれは宇宙の心の物質の上に印象づけられ、宇宙的な記憶として残るからです。太古の教えの中では、これらの想念パターンあるいは個々の行動の記録はアカシックレコードと言及して来ており、聖書はそれらを記憶の書と呼んでいます。

【解説】重要な点は、本項に記されているように、宇宙の中心から何十億もの想念波が絶えず放射されている中で、私達はその内のほんのわずかをキャッチしているに過ぎないことです。それほど無数の教えやヒントの中、私達は気付かずに毎日を過ごしているのです。こうした中、私達は毎日何らかの想念波動をキャッチして、それらを基に行動を起こし、体験を積んで行くのですが、その過程で発した私達自身の想念や体験事は宇宙空間に記憶され続けるという点も見逃すことが出来ないポイントです。即ち各自が発した想念もまた空間に記憶されるということです。こうして宇宙には過去の記憶が蓄積される訳で、進化した他惑星人はこれらの宇宙空間の記憶から歴史を学び、過去の過ちを分析することを可能としているのです。テレパシー能力の開発は宇宙空間から様々な側面から支援を受ける経路を拓けることに繋がっているのです。

335 Inasmuch as all knowledge in the universe is thought vibration or frequency which permeates space, thus creating certain pressures, every form must of necessity exist within these pressures. So if the form is not too firmly encased in a hard shell of personal interest or indifference, it will become a figurative mixing bowl where all thought vibrations can unite and produce concrete knowledge of a universal nature.

335 宇宙における全ての知識が宇宙を透過し、ある種の圧力を創り出す振動ないしは周波数である限りは、あらゆる形有るものはその必要性から、これらの圧力の中でも存在しているに違いありません。ですから、その形有るものは、個人的な関心や無関心の硬い殻の中に堅固に包まれていない限り、それは比喩的に言えば、全ての想念振動が結合し、一つの宇宙的性質を持つ揺るぎない知識を作り出せる混合用のボウルになることでしょう。

【解説】本項は私達が保つべき心境について記しています。いわゆる柔軟性が大切だと多くの人が説いていますが、それもやって来る想念に敏感である状態を良く表現していると言えるでしょう。その反対に頑なな心には外から訪れる想念に共鳴することなく、自らの殻の中で一生を過ごすことになるのです。私達は先ず、自らの心を穏やかにかつ柔軟に保つ中で、宇宙からやって来る想念波を感受出来る心の状態（心境）を保持し、スタンバイする必要があります。これはアダムスキー氏の言う”警戒の状態”というものです。そうする中で、私達はより良質・高次の想念を身体に取り込み、それらを混合する中で、新しい想念・新しい形を誕生させることが出来るのです。宇宙から莫大な数の想念・印象波が送られて来るのは、創造主が私達各人によってそれらが融合一体化し、新しいイメージを自ら生み出すことを期待しているからに他なりません。

336 True clairvoyance is merely the ability to direct the attention of the real Self without producing a state of concentration, and to relax the sense-mind of the body to the point where it is open and sensitive to all impressions. The recognition of any particular personal feeling will automatically interfere with the incoming vibration. If, at the moment of contact with a specific impression, the recipient allows his interest to dwell upon it impersonally, all knowledge pertaining to that impression will reveal itself; because the facts are related and cannot be separated.

336 真の透視とは集中状態を作り出すことなく真の自我の注目を導き肉体の感覚心を開放的であらゆる印象に鋭敏な所までリラックスさせる能力に過ぎません。如何なる個人的なフィーリングもそれが感知された場合には、自動的に流入する振動を妨げてしまいます。もし、ある特定の印象と接触した瞬間、受信者が自らの関心を非個人的にそこに宿ることを許すなら、その印象に関連する全ての知識が自ずと明らかになるでしょう。何故なら、事実は相互に関連しており、引き離されないからです。

【解説】 昔の剣の達人の言葉に”無念無想”という表現があったかと思います。もちろん、先入観無しという意味合いもあるのですが、より深くは本項で説かれているように、感受しかけた想念・印象波を真に理解する為には、私達自身の心が自分の考えを空しくして、それらを受け入れるだけの受容力を持つことが必要だということでしょう。まして宇宙から来る想念・印象波は私達が経験したことのない新しい分野、新しい境地を帯びている可能性があります。それらを認識する為にはそれら想念波動が持っているイメージを先ずは素直に受け入れ、内容を吟味することが必要となります。私達が想念・印象波から恩恵を受ける為には、私達自身がそれら波動が帯びているイメージを把握する程に、先ずはそれらの波動に同調して見る必要があるということでしょう。剣の達人の心境はやって来る相手の想念をいち早く把握し、相手の動きに対応する心境を説いているのかと思われます。

337 Here, again, we are dealing with the law of affinity, which brings all things to fruition. It is this law that impels each different form to draw to itself those chemical elements which will promote its growth and individuality; it is this law that stabilizes activity in all planes of manifestation making a definite analysis possible in any field where we have understanding. And it is only because the laws of the Cosmos are immutable that telepathy, clairvoyance, clairaudience, and kindred phases of development can be understood. For all so-called prophetic knowledge is nothing more than telepathic deduction. However, due to the fact that thought vibrations travel at such high speed that complete reception is instantaneous, it is rarely recognized as telepathy by the recipient, or by the researchers in the field of thought-transference.

337 ここでも再び私達は親和の法則を取扱っており、その法則はあらゆるものに達成をもたらすものです。個々の形あるものにそれぞれの生長と個性を促進させる化学元素を摂取させようと駆り立てるのはこの法則です。あらゆる創造のレベルにおいて活動を安定化させ、私達が理解するあらゆる分野において明確な分析を可能とするのは、この法則です。テレパシーや透視、透聴そして同類の発達面が理解されるのも、この宇宙の法則が不変であるからに他なりません。何故なら、いわゆる予言的な知識はテレパシーを用いた推論でしかないからです。しかしながら、想念振動はそれほどに高速度に移動する為、完全な受信も瞬間的であるという事実から、受信者や想念移動の分野の研究者達によって、それがテレパシーであると認識されることはめったにありません。

【解説】 実はテレパシーは宇宙全体の親和の法則のほんの一部の作用に過ぎないと本項は説明しています。想念・印象はその発信源が誰であれ、その放射の経路に対し、その想念波の意図を実現するよう、関連する分子・原子を呼び集め、そのイメージを実現させようとする一大法則であることが説明されているのです。想念波自体は、空間の距離に関わりなく瞬時に進むため、私達にとっては何処に居ても同時に伝わると感じられる筈です。それ程、高速での移動ではあるのですが、その全容を私達は瞬時に理解できるとしています。つまり、私達が漠然とあるアイデアがヒラメイたとしているのは、未だその全容が捉えられていないからですが、やがて訓練を積み、多くの事柄を瞬時に理解できるようになることでしょう。このような宇宙の基本的な法則の理解がテレパシーには必要であり、決して技能を磨くだけの学習であってははいけません。

338 For instance, there may have been many cases in which the destruction of a city by flood or earthquake has been predicted by those alerted to the chemical changes that were taking place in nature. Often, these prophecies proved correct. Yet, information obtained by this means is not generally accepted as authentic, and is usually ignored by those in a position to avert the disaster or alleviate the suffering.

338 例えば、自然界で起っている化学変化に注意を喚起された人達によって、洪水や地震によって都市が破壊されることが予知されて来た多くの事例があります。しばしば、これらの予言が正しかったことが証明されて来ました。それでもこの手法で得られた情報は、一般的に信頼出来るものとは受け取られず、大抵は災害を回避し、被害を緩和する立場にある人達によって無視されて来ました。

【解説】 本項が記された年代から既に60年近くも経過していると思いますが、時代は本文にあるように、地球全体の気候変動や地殻異常の時代に突入しつつあるようです。こうした中であっては、様々な予知事例や予言等が流布されていますが、実際には多くの予言は当たらず、只、混乱だけが増しているように思えてなりません。そもそも私達が行う予知とは、何らかの想念波がそのようなイメージを持っていた為なのですが、多くは他人の発した想念に同調したか、あるいは本来の宇宙的想念波を正しく理解できない為に解釈を誤っている事例であり、結局、他の者に不要な恐怖心を与えてしまっているように思います。当然、防災を担当する部局ではこのような根拠の無い予知に頼って事業を進めることは出来ず、結果的に本来の予知が生かされない場合が多いこととなります。しかし、私達は大きな時流の流れの中に生きており、全体的にはその流れを変えることは出来ません。唯一出来ることは各自が各々の人生を充実したものとする事です。たとえ災害に身を置く状況となっても、その中で学ぶことが出来れば、その災害も意義あるものと言えるのではないのでしょうか。如何なる場合も生命を充実、全うすることが重要です。

339 We must remember that thought, or conscious knowledge, knows no limitation for the well-balanced, unfettered individual; and we must also remember that every action, and every mechanical stress of pressure, is the source of a radiated vibratory wave. An example familiar to us all is the knowledge required by a civil engineer to ascertain the stability of any mass of substance. He must be thoroughly conversant with mathematics, stress analysis, weight loads, pressures, etc. He must know the tensile strength of the materials used, the weights of those materials, and be able to estimate the pressure to be exerted upon the finished structure. He is, of course, dealing with established facts that have been acquired through years of experience and research; and given all the data, he can deduce the stability of any specific construction.

339 良くバランスがとれ、自由に開放された個人においては、想念や意識上の知識には際限がないことを覚えておく必要があります。また、私達はあらゆる行動とあらゆる機械的圧力の力点が振動波の源泉であることも覚えておく必要があります。私達に馴染みのある例として、物体の安定性を確かめる為に土木技術者が必要とする知識があります。彼は数学や応力解析、荷重負荷や圧力等々に完全に精通している必要がありますし、完成した構造物に加わる圧力を推定することが出来ます。彼はもちろん、またこれまでの何年もの経験や研究を通じて得られた確定した事実を取扱うことも出来ますし、すべてのデータが与えられれば、どのような特定の建築物でも、その安定性を推定することが出来ます。

【解説】ここでは圧力について、それが放射された振動波に起因すると述べています。一見、振動と圧力とは関係が無いように思ってしまいますが、分子運動論で学んだように、圧力は分子の振動により伝達されることを考えれば、本質を突いた言葉であることが分かります。全ての力が、このように微小分子の振動に起因することは波動一般を取り扱うテレパシー領域の範疇になる訳で、後述の340の地震のコメントにつながる話題となっています。また、同時に建築家が構造物を設計する際に、これら全ての力について考慮する訳ですが、これらの知識を活用すれば自在に建物を建築することが可能だとも説いているのですが、これも後述の地震に関するこれまでの私達の知識に貧弱さとの関連づけて説いているのです。このように全ての力や物体を振動の現れと観るところに、宇宙的な洞察があり、世界は活動しているという言葉の源泉になっているのです。

340 Yet no civil engineer, nor geologist, nor seismologist can predict earthquakes. Why? For the simple reason they are not in possession of all the facts relating to the earth. Yet these facts exist as absolute frequency data! For if they did not exist, there would be no cause to produce the eventual effect.

340 それでも土木技術者も地質学者、地震学者も地震を予測することは出来ません。何故でしょうか。それは彼らが地球に関しての全ての事実を保有していないという簡単な理由からです。しかしこれらの事実は絶対的振動データとして存在しています。何故なら、もし彼らが存在していないとすれば、そのいつかは起る結果（訳注：地震）を作り出す原因が無くなることになるからです。

【解説】地震予知が難しいとされる一方で、今日では大規模地震は周期的に起こることは良く知られています。過去の発生の記録から一定程度周期的に大規模な地震が発生しているからです。しかし、地震学者は正確に次回やって来る地震を予測することは難しいのです。それは現状地球の探査レベルでは地下で生じる様々な動きや力の均衡を知るすべを持っていないからだとしています。それに引き換え、進化した他惑星人はこうした地下の活動についても熟知しているようで、火山の噴火や地震の前にUFO出現事例も多いものです。彼らにとって地震の発生を予測することは可能な技術範囲と言えることでしょう。私達も地下に生じる力や諸変化に気付き、いち早く異変を察知することが大切で、それにもテレパシーを活用しなければなりません。

341 For instance, geologists have discovered that a great earth fault lies along the Pacific coast of America, extending from Alaska to Mexico, and beyond. Varying pressures are being exerted here, and the earth around the fault has a certain strength of cohesion; but accurate readings of this are not ascertainable by the use of present day instruments. So although geologists know that this portion of the earth's surface is destined to move from time to time, producing earthquakes, because of their limited knowledge of actual conditions they cannot predict a definite date for these disturbances, nor can they estimate the severity to be expected.

341 例えば、地質学者はアメリカ大平洋岸に沿ってアラスカからメキシコ、更に遠くまで一つの巨大な断層があることを発見しています。変動する圧力がここで働き、また断層の周囲の地殻はある一定程度の結合力を持っています。しかし、この正確な値の読み値は今日の計器を用いては確かめることは出来ません。そのため地質学者はこの部分の地表は地震を発生させ、時折動く運命にあることは知っていても、現実状態に関する彼らの限られた知識の為に、彼らはこれらの変動の正確な日付を予想したり、予期すべき激しさについて予測することが出来ません。

【解説】 阪神淡路にしても熊本阿蘇についても地震の震源には断層の地割れが出現しました。これはその破碎断面に沿って地殻の力が加わった結果、断層に沿ってズレが生じたものとされています。またこのように断層があるような場所は過去にも何度となく大規模地震が発生して来た場所であることをも意味しています。本項はこれより更に規模の大きい断層帯が太平洋岸に沿って存在していること、またその断層帯が一定時間の時間間隔で地球規模の大地震を引き起こす場所であることを述べています。今日でもこれらいわゆるプレートの移動による地殻変動は良く知られているところですが、近年ようやくその観測手法が出来つつあるのが地球の現状です。これらの地殻変動は私達の地上の文明に大きな影響を与える訳ですが、まだ私達地球の科学技術ではその全容をつかむことは出来ないでいます。しかし、これら地下深くの状況について、私達が想念・印象波に鋭敏となり、その変化を知り得るようになれば、もっと被害を減らすことが出来る筈です。この点では私達地球人は他の動物達より能力が劣っていると言うほかはありません。

342 However, complete knowledge of this, or any other circumstance, is possible through the feeling channel. When a person is sensitive enough to interpret the vibrations emanating from the earth, this information can be received as easily as a thought from another human being. They will then be able to estimate the pressures being exerted, and deduce the natural results to follow. The tiny atoms manifesting in the strata of the earth will share this knowledge with those capable of intercepting it.

342 しかしながら、このこと、あるいはその他の環境に関する完璧な知識はフィーリングの経路を通じて入手可能なのです。人が地球から発せられている振動を解釈できるほどに鋭敏であれば、この情報は他の人間からの想念と同様に容易に受信可能です。そうなれば加わっている圧力を予測し、来るべき自然の結末を推論することも出来るでしょう。地球の地層の中で創造を担っている微小な原子達はそれを傍受できる者にこの知識を分ち与えてくれることでしょう。

【解説】 ”洞察力”という表現は既存の感覚器官の範疇を超えて地中深く、あるいは天空はるか遠くで生じている状況を想念・印象レベルの波動で感知出来るテレパシー能力を指しているのかも知れません。地中深く発生する地震のケースでは、地震を引き起こす地殻に加わる強烈な圧力を受けている鉱物分子達と印象レベルでつながり、状況を理解することであるからです。このように私達はテレパシー能力を向上させることによって、自然災害にも適切に対応をとることが可能となるのです。現在、本講座が執筆された頃と比べると状況は切迫しているのかも知れません。太平洋を取り巻く地震帯や火山群の活動が急増していると思われます。各位におかれては、ますますテレパシー感覚を鋭敏にして、災害を乗り越えていただきたいと願っています。

343 By observing the trend of human behavior during a change in atmospheric conditions, we have positive proof that chemical action does affect the cell consciousness. When the barometer drops a few degrees, many human mentalities drop with it. Any change in atmospheric pressures, such as those found at different elevations above sea level, influence the cell action of the body. This is noticeable to anyone, for the change of a few thousand feet will affect us all to some degree. As we climb higher, our heart action and respiration are speeded up, and at high altitudes physical exertion is an effort until the body cells make the necessary adjustment to the lighter atmospheric pressure with its accompanying lack of oxygen. Some people are so sensitive to this, that their bodies are aware of a change of only a few hundred feet.

343 大気の状態変化の間の人間の行動傾向を観察した結果、私達は化学作用は細胞の意識に影響を与えるという明確な証拠を得ています。気圧計が数度降下した時にも、多くの人間の思考状態はそれと一緒に低下します。大気圧のどんな変化も例えば海水面から異なる高度にある場合に肉体細胞の活動に影響を与えます。これは誰でも気付くことで数千フィートの変化は私達全てに影響を与えることでしょう。私達がより高く登るにつれて、私達の心臓の鼓動と呼吸は早まりますし、高い標高での肉体の消耗作用は肉体細胞が酸素欠乏を伴う薄い大気に馴れるまでの努力なのです。ある人々はこれに対し大変鋭敏で、彼らの肉体はわずか数百フィートの変化にも気付きます。

【解説】 私達を取り巻く外界の変化は、私達の各身体細胞によって感知され、体内でその変化に対応する為に様々な活動が起こります。その影響を私達の心が受ける為、気分に変化が生じるのです。これらいわば、身体細胞がある種のセンサーとして見えざる外界の変化を把握しているのです。そういう意味からは、私達は目に見えない地殻深くで生じている変化に気付くことも出来るという訳です。しかし、その為には私達自身、自分の身体細胞の異変に気付く必要があり、漫然と生きるべきではありません。また、同時に、これら身体細胞の警告に過敏となってもいけないのかも知れません。本来の自分の生き方がこれら外界の変化によって左右されるべきではないからです。適度な鋭敏さと対処力が必要と思う次第です。

344 We find that fog and cloudy weather produce a sense of mental depression in many people. Even the direction at which the sun's rays strike the earth will influence us all to some degree. During the winter our natural ability is slowed down; but with the first promise of spring a feeling of exhilaration surges through our body cells, and we take a renewed interest in life. Seismological disturbances produce a general feeling of restlessness; electrical storms affect the nervous system. Examples of this chemical action upon the cell consciousness are almost endless.

344 私達は霧や曇りの天気は多くの人達に憂鬱な感じを作り出すことに気付いています。太陽の光線が地球に当たる方向でさえも、私達全てに何らかの影響を与えることでしょう。冬の間、私達の自然の活動は低下しますが、春のきざしとともに快活さが私達の肉体細胞の中に沸き上がり、私達は生命に対する復活した関心を持つのです。地震の揺れは一般的な不安のフィーリングを作り出しますし、電氣的嵐は神経系に影響を与えます。細胞意識に及ぼすこの化学作用の例はほとんど際限が無いくらいです。

【解説】 私達は自然界の諸変化からも影響を受けながら、日々生活しているということです。天候や日照、気温や湿度等、多くの要素が私達の身体のコンドィションや心境に影響を及ぼしていると説いています。まさに、私達は自然の懐の中に生きている訳で、私達が生きる上で自然との関わりは無くしてはならないものです。晴耕雨読という表現の中には、これら自然の諸変化の中で適合して生きてきた人々の営みが写し出されています。一方、近づく災害について、本項は示唆とも見える一文を掲載しています。昨今、地震発生の前には地殻のズレや圧力によって電磁波が発生するという話（圧電効果）がありますが、その電磁波が私達の身体神経に影響を及ぼすとするものです。後日、何か胸騒ぎがあった等々の話は、これらが原因となっている可能性が高いということでしょう。広く諸感覚を鋭敏にすることがテレパシーとすれば、これら自然からのシグナルを感知して、災害から逃れること、動物的な本能を身に付けることが出来るということでしょう。

345 Perhaps you have taken these reactions as a matter of course, attributing them to psychological rather than physiological sources. But the fact is, we cannot separate the two phases of expression; both are the result of chemical action. Any phenomena of sensation, whether it be a feeling of great joy because the sun is shining, or a pain in the stomach caused by eating some food for which the cells had no affinity, is the product of chemical reaction. In any channel of awareness, we cannot get away from the fact that we are living in a chemical universe. It matters little whether those chemicals manifest as a force, or as a substance.

345 おそらく貴方はこれらの現象を当然のごとく生理的というよりは心理的な源泉に起因する反応だと思って来たことでしょう。しかし、事実は私達はこの二つの表現の側面を分離することは出来ないのです。両者は共に化学反応の結果です。如何なる感情の現象も、それが太陽が輝いているが故の大いなる喜びの感じであっても、細胞に親和性が無く摂った食物によって胃に生じた痛みであっても、それは化学反応の所産なのです。如何なる知覚の経路であっても私達が化学的宇宙に生きている事実から離れることは出来ません。それらの化学物質が力として現れようと、物質として現れようと大差はありません。

【解説】最近世間を騒がせた違法薬物の問題も、元はと言えば、それを摂取することにより、体内の正常な化学反応や神経反応が大きな影響を受け、その結果、本人の気分に劇大な変化をもたらすことに起因しています。即ち、精神的な高揚感を得たいが為にそれら薬物に依存するようになるのです。このように私達の精神活動は化学物質やその反応から大きな影響を受けているのですが、上述のように物質に頼っているのは物質万能主義に陥り、私達の進める進化の道とは離れてしまいます。私達は自分の精神的側面も物質に大きく影響を受けている存在であることを認識しつつ、自らの内面の改革を進めて行く必要があるのです。また、同時に精神面での進化は身体各部にも大きな影響を与える訳で、心身は互いに同期していると言った方が良いのかも知れません。

346 It is realized that those trained to use superficial knowledge and book-learning will continue to deem such truths as fantasy. Those who believe that all problems must be solved either with pencil and paper, or by physical experiments, will find it difficult to accept the theory of a universal language that is capable of revealing all existing knowledge.

346 上辺だけの知識や机上の学問を用いるよう訓練された人達は、今後もこれらの真実を空想だと見なすだろうことは分かっています。あらゆる問題が紙と鉛筆、或いは物理的実験のいずれかによって解かれる筈だと信じている者は、存在する知識の全てを明かす可能性がある宇宙普遍の言語についての理論を受け入れるのは困難なことでしょう。

【解説】 これまでの地球の科学は限られた結果の世界で見つけた法則性を唯一の拠り所として、全てを理解しようとし、その結果、それらの知見から説明できないものを拒絶して来ました。確かに自動車や航空機、巨大な船舶等、これら知識の経験無しには造り上げられなかったことも事実です。しかし、これらは宇宙の中のほんの一部でしかなく、宇宙にははるかに広大無辺な活動が行われており、これらは本講座で学ぶ宇宙的活動、想念・印象の働きに基づいているのです。従って、これら広大な宇宙を理解しようと思えば、私達はその源である想念・印象の作用や具体的活動について、よく学ばねばなりません。原子・分子の微細な世界で起こっている現象を自らを通じて理解し、それを自分達の生活に生かす努力を惜しんではなりません。

347 To explain fully this universal force and its workings would be impossible: for it would demand a knowledge of Primal Cause. But whatever method was used to throw the Cosmic Force of the Universe out of its natural state of equilibrium, and set it into primal concentration or chemicalization, was also the beginning of thought.

347 この宇宙普遍の力とその働きを完全に説明しようとするのは困難でしょう。何故なら、それには原始の因の知識が必要とされるからです。しかし、自然の平衡状態から宇宙空間の宇宙的な力を取り出して、それを原始の密度状態、即ち化学処理に作用させる為に、どのような方法が用いられるにせよ、それはまた想念のはじまりでもあったのです。

【解説】 古来、日本には人が発する言葉には物事を実現させる霊力がある（”言霊”）とされて来ました。これは本項で言う”想念”の持つ実現力と近い意味合いがあるように思われます。本項では、これまでの平衡状態から次なる創造に向けて物質が動く際には、想念が作用すると説かれているように思います。私達の日常的想念がその内容やレベルに従って周囲に作用し、新たな環境を造り上げて行くということでしょう。そういう意味からも、私達は各自の発言を慎み、発する想念を監視して、それが相応しいものであるよう、努めることが重要なのです。こうした自らの潜在能力を十分に理解し、穏やかで包容的な想念を維持する重要性はそこにあるのです。

348 Science, in its investigation of telepathy, has come to the conclusion that it is the result of a refinement of the sense organs, whereby they are able to pick up light or sound vibrations from a distance. But let us take a case in particular. A mental picture appeared to me of a conference between two individuals with whom I was acquainted. I saw the room in which the meeting was taking place very clearly, and the voices of both men were as distinct as if they were standing beside me. There seemed to be the greatest friendliness between them, and their transaction appeared to be of the most sincere and amiable character. But I became aware that a deception was being premeditated by one of the men.

348 科学はテレパシーを調査した結果、それが感覚器官を純化させ、遠方からの光や音を捕捉できるようになった結果であるとの結論に達しました。しかし、ある事例を特に取り上げましょう。私に私が知り合った二人の人物の間の協議の場面の映像が現れたのです。私にはその会合がもたれた部屋がとてもはっきり見えましたし、二人の男の声もあたかも二人が私のそばにいるように明確でした。彼らの間にはこの上ない友好的な雰囲気があり、彼らのやりとりは大変誠実で好意的な性質のものでした。しかし、私は彼らの内一人によってある策略が企てられていることに気付いたのです。

【解説】 そもそも目に見えない想念・印象を感知するテレパシーは既存の感覚器官とは全く異なる経路によることを本項の事例は明確に示しています。本事例の場合、外観上は何も問題が現れていない状況であったにも拘わらず、アダムスキー氏は一人の相手の企てに気付いており、これは企てていた本人の目に見えない想念をキャッチしたからに他なりません。テレパシーの能力を高めるとは、私達の目を凝らし、耳を澄ませたりすることとは関わりなく、感受するインスピレーションに鋭敏になろうとする訓練を示すということでしょう。その能力には知識や技術の習得は必要なく、ただひたすら心をよぎる想念・印象に対して誠実で素直な心境が必要だということでしょう。幼子のようになれとは、このことを説いているものと思われます。日頃から上質な想念を求めることによっても、それらに対する指向性を高めることになることでしょう。

349 Why did this idea come to me? I received the impression because the man in question, although deliberately saying one thing, was unconsciously broadcasting the scheme he had in mind, The other man, depending upon his auditory organs for enlightenment, believed the words he heard spoken. But because I was able to receive the transaction through the feeling channel, I discovered the deception. I revealed this impression to the intended victim, enabling him to take the necessary steps to guard against the fraud.

349 何故このアイデアが私にやって来たのでしょうか。問題の男が巧妙に一つのことを言っているにも拘わらず、無意識に自らの心の中に持っている企てを発信していた為、私はその印象を受信したのです。もう一方の男は光明を求めるのに自らの聴覚器官に依存していたため、その男が話したのを聞いた言葉を信じていました。しかし、私はフィーリングの経路を通じて両者のやりとりを受信出来ていた為、その策略を発見したのです。私はこの印象を意図された犠牲者に明かし、彼にその詐欺に対して身を守る必要なステップを取らせることが出来ました。

【解説】 地上での商取引（ビジネス）の世界では、本項のような例は数多くあるものと思われま。こうしたビジネス上からも相手の真意を洞察出来るテレパシーの能力は残念ながら今日の地球上では自己防衛の為に必須なのかも知れません。如何に言葉や行為を繕うとも、その者の本心は想念波として発信される訳で、隠すことは出来ません。それ故、想念を鋭敏に感知出来る進化した他惑星人達は、はるか上空に宇宙船で滞空していても、眼下の者がどのような想念を発しているかは手に取るように分かる筈です。こうした地上のモニタリング活動によって、地球社会がどのような方向に歩んで行こうとしているのか、注視しているのではないのでしょうか。

350 What was it that enabled me to receive the thought of deception in this particular case? It was not the eyes or ears, for the meeting took place in another city, some distance from me. Was it the brain? No. The brain is merely a transformer and amplifier within the body. While it is true that any vibration striking the body is carried to the brain to be transformed into conscious perception, the actual reception of that vibration does not depend upon the brain, but upon the element of feeling within the nerve plasm of the body. This element is that positive nuclear spark, or soul, of the atoms composing the physical body. So the thought of deception came to me through the feeling channel.

350 この事例で私に策略の想念を受信させたのは何であったのでしょうか。それは目や耳ではありませんでした。何故ならその会合は別の都市、私の所からはかなり離れた場所で行われたからです。それでは頭脳であったでしょうか。いいえ。頭脳は身体の中の変換器や増幅器でしかありません。いかなる振動も頭脳に運ばれ意識的な知覚に変換されることは真実ですが、実際の振動の知覚は頭脳に依存せず、身体の神経原形質の中のフィーリングの要素に依存しています。この要素は肉体を構成しているプラスの核のスパークあるいは魂のことです。ですから策略の想念はそのフィーリングの経路を通じて私にやって来たのです。

【解説】ここで注目したいのは、とかく想念・印象等の議論では何か神秘的な要素を伴いがちですが、本講座においてはそれら印象類の伝搬が、私達肉体細胞の中にある細胞を構成する原子自体に由来する精妙な神経系によって行われるとする、極めて具体的な解説が為されていることです。この種の研究の原点を何処に置くかは最も重要で、本講座の前段にも記述があったかと思えます。私達は神秘に原因を押し付けては前進はないのです。今回の具体例は、おそらくよく考えた末に提示されたものだと思われませんが、アダムスキー氏は様々な相談事を引き受ける過程において、このような事例もあったということでしょう。改めて氏の活動の一端に触れることが出来る一文となっています。

351 We have shown earlier how emotions affect not only the brain, but the body as a whole. Every cell composing it reacts to the thought. So in the case of the above mentioned mental picture, the thoughts of deception in the mind of the man produced certain chemical changes in the cells of his body; and impressions from his body cells alone could have been received. However, in this particular instance, the thought actually passed through the brain-amplifier, and therefore created more forceful waves in the mind-element of space. These waves exerted definite pressures around innumerable people, yet they were ignored. One person-myself, in this case-being in a state of receptivity, became aware of this pressure acting upon my body, and allowed the transmission of it to register upon my brain without interruption.

351 私達は以前、どのようにして感情が頭脳だけでなく身体全体に影響を与えるかについてお示しました。身体を構成しているあらゆる細胞が想念に反応するのです。ですから、上述した心の映像の場合、その男の心の中の策略の想念は彼の身体の細胞に何らかの化学変化をもたらしました。ですから彼の肉体細胞からの印象だけでも受信は可能だったのです。しかし、この事例の場合には、その想念は実際に頭脳増幅器を通った為、宇宙空間の心の要素の中により強力な波動を創り出しました。これらの波動は無数の人々の周囲に明らかなる圧力をもたらしましたが、人々は無視したのです。この場合、私一人が感受出来る状態であったため、私の身体に加わるこの圧力に気付き、その圧力を妨害することなく、私の頭脳へ伝え、登録させたのです。

【解説】本項は前述来の紹介事例において、その企ての想念波がどのようにアダムスキー氏によって把握されたか、具体的に解説しています。もちろん、波の伝搬には波を伝える媒体が必要なのですが、ここでアダムスキー氏は空間にある媒体を”空間の心の要素”と表現し、宇宙空間は人間の心のようなものだとし唆するのと同時に、私達の想念がこれら空間を伝搬し、遠隔地にも伝わっていることを説いています。これら空間を多くの想念が伝搬している訳ですが、多くの人々はそれらに無頓着であり、無視しているという訳です。今回の事例は、詐欺の発見でしたが、その他重要な科学の発見もある訳で、私達は互いにこれら発する想念によって相互に影響を受けていることとなります。互いに正しい想念を維持することが如何に大事であるかが良く分かります。

352 It is possible for the sense organs to be so sensitized, or refined, that they are capable of intercepting vibrations from a great distance, or they may receive higher frequency vibrations than can be heard by the normal individual. We are all aware that both our sight and hearing are limited to a very short range, compared to what our scientists know is possible. Yet, occasionally, individuals are born with exceptionally keen sight, or acute hearing; enabling them to see much greater distances, or hear higher or lower pitch frequencies than the average. But these are physical attributes. Two good examples are to be found in the bird and animal kingdoms. The bird, with its microscopic eyes can detect the movement of tiny life forms from high in the air. The silent dog whistle familiar to us all, is pitched too high to be audible to human ears, yet canines respond immediately.

352 感覚器官が鋭敏にされ、あるいは純化されることで遠距離からの振動を傍受したり、普通の人間が聞こえるよりも高い振動数を聴くことができるというのはあり得ることです。私達は皆、私達の視覚や聴覚は私達の科学者が可能だと知っている範囲と比べて大変狭い範囲に限られています。それでも時折、例外的に鋭い視覚や鋭敏な聴覚を持って生まれた人々もあり、はるか遠くが見えたり、平均より低い音律を聴くことができます。しかし、これらは肉体の属性です。二つの良い例が鳥と動物の世界に見出すことができます。鳥はその顕微鏡的な眼で上空高い所から小さな生き物の動きを見抜くことが出来ます。私達皆に馴染みのある無音の犬笛は人間の耳には高過ぎて聞こえませんが、犬達はそれにただちに応答します。

【解説】 感受性を高めるという意味においては、私達も自分の既存の感覚についても磨く必要があるでしょう。本項に紹介されているように、タカの視力やイヌの聴覚や嗅覚には人間をはるかに超える力があり、人間についても本来は更に広範囲な領域を捕らえる能力があるのかも知れません。つまり、想念・印象が大事だからと言って、創造主から与えられた既存の感覚も養い育てて行くべきなのです。その上で、私達はより精妙な印象の領域にまで、自らの知覚を拡げることが大切であり、目に見える結果の世界とそれを支える原因としての生命力について合わせ学ぶ姿勢が必要だということでしょう。各自、身体をいたわり、心境を高める努力が求められています。同時に自然界において他の生物達が如何に自らの感覚を活用し、また驚くべき予知能力を生かしながら日々の営みを続けているかを観察すべきかと思うものです。

353 Through millions of years of evolution, man is endowed with physical senses and a faculty for reasoning; and he has come to depend solely upon these avenues of perception. But what of nature? Does it possess the faculty of reasoning? Is it endowed with the organs of sight and hearing, taste and smell? Does the tiny seedling germinating in the warm, dark bosom of the earth use recognized sense perceptions to decide which chemicals to extract, and which to reject for proper growth?353 何百万年もの進化の間、人間は肉体の諸感覚と論証の能力を授けられて来ており、これらの知覚経路のみに依存するようになりました。しかし、自然はどうでしょうか。自然は論証能力を持っているのでしょうか。視覚や聴覚、味覚や嗅覚を授けられているのでしょうか。大地の暖かく暗い懐の中で芽を出している小さな種は、適切な成長の為にどの化学成分を抽出しどれを拒絶するかを決定する為に感覚による知覚を用いるのでしょうか。

【解説】 私達人間が長年の感覚依存の生活の結果、今日ではそれら既存の感覚が全てを支配してしまった問題を、本項は指摘しています。本来はあくまで参考にすべき経路に対し、それらに全面的に依存することになった点を問題視しているのです。確かに自然界の他の生きもの達は論理的ではなく、その全てを本能とも呼べる直観で行っています。しかしそれらの能力は言葉を用いずともそれぞれの子孫に伝承され、何一つ困ることはありません。まして魚や昆虫などは、親から教わることもなく、独りで生き、成長して行くのです。これらの能力こそ、私達が学ぶべきものであり、自然の中に私達が教師とすべき生きもの達の生きる姿が数多くあるのです。本項は私達にとって必要な能力について改めて考えるよう促していると言っても良いでしょう。

354 No! The plant, the sea, the air, and the minerals of the earth have no faculty of independent reasoning. However, they possess the same natural guidance that causes human forms to be receptive to changes of conditions, for they contain the feeling element. Therefore, atmospheric and other conditions affect them just as they do humans; and they respond without question. For the same Life Force known as the Breath of Life in man, flows through their forms.

354 いいえ。植物や海、大気や地球の鉱物は独立した論証能力を有していません。しかし、彼らは人体が状態の変化を受容出来るのと同じ自然の導きを有しています。何故なら、彼らはフィーリングの要素を持っているからです。それ故、大気やその他の状態はそれらが人間に与えるのと全く同様に彼らに影響を与えますし、彼らは疑いなくそれに応答します。何故なら人間において生命の息吹きとして知られる同じ生命力が彼らの体の中にも流れているからです。

【解説】 もちろん私達各自はこれまでの経験からフィーリングというものが、どういうものかについて多少なりとも分かっているものと思われます。通常は目や耳等の既存の感覚反応と合わせて知覚される為、これらフィーリングを独自の感覚とは思って来ませんでした。本項の内容からそれらは独自の経路から伝わって来ることが分かります。フィーリングと呼ばれる想念・印象の伝達経路は実は既存の感覚とは別の経路で伝えられることを理解することは重要です。本文に述べられているように、生物だけでなく、鉱物その他あらゆる存在物がこのフィーリングを介して通じ合えることが出来るのです。まさに万物同胞、万物に神宿るの心境です。これまで私達はこのような思想を未開人のアミニズムと蔑視して来ましたが、実は反対で、宇宙時代に向けて私達は自然界に普遍する共通言語としてのフィーリングを位置づける必要があるのです。

355 The human being is the most highly organized and sensitized instrument of manifestation. He is therefore most capable of tuning in to the lesser vibrations, objectifying them, and rebroadcasting them into the universe as higher expressions. We cannot help being affected by the varying frequencies of the chemical universe in which we live, nor can we help affecting others by the thoughts we send forth into the mind-ether of space. We need only to become aware of such relative currents to make use of these facts.

355 人間は最も高度に組織化され、鋭敏化された創造の道具です。ですから人間はより下位の振動に同調させ、それらを客観化し、それらをより高次の表現物として宇宙空間の中に再放射することが出来るのです。私達は私達が住む化学的宇宙の変化する振動によって影響を受けざるを得ず、私達が宇宙の心のエーテルの中に送信する想念によって他者に影響を与えざるを得ません。私達はそれらの事実を活用するためには、それらの相対的な流れについて気付くようになるだけで良いのです。

【解説】 人間は最高位の創造物として他のあらゆるものを含め、全てを理解する能力を授けられています。そしてその理解は、物質の外観上の観察はもとより、それらが発する想念の全てを感受し、また自らが発する想念・印象を通じて、それらを含め全宇宙にその印象を伝達し、影響を及ぼす能力を有しています。また、同時に私達人間は広く宇宙空間やそれらに含まれる各々の発する想念・印象によっても影響を受けています。つまりは、私達は宇宙における想念・印象のルツボの中に生き、互いに影響し合って生活しているのです。言い換えれば、私達の日々発する想念は、私達自身だけでなく、私達の周囲のものにも大きな影響を与える事実にあります。修身齐家治国平天下とあるように、各自の毎日の想念や心境がその人の環境を造り出すことにもなるからです。

356 If a man was submerged in a tank of water, he would influence and be influenced by the relative pressures existing between his body and the water mass. The same is true when dealing with the sea of the universe. For as surely as the law works in the coarser fields of manifestation (in this case the water), so it works in the finer. And what is the atmospheric, or etheric vibrations, but the pressure of life? The sooner we get away from our beliefs in mystery and superstition, the sooner we shall become the Knowers of Life in its fullness.

356 もし人が水槽の中に沈められたら、彼は自分の身体と水本体との間に存在する相対的な圧力に対し影響を与え、また影響を受けることでしょう。宇宙空間の海についても同じことが言えます。何故なら法則は粗い創造の場（この場合は水）で働くのと同じく、より精妙な場についても同様に働くからです。また、大気やエーテルの振動、否、生命の圧力についてはどうでしょうか。私達が神秘や疑いに対する思い込みから離れ去るやいなや、私達は生命の完全なる知者になることでしょう。

【解説】 本項の記述から、著者アダムスキー氏は私達に、想念・印象というものは私達の全身で感じるものであることを伝えていることが分かります。決して、目や耳等の特定の感覚器官を通じて行われるのではなく、私達の身体全てで感受するものだということです。それはあたかも、私達が赤子が両親からいつくしまれるように、全宇宙に包まれ、その鼓動が伝わるのと同様です。まさに生命の海の中にあらゆる創造物が生きているのです。また、これらの教えの真髄は決して新しいものではなく、宇宙始原の昔から教えられ、伝わってきた真理であると言えるでしょう。今日の私達にも分かるように、その原理は実に単純、明快であり、誰にでも理解出来るものです。

357 During the past centuries Earth man's progress has been chiefly in mechanical fields. Every universal principle of which he has become aware, he has expressed in mechanical terms. And in man's earnest effort to acquire greater knowledge, he has forgotten to develop the one instrument that is capable of leading him to such knowledge.

357 過去何世紀もの間、地球人の進歩は主に機械分野においてでありました。彼は気付くようになった宇宙普遍の法則全てを機械的な用語として表現して来ました。そしてより偉大な知識を得ようとする真面目な努力の中で、彼はこのような知識に自らを導く可能性のあるその道具を発達させることを忘れてしまったのです。

【解説】 本項で著者は、地球人類の歴史の中で産業革命と呼ばれる技術の進歩に比較して、私達人間にある想念・印象に対する知覚力、想念波動の持つ創造作用については全て進歩の歩みを止めたままになっていると指摘しています。確かに航空機やテレビその他の通信システム等、私達は高度な文明を発達させて来ました。しかし、人間の精神面については、未だ原始のままの未開発の状態です。むしろ、他人を陥れたり、あざむいたりして利益を上げようとするやからも増えており、殺伐とした世の中になりつつあると言っても良いでしょう。こうした中、誰もに本来備わっているこの能力を発達させれば、互いに相手の想いが分かり合える為、世の中全体として良質なものとなり、諸悪は駆逐されるに違いありません。私達が技術面ばかりに目を奪われることなく、「誠実な暮らし、創造主への信頼に根差した生き方を目指す意義は、こうした良質な心境を育むことが世の中を向上させる大きな力になるからに他なりません。

358 One day, by means of this human instrument upon which we look so condescendingly today, we shall produce miracles of manifestation such as our world has never known. But recognition of its telepathic potentialities must come first. A definite self-training program must then follow if we ever hope to place these divinely created bodies on the same level as the mechanical devices we now deem so miraculous. There exists such a vast scope of working possibilities in the area of mental and psychological development, that the adventurous soul need have no fear of running short of fields to conquer.

358 いつの日にか、今日私達がそれほど腰低く見上げるこの人間の道具を用いることによって、私達は私達の世の中がこれまで見たことのないような創造の奇跡を造り出すことでしょう。しかし、そのテレパシクな潜在能力に対する認識が最初になければなりません。もし私達がこれら神聖に創造された肉体を私達が今日奇跡だと考える機械装置と同じレベルに位置付けるなら、確固たる自己訓練計画が次に続かなければなりません。心や心理学上の発達分野には広大で実際に役立つ可能性が存在しており、冒険好きな魂にとって征服すべき分野が不足する心配はありません。

【解説】 先ずは私達各自がテレパシー能力を生まれながらに備えていることを自覚することが大切であり、十分な訓練を積みれば必ず、その能力を開花させられると本項で著者は私達を励ましています。自らの能力を信じて、それを訓練によって育むことが重要なのです。他惑星人が地球に降り立ち、人々を導こうとするのも、その目的はこの一点に尽きる筈です。自ら手本を示すことで、私達地球人の覚醒を促したということでしょう。その教えは古代宗教のような神秘に基づく人々への支配ではなく、各自の精神的な改革を科学的知識に基づき各自に促すものであり、時代によっては異端者として既存の宗教から迫害されることもあったことでしょう。しかし、この科学的アプローチに基づくテレパシー能力の開発促進がない限り、私達地球人の進化はない訳で、本講座を学ぶ方々の今後の発展が他の者の模範となるのです。

359 When we understand our bodies, control our senses, and open our minds to the flow of universal knowledge, true clairvoyance, clairaudience, and all the rest will develop naturally within us. But when we have grown to the place where these perceptions do unfold, we will have developed beyond personal desires. Our interests then will lie in universal revelations.

359 私達が自身の肉体を理解し、感覚を制御して自らの心を宇宙普遍の知識の流れに開放する時、真の透視、透聴またその他の能力が自然に私達内部に発達することでしょう。しかし、私達がこれらの知覚作用が花開く場所に到達した時には、私達は個人的な願望を越えて発達していることでしょう。私達の関心はその後は宇宙普遍の創造の現出にあることでしょう。

【解説】テレパシー能力を身に付ける本来の意義について、本項は明確に私達に示しています。私達は各自、自分自身をよく知るべきであり、自らの探求を通じて私達が本来あるべき姿を学ぶ必要があります。そこには当然、各人がこれまで歩んできた中で得た痛い体験もありますが、同時にこれらの学習の中で巡り合えた良質・高尚な経験もあることでしょう。人の一生は存外、短いものかも知れませんが、私達自身が永遠に続く生命の連続性に気付けば、人生はもっと豊かで落ち着いたものとなる筈です。この心境に到達でき、自らの心で宇宙を流れる精妙な印象の流れを感得出来れば、私達は宇宙と一体化出来、永遠の生命の一部となれることでしょう。テレパシー訓練は、こうして宇宙へ自身を開放し、その一部となる為身に付けるべきなのです。

360 When we analyze life closely, we find it conforms rigidly to immutable laws. For all its apparent complexities, life is the soul of simplicity.... a symphony of harmonious, synonymous motion. We also will find that the inspiration for the first investigation came from some vestige of existing fact which impressed itself upon human awareness. So we must admit the reality of a language that is accepted, and acceptable, to the animate and the so-called inanimate. It is the soul of all action, all substance, and all force.

360 私達が生命を詳細に分析する時、私達は生命が不変の諸法則に厳格に従っていることを発見します。何故なら、その外見上の複雑さにも拘わらず、生命とは平易さの真髄、調和があり、同調した活動の交響曲であるからです。私達はまた、その最初の研究は人間の知覚作用に印象づけられた実在する事実の痕跡を元になされるようになったことを知るでしょう。ですから、私達は生き物にも、いわゆる無生物にも受け入れられた、あるいは受け入れられる、ある言語の存在を認めなければなりません。その言語は全ての活動、全ての物質、全ての力の真髄なのです。

【解説】私達がテレパシーを探求するにつれ、明らかになって来る結論が本項で明かされています。即ち、生命というものが宇宙において、皆連動・連携した活動であることです。これは丁度、心臓の鼓動や呼吸のように絶えず一定周期を保つ普遍の活動であり、相互の関わりでもあります。こうした生命の息吹は宇宙に満ち、一大シンフォニーとして響き渡っているという訳です。このように洞察出来た時、私達は生物・無生物の区別なく、皆、共通の言葉としてテレパシーを取り扱うことが出来るようになる筈です。想念・印象は世界を支え、また造り出して行く原動力でもあるのです。

PART III CHAPTER IV Thinking Versus Reasoning 361 Thinking is neither toil, nor stress, nor strain. Rather, it is the ability to allow thought action to take place in an unobstructed manner; and the power of observing its path to travel. 第3部第4章 思考と推論 361 思考とは労苦でも重圧でも緊張でもありません。むしろ邪魔されることなく、思考行動が起こせるようにさせて置く能力、その流れが巡る道筋を観察する力なのです。

【解説】 よく考えると何か解決策を求めて考えを巡らす時、とかく私達は心の中を逡巡させる中で時間ばかりが経過するようなプロセスに陥りがちです。しかし、その解決策に出会う時、私達はそれが心が考え出したものでなく、何か外部からの印象をうまく捕らえられたに過ぎないことに気付きます。即ち、心が開放され、自由に宇宙から来る想念・印象を感受出来るようになった時、解決策に巡り合えることになると思っています。心がそれまでのこだわりを捨て、自由になった時、解決策に巡り合える機会が増えるという訳です。従って、心が苦勞の末に物事を成就するのではなく、心が印象に素直になること、言い換えれば宇宙的印象に従った生き方を選択する中で、物事は自然と解決されて行くことになるのです。仏教で言う”他力本願”の真意はそこにあるのかと思われます。

362 Dr. Nicholas Murray Butler once said, "All the problems of the world could be settled easily, if men were only willing to think." He might rather have said, "If men only knew how to think!" This is the great lack in our educational system of today; our young men-to-be are not taught how to think.

362 ニコラス・マレイ・バトラー博士はかつてこう言いました。「世界中の全ての問題は、人間がただ喜んで考えようとするだけで簡単に解決されるだろう。」彼はむしろ、こう言いたかったのかも知れません。「ただ人間が考える方法を知ってさえいれば」と。このことは今日の私達の教育システムにおける大きな欠陥なのです。私達の将来若者となる者が考える方法を教えられていないのです。

【解説】 問題の解決に何が必要か、私達は日々心で考えるものですが、その思考の在り方について根本的な事柄を説いた先人も居たと著者は述べています。その根本的な姿勢、心境こそ、本文に記されているように”喜んで問題解決に向かう”姿であり、解決策に邂逅した時の歓喜であるのです。もちろん問題解決は他の多くの人達を救い、より良い状況をもたらす訳で、解決によって世の中に貢献できたとする喜びもひとしおです。これらの体験は私達の日頃の心境にも大きな影響を与えるでしょうし、何よりもこの成功体験から、本人の進化の歩みが加速することも間違いありません。このような問題に向き合う姿勢こそ、若者に大きなチャンスを与えるものとなるのです。

363 There is a vast difference between true thinking, and the misguided faculty of indiscriminate reasoning. Only two planes of life have the power of reasoning - animals and human beings. While as far as we know the vegetable and mineral kingdoms are devoid of reasoning, and the animal possesses this faculty only to a limited degree, all three planes of life manifestation respond to pressures without resistance. Because of his ability to reason, we have believed man to be the highest type of life on this planet. But actually, indiscriminate reasoning has so perverted his capacity to think universally that in many ways man is much lower than mere plant life. For plant life accepts and acts upon the impulses of nature, without questioning life's purpose.

363 真の思考と誤って導かれた見境のない推論との間には大きな相違があります。生命の内2つの平面、動物界と人間だけが推論の能力を持っています。一方、私達が知る限り、植物や鉱物界には推論は欠いており、動物もこの能力をただ限られた範囲に持っている一方、これら3つの生命の創造の平面は全て抵抗なく圧力に呼応します。その推論の能力の故から、私達人間がこの惑星上で最も高位であると信じて来ました。しかし実際には、見境のない推論は人間の宇宙普遍に思考する能力を誤らせ、多くの場合、人間は単なる植物の生命より低次に置かれています。何故なら植物は自然の衝動に対し、受け入れ行動するからです。

【解説】ここで注目すべきなのは、私達が通常、“思考”としている状態の多くは、本項で言う“reasoning（推論）”に該当するということです。もちろん理由を考えることは必要なのですが、見境のない理由付けは物事を複雑にするだけで、法則の理解とはほど遠いと言えるでしょう。本文はこれらreasoningの能力は人間の他、動物達がわずかに持っているだけだとしています。つまりは、人間の思考の特徴なのかも知れません。デカルトの“我思う故に我有り”が思い浮かびます。しかし、このように論理思考では心（エゴ）が伸長するだけで創造に対する感謝の念は起こらないのです。他の生物達は、もっと直観的に印象の指示を受け入れ、自分達の生活に役立てています。渡りをする鳥達や小さな水たまりを世界とする微生物達は、来るべき状況を見据えることで、適切な「行動のタイミングを知り、生存を続けています。今一度、私達もこうした他の生きもの達の能力を身に付ける必要があるのです。

364 Everything in the universe works under the Law of Affinity ... therefore, thought will draw to itself its own kind. If a mind is tuned to particular thought station and the tuning apparatus is not tampered with, it will receive the entire thought program. All that is necessary is for the mind of the recipient to remain quiet until the thought is completed.

364 宇宙の中のあらゆるものは親和の法則の下で働いています。従って想念はその種の想念を引き寄せることとなります。もし、心が特定の想念発信局に波長を合わせ、チューニング装置が壊されていなければ、それは全体の想念番組を受信するでしょう。受信者の心にとって必要なこと全ては、その想念が完了するまで静かにしていることです。

【解説】 本項は課題解決をもたらすアイデアの入手の仕方について、完璧な姿を説いています。私達がアイデアを求める時、私達は宇宙に流れる想念・印象波を求めるものです。この過程は時には自覚のないものですが、私達が求める性質の想念は、次々に同種な想念・印象を引き寄せる為、自ずと解決策が自身に集まることになるのです。いわゆる親和の法則です。それ故、私達の関心分野に沿った情報・知識が私達に集まって来ることとなります。同様の事は、最近のインターネットの検索システムでも出来上がっており、次々にテーマに関連するサイトを紹介してくれます。一方、ここでの注意点として、私達が出会う個々の想念・印象について、個々の内容を十分に理解しないまま、次々にアイデアの間を移動しがちなことを指摘しています。つまり、上辺だけの理解に陥りやすいことです。やっと来た印象の真の意味が内容について落ち着いた理解が不可欠であることです。

365 True reasoning is the faculty of recognizing sequence, which gives a purpose to life. For instance, when one turns his attention to a certain phase of thought, it is necessary for him to perceive whether he is holding to that particular phase. He should not allow his interest to wander toward, or rather be impressed by other phases which are of a similar nature. For example, if a person received the idea of constructing a baby carriage, he may hold to the original thought flow until the element of motion is beginning to take shape in the image state; then let his attention wander and allow a thought of a similar type to slip into his mind. When the product is finished, and he stands back proudly to survey his handiwork, he discovers he has put rockers instead of wheels on the carriage. He had followed the original impression perfectly to the point where movement entered. He did not achieve one means of motion-the infant can be lulled to sleep; but he did not accomplish his original plan of making a means of conveyance. The general construction of the two objects is similar; and reasoning, that power of recognizing the sequence of ideas, should have told him he had lost the trend of thought.

365 真の意味の推論は連続したつながりを把握する能力であり、それは生命に目的を与えます。例えば人が自分の注目をある想念の側面に向けた時、その人は自分がその特定の側面をしっかりと掴んでいるか把握することが必要です。その人は自らの関心をふらつかせたり、類似した性質のある他の側面から印象を受けたりすべきではないのです。例えば、ある人が乳母車を作ろうというアイデアを受信したとすれば、彼は衝動の要素がイメージ状態として形を形成するまでは元の想念が流れるのを保持しているかも知れませんが、次には自分の関心を放浪させ、似たタイプの想念が自分の心の中に滑り込むことを許してしまいます。作品が完成した時、そして彼が誇らしげに彼の手作業の作品を吟味する時、彼は車の車輪の代わりに揺り足を付けてしまったことに気付きます。彼は衝動が入って来た時点では元来の印象に完全に従っていましたが、しかし、彼は運動の手段を達成することは出来ませんでした。赤ん坊は眠ることは出来ますが、運ぶ手段という元来の計画は達成しませんでした。この二つの物の一般的なつくりは同じですので、アイデアの連続したつながりを認識する力のある推論は、その者に想念のつながりを見失っていることを伝えるべきであったのです。

【解説】 私達が想念を受け入れる際に多種多様な類似アイデアの中で求める道から外れないようにしなければなりません。それ故に私達の一連の印象を受け入れる経過について、そのつながりが正しいものかどうか、横道に反れていないかをチェックする必要があります。この一連の状況は今日のいわゆるネットサーフィンと呼ばれるインターネットの検索作業にも似ています。多様なサイトに巡り合う中で、本題とは大きく外れた事柄に私達の関心が移ってしまうことも多々あるからです。初心忘れることなく、本来の求める課題解決に向けて私達自身の一連の精神活動の関連性や連続性を見守ることが本項で言う"reasoning"本来の意義であると本項は説いているのです。

366 In the preceding illustration we may safely say that after a certain point, reasoning was not used at all. When this happens it is usually due either to an untrained will, or to just pure mental laziness. Admittedly it is a ludicrous example, but similar examples on a smaller scale occur in our lives daily. Controlling the reasoning mind is what we meant when we spoke of "stilling" it. If we will make it our servant rather than our master, we will not put rockers on our baby carriage of life.

366 前述の事例では、ある時点以降、推論は全く使われていなかったと言えらると思ひます。このようなことが起る時は、大抵は訓練されてない意思であったり、単に単純な心の怠慢のどちらかが原因です。前述の例は明らかに滑稽な事例ではありまするが、同様な例は私達の生活の中ではより小さな規模で日々起っているのです。推論する心を制御するということは、私達がそれを「鎮める」と表現する際に意図するものです。もし、私達が心を主人としてではなく、召使にするようになれば、私達は人生の乳母車に揺れ足をつけるようなことはなくなるでしょう。

【解説】 想念・印象類に関する一連のつながりをチェックすることは大切です。それが無いとやがて出会う膨大な数の印象類の中でどれを採れば良いか、また自分が乗っている想念波動が適したものであるかどうか、分からずに進むことになるからです。しかし、このチェック ("reasoning") が過度になると、心が横暴になって来る訳で、その統制が必要なのです。心を鎮めることが重要であり、何よりもその機能を統制下に置きながら働かせるということでしょう。本文中の”心を主人でなく召使にする”とはそのことを説いているのです。

367 Another instance of perverted reasoning can be found in a group of students listening to a class lecture. Some will absorb what they hear, and at the end of the session will be able to repeat almost verbatim the material presented. They will recognize the logic and lucidity of the subject, and can summarize all points coherently.

367 もう一つの混乱した推論の例は、教室での授業に耳を傾けている学生の一団の中に見出せます。ある者は自分達が聴いたことを吸収し、授業時間の最後には提示された材料をほとんど語句を暗唱するほどになるでしょう。彼らはその本題の論理と明瞭さを認識し、全ての要点を理路整然と要約することが出来るようになります。

【解説】本項は正しい"reasoning"の在り方について記しています。本項及び次項は学生時代によく経験するものですが、授業に当たって有益な知見を得るのはどちらの学生であるかということです。本項では学生は教師の教えを正しく理解し、身に付けることが出来る訳ですが、それでも自らそれらの教えの一つ一つの流れをチェックし、各々納得して自分の知識として記憶することでしょう。重要なことは、単に鵜呑みにすることなく、自分の理解力で納得しながら教えられる知識を自分の一部にすることです。このことは宇宙からやって来る想念・印象についても同様であり、一連の印象の流れに従いながら、それら一つ一つを確認し、自分のものとするのです。

368 Other students will grasp one statement that does not coincide with their preconceived ideas, and shut their minds to the rest. They will judge this idea according to their own knowledge of the subject, or compare it with some thought possessing a slight similarity. In so doing, they cut off the natural sequence being presented by the lecturer, and at the end of the session they generally find themselves decidedly confused over what has been said. Of course, they lay the blame at the door of the speaker—not to their own mental reactions.

368 他の生徒達は自分達が描いたアイデアと一致しない一つの発言を捉えて、その残りの話に心を閉ざすことでしょう。彼らはそのテーマに関する自分達の知識に従い、このアイデアに対し裁きを行うか、あるいはわずかな類似点を持ついくつかの想念と比較することでしょう。そうすることで、彼らは講師によって提起された自然な一貫性を切断し、授業時間の最後には、彼らは大抵、自分自身が明らかに語られたことに対して混乱していることに気付きます。もちろん、彼らは自分達自身の心の反応に対してではなく、講師のせいにするのです。

【解説】本項も若い頃経験したものです。授業の中のあるべき学生の姿勢について警鐘を鳴らすものです。確かに講義の内容について、自分自身で吟味することは大切なことですが、それを講義の中で行うべきではないということでしょう。むしろ講義する教師がどのような想いの流れの中で話をしているのかについて、しっかりつかんで置かないと結局、講義から得るものが無くなってしまふというものです。まずはしっかりその流れをつかむことが重要です。想念・印象の感受についても同様で、やって来るインスピレーションについて、それら想念の流れや関連性を理解しようとうしながら、先ずは一連のビジョンを把握すべきなのでしょう。その上で、これが私達にとってどのような意味を持つのかを考えるべきなのです。その感受した印象の意義について思考すること、それが真の"reasoning"ということだと考えています。

369 This is what the average person does to the thought that impresses itself upon his consciousness. Consequently, instead of getting the clear impression of the attentive student, he receives disconnected fragments³⁶⁹ **これが平均的な人間が自分の意識に印象づける想念に対して行っていることです。結局のところ、注目し続ける生徒が明瞭な印象を得るのに対し、彼は互いに繋がりのない断片を受信するのです。**

【解説】 これまで何度となく著者が述べて来たように、想念・印象は時として私達の理解の及ばない新しい視点を含むことがあります。理解できないからと言って、一つ一つ疑念を持ってはならないということでしょう。まずは受け入れ、それがどのようなつながりを持っているかを探り、吟味することが必要です。よく、ジグソーパズルの例が示されますが、これも同様に、まずは全体の図柄を見て、それが何と関連するのかを研究する必要があるという訳です。結局、最終的に絵柄が見えた時、その一つ一つの意義も学ぶことが出来るという訳です。せっかく貴重な印象波動に出会っても、混乱だけを身に付けたのでは意味がありません。その印象が指し示す未来がどのようなものであるかを見据えて、印象を受け入れるべきなのです。

370 The difference between pure reasoning and perverted reasoning is the difference between definition and discrimination. We may say that a rose is red and is fragrant; and that a calla lily is white and possesses little fragrance. Our reasoning tells us they are two distinct objects; and defines their character by an act of recognition. But perverted reasoning could say that the lily is a mistake of creation, because it should have been red like the rose; or that the rose is malformed because it is cut up in little pieces called petals.

370 純粋な推論と歪んだ推論との違いは定義と差別の間の違いです。私達はバラというものは赤く、よい香りのするものと言いますが、カラー（訳注：植物名、オランダカイウ、日本ではカラーもしくはカラーリリーと呼ばれる。漏斗状の白い仏炎苞を持つ観葉植物）は白く、香りは無いと言うでしょう。私達の推論はそれらは二つ別個のものであることを私達に伝え、認識の行為によってそれらの特徴を定義します。しかし、歪んだ推論は、そのユリ（訳注：この場合、前述のカラーをユリと認識している）はバラのように赤くなければならないのになっておらず、或いはそのバラ（訳注：この場合は前出のカラーをバラと認識している）は花弁と呼ばれる小片に切れ込まれている為、誤って創造されたものだと言うかも知れません。

【解説】私達が最もしてはいけない事柄が「差別」ということです。イエスの言葉の「裁き」と同様です。この差別は私達が対象物に対して優位に思うことに由来します。白人が有色人種を卑下したりする傾向もこの類です。この差別感が本講座のテレパシー訓練にも有害であり、やって来る想念・印象に対してそのような傾向を向けることが誤りにつながると指摘しているのです。実は時として印象は私達の既存の概念の及ばない広範囲なものとしてやって来る可能性があります。それらは私達の常識には当てはまらない要素もある為、私達の心はそれを毛嫌いすることもあるでしょう。その際に下しやすいのはそれらアイデアに対して差別を加え、無視や捨てるようなことを厳に慎むよう著者は求めているのです。やって来る印象をありのままに心を通わせ、その真意を理解しようとする心境が必要だという訳です。

372 Reasoning should be used to evaluate all things impartially, and to elevate the sense perceptions to understand and accept Cosmic Intelligence. Pure reasoning must involve the elements of faith and confidence; not faith in one's self as a personality, but faith in the immutable laws of thought-action, and in the unlimited scope of awareness in the faculty of feeling. This, I have proven by my own experiences over a period of years.

372 推論というものはあらゆるものを差別なく評価するために用いられるべきであり、感覚の認識機能を宇宙の英知を理解し、受容するために用いられるべきです。純粋な推論は信頼と信念の要素を含まなければならず、個性としての自我への信頼ではなく、想念－行動の不変の法則やフィーリングの機能に対する無限の知覚展望への信頼です。これは私自身の経験によって何年もの年月を経て実証して来たものです。

【解説】 個々の想念や事物を正しく学ぼうとする姿勢 (reasoning)は私達にとって大切な要素です。しかし、それは宇宙の根源神への信頼や信仰に基づき、また万物に愛情を注ぐものでなければなりません。私達はこの世の中に生きて、人生を旅している訳ですが、その間、様々な出会いがあり、観察や体験の機会を得ることでしょう。そうした際に、私達はひとつずつ物事の奥にある繋がりや仕組みを学ぶ好機を得る訳です。こうした時において、漫然と従来の惰性の精神状態、無感動の心境に居ては、せっかくの機会を逃すことになってしまいます。与えられたチャンスを活かし、次なる発展につなげる為にも、これら想念・印象波が伝えようとするイメージに寄り添った受容態勢を心に構える必要があるのです。

373 Volumes could be written on the subject of thought and its action, yet barely disturb the surface. It is one of the most interesting fields of research one can hope to find; for it is as vast as Infinity itself, and is the actual foundation of all our sciences.

373 想念とその作用のテーマについては何巻もの本を書くことが出来るでしょうが、それでも何とか表面に触れられるだけです。それは人が望み得る研究分野の中で最も興味深い分野の一つです。何故ならそれは無限遠そのものと同じほど広く、しかも私達の全ての科学の基礎でもあるからです。

【解説】 想念・印象の研究はそれほどに奥が深く、有意義であるということです。広大な宇宙空間にも及ぶその作用は宇宙を貫く法則から極小細胞の知性にまで、あらゆる分野を下支えしているのです。従ってその作用は驚くべき大きさと影響力を持っているという訳です。かつてモーゼや古代の指導者達はその力の大きさを自覚し、人々に畏れ敬うよう教えたのは、この為であったのでしょう。今日の私達は、より知性的に自らの判断力に基づき、正しくこの分野に立ち向かおうとしています。このテレパシー講座はこうした私達の探求の道を照らし導くものと言えるのです。

374 If we are understand Original Cause, we must discipline our minds as we would a child, and deal with the four senses as we would four children. We are all individuals rays of Intelligent Cause manifesting through matter.

374 もし私達が原初の因を理解しようとするなら、私達は自分達の心を私達が子供に対するように躾けなければなりません。四つの感覚に対しては四人の子供に接するように振る舞わなければなりません。私達は全て物質を通して現出している英知ある因の個々の光明なのです。

【解説】 私達の本質は何かについて、本項は短い言葉で結論を述べています。私達は各自の人生の中で、様々な労苦や喜びとともに多くの経験を積んで来ました。そしてそのいずれもが私達にこの本質についていささかなりとも学ぶ機会となった筈です。自らの体験から学ぶことが出来ないなら、人生は無意味ということにもなりかねません。こうした一連の学びの中で、私達は自らの表層的な感覚による限界を自覚する一方、想念・印象という目に見えない瞬発的なインスピレーション（啓示）が多くの場合、瞬時に物事を解決してしまうことを目にしています。その想念・印象の波動は何処から来るかと言えば、宇宙の中心としか言いようがありません。私達はそれら想念・印象波の一つでも同調出来れば、私達はその想念・印象波と一体化し、その波動を体現することになるのです。

375 It was this universal Intelligence that Peter used when he said to Jesus, "Thou art the Christ, the Son of the Living God." Matt. 16:16.

375 ペテロがイエスに「あなたは生ける神の息子だ」（マタイ16章16節）と言った時、ペテロはこの宇宙普遍の英知を用いていたのです。

【解説】 ご存知のようにペテロはその後のローマ教皇に繋がるキリスト教の礎となった人物です。そのペテロがイエスをキリスト（救世主）であると洞察したことを、イエスは本文にあるように称賛したという訳です。イエスが称賛したのは、ペテロが外見に「とらわれることなく、その人物（イエス）の中に息づく宇宙の源泉に直結した生命の息吹を知覚したことを褒めているのです。このことがその後のキリスト教を担う役目をペテロが担うことに繋がったということでしょう。その時代から2000年近くも経過しましたが、イエスの教えの価値は高まることはあっても廃れることはありません。もちろん、他にも仏陀をはじめ多くの人類の師が地球に降り立ちましたが、その教えのいずれもが、今日まで伝えられ人々を導いています。おそらくこの一連のアダムスキー哲学も長らく地球に伝えられるべきものになるでしょう。これらは皆、宇宙に根差し、その波動に本源を置くからです。

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第3部 4章 段落376 [2020-03-26]

376 Jesus acknowledged this when He answered, "Blessed art thou, Simon Barjona; for flesh and blood hath not revealed it unto thee, but my Father which is in heaven." Matt. 16:17.

376 イエスはこう答えて、これを認めました。「幸いなるかな汝、シモン・バルヨナよ。何故なら肉と血が汝にこれを明かしたのではない。天におあす私の父が明かした為である。」（マタイ第16章17節）（訳注：シモン・バルヨナはペテロの本名です）

【解説】本文から、当時、イエスが実に本講座でアダムスキー氏が説いている内容と同じ事を説いていたことに驚かされます。私達の肉体に属する目や耳の感覚器官でない、いわば目に見えず耳にも聞こえない本源と交流することによって、ペテロが真実を掴んだことをイエスが喜んでいるからです。即ち、既存の感覚によらず、印象の経路を通じて物事を理解できるようになった弟子達を祝福していることに、今日の私達は注目しなければなりません。テレパシー開発の意義は、いつの時代にあっても、その者の進化にとって大変重要な条件であるのです。

377 Jesus used the word Father when speaking to the children of the world, for although He knew there was no word capable of conveying the true meaning of the Supreme, the term Father would give man a feeling of warmth, love, and oneness. And when we awaken this quickening in our minds as did Peter, we are actually entering the Kingdom of Heaven. For the Kingdom of Heaven is the Kingdom of Cause . . . while the kingdom of earth is the kingdom of effect.

377 イエスはこの父という言葉、この世の子供達に対して語る時のように用いました。何故なら、至上的なるものの真の意味を伝えられる言葉は無かったことをイエスは知っていて、父という言葉が人に温かみや愛、そして一体感のフィーリングを授けることを知っていたからです。そして私達がペテロがしたように、この胎動に目覚める時、私達は実際には天の王国に入っているのです。何故なら天の王国は因の王国であり、方や地の王国は結果の王国だからです。

【解説】 イエスが”父”と表現した時の本意を著者は私達に説いています。アダムスキー氏の協力者の間では、アダムスキー氏がかつてイエスの高弟ヨハネであったと言い伝えられて来ました。おそらくはアダムスキー氏自身の記憶から、当時イエスがどのような思いで語っていたかを知っていたことでしょう。本文はそうした背景の下に記されたものと考えています。今日の私達にとって、”父”の重要性は当時と変わるものではありません。実に科学的な洞察によって万物の因、創造の力を表現している教えだと思われまます。私達がテレパシー開発を通じて何を成し遂げたいのかは、この本文に記されている通りです。創造主の子供である私達は宇宙に流れる言葉の生まれる以前の想念・印象の波の存在とその大きさに気づき、一人一人が本来の進化の道を進むよう、著者は説いているのです。

378 Understanding is knowledge lived. When we understand the purpose behind each act, we do not judge. We then become observers, to evaluate all manifestations in relationship to Cosmic Cause; which gave them birth.

378 理解は生きた知識です。私達が各々の行為の裏にある目的を理解すれば、私達は裁きを行なうことはしません。私達はそれから、それらを誕生させた宇宙の因との関連性についてすべての創造物を評価するため、観察者になるのです。

【解説】私達が知識と言う場合、その知識にはいわゆる紙の上の知識、単なる文字化された記録の中に表現された情報と、もう一つはその者が生きる中で実証納得し、生涯の中で実証記憶している知識とがあるものです。その内、重要なのは後者で、私達が理解しそれを生活の中で日々実践している知識という訳です。私達はこの実践の中で、日々自分の行動とそれがもたらす結果とをよく観察し、その因果関係を学ぶことになる訳で、本文で言うように観察者として自分自身を監視することになります。仏典でいう”観”という言葉は、観音、観自在、観世等々、様々に用いられますが、その奥底の意味は本文で言うこの観察者の意味にあるということでしょう。

379 Once man learns that his purpose in life is to control his personal aggressive actions, he will become the recipient of all Cosmic impressions . . . born in silence, projected in silence, accepted in silence. For these are the impressions emanating from each conscious atom, using the Cosmic, universal language.

379 ひと度、人が自分の生きる目的が自己の個人的な攻撃的諸行動を制御することにあることを学ぶなら、彼は全ての宇宙的印象、即ち沈黙の中で誕生し、沈黙の中で放射され、沈黙の中で受信される印象の受取人になることでしょう。何故なら、これらは個々の意識的な原子が宇宙的、普遍的な言語を用いて発している印象だからです。

【解説】 このテレパシー講座の結語として、著者アダムスキー氏は宇宙的な想念・印象波が何処に源を置くかを明かしています。私達の身体を構成し、また宇宙を形作っている原子そのものが実は創造主の英知を持ち、各々の極小の存在から私達に無言の導きの声を発しているという訳です。私達が攻撃的な心境を改め、需要温厚な精神状態を維持し、それらの印象波に従うことが出来れば、もはや私達の進化の道を阻むものではありません。毎日、少しずつでもこの本道に向けて歩むことが出来れば、早晚私達は真の意味の達人になるものと思います。テレパシーはそれほど私達の進化に必要な不可欠な能力と言えるのです。

Conclusion380 You have now become acquainted with the three tyrannical rulers that make up the life of the average person today: The ego, the emotions, and the four senses. We have shown you how each one influences your body and your mind. 結論380 あなたは今や、今日の平均的な人間の生涯を作り上げている3人の専制的支配者に通じています。それらは即ち、自我、感情そして4つの感覚です。私達はあなたにこれらの各々があなたの身体と心に影響を与えていることを示して来ました。

【解説】本項からは講座のまとめになります。長年、私達を支配し、苦しめて来た3つの要素を本項は指摘し、それに立ち向かうよう私達を促しています。指摘されたエゴや感情、そして四感覚の影響を受けた結果、私達の多くは必要もないところや避けるべきところで、無分別な行動を起こし、大きな代償を払って来たのです。その結果は仏教で言う因果応報の通り、場合によっては次の生涯にまで影響を及ぼす輪廻の道を歩まなければならない状況に陥っているのです。こうした因果の鎖を断ち切るには、この3つの要素に立ち向かい、自らの本来の道に戻す必要があるのです。放蕩息子の例と同様、反省して本来の宇宙の源に復帰する努力を惜しむべきではありません。テレパシーはその第一歩として想念・印象という父なる創造主の用いる沈黙の言葉に耳を傾け、それに従う訓練の一つと言えるのです。

381 The personal ego, interested only in perpetuating itself, is unaware of its unity with all manifestation; and selfishly concentrates its efforts upon the personal self. But when, through understanding, we can get the ego to turn its awareness outward, it will return to its natural free state; and the real Self will recognize its oneness with the Cosmos.

381 個人的な自我は自分自身の永続化のみに関心がある為、全ての創造物との一体性について気付いてはいません。そして自分自身への努力に自分本位に集中しています。しかし、理解を通じて私達は自我をその知覚を外向きに転換させることが出来る時、それはその自然で自由な状態に戻ることでしょう。また、その時、真の自己は宇宙との一体性を認識することでしょう。

【解説】通常、私達が自分自身と称する自我（エゴ）は常に自己防衛、自己主張の傾向を持ち、自己保身に明け暮れています。他人を利用し、他の創造物の成果を横取りして毎日を送っている存在と言うことも出来るでしょう。しかし、その一方で未来を見通すことが出来ない為、常に将来に対する不安を抱えており、また、逆にその不安をビジネスとする保険業も盛んになっているのです。本項はこのような私達自身の実状を踏まえ、先ずは宇宙の理解、外の世界への関心を私達に促しています。本講座は想念・印象波という目に見えない波動に対する感受性を高めることを求めており、それに従って私達が宇宙に関心を寄せることで、やがては宇宙と融和一体化という生きものとしての基本的な条件を満たせることを示唆しています。私達がテレパシー能力を高めることは即ち、こうした宇宙の構成員の一員として宇宙の諸法則を自ら表現する存在になることでもあるのです。

382 We believe the effects of emotions have been well covered in this course. We have pointed out the detrimental effect destructive emotions have on the body, and have given you examples in your daily life whereby you can prove this for yourself. So watch your thought-pattern habits; for your emotions are controlled by them. People are like apples in a barrel-we either mellow with maturity, or we rot. Unlike the apples, we have control over which of these will be our destiny; for our thought-pattern habits will decide our lot.

382 私達はこの講座において、感情がもたらす影響について十分に言及されて来たと思っています。私達は破壊的な感情が身体にもたらす有害な影響を指摘して来ましたし、あなたの日常生活の中での例示を示しましたが、それはそれによってあなた自身で確かめることが出来るものです。ですから、あなたの想念パターンの習慣を観察することです。何故ならあなたの感情はそれらによって支配されているからです。人々は樽の中のリンゴに似ています。私達は成熟して熟するか、腐るかのいずれかです。しかし、リンゴとは違って、私達はそのどちらが私達の運命になるかについて、支配権を持っています。何故なら私達の想念パターンは私達のめぐり合わせを決めることになるからです。

【解説】私達はこれまでの経験から、私達が抱く想念、更にはそれら想念に同調し増幅させた状態である私達の時々感情というもの、如何に私達の身体に対し影響を与えるかを知っています。私達が自身に取り入れ、身を委ねる想念とはその者を心身共に支配することになるのです。従って日常的に私達が抱く想念のパターンは重要です。今日では”生活習慣病”と分類される慢性疾患の問題が多く指摘されていますが、それ以上に私達が普段放っている想念や受容している印象パターンが大変重要だということです。それらの想念パターンは私達を良くも悪くも影響を及ぼし続け、私達の将来を決定付けるからです。私達はこれらの想念傾向を常に監視し、より良い方向に保つ必要があるのです。私達の目の前には無限の大洋、広大な宇宙があり、それらに向かって私達を導くのが私達の想念パターン、私達の心境であるのです。

383 The four senses, the arbitrary rulers of most lives, should be your servants. Each sense has a will of its own, its own reasoning faculty, and is possessed by its own fears. In many instances, it is the four senses through their condemnation of that which they have not previously experienced, that closes the door to new ideas.

383 ほとんどの人生の専制的な支配者である4つの感覚は、あなたの召使にしなければなりません。各々の感覚はそれ自体の意思を持っており、また、その固有の恐怖にとりつかれています。多くの場合、自らが過去に経験したことがないことを非難することで新しいアイデアに対して扉を閉めるのは、この4つの感覚なのです。

【解説】 考えて見れば、私達が毛嫌いする悪臭や醜さ、騒音や不味さ等々、その嫌う由来は各々の感覚反応である訳です。私達はそれに対して香水や香木を求め、美しさを追求し、心地よい音色や美食を求め、それらに優劣を付けて来ました。しかし、そのいずれもが私達の人体の維持に役立っているものとは無縁のもので、あくまで喉を通った後に、その価値は意味をなさなくなる訳です。本当に人体に必要な要素はそうしたものではなく、別のところにある訳です。一方、これらの原因が私達の感覚にあると言って、それらを遮断したり、取り去ろうとするべきではないのです。重要な点はそれらを主人としないことだと本項は説いています。与えられた感覚を十分に活用して、私達の人生を豊かにすべきであって、それらを主人にしてはいけないのです。もちろん、その先にはこの私達自身も自分自身を主人にするべきではありません。より高次の宇宙的存在に帰依し、奉仕する役目を果たす一員、創造主の召使になるべきだと示唆しているように思うのです。

384 The mind is made up of the four senses, and they should be educated for the purpose of acquiring knowledge; rather than passing judgment. Mind is a catalyst, or go between, uniting matter and Intelligence. When, through its personalized reasoning mind combines the two wrongly, the results are usually unpleasant. Remember, we have said we are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Any student of chemistry knows that wrong combinations of chemicals can produce undesirable results. So any time your actions result in unpleasant experiences, analyze the combinations you have put together.

384 心は4つの感覚から成り立っており、それら4感覚は知識を獲得する為には、裁きを下すのではなく、教育されねばならないのです。心は物質と英知を結びつける触媒であり、仲介者です。心の個人化した推論を通じて心が両者を誤って結びつける時、その結果は大抵、不快なものになります。覚えておいて欲しいのは、私達はまさしく化学的な宇宙と呼んでよいもの、英知の中から孕まれフォース（訳注：宇宙の力）によって永続されるものの中に生きてると私達が言って来たことです。化学を学ぶどんな学生でも化学物質の誤った組み合わせは望ましくない結果を作り出すことを知っています。ですから、あなたの行動が不快な体験になったとしたら、その時はいつもあなたが両者を結びつけた組み合わせについて分析することです。

【解説】 おそらく私自身も含めて多くの皆様が自分自身の心が四つの感覚から成っているという実感は無いのではないかと考えています。しかし、私達がとかく視覚や味覚その他の裁きにより、対象物に好き嫌いの判定を下し、優劣を付けている実態はお分かりの筈です。本項では、このような私達の心の本来の機能は、物事を結びつけることにあるとしています。本来は、宇宙的英知と物質とを結びつけることです。例えば、自動車のエンジンはガソリン燃料とエンジン機構を結びつけることで自動車を走らせる効果を生み出す一方、爆薬を砲弾につめて上空から落とし、人々を爆殺させる結果を生み出すのもこれらの作用によるのです。もちろん、どちらが正しい組み合わせかは明らかなのですが、問題は心は状況次第でそのような事にも手を染めかねないということでしょう。その結果、どのような状況がもたらされるか、少し調べれば明らかですし、私達は自らの行動がどのような結末を招くか、十分に注意すべきです。このように心は未熟であり、様々な体験を経て、学習の過程にあることを自覚することが必要です。

385 Mind is but the medium between matter and Intelligence that associates the two for manifestation. The sense-mind is a minute part of Cosmic Mind. If the sense-mind hopes to be the recipient of Cosmic knowledge, it should not try to recreate, or change, the information given to it by feeling, or consciousness.

385 心は物質と英知の両者を創造のために結びつける媒体でしかありません。感覚心は大宇宙心の極小な一部分です。もしも、感覚心が宇宙的知識の受取人になりたいと望むなら、感覚心はフィーリングあるいは意識によって与えられた情報を再形成したり、変えてはならないのです。

【解説】 本項では前項では明らかにされていなかった心の全体像についても示唆しています。即ち、心には四つの感覚から構成されている部分（感覚心、センスマインド）とそれらをも包括する宇宙的な心というものが存在するという訳です。また、心の機能として物質と英知とを結びつけることを掲げている点も重要です。言い換えれば、創造主が如何に意欲を持って印象の念波を発信しても、それらを具体化する為には肉体を持つ創造物を動かすことが必要であり、その働きを心が担っているという訳です。創造主が望むことを実現できるよう、その意思を仲介するのが心である訳で、このことから心は感受した想念・印象をねじ曲げることなく、素直に実行に移せるよう素直な境地にあらねばなりません。

386 Impatience is a major cause of unbalance in our lives, and interferes when impressions are coming to us. Our zealous desires often inject our own sense ideas in place of waiting for the full thought; and we distort the true meaning of the impression. Logic tells us to be patient and observant. We should learn to obey logic from the Cosmic angle.

386 せっかちが私達の生活の中の不均衡をもたらす主要な原因ですし、それは印象類がやって来た時に介入します。私達の熱狂的な願望は、しばしば本来の完全な想念まで待つべき所に、私達自身の感覚のアイデアを注入してしまうのです。そして私達は印象の真の意味をゆがめてしまいます。道理は私達に忍耐強く、またよく観察するよう教えています。私達は宇宙的角度から道理に従うことを学ばなければなりません。

【解説】 何事にも粘り強く、忍耐が必要です。本項は私達がテレパシー能力を開発際の極意を示しています。結果を焦らず、落ち着いた信頼感を持って自分自身を見詰めることも重要でしょう。とかく、この待つ間に私達はせっかちにも自己中心的な願望要素をせっかく感受した宇宙的印象の中に紛れ込ませようとすることに注意するよう私達に諭しています。こうした雑念を遠ざけ、本来の宇宙的振動を最後まで保持し、そのアイデアの源泉を大切にすることでやがてはその源泉につながるパイプも太くなるということでしょう。私達が進歩する上で最も注意すべきはこうした自我による妨害です。戦う相手は自分自身という訳です。

387 We all make mistakes These are part of our experiences. Do not be discouraged, for we have centuries to undo; so be grateful for even a small crumb that might become an integral part of you. The difference between a wise man and a fool is -a wise man learns from his mistakes, and never repeats them; while the fool keeps repeating the same mistakes.

387 私達は皆、過ちをおかします。しかし、これらは私達の経験の一部なのです。がっかりしないで欲しいのです。何故なら、私達には元に戻す為に何世紀もかかるためです。ですから、些細な手足の曲がりについても、それがあなたの総体の一部になることに感謝することです。賢い者と馬鹿者との違いは、賢い者は自分の過ちから学び、二度と繰り返しません、一方、馬鹿者は同じ過ちを繰り返します。

【解説】私達は経験、とりわけ失敗は体験から学んで行くのだと著者は最後に私達を諭しています。このテレパシー問題に対しても、私達が取り組んで行く中においては、数々の失敗を体験することでしょうし、少しでも実践されて来た方は、各自様々な痛い体験をして来たものと推察いたします。しかし、この生涯で得た失敗から私達各自は学ぶことが重要です。原因を評価、分析し、再び同様な失敗をしないことが求められているのです。各自の人生が有意義なものとなるかどうかは各自の体験をよく分析し、失敗経験であったとしても、それから学び取ることこそ重要と言えるのです。その体験の機会に感謝するぐらいのゆとりも必要です。私達のこれから続く、長い生涯の一時期、痛い体験をすることで長らく記憶にとどめるエポックとして、これらの体験を大切に記憶することがやがてその人の人格を形成するものと思われます。

388 May God bless you. May this course become You. For then you, the Prodigal Son, will have returned home to your rightful inheritance . . . one with the Father.

388 神の祝福があらんことを。この講座があなた自身になりますように。何故なら、その時、放蕩息子であるあなたは、あなたの正当なる相続財産の待つ自分の家に戻っているだろうからです。父と一体になって。

【解説】 テレパシー講座を締めくくるに当たって、著者アダムスキー氏は私達にこのテレパシー能力の開発とは、放蕩息子であった私達が創造主の父のもとに帰ることでもあるのだと説いています。これは私達が創造主の言葉である宇宙的な想念波・印象波を十分に知覚出来るようになれば、創造主の言葉をより良く理解出来るようになり、その言葉の表現者・父の息子として生きて行くことを見据えている為です。各自がこれから自ら宇宙的印象を求め、それらを表現することで自身を進化させると同時にその印象の贈り手である父を喜ばせるという訳です。本項でテレパシー講座が終了です。次回からは「宇宙哲学」の講座に入ります。